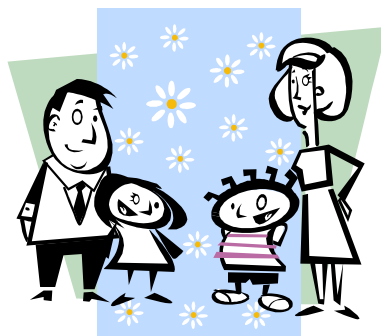


Ⅱ 調査結果

第1章 生活の状況（暮らし向き）



第1章 生活の状況（暮らし向き）

本章では、「生活状態の意識、変化、見通し」と「生活状態の達成度と希望」等に対する意識を調査して、県民の生活の状況（暮らし向き）についてまとめた。

第1節 生活状態の意識、変化、見通し では、家庭生活の状態が現在ではどのような状態にあるか、4、5年前に比べてどうか、今後の見通しはどうかについてそれぞれ尋ねた。各設問ではそれぞれの状態を「極めて良い」「良い」「普通または変わらない」「悪い」「極めて悪い」で回答してもらった。

第2節 生活状態の達成感と希望 では、家庭の生活状態の指標となる代表的な19項目の「暮らし」についての設問に対し、その暮らしを「このぐらいはしたいと希望して、だいたいかなえられている」「希望しているが、かなえられていない」「特に必要ない」「わからない」で回答してもらい、生活状態の達成感と希望の状況を調べた。

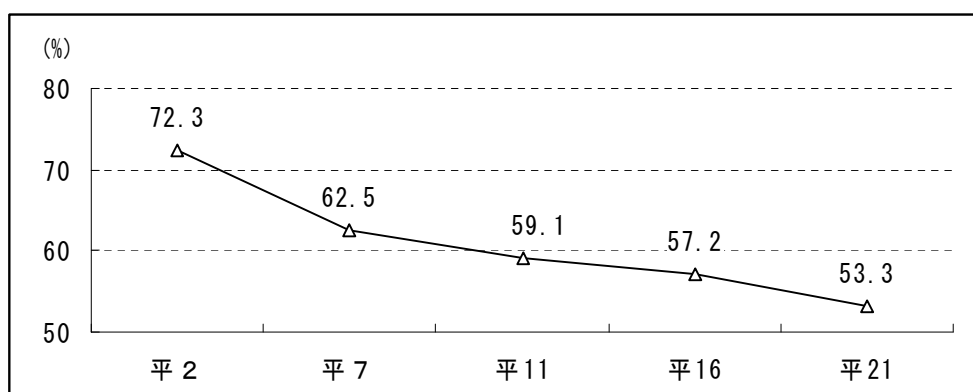
1 生活状態の意識、変化、見通し（問7）

（1）生活状態の意識（問7-1）

現在の家庭の暮らし向きについて、一般的にみてどう思うかを「極めて良い方」から「極めて悪い方」までの5段階、及び「わからない」の選択肢から回答してもらい、その結果を表1-1-1にまとめた。

暮らし向きを「普通」と評価する割合は53.3%と最も多いが、平成2年調査以降減少しており、中流意識は低下傾向にある（表1-1-1、図1-1-1）。

図1-1-1 「普通」の割合



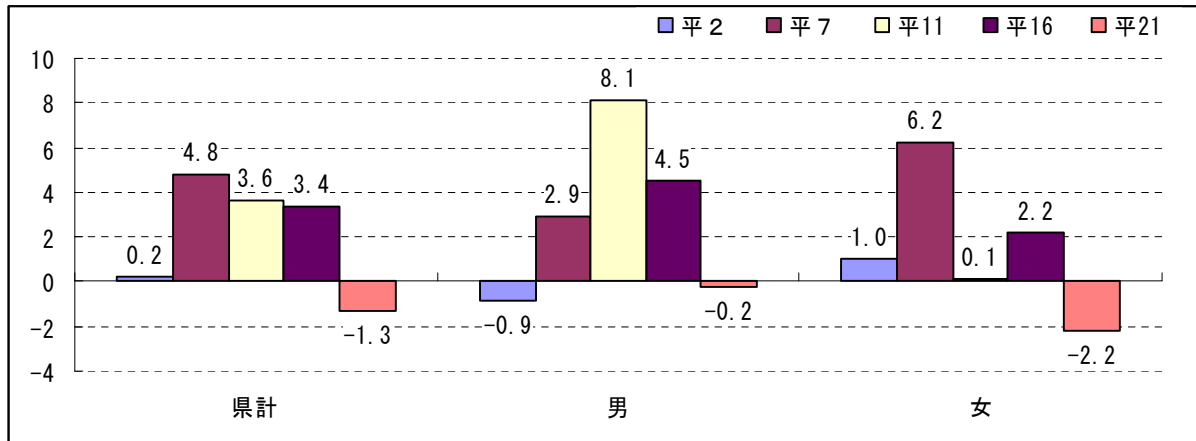
回答のうち「良い方（極めて良い方+良い方）」の割合から「悪い方（極めて悪い方+悪い方）」を引いた値を動向指数として評価した。

動向指数は平成2年調査からプラス（＝良い方>悪い方）となっていたが、平成7年調査を最高に減少に転じており、今回調査はマイナス（＝良い方<悪い方）に転じ、-1.3となっている。

男女別でみると、動向指数は男女ともマイナスの値（＝悪い方）で、男性で-0.2、女性で-2.2となっている。

前回調査と比較すると、男性の動向指数は4.7ポイント、女性は4.4ポイント減少し、ともにマイナスに転じている（図1-1-2）。

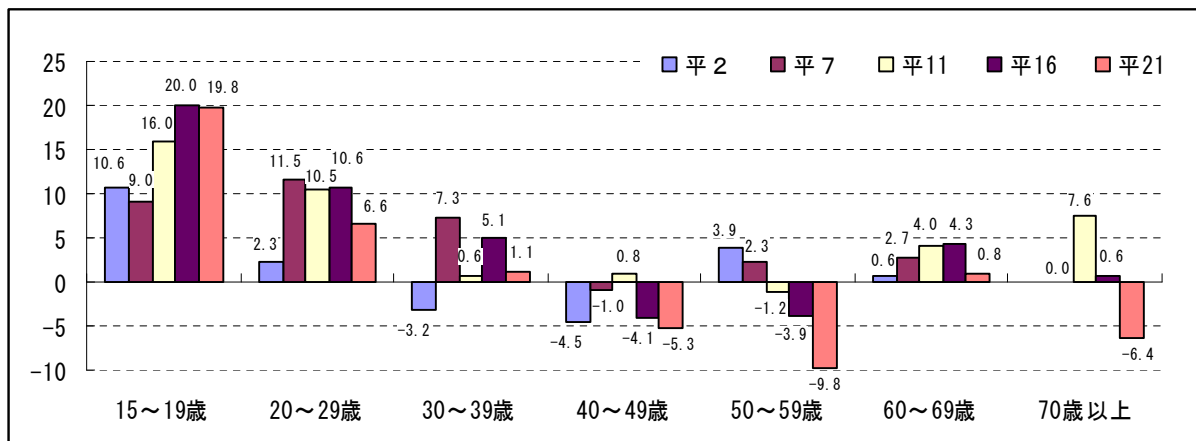
図1-1-2 男女別生活状態の意識（動向指数）



年齢別でみると、40～50歳代及び70歳以上で動向指数がマイナスの値となっており、他の年齢層に比べて生活状態について厳しい意識を持っている。動向指数が最も高い15～19歳（19.8）と最も低い50～59歳（-9.8）では29.6ポイントの開きがあり、年代間に意識の相違がみられる。

前回調査と比較すると、動向指数はすべての年代で減少しており、70歳以上（前回0.6→今回-6.4）と50～59歳（同-3.9→-9.8）で減少幅が大きくなっている。また、20～29歳（同10.6→6.6）、30～39歳（同5.1→1.1）、60～69歳（同4.3→0.8）でも3～4ポイントの減少となっている（図1-1-3）。

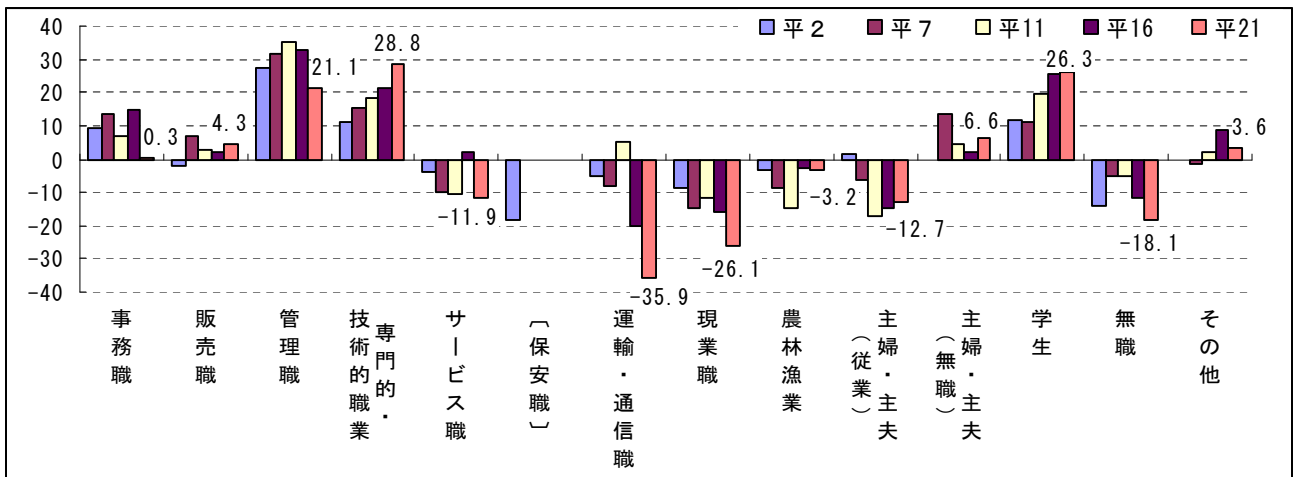
図1-1-3 年齢別生活状態の意識（動向指数）



職業別でみると、動向指数は専門的・技術的職業で28.8と最高となり、運輸・通信職で-35.9と最低となっている。その差は64.7ポイントに及び、職業別の意識差は大きい。

前回調査との比較では、動向指数は運輸・通信職（前回-20.2→今回-35.9）で減少幅が15.7ポイント減と最も大きくなっており、このほか、事務職（同14.7→0.3）、サービス職（同1.9→-11.9）、管理職（同32.8→21.1）、現業職（同-16.0→-26.1）でも10ポイント以上の減少となっている。一方、専門的・技術的職業（同21.2→28.8）では7.6ポイントの増加となっている（図1-1-4）。

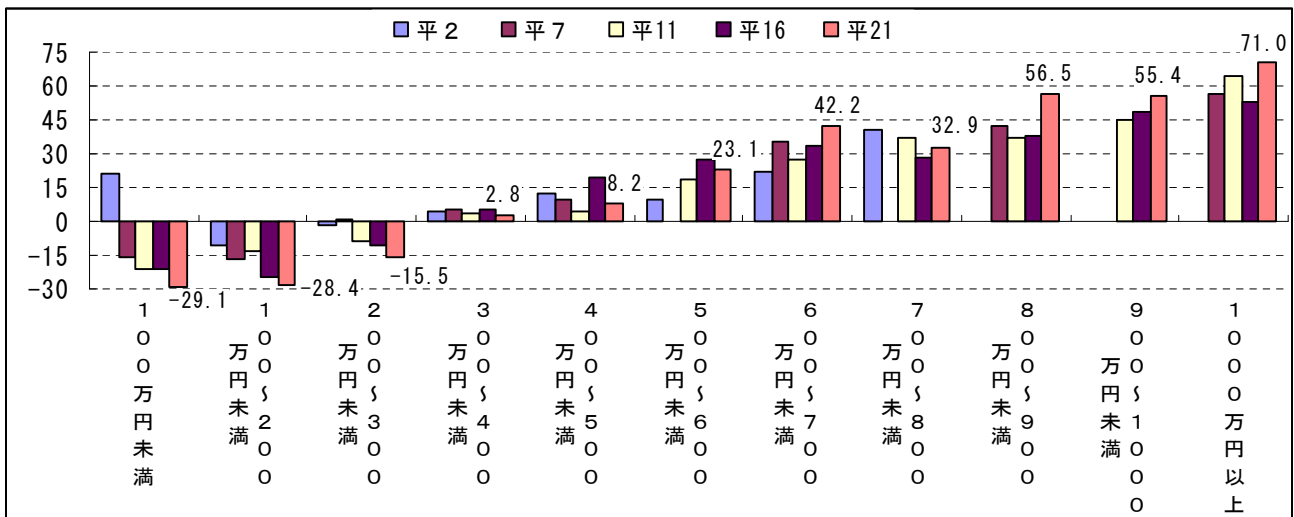
図1-1-4 職業別生活状態の意識（動向指数）



世帯の年収別でみると、生活状態の意識は年収によって大きく左右されることがわかる。年収が多い層で動向指数が大きくなる傾向がみられ、年収が300万円未満と300万円以上の間がマイナスからプラスになる分かれ目となっている。

前回調査との比較では、動向指数は400～500万円未満（前回19.4→今回8.2）で11.2ポイントと減少幅が大きいのははじめ、600万円未満ではいずれも減少となっている。一方、600万円以上ではいずれも動向指数が増加し、中でも800～900万円未満（同38.0→56.5）で18.5ポイント、1,000万円以上（同52.9→71.0）で18.1ポイントと増加幅が大きくなっている（図1-1-5）。

図1-1-5 年収別生活状態の意識（動向指数）



地域別にみると、動向指数は宮古が9.3で最高となり、北部が-16.7で最低となっている。

前回調査と比較すると、動向指数が増加しているのは宮古(前回5.8→今回9.3)のみで、3.5ポイントの増加となっている。一方、他の地域はいずれも減少しており、中でも北部(同-2.3→-16.7)で14.4ポイントと減少幅が大きくなっている。このほか、那覇市(同4.5→-2.5)、南部(同8.5→2.3)でも6～7ポイントの減少となっている。また、動向指数の最高値と最低値の差は、今回調査では26.0ポイントと、過去の調査(平成2年15.1ポイント、平成7年16.4ポイント、平成11年6.5ポイント、平成16年11.3ポイント)と比べて大きく広がっている(図1-1-6)。

図1-1-6 地域別生活状態の意識(動向指数)

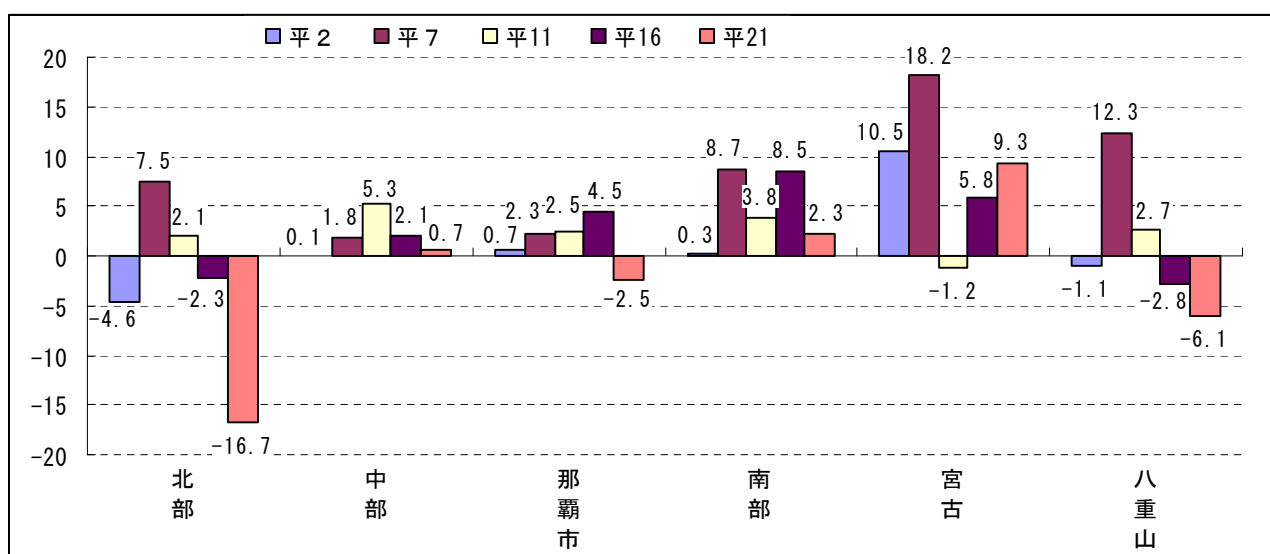


表 1 - 1 - 1 生活状態の意識（構成比）

生活水準	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10					
	極めて良い方 (上の上)			良い方 (上の下)			普通 (中)			悪い方 (下の上)			極めて悪い方 (下の下)			わからない			無回答			良い方(計) (1+2)			悪い方(計) (4+5)			動向指数 (8)-(9)					
年	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11
県計	3.7	3.9	3.9	17.4	17.3	14.9	53.3	57.2	59.1	17.6	14.3	11.2	4.8	3.5	4.0	2.9	3.7	3.7	0.4	0.1	0.1	3.1	21.1	21.2	18.8	22.4	17.8	15.2	-1.3	3.4	3.6		
男	2.9	3.7	2.8	20.3	19.0	18.1	49.2	54.9	60.1	18.7	15.0	9.1	4.8	3.2	3.8	3.3	4.2	3.4	0.7	0.0	0.0	2.7	23.3	22.7	20.9	23.5	18.2	12.8	-0.2	4.5	8.1		
女	4.3	4.1	4.9	15.0	15.6	12.5	56.7	59.5	58.2	16.7	13.6	13.1	4.8	3.9	4.2	2.5	3.2	4.0	0.1	0.1	0.1	3.1	19.2	19.7	17.4	21.5	17.5	17.3	-2.2	2.2	0.1		
15～19歳	6.2	8.2	8.0	27.2	23.3	25.0	48.1	50.6	42.0	8.6	7.8	12.5	4.9	3.7	4.5	4.9	6.5	6.8	0.0	0.0	0.0	1.1	33.3	31.4	33.0	13.6	11.4	17.0	19.8	20.0	16.0		
20～29歳	6.0	4.8	7.6	21.3	21.8	18.9	50.2	53.1	50.9	18.9	11.7	12.4	1.8	4.4	3.6	1.8	4.1	4.7	0.0	0.0	0.0	1.8	27.3	26.7	26.5	20.7	16.1	16.0	6.6	10.6	10.5		
30～39歳	3.6	3.6	4.0	18.9	19.3	11.4	52.5	56.5	63.2	17.1	14.7	11.6	4.4	3.0	3.2	3.5	2.8	4.0	0.0	0.0	0.0	2.6	22.6	22.9	15.4	21.5	17.8	14.8	1.1	5.1	0.6		
40～49歳	3.4	2.7	2.2	16.7	15.5	14.8	51.4	54.1	60.3	20.5	19.8	10.9	4.9	2.5	5.3	3.2	5.5	3.9	0.0	0.0	0.0	2.5	20.1	18.2	17.0	25.3	22.3	16.2	-5.3	-4.1	0.8		
50～59歳	3.4	3.3	2.9	15.6	17.1	14.3	47.7	53.6	58.6	22.6	18.5	13.9	6.1	5.9	4.5	3.5	1.6	2.0	1.1	0.0	0.0	3.7	18.9	20.4	17.2	28.7	24.4	18.4	-9.8	-3.9	-1.2		
60～69歳	1.6	4.5	2.7	15.8	12.4	13.1	63.2	68.2	63.3	11.3	9.7	7.7	5.3	2.9	4.1	2.0	1.9	3.2	0.8	0.5	0.5	5.9	17.4	16.9	15.8	16.6	12.6	11.8	0.8	4.3	4.0		
70歳以上	4.5	1.1	1.1	10.9	10.5	15.1	62.4	71.8	68.8	16.3	9.9	7.5	5.4	1.1	1.1	0.5	5.5	1.1	0.0	0.0	0.0	5.4	15.3	11.6	16.2	21.8	11.0	8.6	-6.4	0.6	7.6		
事務職	2.8	3.5	2.2	14.5	24.7	16.8	64.0	56.3	64.1	15.1	10.2	8.2	1.8	3.2	3.8	1.8	2.1	2.7	0.0	0.0	0.0	2.2	17.2	28.2	19.0	16.9	13.4	12.0	0.3	14.7	7.1		
販売職	3.8	2.5	3.9	18.9	20.8	12.6	55.7	54.7	63.1	15.1	20.1	8.7	3.2	1.3	4.9	3.2	0.6	3.9	0.0	0.0	0.0	2.9	22.7	23.3	16.5	18.4	21.4	13.6	4.3	1.9	2.9		
管理職	4.2	8.2	7.6	28.9	30.3	31.6	54.9	50.8	53.2	10.6	5.7	1.3	1.4	0.0	2.5	0.0	4.9	1.3	0.0	0.0	0.0	2.5	33.1	38.5	39.2	12.0	5.7	3.8	21.1	32.8	35.4		
専門・技術的職業	5.6	6.8	3.9	33.0	23.1	26.3	50.7	59.1	54.6	7.6	8.7	8.6	2.1	0.0	3.3	1.0	2.3	2.0	0.0	0.0	0.0	1.3	38.5	29.9	30.3	9.7	8.7	11.8	28.8	21.2	18.4		
サービス職	4.5	3.3	3.2	18.1	15.8	9.7	40.3	55.8	55.9	29.2	13.0	16.1	5.3	4.2	7.5	2.5	7.9	2.2	0.0	0.0	0.0	5.4	22.6	19.1	12.9	34.6	17.2	23.7	-11.9	1.9	-10.8		
運輸・通信職	0.0	1.9	2.6	6.5	9.6	10.3	48.9	53.8	71.8	31.5	25.0	2.6	10.9	6.7	5.1	0.0	2.9	2.6	2.2	0.0	0.0	5.1	6.5	11.5	12.8	42.4	31.7	7.7	-35.9	-20.2	5.1		
現業職	1.9	1.7	1.0	7.2	7.8	8.8	51.2	59.3	59.8	30.0	21.6	15.7	5.3	3.9	5.9	2.4	5.6	3.9	1.9	0.0	0.0	4.9	9.2	9.5	9.8	35.3	25.5	21.6	-26.1	-16.0	-11.8		
農林漁業	1.1	4.4	0.0	15.1	7.4	6.4	55.9	70.6	68.1	12.9	11.8	12.8	6.5	2.9	8.5	7.5	0.0	0.0	1.1	2.9	4.3	4.3	16.1	11.8	6.4	19.4	14.7	21.3	-3.2	-2.9	-14.9		
主婦・主夫(従業)	3.0	5.0	0.0	10.5	8.7	7.1	55.1	55.3	63.4	20.6	21.9	15.2	5.6	6.4	8.9	4.5	2.7	2.7	0.7	0.0	0.0	2.7	13.5	13.7	7.1	26.2	28.3	24.1	-12.7	-14.6	-17.0		
主婦・主夫(無職)	5.3	4.0	6.3	18.6	14.7	10.0	56.2	62.1	64.7	11.7	12.1	9.3	5.6	4.5	2.2	2.7	2.5	4.5	0.0	0.0	0.0	3.0	23.9	18.6	16.4	17.2	16.7	11.5	6.6	2.0	4.8		
学生	7.5	7.5	8.0	30.0	28.0	27.7	46.3	49.6	41.1	6.3	7.1	12.5	5.0	2.6	3.6	5.0	5.2	5.4	0.0	0.0	0.0	1.8	37.5	35.4	35.7	11.3	9.7	16.1	26.3	25.7	19.6		
無職	2.3	1.7	3.2	11.0	10.6	9.1	50.0	59.0	58.4	23.9	18.6	14.3	7.5	5.7	3.2	4.7	4.5	5.8	0.5	0.0	0.0	5.8	13.4	12.3	12.3	31.5	24.3	17.5	-18.1	-12.0	-5.2		
その他	2.4	0.0	2.7	15.7	25.4	16.7	67.5	50.8	58.0	10.8	16.9	15.3	3.6	0.0	2.0	0.0	6.8	4.7	0.0	0.0	0.0	0.7	18.1	25.4	19.3	14.5	16.9	17.3	3.6	8.5	2.0		
100万円未満	1.4	3.0	1.2	8.2	7.4	5.2	45.2	52.2	53.2	25.3	25.2	18.5	13.4	6.7	8.7	5.8	5.6	9.8	0.7	0.0	0.0	3.5	9.6	10.4	6.4	38.7	31.9	27.2	-29.1	-21.5	-20.8		
100～200万円未満	2.0	2.1	1.2	7.3	8.2	11.9	49.2	49.7	55.0	30.2	28.4	20.0	7.5	6.8	6.2	3.0	4.7	3.8	0.7	0.0	0.0	1.9	9.3	10.3	13.1	37.7	35.3	26.2	-28.4	-25.0	-13.1		
200～300万円未満	3.1	1.0	3.7	9.9	9.1	7.1	54.9	66.3	66.0	23.0	17.6	13.5	5.4	3.4	5.7	3.4	2.8	3.4	0.4	0.0	0.0	0.7	12.9	10.1	10.8	28.4	20.9	19.2	-15.5	-10.8	-8.4		
300～400万円未満	3.5	2.9	2.1	15.8	14.9	11.6	61.4	66.5	71.4	15.0	10.1	7.1	1.5	2.7	3.3	2.5	2.9	3.3	0.3	0.0	0.0	1.2	19.3	17.8	13.7	16.5	12.8	10.4	2.8	5.1	3.3		
400～500万円未満	5.1	4.3	3.0	14.4	23.4	13.1	68.5	61.2	67.9	8.9	6.1	7.7	2.3	2.2	3.6	0.8	2.9	1.8	0.0	0.0	0.0	3.0	19.5	27.7	16.1	11.3	8.3	11.3	8.2	19.4	4.8		
500～600万円未満	3.2	4.2	3.9	26.3	29.4	24.4	62.5	56.7	59.8	5.6	5.0	8.7	0.8	1.3	0.8	1.6	3.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	29.5	33.6	28.3	6.4	6.3	9.5	23.1	27.3	18.9		
600～700万円未満	8.6	7.6	6.3	38.8	28.7	27.5	47.4	60.8	56.3	5.2	1.8	5.0	0.0	1.2	1.3	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	1.3	47.4	36.3	33.8	5.2	2.9	6.3	42.2	33.3	27.5		
700～800万円未満	7.3	5.8	15.0	34.1	28.8	26.7	50.0	56.7	51.7	7.3	5.8	5.0	1.2	1.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	41.5	34.6	41.7	8.5	6.7	5.0	32.9	27.9	36.7		
800～900万円未満	9.4	10.1	8.6	50.6	35.4	28.6	36.5	44.3	62.9	3.5	5.1	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	45.6	37.1	3.5	7.6	0.0	56.5	38.0	37.1		
900～1,000万円未満	7.1	25.5	10.0	48.2	23.4	37.5	44.6	46.8	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.4	48.9	47.5	0.0	0.0	2.5	55.4	48.9	45.0		
1,000万円以上	11.6	11.5	14.1	59.4	45.2	51.6	29.0	37.5	29.7	0.0	3.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	71.0	56.7	65.6	0.0	3.8	1.6	71.0	52.9	64.1		
北部	3.6	1.5	3.7	9.4	17.4	14.3	52.9	56.1	56.6	22.5	16.7	12.7	7.2	4.5	3.2	3.6	3.8	4.8	0.7	0.0	0.0	4.8	13.0	18.9	18.0	29.7	21.2	15.9	-16.7	-2.3	2.1		
中部	3.6	4.8	4.0	19.6	15.5	15.1	51.2	56.7	61.0	18.3	15.4	9.9	4.2	2.8	3.9	2.6	4.8	3.6	0.5	0.0	0.0	2.6	23.2	20.3	19.1	22.5	18.2	13.8	0.7	2.1	5.3		
那覇市	4.4	3.0	3.1	18.2	19.7	15.7	49.4	56.1	57.7	20.1	14.3	13.0	5.0	3.9	3.4	2.5	3.0	4.0	0.3	0.0	0.0	3.1	22.6	22.7	18.8	25.2	18.2	16.4	-2.5	4.5	2.5		
南部	3.4	3.5	5.8	16.7	20.2	14.7	58.9	58.5	55.6	13.3	11.6	10.6	4.6	3.5	6.1	3.0	2.3	3.1	0.0	0.4	0.0	4.1	20.2	23.6	20.5	17.9	15.1	16.7	2.3	8.5	3.8		
宮古	1.7	5.8	3.7	20.3	10.8	11.1	61.0	70.0	63.0	7.6	7.5	14.8	5.1	3.3	1.2	4.2	2.5	3.7	0.0	0.0	0.0	2.5	22.0	16.7	14.8	12.7	10.8	16.0	9.3	5.8	-1.2		
八重山	3.5	5.7	0.0	9.6	16.0	17.3	63.5	50.9	64.0	14.8	17.0	10.7	4.3	7.5	4.0	3.5	2.8	2.7	0.9	0.0	0.0	1.3	13.0	21.7	17.3	19.1	24.5	14.7	-6.1	-2.8	2.7		

(2) 生活状態の変化（問7-2）

現在の暮らし向きは、4、5年前と比べてどう変化したかを「極めて良くなった」から「極めて悪くなった」までの5段階、及び「わからない」の選択肢から回答してもらい、その結果を表1-1-2にまとめた。

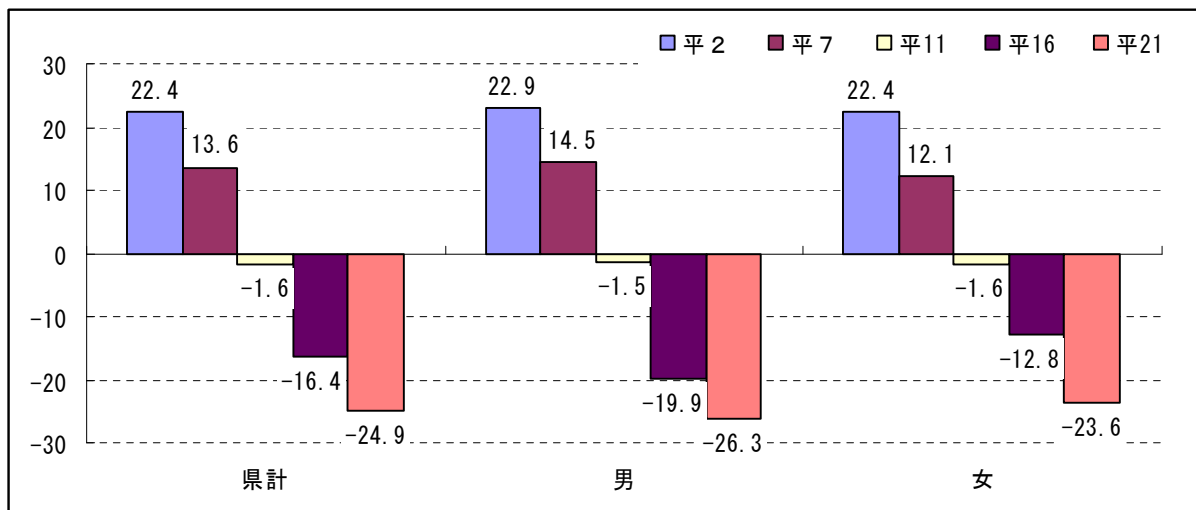
回答のうち「改善（極めて良くなった+良くなった）」の割合から「悪化（極めて悪くなった+悪くなった）」を引いた値を動向指数として評価した。

県全体の動向指数は、平成2年調査を最高に減少傾向にあり、平成7年調査でマイナス（=悪化>改善）となったが、今回も-24.9と、前回より8.5ポイント減となっている。

男女別でみると、動向指数は、男性が-26.3、女性が-23.6と、男性の方が生活状態の変化「悪化」についてやや厳しい意識を持っているが、前回（男性-19.9、女性-12.8）より男女の意識差が小さくなっている。

前回調査と比較すると、動向指数は男女とも大幅に減少しており、減少幅は男性（前回-19.9→今回-26.3）で6.4ポイント減、女性（同-12.8→-23.6）で10.8ポイント減と、女性のほうが拡大している（図1-1-7）。

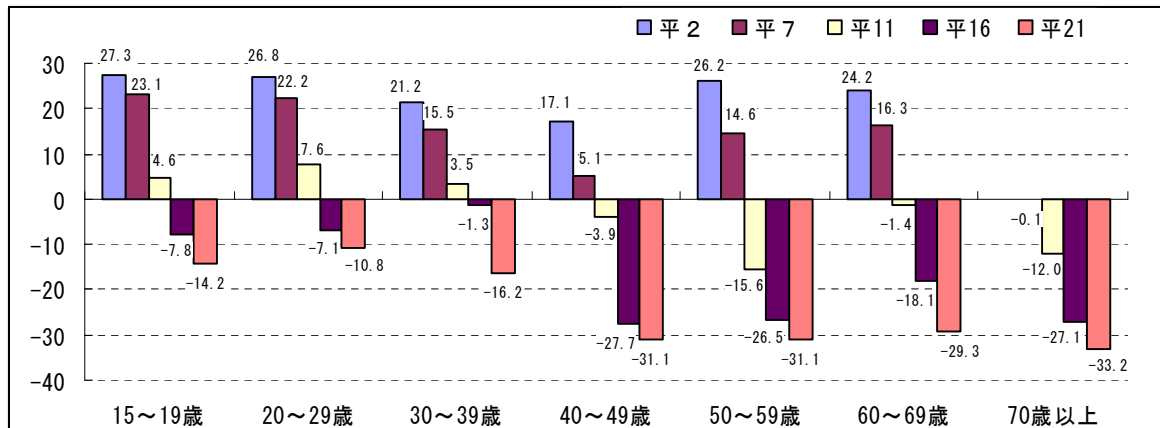
図1-1-7 男女別生活状態の変化（動向指数）



年齢別でみると、いずれの年齢層でも動向指数がマイナスの値、すなわち「悪化」となっており、「悪化」意識は30歳代以下（-10.8～-16.2）よりも40歳代以上（-29.3～-33.2）で大きくなっている。動向指数は最も高い20～29歳（-10.8）と最も低い70歳以上（-33.2）では22.4ポイントの開きがあり、30歳代以下と40歳代以上で顕著な意識の差がみられる。

前回調査と比較すると、動向指数はいずれの年代でも前回より減少している。減少幅は30～39歳（前回-1.3→今回-16.2）で14.9ポイント減、60～69歳（前回-18.1→今回-29.3）で11.2ポイント減と拡大している（図1-1-8）。

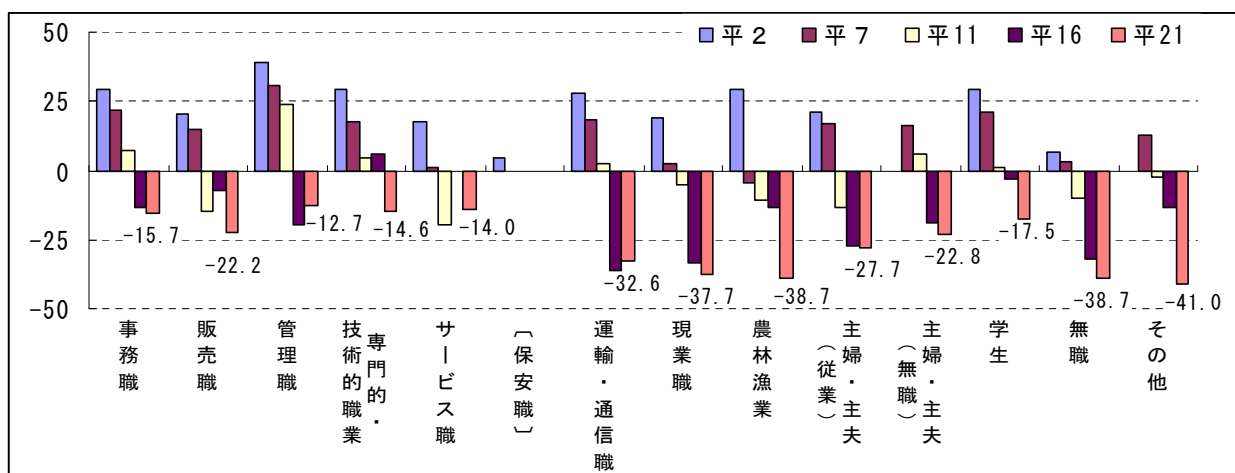
図1-1-8 年齢別生活状態の変化（動向指数）



職業別でみると、動向指数はすべての職業でマイナスの値（＝悪化）となっている。最も低いのは、その他（-41.0）で、以下、農林漁業（-38.7）、無職（-38.7）、現業職（-37.7）、運輸・通信職（-32.6）で-30以下となっている。一方、管理職（-12.7）、サービス職（-14.0）、専門的・技術的職業（-14.6）で-15以上となっている。動向指数の最高と最低の差は28.3ポイントで、「悪化」意識のなかでもその程度に差がみられる。

前回調査と比較すると、動向指数はその他（前回-13.6→今回-41.0）、農林漁業（同-13.2→-38.7）、専門的・技術的職業（同6.1→-14.6）で、減少幅が20ポイント以上と大きい。全体的に動向指数は減少（＝悪化）となっているなか、管理職（同-19.7→-12.7）では7.0ポイント、運輸・通信職（同-36.5→-32.6）では3.9ポイントの増加となっている（図1-1-9）。

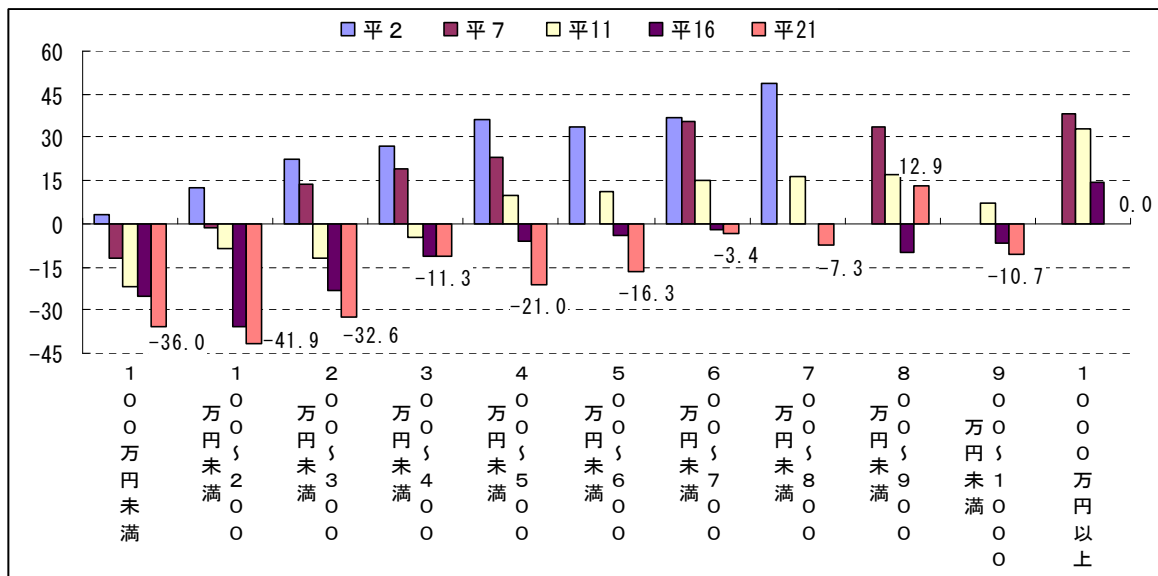
図1-1-9 職業別生活状態の変化（動向指数）



世帯の年収別で見ると、動向指数は100～200万円未満（-41.9）で最も低く、以下、100万円未満（-36.0）、200～300万円未満（-32.6）の順となっている。一方、最大は800～900万円未満の12.9で、唯一のプラスの値（＝改善）となっている。

前回調査と比較すると、動向指数は800～900万円未満（前回-10.1→今回12.9）で23.0ポイント、300～400万円未満（同-11.4→-11.3）で0.1ポイントの増加となっているほかは、各層とも減少（＝悪化）している。減少幅は400～500万円未満（同-6.1→-21.0）、1,000万円以上（同14.4→0.0）、500～600万円未満（同-4.2→-16.3）、100万円未満（同-25.2→-36.0）で10ポイント以上の減少となっている（図1-1-10）。

図1-1-10 年収別生活状態の変化（動向指数）



地域別にみると、動向指数は各地域ともマイナスの値（＝悪化）となっており、宮古が-7.6で最高、那覇市が-29.2で最低となっている。

前回調査と比較すると、動向指数は宮古のみ増加（＝改善）しているが、他の地域はいずれも減少（＝悪化）している。減少幅が最も大きいのは八重山（前回-12.3→今回-28.7）で、16.4ポイント減となっている（図1-1-11）。

図1-1-11 地域別生活状態の変化（動向指数）

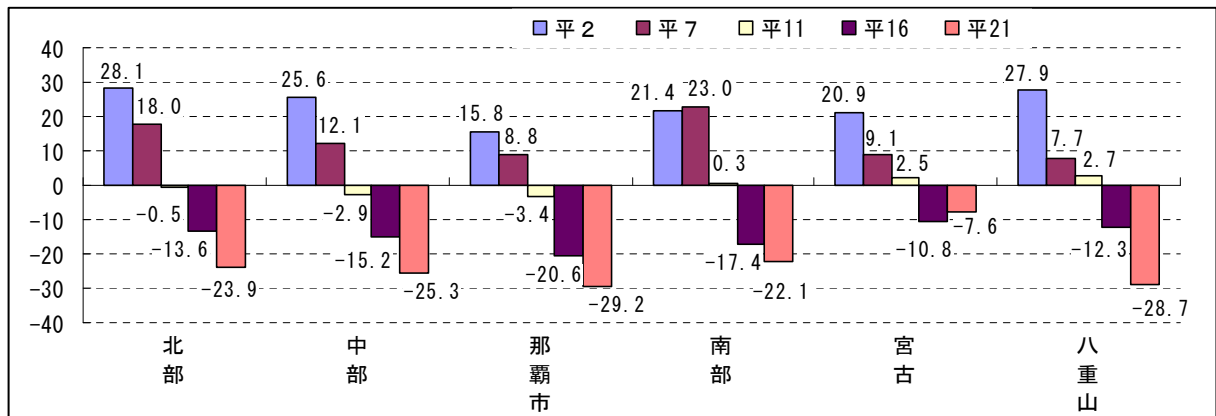


表 1-1-2 生活状態の変化（構成比）

生活水準 年	1			2			3			4			5			6			7			8			9			10					
	極めて良 くなった			良 くなった			変わ らない			悪 くなった			極めて悪 くなった			わ か ら ない			無 回 答			良 くなった(向上) (1+2)			悪 くなった(低下) (4+5)			動 向 指 数 (8)-(9)					
項目	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11	平21	平16	平11
県計	25	21	30	130	161	197	394	419	445	328	282	193	75	63	50	47	53	53	03	01	33	154	182	226	403	346	243	-249	-164	-16			
男	20	18	26	115	140	187	415	432	483	330	291	189	68	66	38	49	52	51	05	00	26	134	158	212	397	358	227	-263	-199	-15			
女	29	23	33	142	182	207	375	405	414	327	273	196	81	60	60	45	55	56	01	01	34	171	205	240	408	334	256	-236	-128	-16			
15～19歳	62	24	45	136	171	182	346	380	432	290	245	136	49	29	45	117	151	148	00	00	11	198	196	227	340	273	181	-142	-78	46			
20～29歳	21	16	33	150	195	215	444	391	434	249	246	128	30	37	44	105	115	124	00	00	22	171	211	248	279	283	172	-108	-71	76			
30～39歳	22	21	40	173	221	225	383	454	439	304	197	185	53	59	45	66	49	40	00	00	26	195	242	265	357	255	230	-162	-13	35			
40～49歳	30	23	34	126	125	204	349	399	439	388	371	204	79	55	73	28	27	25	00	00	22	156	148	238	467	426	277	-311	-277	-39			
50～59歳	21	18	16	124	138	148	376	401	436	327	299	267	128	122	53	14	24	41	10	00	37	144	155	164	456	420	320	-311	-265	-156			
60～69歳	16	24	23	113	152	199	410	458	448	343	280	195	79	76	41	34	05	27	04	05	68	129	176	222	422	356	236	-293	-181	-14			
70歳以上	25	22	00	45	83	130	510	453	554	361	354	228	40	22	22	20	66	11	00	00	54	69	105	130	401	376	250	-332	-271	-120			
事務職	12	05	16	185	174	234	391	440	538	292	268	130	62	48	49	58	64	16	00	00	16	197	180	250	354	316	179	-157	-137	71			
販売職	59	38	49	108	220	126	389	390	379	324	289	243	65	44	78	54	19	97	00	00	29	168	258	175	389	333	320	-222	-75	-146			
管理職	28	16	51	162	156	278	493	443	557	275	320	63	42	49	25	00	16	00	00	00	25	190	172	329	317	369	89	-127	-197	241			
専門的・技術的職業	42	27	20	156	246	270	424	496	428	313	197	197	31	15	46	35	19	26	00	00	13	198	273	289	344	212	243	-146	61	46			
サービス職	29	42	11	181	237	163	354	349	326	280	223	283	70	56	87	86	93	76	00	00	54	210	279	174	350	279	370	-140	00	-196			
運輸・通信職	00	00	26	141	96	205	348	423	410	315	365	154	152	96	51	22	19	103	22	00	51	141	96	231	467	462	205	-326	-365	26			
現業職	24	22	00	63	69	176	382	442	520	396	316	176	68	108	49	48	43	29	19	00	49	87	91	176	464	424	225	-377	-333	-49			
農林漁業	11	59	21	151	132	128	269	397	553	452	235	191	97	88	64	22	59	00	00	29	43	161	191	149	548	324	255	-387	-132	-106			
主婦・主夫(従業)	34	23	45	131	151	196	371	356	313	318	379	268	124	64	107	15	27	45	07	00	27	165	174	241	442	443	375	-277	-269	-134			
主婦・主夫(無職)	16	25	41	149	155	230	403	395	413	297	280	182	95	90	33	40	54	67	00	00	33	164	181	271	393	370	215	-228	-189	56			
学生	25	22	36	125	194	170	406	418	473	275	224	143	50	26	54	119	116	107	00	00	18	150	216	206	325	250	196	-175	-34	09			
無職	19	12	26	52	90	145	423	425	434	378	333	237	80	90	33	49	52	53	00	00	72	70	101	171	458	422	270	-387	-321	-99			
その他	00	00	40	108	169	180	349	424	473	470	237	200	48	68	47	24	102	53	00	00	07	108	169	220	518	305	247	-410	-136	-27			
100万円未満	34	22	06	65	126	122	363	370	407	329	330	250	130	70	99	72	81	70	07	00	47	99	148	128	459	400	349	-360	-252	-221			
100～200万円未満	13	12	39	87	103	190	317	372	360	402	380	229	117	94	89	57	38	74	07	00	19	100	115	229	519	475	318	-419	-360	-89			
200～300万円未満	25	10	13	112	122	162	340	450	448	369	292	232	94	71	61	58	55	77	04	00	07	137	132	175	462	363	293	-326	-231	-118			
300～400万円未満	28	27	33	190	199	178	406	399	494	273	287	212	58	53	46	45	35	21	00	00	17	218	226	212	331	340	258	-113	-114	-46			
400～500万円未満	43	04	48	121	227	220	440	432	506	342	252	143	31	40	24	23	47	36	00	00	24	163	230	268	374	291	167	-210	-61	101			
500～600万円未満	24	34	47	135	197	268	494	420	449	299	202	181	24	71	24	24	76	31	00	00	00	159	231	315	323	273	205	-163	-42	110			
600～700万円未満	00	41	25	233	251	304	500	368	443	250	287	127	17	23	51	00	29	38	00	00	13	233	292	329	267	310	178	-34	-18	152			
700～800万円未満	37	38	50	232	212	283	390	481	450	280	202	150	61	48	17	00	19	33	00	00	17	268	250	333	341	250	167	-73	00	167			
800～900万円未満	24	00	00	282	127	314	518	620	514	176	139	143	00	89	00	00	25	29	00	00	00	306	127	314	176	228	143	129	-101	171			
900～1,000万円未満	00	43	50	179	255	175	500	340	625	250	362	125	36	00	25	36	00	00	00	00	00	179	298	225	286	362	150	-107	-64	75			
1,000万円以上	29	77	31	174	183	359	594	567	484	174	96	63	29	19	00	00	58	63	00	00	00	203	260	390	203	115	63	00	144	328			
北部	14	08	21	152	197	218	355	394	388	290	280	191	116	61	53	65	61	80	07	00	48	167	205	239	406	341	245	-239	-136	-05			
中部	23	25	29	131	165	187	385	405	461	341	281	197	65	61	47	52	63	52	03	00	27	153	190	216	406	342	244	-253	-152	-29			
那覇市	25	12	22	116	152	182	396	421	465	349	313	197	85	57	40	25	45	65	03	00	31	142	164	204	434	370	237	-292	-206	-34			
南部	34	23	45	137	151	216	392	430	402	327	264	196	65	85	62	46	43	34	00	04	45	171	174	261	392	349	258	-221	-174	03			
宮古	25	17	37	136	142	185	525	533	494	186	233	173	51	33	25	76	42	62	00	00	25	161	158	222	237	267	198	-76	-108	25			
八重山	17	57	27	104	142	240	435	434	467	322	255	147	87	66	93	35	47	13	00	00	13	122	198	267	409	321	240	-287	-123	27			

(3) 生活状態の見通し（問7-3）

今後の暮らし向きは、現在の生活に比べてどのようになると思うかを「極めて良くなると思う」から「極めて悪くなると思う」までの5段階、及び「わからない」の選択肢から回答してもらい、その結果を表1-1-3にまとめた。

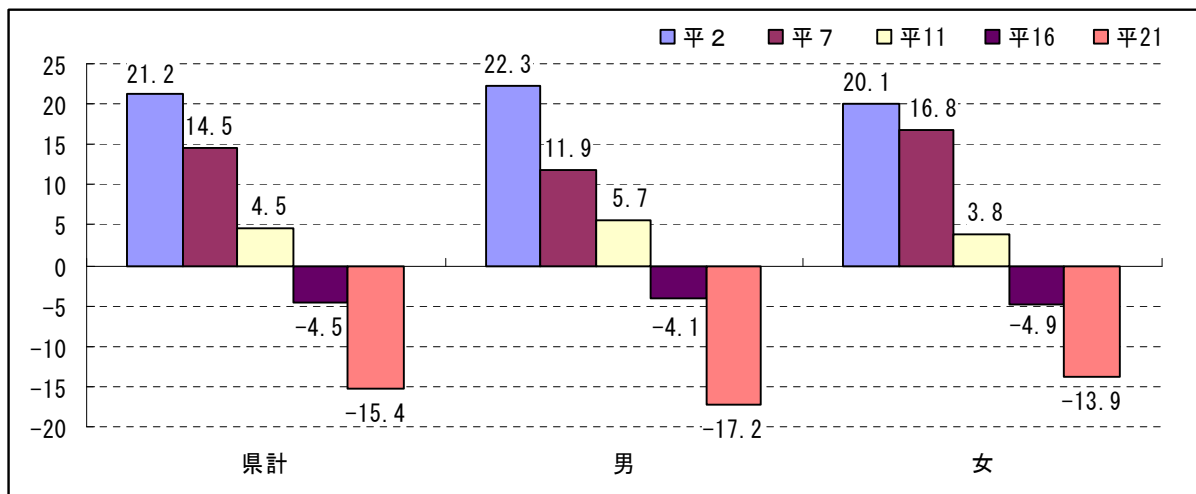
回答のうち「向上する（極めて良くなる+良くなる）」の割合から「低下する（極めて悪くなる+悪くなる）」を引いた値を動向指数として評価した。

動向指数は、バブル経済期に実施した平成2年調査の21.2を最高に減少傾向にあり、今回調査では-15.4と、前回より10.9ポイント減で、前回に続きマイナスの値（=低下する>向上する）になり、前回過去最低となった指数をさらに更新した。

男女別でみると、動向指数は男女ともマイナスの値（=低下する）で、男性で-17.2、女性で-13.9と、男性のほうがややマイナス意識が高い。

前回調査と比較すると、男性が13.1ポイント、女性が9.0ポイント減少し、前回より減少傾向は加速している（図1-1-12）。

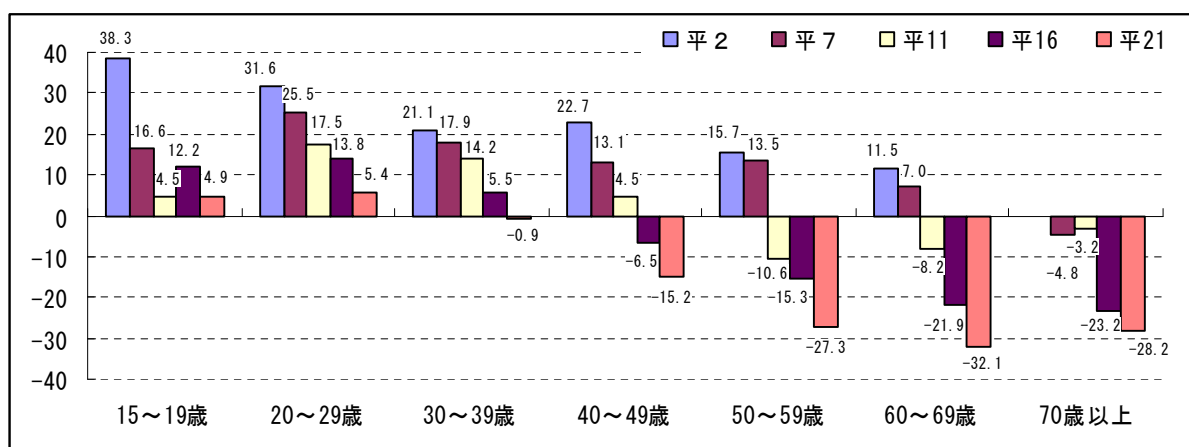
図1-1-12 男女別生活状態の見通し（動向指数）



年齢別でみると、20歳代以下の若い年齢層ではやや明るい見通しを持っているのに対し、60～69歳までは年齢が高くなるにつれ先行きの見通しを悪くするとみる傾向が顕著になっている。動向指数は15～19歳の4.9、20～29歳の5.4に対し、30～39歳で-0.9とマイナスの値（＝低下する）になり、60～69歳の-32.1まで低くなっていく。

前回調査と比較すると、動向指数はすべての年齢層で前回より低下しており、減少幅は50～59歳（前回-15.3→今回-27.3）で12.0ポイント減と最も大きく、次いで60～69歳（同-21.9→-32.1）、で10.2ポイント減となっている（図1-1-13）。

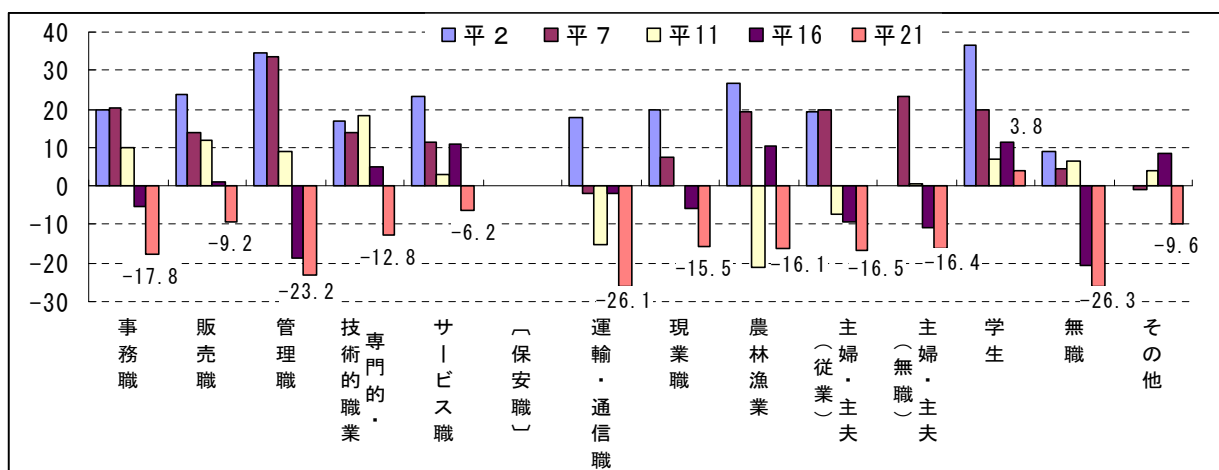
図1-1-13 年齢別生活状態の見通し（動向指数）



職業別でみると、動向指数は学生を除くすべての職業でマイナスの値（＝低下する）となっており、無職（-26.3）、運輸・通信職（-26.1）、管理職（-23.2）で-20以下と低くなっている。一方、学生（3.8）のみプラスの値（＝向上する）となっている。

前回調査と比較すると、農林漁業（前回10.3→今回-16.1）と運輸・通信職（同-1.9→-26.1）の減少幅が20ポイント以上の減少と大きいほか、その他（同8.5→-9.6）、専門的・技術的職業（同4.9→-12.8）、サービス職（同10.7→-6.2）、事務職（同5.4→-17.8）、販売職（同1.3→-9.2）でも10ポイント以上の減少となっている（図1-1-14）。

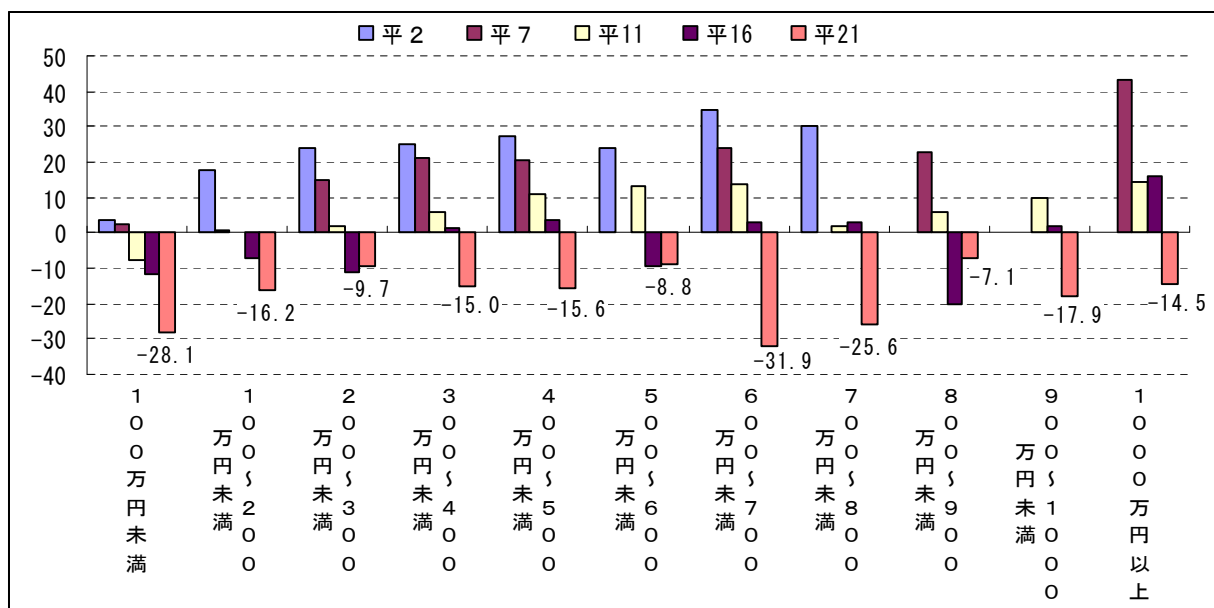
図1-1-14 職業別生活状態の見通し（動向指数）



世帯の年収別で見ると、動向指数はいずれの層でもマイナスの値（＝低下する）となっており、600～700万円未満（－31.9）で最も低く、以下、100万円未満（－28.1）、700～800万円未満（－25.6）で－20以下となっている。一方、最大は800～900万円未満の－7.1であった。

前回調査と比較すると、200～300万円未満、500～600万円未満、800～900万円未満を除く各層で動向指数は減少（＝低下）しており、減少幅は600～700万円未満（前回2.9→今回－31.9）で34.8ポイント減、1,000万円以上（同16.3→－14.5）で30.8ポイント減、700～800万円未満（同2.9→－25.6）で28.5ポイント減と大きくなっている（図1－1－15）。

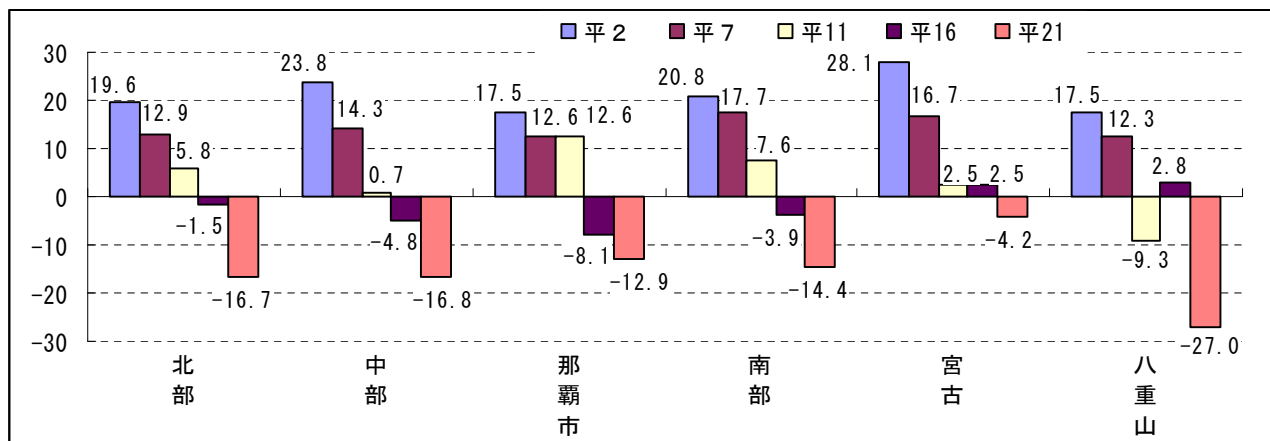
図1－1－15 年収別生活状態の見通し（動向指数）



地域別にみると、動向指数は全地域でマイナスの値（＝低下する）となっており、特に八重山（－27.0）で際立って低い。一方、最も高いのは宮古（－4.2）で、八重山と22.8ポイントの差がある。

前回調査と比較すると、動向指数は今回最低の八重山（前回2.8→今回－27.0）は29.8ポイントの大幅減となっている。一方、那覇市（同－8.1→－12.9）と宮古（同2.5→－4.2）では4～7ポイントの減少にとどまっている（図1－1－16）。

図1－1－16 地域別生活状態の見通し（動向指数）



2 生活状態の達成度と希望（問8）

（1）達成の状況（問8）

県民がどの程度の生活状況を希望し、また、それが達成できているかを把握するため、今回の調査では19項目の生活状況それぞれについて「だいたいかなえられている」「希望しているがかなえられていない」「特に必要がない」「わからない」のいずれかで回答してもらった。

19項目の生活状況に対する「だいたいかなえられている」の回答率を『達成の状況』、「希望しているがかなえられていない」の回答率を『希望の状況』として分析する。

図1-2-1 生活状態の達成度

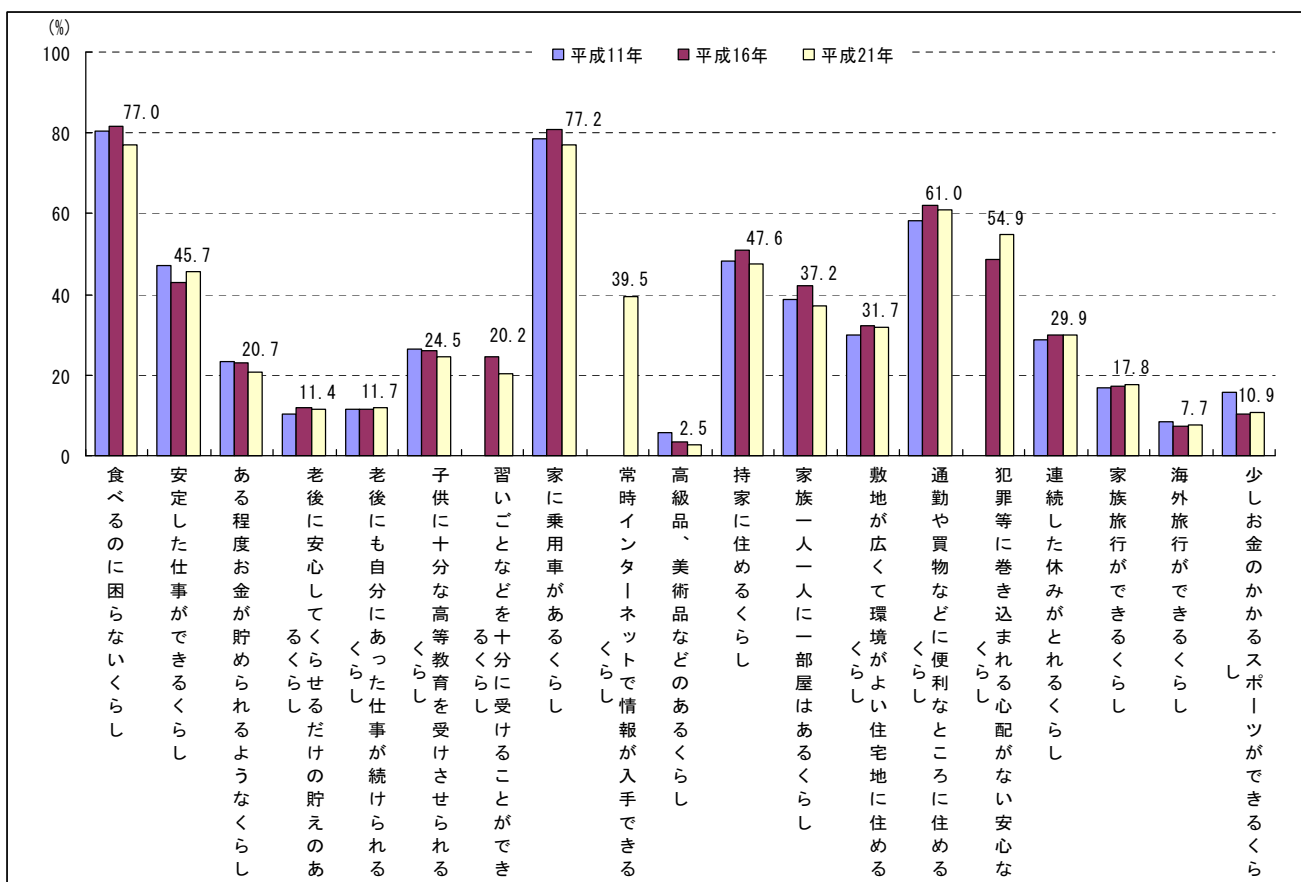


図1-2-1と図1-2-3で県全体についてみると、「だいたいかなえられている」とする比率、『達成の状況』は「家に乗用車があるくらし」（77.2%）、「食べるのに困らないくらし」（77.0%）で8割近くに及び、以下、「通勤や買物などに便利なところに住めるくらし」（61.0%）が6割台、「犯罪等に巻き込まれる心配がない安心なくらし」（54.9%）が5割以上の達成度となっている。逆に、「高級品、美術品などのあるくらし」（2.5%）、「海外旅行ができるくらし」（7.7%）が10%以下の低い達成度となっている。

前回調査と比較すると、今回上位2位の「家に乗用車があるくらし」「食べるのに困らないくらし」は、前回と順位を替えているものの前回同様上位2位となっているが、その達

成度は4ポイント前後減少している。「通勤や買物などに便利なところに住める暮らし」は前回と変わらず3位となっている。今回4位の「犯罪等に巻き込まれる心配がない安心な暮らし」は前回調査より順位を1つ上げ、達成度も6.1ポイント増加している。これに対し、今回5位の「持家に住める暮らし」は、前回調査より順位を1つ落とし、達成度も3.4ポイント低くなっている。6位以下の項目で、達成度の増加がみられるのは、「安定した仕事ができる暮らし」(前回42.8%→今回45.7%)で2.9ポイント増となっている。一方、減少がみられる項目は、「家族一人一人に一部屋はある暮らし」(同42.1%→37.2%)で4.9ポイント減、「自分や子供が、習いごとやけいごとなどを十分に受けることができる暮らし」(同24.6%→20.2%)で4.4ポイント減となっている。また、今回下位の「高級品、美術品などのある暮らし」(0.9ポイント減)、「海外旅行ができる暮らし」(0.4ポイント増)は前回調査でも下位にあり、引き続き達成度の低い項目である。

図1-2-2と表1-2-1で、属性別にみると、以下のとおりである。

性別でみると、男女の達成度の平均は前回調査と同様にほとんど差がみられない。男女とも上位6位までの項目は若干の順位の差はあれ40%以上の比率で同じ項目があげられ、同傾向といえる。男女間の達成度の差の大きいもののうち、男性の達成度の高い項目は全体で7位の「常時インターネットで情報が入手できる暮らし」(男性42.1%、女性37.2%)、17位の「ゴルフなどの少しお金のかかるスポーツができる暮らし」(男性14.0%、女性8.2%)、逆に女性の達成度の高い項目は3位の「通勤や買物などに便利なところに住める暮らし」(男性56.4%、女性64.9%)となっている。

職業別でみると、達成度の平均は前回調査と同様に管理職が最も高く、過半数の項目で最高の達成度となっており、他の職業との差が大きい。以下、達成度の平均は専門的・技術的職業、事務職の順に高く、運輸・通信職、現業職、無職の達成度の平均は低い。前回調査と比べた達成度の平均は、学生を除くすべての職業で減少し、農林漁業で11.3ポイントと大幅な減少となっている。運輸・通信職では「子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし」(12.0%)、「家族一人一人に一部屋はある暮らし」(20.7%)、「家族旅行ができる暮らし」(4.3%)などの達成度が他と比較して著しく低くなっている。

年齢別でみると、達成度の平均は20~29歳(29.2%)で最も低いが、他の年代でも30%強と大きな差はみられない。項目別にみると、全体で上位3位の「食べるのに困らない暮らし」「家に乗用車がある暮らし」「通勤や通学、買物などに便利なところに住める暮らし」は各年齢層で5割以上を占め、平均的に達成度の高い項目といえる。これに対して、「持家に住める暮らし」の達成度は年齢差が大きく、20~29歳(25.5%)で最も低く、年齢が高くなるにつれ増加し、60歳代以上で6割を超えている。さらに、「家族一人一人に一部屋はある暮らし」も30~39歳(23.3%)で最も低く、その年齢層から離れるにつれ増加し、70歳以上で5割に達している。逆に、「安定した仕事ができる暮らし」の達成度は30~40歳代で5割を超えるが、その年齢層から離れるにつれ減少し、70歳以上で27.7%となっている。

地域別で見ると、達成度の平均は北部（29.6%）が30%を切っているが、他の地域では30%強となり、地域差は大きくない。前回調査と比べた達成度は、全地域で減少しており、中でも宮古が7.0ポイント減と大きく減少している。項目別にみると、全体で上位2位の「食べるのに困らない暮らし」「家に乗用車がある暮らし」は各地域で7割以上を占め、達成度の高い項目といえる。これに対して、「通勤や通学、買物などに便利なおところに住める暮らし」「持家に住める暮らし」の達成度は地域差が比較的大きく、前者は那覇市の68.9%に対し、北部の47.8%、後者は八重山の57.4%に対し、那覇市の36.8%にとどまっている。

図1-2-2 生活状態の達成度の平均

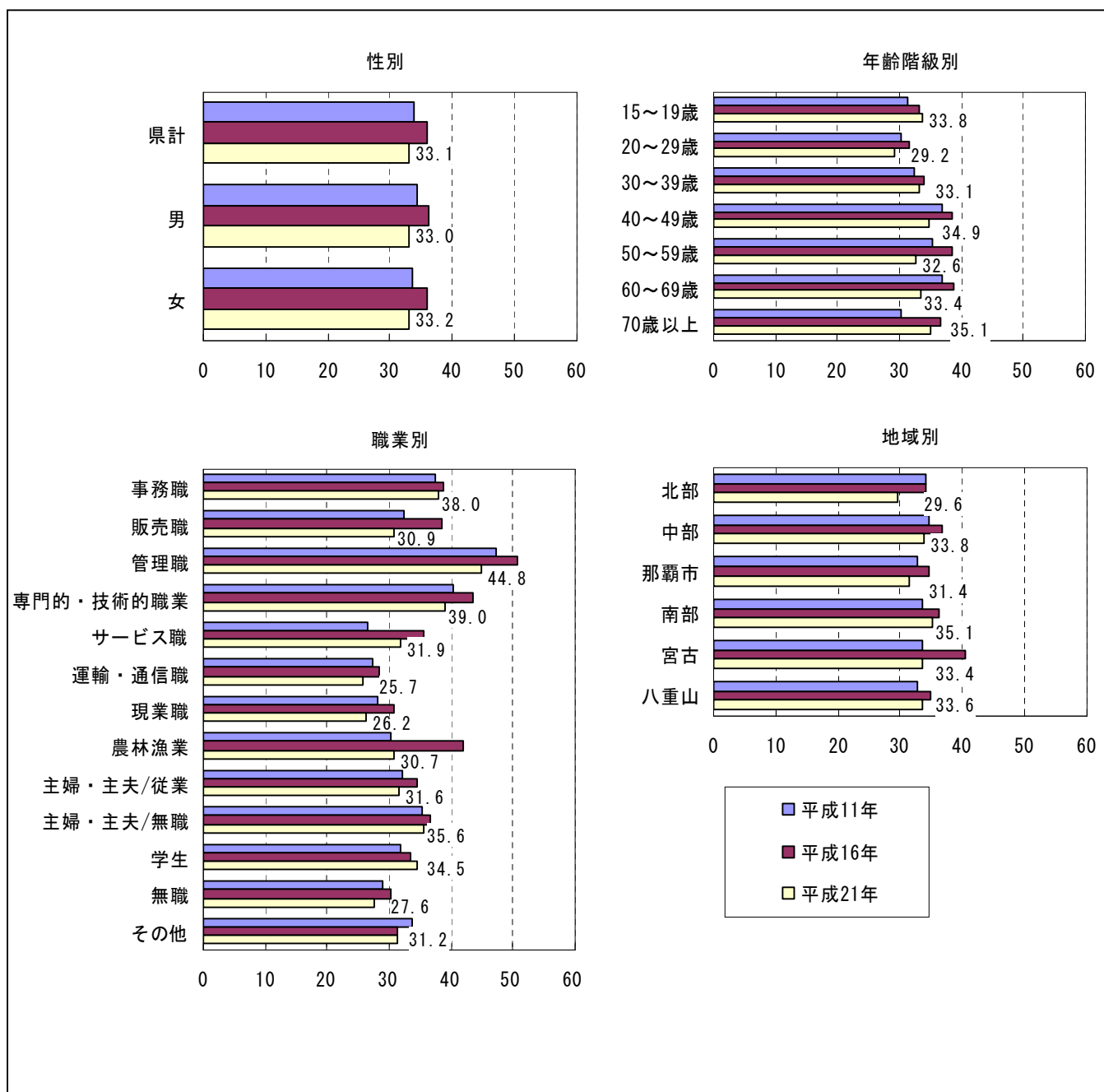
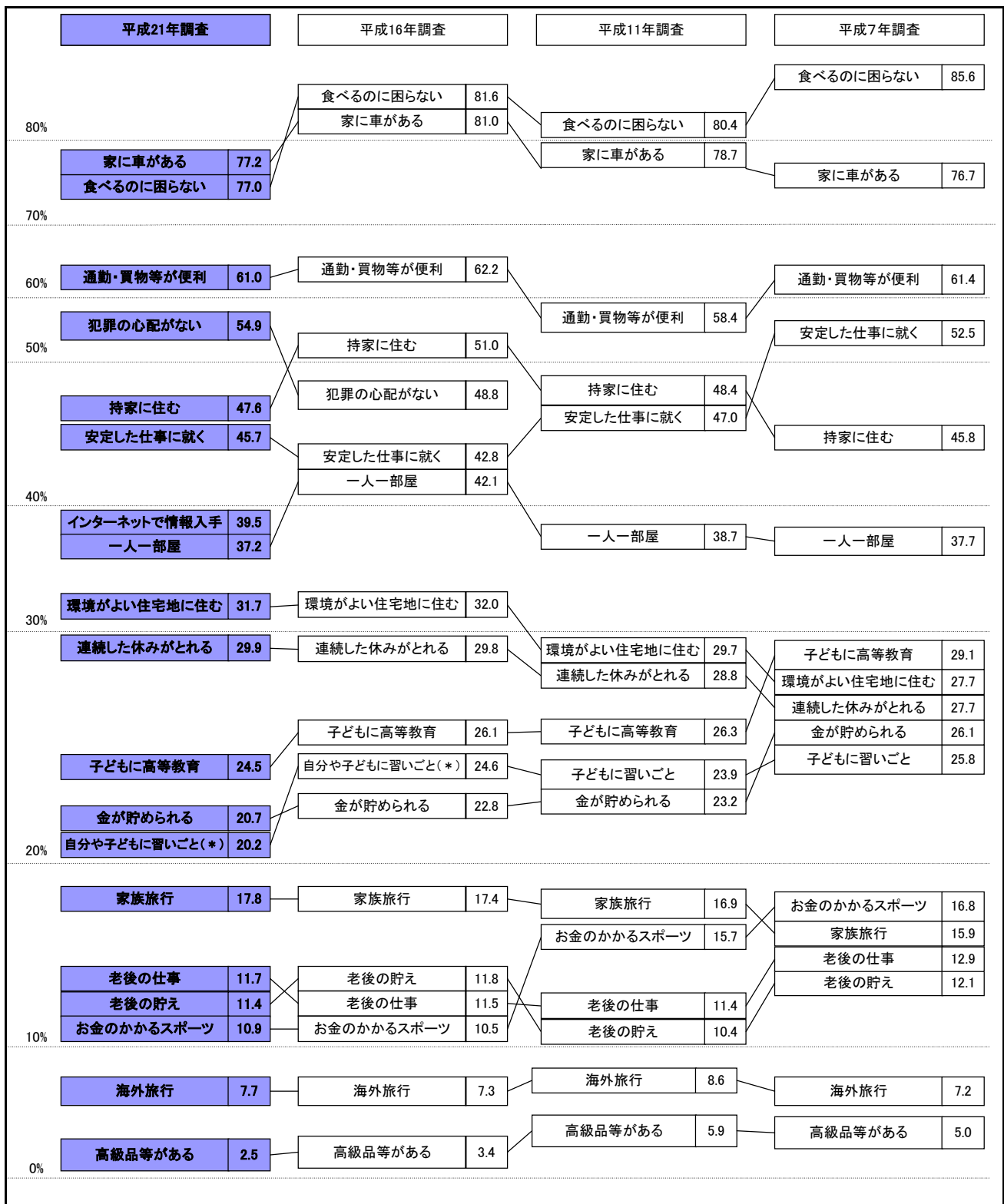


図 1 - 2 - 3 生活状態の達成度の推移



(*)平成11年調査以前は「子どもに習いごと」、平成16年度調査以降は「自分や子どもに習いごと」

表1-2-1 生活状態の達成度

(%)

		【性別】			【職業】												
		累計	男	女	事務職	販売職	管理職	専門的・技術的職業	サービス職	運輸・通信職	現業職	農林漁業	主婦・主夫/従業	主婦・主夫/無職	学生	無職	その他
食べるのに困らない暮らし	平21	77.0	74.7	79.0	86.5	78.4	80.3	88.5	82.3	67.4	65.7	64.5	73.8	82.2	78.1	65.7	75.9
	平16	81.6	80.3	82.9	86.3	87.4	84.4	88.3	80.5	67.3	72.3	85.3	76.3	85.3	83.6	76.9	83.1
	平11	80.4	80.3	80.7	90.8	78.6	91.1	91.4	73.1	82.1	72.5	72.3	76.8	79.6	83.9	70.1	78.7
安定した仕事ができる暮らし	平21	45.7	46.0	45.4	71.4	55.1	71.1	72.2	43.2	51.1	36.7	44.1	46.1	31.8	31.3	19.0	41.0
	平16	42.8	43.4	42.3	68.4	50.3	76.2	66.7	49.8	34.6	43.3	36.8	39.3	37.6	22.8	11.1	37.3
	平11	47.0	49.3	45.4	67.9	48.5	78.5	74.2	38.7	43.6	39.2	42.6	54.1	39.6	18.8	22.1	46.0
ある程度お金が貯められるよう暮らし	平21	20.7	20.1	21.2	24.9	13.5	29.6	30.6	18.5	16.3	13.0	18.3	16.9	23.3	33.8	16.0	6.0
	平16	22.8	22.5	23.1	25.2	23.9	45.9	34.5	24.7	11.5	17.7	26.5	17.4	23.7	23.1	14.6	13.6
	平11	23.2	23.6	23.3	27.2	13.6	40.5	36.2	11.8	5.1	14.7	27.7	20.5	22.3	22.3	14.9	30.7
老後に安心してくらせるだけの貯えのある暮らし	平21	11.4	12.2	10.7	8.6	5.9	19.7	7.3	10.7	8.7	5.3	12.9	9.7	14.9	18.8	16.0	7.2
	平16	11.8	11.7	11.9	7.0	13.8	20.5	12.1	15.3	4.8	7.8	26.5	11.9	12.1	11.2	13.0	10.2
	平11	10.4	10.4	10.3	8.2	7.8	24.1	12.5	5.4	10.3	5.9	8.5	4.5	12.3	6.3	13.0	10.0
老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし	平21	11.7	12.5	11.0	10.5	14.6	14.8	14.6	19.3	12.0	9.7	25.8	9.0	5.8	15.6	7.5	9.6
	平16	11.5	13.9	9.0	7.8	23.9	23.0	18.2	17.2	10.6	13.0	32.4	7.3	5.4	6.0	6.1	5.1
	平11	11.4	13.0	10.0	6.5	16.5	13.9	19.3	14.1	10.3	8.8	34.0	5.4	9.7	6.3	9.1	9.3
子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし	平21	24.5	24.2	24.8	24.6	17.8	38.0	27.8	23.5	12.0	17.9	16.1	23.6	31.0	31.9	21.6	24.1
	平16	26.1	24.7	27.5	28.7	27.7	49.2	31.4	21.4	14.4	21.2	41.2	32.0	26.6	23.5	17.5	22.0
	平11	26.3	29.0	24.1	19.6	30.1	49.4	27.0	14.0	28.2	24.5	23.4	19.6	28.7	32.1	25.3	24.8
習いごとなどを十分に受けることができる暮らし	平21	20.2	20.7	19.7	17.8	11.9	33.8	29.5	14.4	15.2	9.7	11.8	19.1	24.1	32.5	19.2	18.1
	平16	24.6	22.5	26.7	30.0	24.5	36.9	36.0	21.9	13.5	13.0	22.1	25.1	25.7	29.1	16.3	20.3
	平11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
家に乗用車がある暮らし	平21	77.2	76.9	77.4	85.8	80.0	85.9	88.2	76.5	75.0	71.5	75.3	80.9	82.5	68.8	60.3	74.7
	平16	81.0	81.4	80.6	89.3	84.9	93.4	90.5	71.2	78.8	81.8	83.8	87.2	83.6	71.3	70.3	72.9
	平11	78.7	81.2	77.2	90.2	78.6	91.1	90.8	66.7	74.4	78.4	72.3	77.7	80.2	78.6	60.4	79.3
常時インターネットで情報が入手できる暮らし	平21	39.5	42.1	37.2	52.0	37.8	66.2	64.2	39.1	21.7	25.6	19.4	29.6	37.9	55.6	22.1	41.0
	平16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	平11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
高級品、美術品などのある暮らし	平21	2.5	3.2	1.9	0.0	2.2	5.6	2.1	2.9	2.2	2.9	0.0	3.0	1.6	4.4	3.8	2.4
	平16	3.4	3.2	3.6	3.2	7.5	4.1	5.7	2.3	0.0	1.7	1.5	0.9	3.7	4.1	3.1	3.4
	平11	5.9	5.4	6.4	6.5	5.9	11.4	7.9	3.2	0.0	2.0	6.5	3.6	7.1	7.1	5.2	4.0
持家に住める暮らし	平21	47.6	49.0	46.4	46.2	47.6	62.0	46.2	40.3	38.0	44.0	63.4	44.2	57.8	36.3	46.9	50.6
	平16	51.0	52.5	49.4	45.6	48.4	82.0	52.7	44.7	44.2	34.2	72.1	47.9	60.2	40.7	57.1	54.2
	平11	48.4	49.7	47.4	45.1	41.7	64.6	43.4	37.0	43.6	41.2	63.8	50.0	53.4	42.0	57.5	46.0
家族一人一人に一部屋はある暮らし	平21	37.2	37.6	36.8	40.0	38.9	49.3	34.7	33.7	20.7	34.8	44.1	30.0	40.1	31.3	39.9	44.6
	平16	42.1	43.8	40.3	35.1	47.2	71.3	51.1	39.5	31.7	30.3	55.9	39.3	38.4	41.0	48.3	23.7
	平11	38.7	40.4	37.4	36.4	35.9	46.8	41.4	28.0	28.2	37.3	40.4	31.3	38.7	45.5	44.8	38.7
敷地が広くて環境がよい住宅地に住める暮らし	平21	31.7	30.3	32.8	25.5	33.0	35.9	30.9	27.6	19.6	23.7	49.5	26.6	42.2	33.1	33.1	34.9
	平16	32.0	32.2	31.8	28.7	30.8	44.3	37.9	33.0	26.0	26.4	57.4	27.4	34.2	34.3	29.5	16.9
	平11	29.7	28.4	30.9	27.2	22.3	32.9	27.6	20.4	30.8	24.5	34.8	27.7	37.2	25.0	35.1	30.0
通勤や買物などに便利なところに住める暮らし	平21	61.0	56.4	64.9	72.3	58.4	67.6	61.8	69.1	53.3	45.9	46.2	61.8	69.5	56.3	53.5	54.2
	平16	62.2	62.9	61.5	60.9	71.7	76.2	76.1	60.5	57.7	56.7	57.4	63.9	65.5	54.9	54.0	61.0
	平11	58.4	55.3	61.2	67.4	64.7	63.3	63.8	59.8	48.7	49.5	36.2	61.6	58.7	45.5	56.5	59.3
犯罪等に巻き込まれる心配がない安心な暮らし	平21	54.9	53.8	55.8	64.9	51.4	47.9	52.8	54.7	50.0	44.9	57.0	61.0	55.7	59.4	52.8	51.8
	平16	48.8	50.4	47.1	52.5	45.3	59.0	55.3	58.1	41.3	48.5	60.3	47.9	41.5	45.1	44.8	44.1
	平11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
連続した休みがとれる暮らし	平21	29.9	28.0	31.4	47.4	17.3	47.9	36.5	25.9	14.1	25.1	17.2	34.1	31.8	27.5	18.5	32.5
	平16	29.8	26.6	33.0	44.2	20.8	37.7	32.2	33.0	21.2	22.9	29.4	29.7	32.5	29.9	16.7	32.2
	平11	28.8	28.7	29.2	40.8	22.3	35.4	36.2	17.2	17.9	21.6	23.4	27.0	28.4	30.4	24.7	29.3
家族旅行ができる暮らし	平21	17.8	17.2	18.3	23.7	12.4	36.6	25.0	11.1	4.3	9.2	11.8	17.2	24.9	13.8	13.1	15.7
	平16	17.4	15.7	19.1	21.4	18.2	23.8	23.5	19.1	1.9	12.6	26.5	13.7	19.8	15.3	13.9	6.8
	平11	16.9	15.4	18.3	19.0	15.5	26.6	23.7	8.6	2.6	8.8	6.4	17.9	23.0	16.1	11.0	16.7
海外旅行ができる暮らし	平21	7.7	8.3	7.2	8.3	2.7	24.6	11.5	5.8	2.2	3.9	1.1	6.7	6.6	12.5	7.7	2.4
	平16	7.3	6.8	7.9	9.1	11.9	16.4	11.0	5.6	0.0	3.0	7.4	2.7	8.5	9.7	5.0	5.1
	平11	8.6	8.1	9.2	10.9	4.9	22.8	12.5	4.3	2.6	2.9	8.5	2.7	11.2	10.7	3.9	6.7
少しお金のかかるスポーツができる暮らし	平21	10.9	14.0	8.2	11.7	7.6	35.2	16.0	6.6	4.3	7.7	5.4	6.4	12.2	14.4	8.5	6.0
	平16	10.5	13.4	7.5	12.6	11.9	30.3	14.4	9.3	7.7	5.6	8.8	7.8	8.5	8.2	7.5	20.3
	平11	15.7	20.0	12.5	25.0	11.7	41.8	21.7	9.7	10.3	11.8	6.4	9.8	15.3	14.3	5.2	15.3

表1-2-1 生活状態の達成度（続き）

（％）

		【年 齢】							【地 域】					
		15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
食べるのに困らないくらし	平21	80.9	80.2	84.3	76.9	72.6	72.9	73.3	74.6	78.0	78.3	76.8	72.0	72.2
	平16	79.6	85.1	85.6	80.2	77.2	81.7	80.7	75.8	82.1	85.1	79.5	85.8	73.6
	平11	79.5	83.6	83.9	82.4	78.0	73.9	71.0	77.2	82.5	80.6	77.9	82.7	74.7
安定した仕事ができるくらし	平21	34.0	45.0	54.3	53.7	49.0	34.9	27.7	44.2	44.4	46.5	47.1	45.8	51.3
	平16	24.1	40.2	53.7	52.7	48.3	31.4	23.2	32.6	43.3	40.9	46.9	50.8	46.2
	平11	18.2	40.9	57.8	55.7	46.9	39.5	31.5	48.4	46.8	46.9	45.9	45.7	52.0
ある程度お金が貯められるようなくらし	平21	33.3	19.5	23.3	19.1	17.0	19.6	23.8	18.1	22.0	19.2	21.7	22.0	15.7
	平16	24.5	20.0	25.0	22.4	22.8	21.1	26.5	18.2	24.1	22.4	22.9	21.7	23.6
	平11	27.3	20.7	19.8	26.0	22.4	28.4	18.3	24.9	20.7	29.5	21.1	22.2	25.3
老後に安心してくらしらせるだけの貯えのあるくらし	平21	17.3	9.3	7.5	6.9	8.5	18.0	25.7	8.0	11.3	8.8	16.3	13.6	11.3
	平16	13.1	10.8	6.4	9.4	11.8	18.5	20.4	12.1	12.1	10.4	11.6	16.7	12.3
	平11	8.0	5.5	5.0	10.6	12.7	21.6	13.0	11.1	10.1	10.5	8.9	18.5	8.0
老後にも自分にあった仕事が続けられるくらし	平21	16.0	8.1	9.8	12.4	9.3	16.8	11.9	12.3	11.1	9.4	11.8	22.0	17.4
	平16	8.2	7.4	9.3	11.3	14.3	16.4	13.3	10.6	12.2	8.4	11.2	20.0	16.0
	平11	4.5	6.5	7.2	12.1	13.5	20.7	17.2	14.8	10.9	10.8	10.9	12.3	10.7
子供に十分な高等教育を受けさせられるくらし	平21	31.5	14.1	18.0	30.8	26.0	25.5	30.7	20.3	24.8	24.2	27.0	25.4	21.7
	平16	23.3	13.6	18.1	33.2	36.3	28.3	27.1	23.5	29.3	22.7	24.0	34.2	18.9
	平11	37.5	13.5	14.8	34.4	35.2	32.1	31.2	26.5	25.9	28.9	22.8	31.3	26.7
習いごとなどを十分に受けることができるくらし	平21	30.9	14.1	18.0	26.1	16.2	17.8	29.7	15.9	21.2	20.8	20.9	14.4	18.3
	平16	28.6	16.1	23.3	29.3	26.3	24.0	24.9	18.9	28.6	22.4	21.7	25.0	19.8
	平11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
家に乗用車があるくらし	平21	71.6	72.7	84.2	81.2	74.8	77.6	65.8	79.7	79.6	70.4	77.6	80.5	77.4
	平16	70.2	79.8	87.0	84.5	82.9	80.5	66.3	74.2	83.3	76.1	86.0	80.8	78.3
	平11	73.9	81.1	86.2	86.3	76.2	65.8	55.9	73.5	82.9	71.7	83.3	77.8	66.7
常時インターネットで情報が入手できるくらし	平21	48.8	52.0	52.8	46.9	35.0	22.6	10.4	22.5	42.4	46.2	36.5	29.7	34.8
	平16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	平11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
高級品、美術品などのあるくらし	平21	4.3	2.1	3.3	3.2	0.5	2.4	4.0	4.3	2.6	2.2	1.9	2.5	0.9
	平16	5.3	1.8	2.3	3.5	4.5	3.8	2.8	3.0	3.8	3.9	1.2	5.8	3.8
	平11	8.0	5.5	3.4	4.5	8.2	9.5	6.5	5.9	7.0	6.2	3.1	4.9	6.7
持家に住めるくらし	平21	33.3	25.5	29.9	48.2	56.8	66.3	67.8	48.6	48.3	36.8	54.4	56.8	57.4
	平16	39.6	29.4	32.1	54.4	62.1	77.0	71.3	46.2	52.6	47.2	55.8	55.0	41.5
	平11	36.4	29.1	31.6	55.9	63.9	70.6	63.4	57.1	49.6	36.9	57.0	43.8	36.5
家族一人一人に一部屋はあるくらし	平21	27.2	31.8	23.3	34.0	44.5	47.5	52.5	36.2	39.2	27.4	41.8	41.5	47.0
	平16	41.6	31.3	24.6	44.2	51.1	54.2	60.2	46.2	42.1	38.8	45.3	44.2	34.0
	平11	37.5	36.7	26.5	36.9	45.3	55.9	43.0	43.9	41.3	30.5	40.8	32.1	34.7
敷地が広くて環境がよい住宅地に住めるくらし	平21	30.9	22.2	24.8	29.5	33.4	39.2	48.5	32.6	32.5	17.6	43.3	39.8	36.5
	平16	34.3	23.4	26.8	32.3	33.0	38.2	45.9	39.4	34.2	19.1	36.0	42.5	37.7
	平11	25.0	25.5	25.1	29.4	27.3	42.3	41.9	37.0	29.8	16.6	39.5	28.8	29.3
通勤や買物などに便利なところに住めるくらし	平21	57.4	58.9	64.1	66.0	59.1	56.8	61.9	47.8	63.3	68.9	53.2	55.9	65.2
	平16	49.4	58.9	60.9	69.6	63.5	62.2	64.6	65.9	62.1	67.5	50.4	77.5	60.4
	平11	48.9	55.3	62.7	60.2	56.0	61.3	53.8	54.5	60.4	59.7	52.7	60.5	64.9
犯罪等に巻き込まれる心配がない安心なくらし	平21	58.0	45.0	55.6	56.7	54.7	53.7	65.3	54.3	53.5	49.1	64.6	53.4	60.0
	平16	45.7	46.0	41.6	51.2	53.0	53.4	49.7	53.8	47.3	44.5	51.6	59.2	54.7
	平11	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
連続した休みがとれるくらし	平21	25.9	27.0	37.0	34.5	29.1	22.8	25.7	21.7	29.9	29.9	34.2	33.1	26.1
	平16	29.4	27.8	31.8	35.2	29.3	26.8	20.4	32.6	28.3	30.7	30.2	33.3	27.4
	平11	29.5	26.5	34.3	28.8	26.9	28.4	18.3	29.3	29.6	28.0	26.3	29.6	33.3
家族旅行ができるくらし	平21	14.8	14.1	22.0	18.8	15.7	18.2	17.8	9.4	18.4	21.4	18.3	14.4	13.0
	平16	15.9	11.7	16.1	23.3	17.5	17.6	17.7	12.1	18.3	17.0	15.5	23.3	24.5
	平11	11.4	13.1	20.1	17.6	17.6	19.4	10.8	13.8	17.8	17.5	15.3	18.5	18.7
海外旅行ができるくらし	平21	12.3	7.2	8.4	5.8	5.6	9.5	9.9	2.9	8.5	9.4	7.2	5.1	6.1
	平16	8.2	5.5	6.4	7.4	7.5	10.7	5.0	4.5	7.9	9.3	5.0	8.3	5.7
	平11	3.4	12.7	6.3	7.3	9.4	11.3	7.5	3.7	10.0	8.6	6.8	8.6	14.7
少しお金のかかるスポーツができるくらし	平21	13.0	6.9	8.9	11.6	10.9	13.1	13.9	8.7	11.4	10.7	12.9	7.6	6.1
	平16	11.4	9.7	10.6	9.7	11.4	12.1	7.2	7.6	11.2	10.1	10.5	13.3	8.5
	平11	13.6	13.9	14.8	20.4	19.6	13.5	4.3	16.9	16.2	17.2	12.6	16.3	13.3

(2) 希望の状況（問8）

続いて、「希望しているがかなえられていない」とする比率、『希望の状況』についてみる。

図1-2-4で県全体についてみると、「希望しているがかなえられていない」とする比率、『希望の状況』は「老後に安心してくらせるだけの貯えのある暮らし」(75.7%)が最も高く、以下、「ある程度お金が貯められるよう暮らし」(68.1%)、「家族旅行ができる暮らし」(57.6%)、「海外旅行ができる暮らし」(54.3%)、「老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし」(52.7%)で5割以上の希望となっており、貯蓄、旅行、老後の仕事に対する希望が高い。

図1-2-4 生活状態の希望の状況

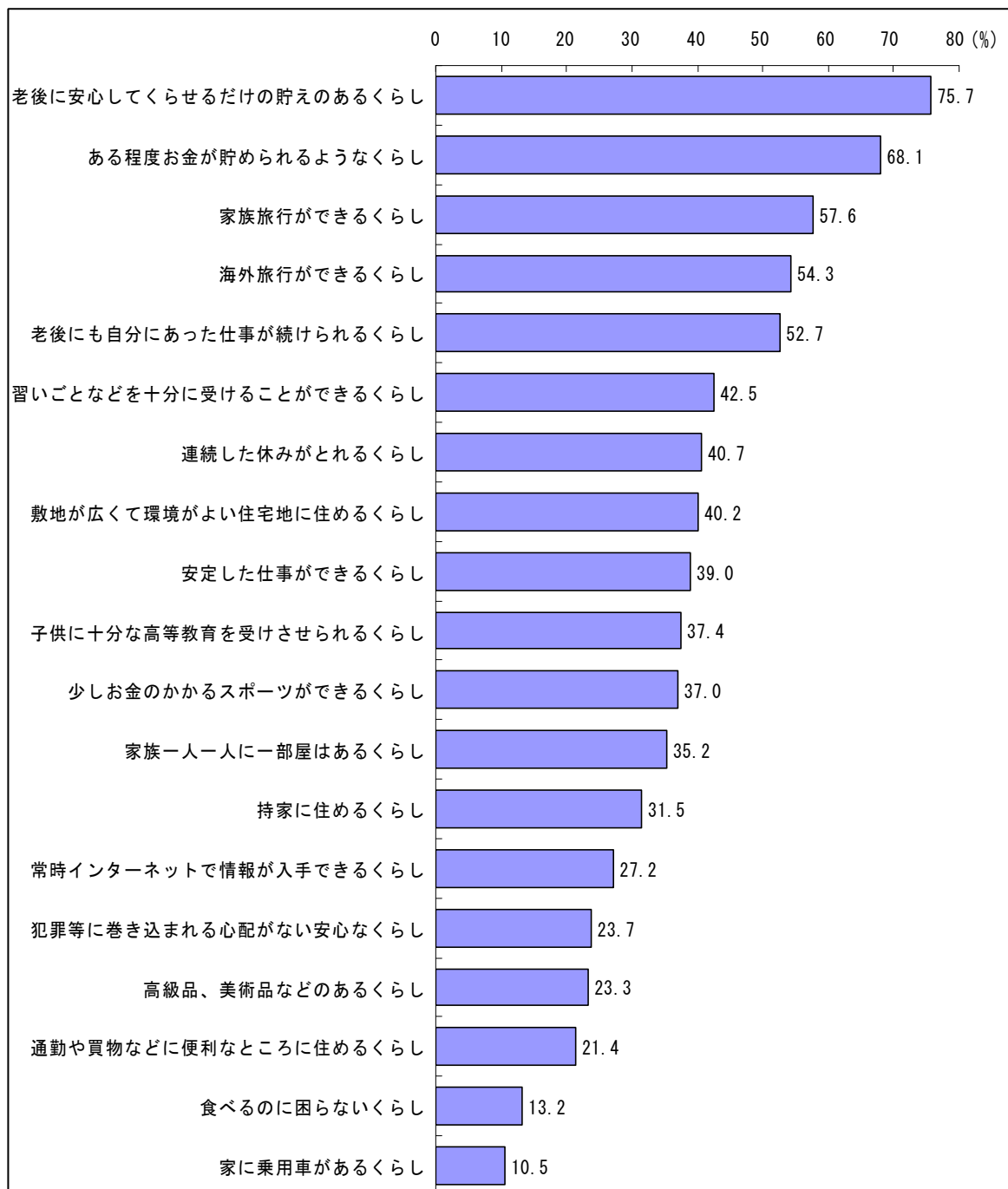


図1-2-5と表1-2-2で、属性別にみると、以下のとおりである。

性別でみると、男女の希望の平均はほとんど差がみられない。男女間の希望の差の大きいもののうち、男性の希望の高い項目は「高級品、美術品などのある暮らし」(男性26.0%、女性21.1%)で4.9ポイント女性を上回っている。逆に女性の希望の高い項目は「老後に安心してらせるだけの貯えのある暮らし」(男性74.0%、女性77.1%)、「家族旅行ができる暮らし」(男性55.7%、女性59.3%)、「海外旅行ができる暮らし」(男性52.6%、女性55.7%)、「老後にも自分にあつた仕事が続けられる暮らし」(男性50.6%、女性54.5%)でそれぞれ3.1~3.9ポイント男性を上回っている。

職業別でみると、希望の平均は運輸・通信職、主婦・主夫(パートタイム従業者)、販売職、現業職で高く、学生、管理職、主婦・主夫(無職)、無職で低くなっている。運輸・通信職で「家族旅行ができる暮らし」(76.1%)、「海外旅行ができる暮らし」(72.8%)、「ゴルフなどの少しお金のかかるスポーツができる暮らし」(59.8%)、「家族一人一人に一部屋はある暮らし」(54.3%)、「敷地が広くて、環境がよい住宅地に住める暮らし」(51.1%)、主婦・主夫(パートタイム従業者)で「老後にも自分にあつた仕事が続けられる暮らし」(63.3%)、「子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし」(51.3%)、無職で「安定した仕事ができる暮らし」(53.3%)が各職業層を通して最も希望が高く、それぞれ5割以上の高い希望となっている。

年齢別でみると、希望の平均は20~50歳代で40%強と高く、60~69歳(34.5%)で3割台、15~19歳(27.3%)、70歳以上(26.4%)で2割台と両極の年齢層で低くなっている。この傾向は「老後に安心してらせるだけの貯えのある暮らし」「家族旅行ができる暮らし」「海外旅行ができる暮らし」「老後にも自分にあつた仕事が続けられる暮らし」「連続した休みがとれる暮らし」「敷地が広くて、環境がよい住宅地に住める暮らし」「子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし」「ゴルフなどの少しお金のかかるスポーツができる暮らし」「持家に住める暮らし」「高級品、美術品などのある暮らし」でも同様に、20~50歳代の希望が19歳以下、60歳代以上に比べて高くなっている。

地域別でみると、希望の平均は北部、那覇市、中部が40%前後で、南部、宮古、八重山よりやや高い。項目別にみると、北部で「老後に安心してらせるだけの貯えのある暮らし」(82.6%)、「ある程度お金が貯められるようなくらし」(74.6%)、「ゴルフなどの少しお金のかかるスポーツができる暮らし」(44.2%)、「常時インターネットで情報が入手できる暮らし」(39.1%)が他の地域より高いのをはじめ、19項目中12項目について、5地域中最も高くなっている。また、那覇市で「敷地が広くて、環境がよい住宅地に住める暮らし」(50.9%)が他の地域より高くなっている。

図 1 - 2 - 5 生活状態の希望の平均

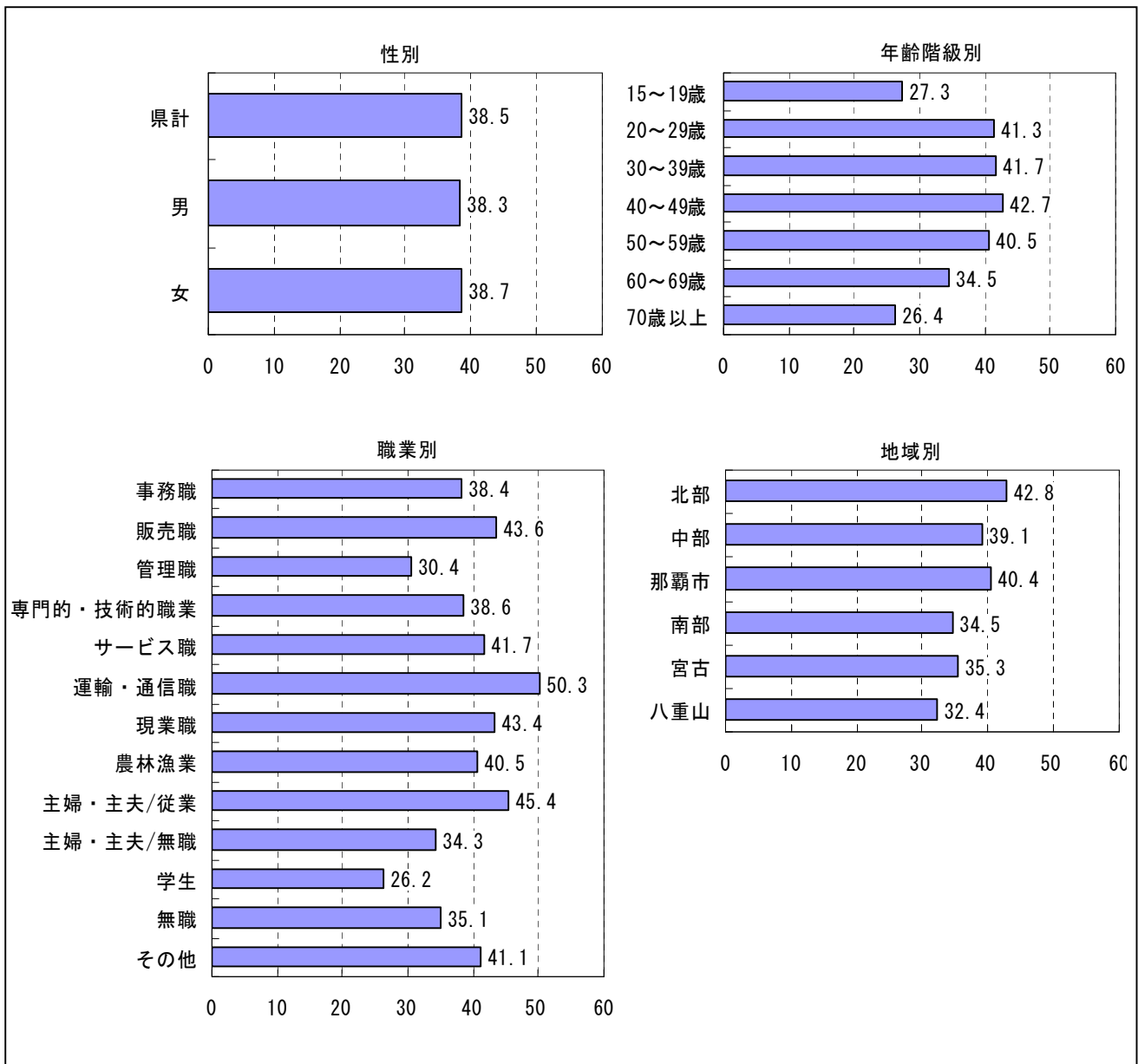


図 1 - 2 - 6 は各項目について県計の達成の状況（達成度）を縦軸に、希望の割合（希望度）を横軸にプロットしたグラフである。グラフの上に行くほど達成度が高く、グラフの右に行くほど希望度が高い。また、対角線の上方は達成度が希望度を上回っていることを意味し、逆に対角線の下方は希望度が達成度を上回っており、希望しながら達成されていない人の比率が高いことを意味している。これによると、希望度は高いが、達成度が低い傾向が強い項目として「老後に安心してらせるだけの貯えのある暮らし」「ある程度お金が貯められるようなくらし」「家族旅行ができるくらし」「海外旅行ができるくらし」「老後にも自分にあった仕事が続けられるくらし」があげられる。このほか、希望度が達成度を上回っている項目として「敷地が広くて、環境がよい住宅地に住めるくらし」「連続した休みがとれるくらし」「自分や子供が、習いごとやけいごとなどを十分に受けることがで

きるくらし」「ゴルフなどの少しお金のかかるスポーツができるくらし」「子供に十分な高等教育を受けさせられるくらし」があげられる。「高級品、美術品などのあるくらし」でも希望度が達成度を上回っており、希望しながら達成されていない人の比率が高いが、希望度の比率は低く、他の項目とは傾向が異なる。一方、達成度が高く、希望度が低い項目として「家に乗用車があるくらし」「食べるのに困らないくらし」「通勤や通学、買物などに便利なところに住めるくらし」「犯罪等に巻き込まれる心配がない安心なくらし」があげられる。

図 1-2-6 達成の状況と希望の相関

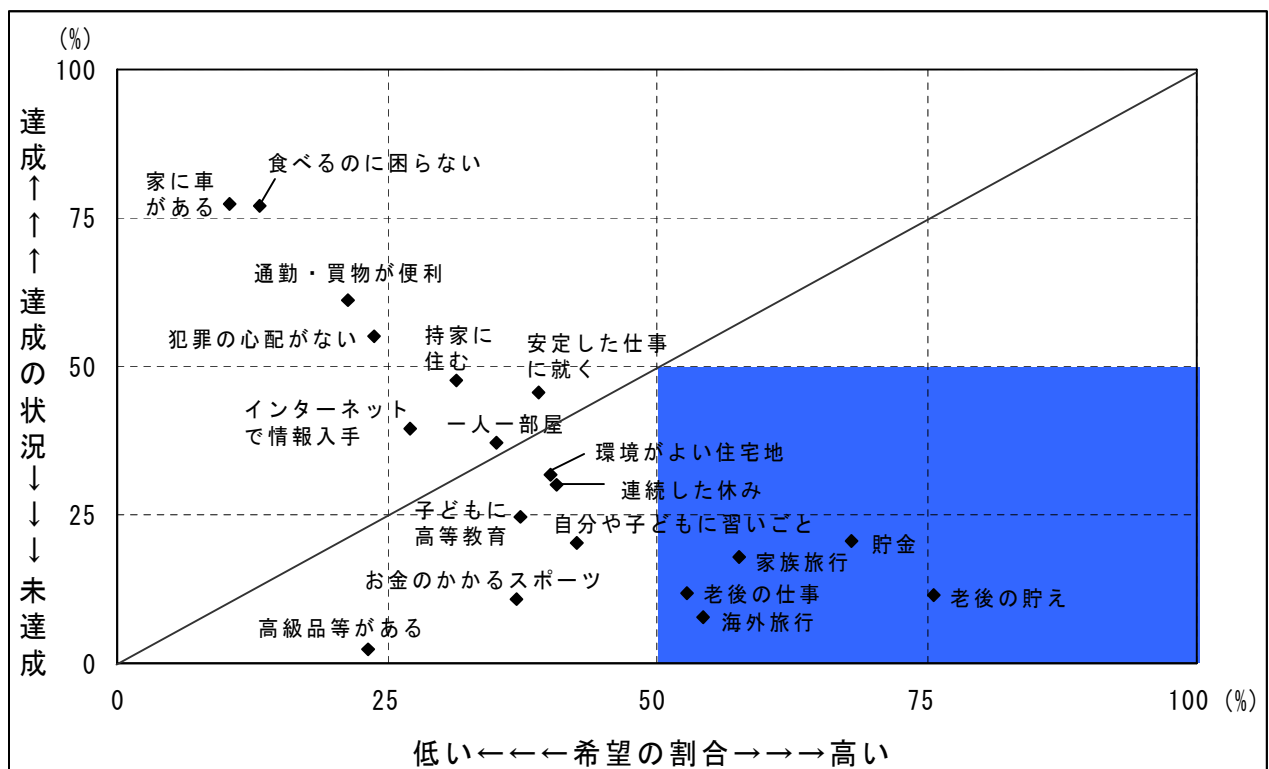


表1-2-2 達成と希望でみる生活の状態

(%)

		県計	【性別】		【職業】												
			男	女	事務職	販売職	管理職	専門的・技術的職業	サービス職	運輸・通信職	現業職	農林漁業	主婦・主夫/従業	主婦・主夫/無職	学生	無職	その他
食べるのに困らない暮らし	達成	77.0	74.7	79.0	86.5	78.4	80.3	88.5	82.3	67.4	65.7	64.5	73.8	82.2	78.1	65.7	75.9
	希望	13.2	12.8	13.5	8.6	13.5	6.3	6.9	11.9	21.7	15.9	20.4	16.5	11.9	10.0	20.2	8.4
安定した仕事ができる暮らし	達成	45.7	46.0	45.4	71.4	55.1	71.1	72.2	43.2	51.1	36.7	44.1	46.1	31.8	31.3	19.0	41.0
	希望	39.0	37.8	39.9	24.6	36.2	15.5	23.3	49.4	43.5	50.7	49.5	44.9	39.3	27.5	53.3	44.6
ある程度お金が貯められるよう暮らし	達成	20.7	20.1	21.2	24.9	13.5	29.6	30.6	18.5	16.3	13.0	18.3	16.9	23.3	33.8	16.0	6.0
	希望	68.1	68.2	68.0	68.0	76.2	59.2	64.2	70.4	79.3	76.8	69.9	78.7	61.5	34.4	70.0	86.7
老後に安心してくらすだけの貯えのある暮らし	達成	11.4	12.2	10.7	8.6	5.9	19.7	7.3	10.7	8.7	5.3	12.9	9.7	14.9	18.8	16.0	7.2
	希望	75.7	74.0	77.1	82.8	81.6	66.2	83.3	79.8	82.6	82.1	73.1	82.8	70.8	38.8	70.9	84.3
老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし	達成	11.7	12.5	11.0	10.5	14.6	14.8	14.6	19.3	12.0	9.7	25.8	9.0	5.8	15.6	7.5	9.6
	希望	52.7	50.6	54.5	58.8	60.5	46.5	51.4	51.4	62.0	52.2	48.4	63.3	49.1	29.4	52.6	55.4
子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし	達成	24.5	24.2	24.8	24.6	17.8	38.0	27.8	23.5	12.0	17.9	16.1	23.6	31.0	31.9	21.6	24.1
	希望	37.4	37.4	37.4	40.9	42.2	28.2	34.7	39.9	44.6	42.5	36.6	51.3	31.6	19.4	34.3	44.6
習いごとなどを十分に受けることができる暮らし	達成	20.2	20.7	19.7	17.8	11.9	33.8	29.5	14.4	15.2	9.7	11.8	19.1	24.1	32.5	19.2	18.1
	希望	42.5	41.9	43.0	46.2	53.0	36.6	35.4	43.2	58.7	45.9	37.6	55.8	39.8	26.9	37.3	42.2
家に乗用車がある暮らし	達成	77.2	76.9	77.4	85.8	80.0	85.9	88.2	76.5	75.0	71.5	75.3	80.9	82.5	68.8	60.3	74.7
	希望	10.5	9.8	11.1	8.9	9.7	5.6	5.9	11.5	12.0	13.0	12.9	11.6	7.2	15.6	14.1	13.3
常時インターネットで情報が入手できる暮らし	達成	39.5	42.1	37.2	52.0	37.8	66.2	64.2	39.1	21.7	25.6	19.4	29.6	37.9	55.6	22.1	41.0
	希望	27.2	28.4	26.1	29.5	28.6	16.2	22.2	30.0	48.9	31.9	36.6	33.3	18.3	21.3	27.0	25.3
高級品、美術品などのある暮らし	達成	2.5	3.2	1.9	0.0	2.2	5.6	2.1	2.9	2.2	2.9	0.0	3.0	1.6	4.4	3.8	2.4
	希望	23.3	26.0	21.1	22.2	32.4	19.0	28.1	19.3	34.8	28.0	28.0	21.3	19.4	18.8	20.2	27.7
持家に住める暮らし	達成	47.6	49.0	46.4	46.2	47.6	62.0	46.2	40.3	38.0	44.0	63.4	44.2	57.8	36.3	46.9	50.6
	希望	31.5	32.1	31.0	35.1	36.2	25.4	34.7	37.0	46.7	30.9	21.5	39.7	25.7	20.0	27.0	30.1
家族一人一人に一部屋はある暮らし	達成	37.2	37.6	36.8	40.0	38.9	49.3	34.7	33.7	20.7	34.8	44.1	30.0	40.1	31.3	39.9	44.6
	希望	35.2	34.5	35.8	30.2	33.0	26.8	35.1	41.2	54.3	39.1	26.9	49.1	33.7	35.0	28.4	31.3
敷地が広くて環境がよい住宅地に住める暮らし	達成	31.7	30.3	32.8	25.5	33.0	35.9	30.9	27.6	19.6	23.7	49.5	26.6	42.2	33.1	33.1	34.9
	希望	40.2	41.7	39.0	43.7	36.8	33.8	41.7	46.1	51.1	44.4	26.9	47.9	36.6	30.6	35.7	48.2
通勤や買物などに便利なところに住める暮らし	達成	61.0	56.4	64.9	72.3	58.4	67.6	61.8	69.1	53.3	45.9	46.2	61.8	69.5	56.3	53.5	54.2
	希望	21.4	20.9	21.8	15.1	23.8	17.6	25.7	15.6	25.0	27.5	26.9	25.5	19.1	16.3	21.8	28.9
犯罪等に巻き込まれる心配がない安心な暮らし	達成	54.9	53.8	55.8	64.9	51.4	47.9	52.8	54.7	50.0	44.9	57.0	61.0	55.7	59.4	52.8	51.8
	希望	23.7	23.4	24.0	19.1	22.7	26.8	28.5	30.0	22.8	30.9	23.7	19.1	21.2	16.9	24.6	18.1
連続した休みがとれる暮らし	達成	29.9	28.0	31.4	47.4	17.3	47.9	36.5	25.9	14.1	25.1	17.2	34.1	31.8	27.5	18.5	32.5
	希望	40.7	41.4	40.1	41.5	57.8	35.2	54.2	55.1	58.7	42.5	52.7	46.8	27.1	30.0	22.5	37.3
家族旅行ができる暮らし	達成	17.8	17.2	18.3	23.7	12.4	36.6	25.0	11.1	4.3	9.2	11.8	17.2	24.9	13.8	13.1	15.7
	希望	57.6	55.7	59.3	62.2	67.0	42.3	60.4	64.6	76.1	66.2	62.4	67.8	53.3	46.3	41.3	59.0
海外旅行ができる暮らし	達成	7.7	8.3	7.2	8.3	2.7	24.6	11.5	5.8	2.2	3.9	1.1	6.7	6.6	12.5	7.7	2.4
	希望	54.3	52.6	55.7	58.8	68.1	39.4	63.2	56.8	72.8	59.4	61.3	62.5	53.3	37.5	36.2	53.0
少しお金のかかるスポーツができる暮らし	達成	10.9	14.0	8.2	11.7	7.6	35.2	16.0	6.6	4.3	7.7	5.4	6.4	12.2	14.4	8.5	6.0
	希望	37.0	38.1	36.0	32.6	49.2	31.0	34.0	39.5	59.8	44.4	54.8	44.9	32.1	23.8	28.6	43.4

表1-2-2 達成と希望でみる生活の状態(続き)

(%)

		【年 齢】							【地 域】					
		15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
食べるのに困らない暮らし	達成	80.9	80.2	84.3	76.9	72.6	72.9	73.3	74.6	78.0	78.3	76.8	72.0	72.2
	希望	9.9	12.3	9.7	13.1	14.4	15.6	17.3	17.4	12.6	12.9	12.2	16.9	12.2
安定した仕事ができる暮らし	達成	34.0	45.0	54.3	53.7	49.0	34.9	27.7	44.2	44.4	46.5	47.1	45.8	51.3
	希望	30.2	44.7	35.9	37.3	41.6	40.0	38.6	42.0	39.6	40.3	34.6	40.7	35.7
ある程度お金が貯められるようなくらし	達成	33.3	19.5	23.3	19.1	17.0	19.6	23.8	18.1	22.0	19.2	21.7	22.0	15.7
	希望	37.7	70.3	67.8	73.4	74.5	66.7	59.4	74.6	67.7	69.5	64.6	63.6	68.7
老後に安心してくらせるだけの貯えのある暮らし	達成	17.3	9.3	7.5	6.9	8.5	18.0	25.7	8.0	11.3	8.8	16.3	13.6	11.3
	希望	39.5	75.7	81.2	84.1	81.4	71.7	59.9	82.6	77.0	76.7	69.2	73.7	71.3
老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし	達成	16.0	8.1	9.8	12.4	9.3	16.8	11.9	12.3	11.1	9.4	11.8	22.0	17.4
	希望	31.5	55.9	56.8	58.7	59.9	43.8	37.1	55.1	53.5	54.1	51.0	47.5	44.3
子供に十分な高等教育を受けさせられる暮らし	達成	31.5	14.1	18.0	30.8	26.0	25.5	30.7	20.3	24.8	24.2	27.0	25.4	21.7
	希望	20.4	36.0	42.1	47.7	37.2	31.9	27.7	39.1	37.4	39.3	34.6	38.1	35.7
習いごとなどを十分に受けることができる暮らし	達成	30.9	14.1	18.0	26.1	16.2	17.8	29.7	15.9	21.2	20.8	20.9	14.4	18.3
	希望	26.5	37.2	46.4	54.4	42.2	40.0	28.7	42.0	44.4	43.4	37.3	44.9	40.0
家に乗用車がある暮らし	達成	71.6	72.7	84.2	81.2	74.8	77.6	65.8	79.7	79.6	70.4	77.6	80.5	77.4
	希望	13.0	15.0	9.1	10.7	9.6	9.3	10.4	8.7	9.5	14.8	9.5	7.6	10.4
常時インターネットで情報が入手できる暮らし	達成	48.8	52.0	52.8	46.9	35.0	22.6	10.4	22.5	42.4	46.2	36.5	29.7	34.8
	希望	23.5	21.3	29.1	29.6	30.0	27.7	17.8	39.1	25.8	25.2	28.5	20.3	25.2
高級品、美術品などのある暮らし	達成	4.3	2.1	3.3	3.2	0.5	2.4	4.0	4.3	2.6	2.2	1.9	2.5	0.9
	希望	18.5	22.8	26.8	24.6	27.0	19.8	12.9	29.0	24.8	22.0	22.8	12.7	14.8
持家に住める暮らし	達成	33.3	25.5	29.9	48.2	56.8	66.3	67.8	48.6	48.3	36.8	54.4	56.8	57.4
	希望	24.7	42.0	49.2	33.0	27.6	18.8	10.9	35.5	32.1	39.3	22.8	23.7	20.0
家族一人一人に一部屋はある暮らし	達成	27.2	31.8	23.3	34.0	44.5	47.5	52.5	36.2	39.2	27.4	41.8	41.5	47.0
	希望	38.3	35.7	44.4	40.0	32.7	27.7	19.8	39.9	36.2	40.9	28.5	28.8	18.3
敷地が広くて環境がよい住宅地に住める暮らし	達成	30.9	22.2	24.8	29.5	33.4	39.2	48.5	32.6	32.5	17.6	43.3	39.8	36.5
	希望	32.7	46.8	48.3	45.0	40.0	31.3	23.8	42.8	41.6	50.9	28.1	32.2	24.3
通勤や買物などに便利なお店に住める暮らし	達成	57.4	58.9	64.1	66.0	59.1	56.8	61.9	47.8	63.3	68.9	53.2	55.9	65.2
	希望	19.1	25.8	18.4	20.8	22.0	23.4	18.8	27.5	21.4	19.5	21.7	23.7	13.9
犯罪等に巻き込まれる心配がない安心な暮らし	達成	58.0	45.0	55.6	56.7	54.7	53.7	65.3	54.3	53.5	49.1	64.6	53.4	60.0
	希望	15.4	30.6	21.7	26.1	23.8	23.2	19.3	26.8	24.6	28.6	14.8	26.3	17.4
連続した休みがとれる暮らし	達成	25.9	27.0	37.0	34.5	29.1	22.8	25.7	21.7	29.9	29.9	34.2	33.1	26.1
	希望	28.4	47.7	45.2	47.5	44.9	32.9	15.3	45.7	42.9	41.8	34.6	37.3	31.3
家族旅行ができる暮らし	達成	14.8	14.1	22.0	18.8	15.7	18.2	17.8	9.4	18.4	21.4	18.3	14.4	13.0
	希望	45.7	66.1	60.5	64.0	62.4	50.1	32.7	63.0	57.9	58.5	54.4	57.6	52.2
海外旅行ができる暮らし	達成	12.3	7.2	8.4	5.8	5.6	9.5	9.9	2.9	8.5	9.4	7.2	5.1	6.1
	希望	38.3	59.5	59.0	61.2	58.1	48.5	29.7	58.7	56.4	53.1	52.1	44.1	47.0
少しお金のかかるスポーツができる暮らし	達成	13.0	6.9	8.9	11.6	10.9	13.1	13.9	8.7	11.4	10.7	12.9	7.6	6.1
	希望	25.3	40.2	40.4	39.2	41.1	33.7	21.3	44.2	37.8	36.5	34.2	31.4	32.2

第2章 重要度、充足度とニーズ得点



第2章 重要度、充足度とニーズ得点

本章においては、県民生活の種々の側面に関する66項目の調査結果をもとに、県民生活の10領域に関する評価を行ったものである。調査のねらいは、県民生活の各分野におけるそれぞれの項目について重要と考える程度、及び満たされていると考える程度によって県民生活の重要度と充足度を把握し、さらに、この重要度と充足度が関連しあっていることに着目してニーズを測定するものである。

なお、今回調査では下記のとおり設問の追加等を行っているので、前回調査結果と単純に比較できない場合があることを注意する必要がある。

問1及び問2設問の主な変更一覧

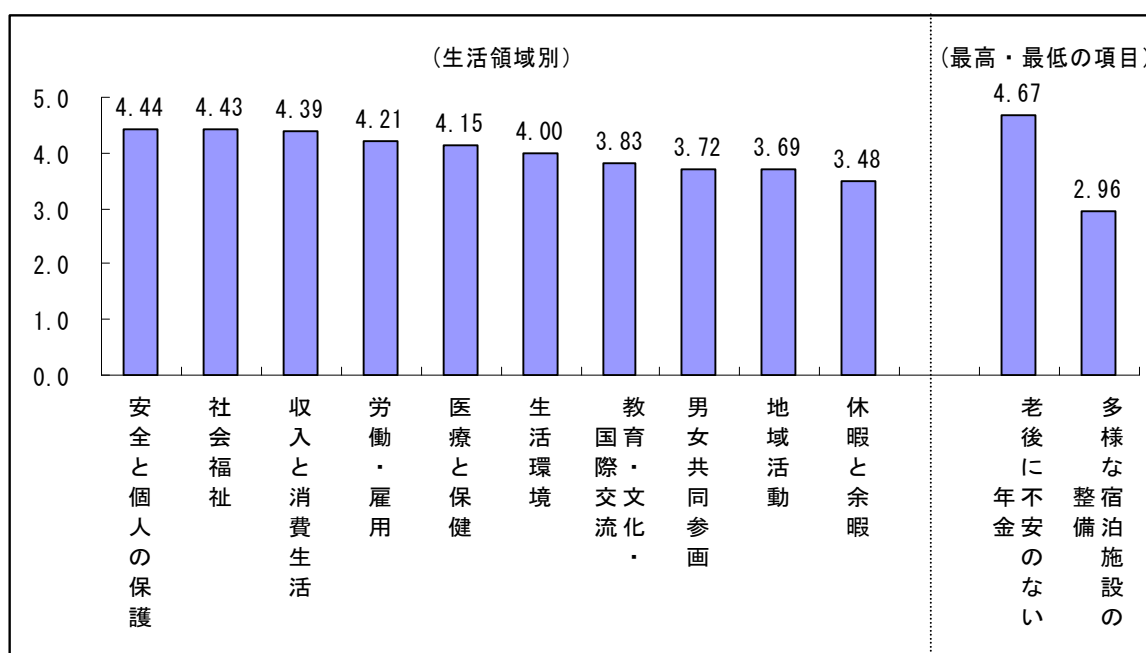
問No.	設 問 内 容	変 更 説 明
問 12	青少年の非行や犯罪が少なくなること	前回調査では「少年の非行や犯罪が少なくなること」
問 38	若いうちに結婚して家庭を持つこと	新規追加
問 57	離島と沖縄本島間などの移動が気軽(安価等)に行き来できること	新規追加
問 66	県の施策や予算等に関する情報が住民に対して分かりやすく広報されていること	新規追加

1 生活の各側面に対する重要度（問1）

生活の各側面に対する重要度の調査は、生活に関わる個別具体的な66項目について、県民の暮らしの中で、どの程度重要と考えているかを「非常に重要である」「かなり重要である」「どちらともいえない」「それほど重要でない」「全く重要でない」「わからない」の6分類で回答してもらった。集計にあたっては5段階評価方式により、「非常に重要である」＝5点、「かなり重要である」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「それほど重要でない」＝2点、「全く重要でない」＝1点、の得点（ウェイト）を与えて、各項目ごとの平均点を求め、重要度に関する県民の評価の指標（重要度得点）とした。さらに、これらの項目を10の領域に分類し、各領域別の平均得点もあわせて算出した。

領域別にみた重要度の得点は、図2-1-1に示すように、得点の最も高い領域は「安全と個人の保護」、最も低い領域は「休暇と余暇」である。また、具体的な項目の中で得点の最も高い項目は「収入と消費生活」領域の「(47) 老後に不安のない年金」(4.67)で、最も低い項目は「休暇と余暇」領域の「(56) 多様な宿泊施設の整備」(2.96)である。

図2-1-1 重要度得点



具体的に項目別の得点をみると、図2-1-2、表2-1-1に示すように、得点の最も高い項目は「(47)老後に不安のない年金」(4.67)で、以下、「(44)犯罪の防止」(4.66)、「(59)要介護者等に対する施設・支援システムの整備」(4.56)、「(60)独居老人や母子・父子家庭の安心」(4.52)、「(35)環境汚染の防止」(4.51)と続いている。

一方、得点の最も低い項目は「(56)多様な宿泊施設の整備」(2.96)で、以下、「(38)若いうちに結婚して家庭を持つこと」(3.07)、「(55)趣味の会への参加の機会」(3.18)、「(62)地域行事への参加」(3.34)、「(63)集会場や公民館の利用機会」(3.37)と続いている。

図 2 - 1 - 2 重要度の平均得点

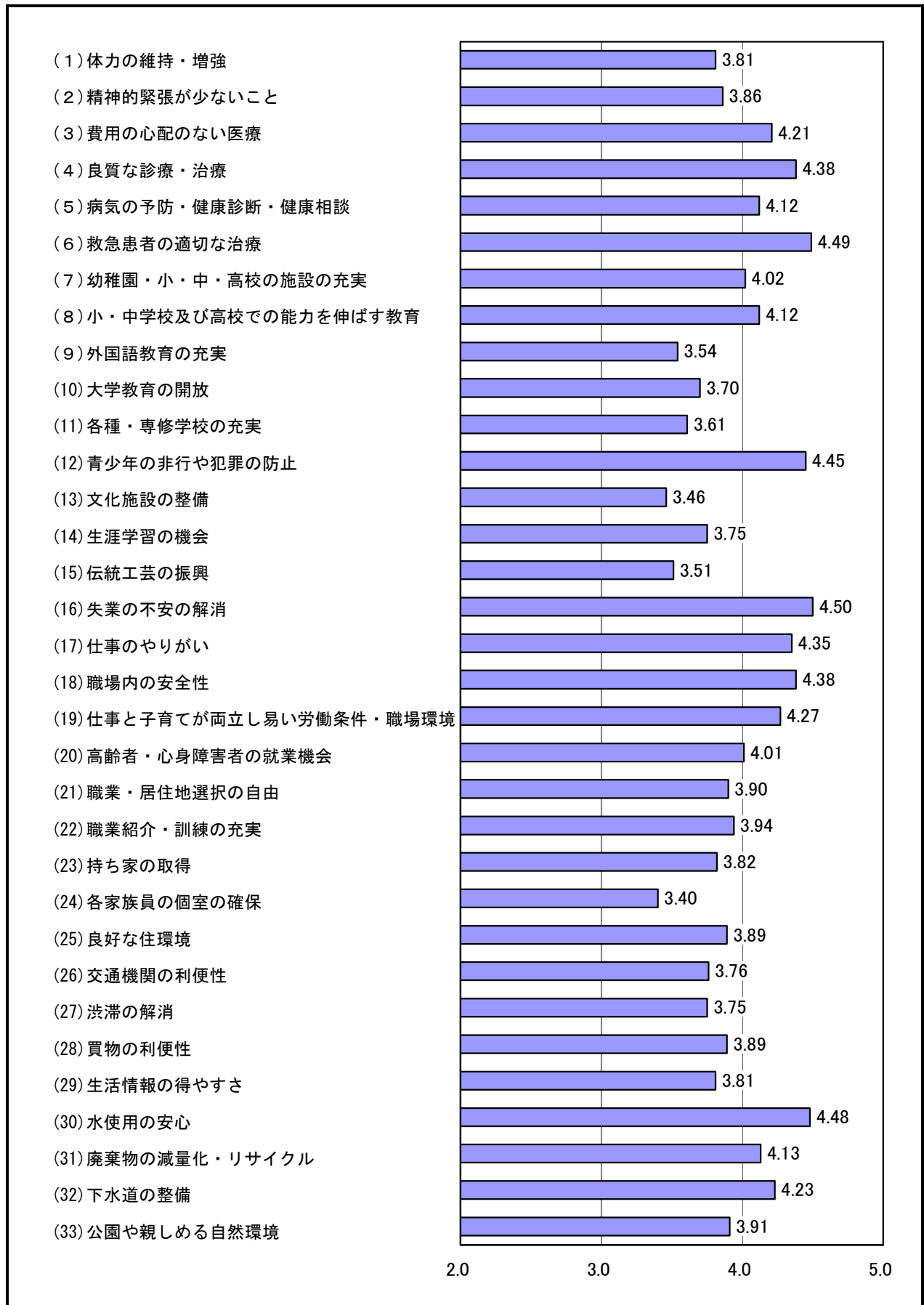


図 2 - 1 - 2 重要度の平均得点(続き)

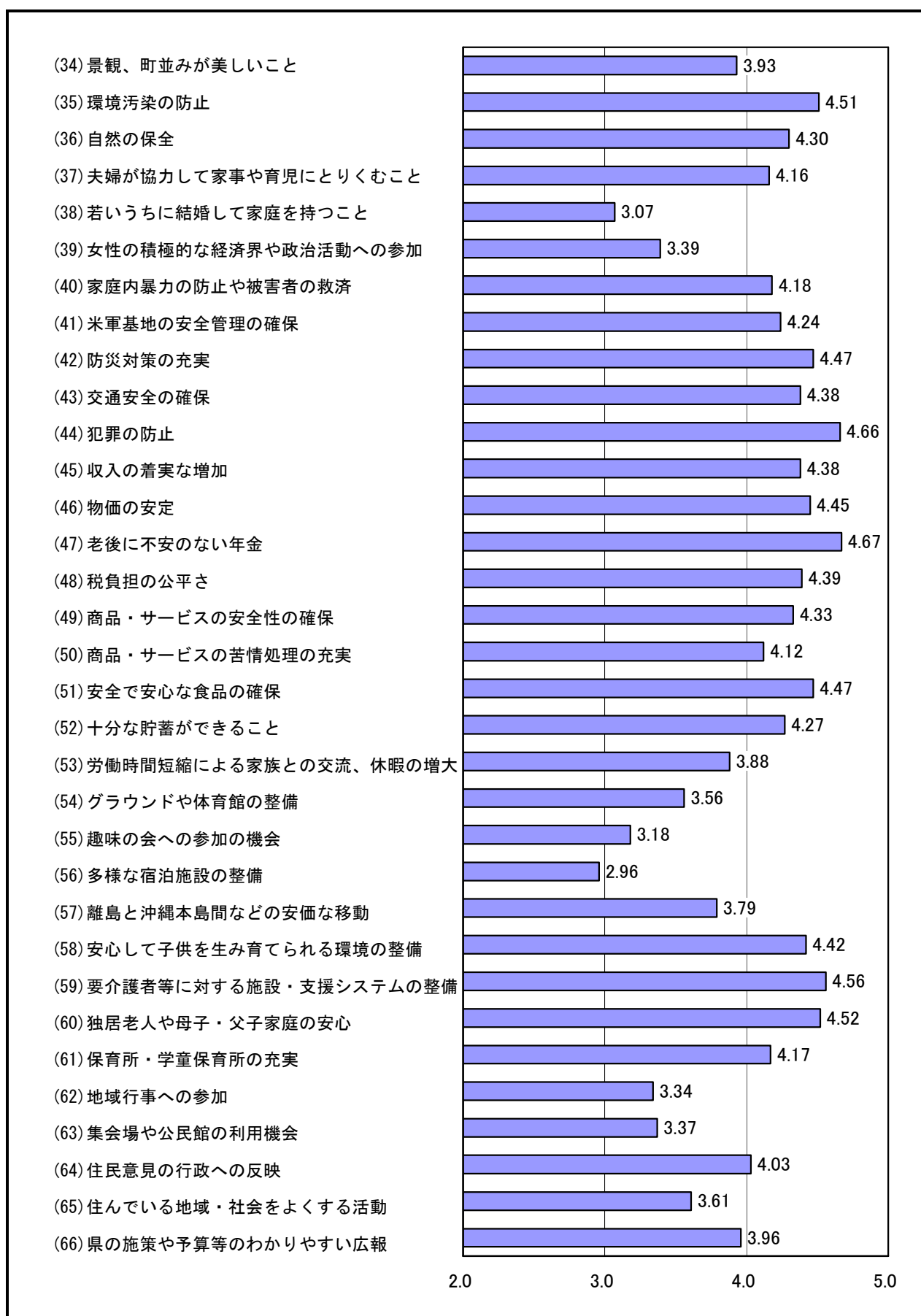


表 2 - 1 - 1 重要度の平均得点

領域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	(1) 体力の維持・増強	3.81	0.92	24.1	4.15
	(2) 精神的緊張が少ないこと	3.86	0.98	25.5	
	(3) 費用の心配のない医療	4.21	0.89	21.2	
	(4) 良質な診療・治療	4.38	0.78	17.8	
	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	4.12	0.88	21.3	
	(6) 救急患者の適切な治療	4.49	0.72	16.1	
教育・文化・国際協力	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	4.02	1.02	25.3	3.83
	(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	4.12	0.99	23.9	
	(9) 外国語教育の充実	3.54	1.00	28.2	
	(10) 大学教育の開放	3.70	1.00	26.9	
	(11) 各種・専修学校の充実	3.61	1.03	28.6	
	(12) 青少年の非行や犯罪の防止	4.45	0.75	16.9	
	(13) 文化施設の整備	3.46	1.01	29.3	
	(14) 生涯学習の機会	3.75	0.92	24.5	
労働・雇用	(15) 伝統工芸の振興	3.51	0.96	27.2	
	(16) 失業の不安の解消	4.50	0.78	17.3	4.21
	(17) 仕事のやりがい	4.35	0.83	19.0	
	(18) 職場内の安全性	4.38	0.78	17.8	
	(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	4.27	0.87	20.3	
	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	4.01	0.85	21.1	
	(21) 職業・居住地選択の自由	3.90	0.96	24.6	
生活環境	(22) 職業紹介・訓練の充実	3.94	0.89	22.6	
	(23) 持ち家の取得	3.82	1.05	27.6	4.00
	(24) 各家族員の個室の確保	3.40	1.09	32.1	
	(25) 良好な住環境	3.89	0.93	24.0	
	(26) 交通機関の利便性	3.76	0.97	25.9	
	(27) 渋滞の解消	3.75	0.96	25.5	
	(28) 買物の利便性	3.89	0.90	23.2	
	(29) 生活情報の得やすさ	3.81	0.88	23.2	
	(30) 水使用の安心	4.48	0.72	16.1	
	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	4.13	0.81	19.7	
	(32) 下水道の整備	4.23	0.82	19.4	
	(33) 公園や親しめる自然環境	3.91	0.88	22.6	
(34) 景観、町並みが美しいこと	3.93	0.89	22.6		
(35) 環境汚染の防止	4.51	0.70	15.6		
(36) 自然の保全	4.30	0.75	17.5		

表 2-1-1 重要度の平均得点(続き)

領域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
男女参 画同	(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	4.16	0.90	21.7	3.72
	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと	3.07	0.99	32.2	
	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	3.39	0.92	27.0	
	(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	4.18	0.84	20.2	
個人 安全の と保護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	4.24	0.93	22.0	4.44
	(42) 防災対策の充実	4.47	0.68	15.3	
	(43) 交通安全の確保	4.38	0.72	16.6	
	(44) 犯罪の防止	4.66	0.59	12.7	
収入と 消費生活	(45) 収入の着実な増加	4.38	0.74	16.8	4.39
	(46) 物価の安定	4.45	0.67	15.0	
	(47) 老後に不安のない年金	4.67	0.62	13.2	
	(48) 税負担の公平さ	4.39	0.79	18.0	
	(49) 商品・サービスの安全性の確保	4.33	0.75	17.2	
	(50) 商品・サービスの苦情処理の充実	4.12	0.85	20.6	
	(51) 安全で安心な食品の確保	4.47	0.68	15.2	
	(52) 十分な貯蓄ができること	4.27	0.77	18.1	
休暇と 余暇	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	3.88	0.92	23.9	3.48
	(54) グラウンドや体育館の整備	3.56	0.99	27.8	
	(55) 趣味の会への参加の機会	3.18	1.00	31.4	
	(56) 多様な宿泊施設の整備	2.96	1.01	34.2	
	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動	3.79	1.01	26.8	
社会 福祉	(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備	4.42	0.81	18.4	4.43
	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	4.56	0.65	14.3	
	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	4.52	0.67	14.9	
	(61) 保育所・学童保育所の充実	4.17	0.91	21.9	
地域 活動	(62) 地域行事への参加	3.34	0.97	29.1	3.69
	(63) 集会場や公民館の利用機会	3.37	0.99	29.3	
	(64) 住民意見の行政への反映	4.03	0.83	20.6	
	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	3.61	0.87	24.0	
	(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報	3.96	0.87	22.0	

(1) 重要度得点の高い項目と低い項目

重要度の高い項目と低い項目をそれぞれ 15 項目抜き出し、過去の結果と比較したのが表 2-1-2 と表 2-1-3 である。

表 2-1-2 で重要度の高い項目をみると、1 位は「(47) 老後に不安のない年金」、2 位は「(44) 犯罪の防止」で、以下、「(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備」、「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」、「(35) 環境汚染の防止」と続いている。1 位と 2 位は前々回調査から引き続き重要度の高い項目となっている。

前回調査と比較して重要とする評価が上がった項目は、「(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備」(前回 13 位→今回 3 位)、「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」(同 10 位→4 位)、「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」(同 21 位→13 位)などである。上昇した 3 項目については、ここ数年、社会的にも話題となることが多く、県民にとっても関心の高い項目となっている。

なお、評価が低下した項目としては前々回 21 位から前回 3 位に大きく上昇した「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」が今回 11 位に低下している。また、前回 15 位の「(17) 仕事のやりがい」は今回上位 15 位グループから後退した。

表 2-1-2 重要度の高い項目

領 域	項 目	平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点
収入と消費生活	(47) 老後に不安のない年金	2	4.51	2	4.63	1	4.67
安全と個人の保護	(44) 犯罪の防止	1	4.61	1	4.68	2	4.66
社会福祉	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	20	4.28	13	4.41	3	4.56
社会福祉	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	18	4.32	10	4.45	4	4.52
生活環境	(35) 環境汚染の防止	11	4.37	4	4.52	5	4.51
労働・雇用	(16) 失業の不安の解消	6	4.46	7	4.48	6	4.50
医療と保健	(6) 救急患者の適切な治療	6	4.46	8	4.47	7	4.49
生活環境	(30) 水使用の安心	4	4.47	5	4.51	8	4.48
安全と個人の保護	(42) 防災対策の充実	3	4.49	6	4.49	9	4.47
収入と消費生活	(51) 安全で安心な食品の確保	*	*	10	4.45	9	4.47
教育・文化・国際交流	(12) 青少年の非行や犯罪の防止	21	4.26	3	4.57	11	4.45
収入と消費生活	(46) 物価の安定	11	4.37	10	4.45	11	4.45
社会福祉	(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備	53	3.75	21	4.31	13	4.42
収入と消費生活	(48) 税負担の公平さ	11	4.37	9	4.46	14	4.39
医療と保健	(4) 良質な診療・治療	10	4.38	20	4.34	15	4.38
労働・雇用	(18) 職場内の安全性	23	4.24	18	4.35	15	4.38
安全と個人の保護	(43) 交通安全の確保	9	4.44	13	4.41	15	4.38
収入と消費生活	(45) 収入の着実な増加	11	4.37	16	4.37	15	4.38
平成16年の上位15項目の中で、15位グループから後退した項目							
領 域	項 目			前回 順位		今回 順位	
労働・雇用	(17) 仕事のやりがい			15		19	

一方、表2-1-3で重要度の低い項目を最下位から順を追ってみると、最下位は「(56) 多様な宿泊施設の整備」、次いで「(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと」、「(55) 趣味の会への参加の機会」、「(62) 地域行事への参加」、「(63) 集会場や公民館の利用機会」となっている。最下位からの5項目のうち、前回も調査した4項目は前回調査と同じである。

前回調査と比較して際立った変動は見られないが、重要とする評価が高まった項目は、「(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動」(前回8位→今回12位)、「(11) 各種・専修学校の充実」(同9位→12位)、「(10) 大学教育の開放」(同11位→14位)で、重要度の順位を上げている。逆に、重要とする評価が低下した項目は、「(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加」(同10位→6位)、「(27) 渋滞の解消」(同20位→15位)などである。

なお、前回調査で重要とする評価の低下が著しい「(23) 持ち家の取得」は、前回15位から今回は21位に後退し、重要度が上昇に転じている。

表2-1-3 重要度の低い項目

領 域	項 目	平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点
休暇と余暇	(56) 多様な宿泊施設の整備	2	3.18	1	3.11	1	2.96
男女共同参画	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと	*	*	*	*	2	3.07
休暇と余暇	(55) 趣味の会への参加の機会	3	3.34	2	3.29	3	3.18
地域活動	(62) 地域行事への参加	1	3.17	3	3.30	4	3.34
地域活動	(63) 集会場や公民館の利用機会	5	3.36	4	3.34	5	3.37
男女共同参画	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	*	*	10	3.65	6	3.39
生活環境	(24) 各家族員の個室の確保	9	3.54	5	3.42	7	3.40
教育・文化・国際交流	(13) 文化施設の整備	11	3.69	6	3.54	8	3.46
教育・文化・国際交流	(15) 伝統工芸の振興	*	*	7	3.56	9	3.51
教育・文化・国際交流	(9) 外国語教育の充実	*	*	12	3.68	10	3.54
休暇と余暇	(54) グラウンドや体育館の整備	10	3.64	13	3.72	11	3.56
教育・文化・国際交流	(11) 各種・専修学校の充実	12	3.71	9	3.64	12	3.61
地域活動	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	*	*	8	3.62	12	3.61
教育・文化・国際交流	(10) 大学教育の開放	14	3.79	11	3.67	14	3.70
教育・文化・国際交流	(14) 生涯学習の機会	15	3.80	14	3.74	15	3.75
生活環境	(27) 渋滞の解消	18	3.89	20	3.89	15	3.75
平成16年の下位15項目の中で、16位以上に上げた項目							
領 域	項 目			前回 順位		今回 順位	
生活環境	(23) 持ち家の取得			15		21	

(2) 領域別の比較

重要度の認識は、領域によってかなりの差がみられる。その認識の度合いをみるために領域ごとの重要度の平均得点と上下 15 位に入った項目の数について、前回と今回の結果を比較表示したものが表 2-1-4 である。

各領域の平均得点をみると、「安全と個人の保護」、「社会福祉」、「収入と消費生活」などが上位に位置し、「休暇と余暇」、「地域活動」、「男女共同参画」などが下位に位置している。

領域別に上下 15 位に入った項目数をみると、最も得点の高い「安全と個人の保護」領域では、4 項目中 3 項目が入っており、続く、「社会福祉」で 4 項目中 3 項目、「収入と消費生活」で 8 項目中 5 項目と過半数が入っている。一方、下位 15 位に入った項目数では最も得点の低いほうから「休暇と余暇」と「地域活動」領域でそれぞれ 5 項目中 3 項目、続く「男女共同参画」で 4 項目中 2 項目と半数、「教育・文化・国際交流」で 9 項目中 6 項目と過半数の項目が入っている。

平均点が最も高い「安全と個人の保護」領域と最も低い「休暇と余暇」領域では、得点に 0.96 ポイントの開きがあり、領域の平均得点の大小と上下 15 位に入った項目の間には相関がみられる。

今回、領域の平均得点の上位にある「安全と個人の保護」、「社会福祉」、「収入と消費生活」は、日常生活の基礎的な分野が多く、前回調査でも上位 3 位を占めているが、特に「社会福祉」と「収入と消費生活」は前回調査と比べ平均得点、上位 15 位に入った項目数ともに増加しており、関心の高まりが感じられる。一方、重要度の低い項目は、個人の価値観や関心のあり方によって差が出やすいと考えられる分野が多くなっている。

表 2-1-4 領域別にみた重要度

今回 順位	領 域	前回 順位	領域ごとの 平均得点		上位15位に入った 項目数		下位15位に入った 項目数	
			平成16年	平成21年	平成16年	平成21年	平成16年	平成21年
1	安全と個人の保護	1	4.50	4.44	3/4	3/4	0/4	0/4
2	社会福祉	3	4.31	4.43	2/4	3/4	0/4	0/4
3	収入と消費生活	2	4.40	4.39	4/8	5/8	0/8	0/8
4	労働・雇用	4	4.21	4.21	2/7	2/7	0/7	0/7
5	医療と保健	5	4.16	4.15	1/6	2/6	0/6	0/6
6	生活環境	6	4.05	4.00	2/14	2/14	2/14	2/14
7	教育・文化・国際交流	8	3.86	3.83	1/9	1/9	6/9	6/9
8	男女共同参画	7	4.05	3.72	0/3	0/4	1/3	2/4
9	地域活動	9	3.59	3.69	0/4	0/5	3/4	3/5
10	休暇と余暇	10	3.53	3.48	0/4	0/5	3/4	3/5

(注) 項目数の表記は(該当する項目数)/(領域の項目数)

(3) 地域別の比較

次に、表 2-1-5 で領域別の重要度を地域別にみると、10 領域平均の重要度得点は中部、那覇市、南部、宮古、北部、八重山の順に高くなっている。中部地域では「医療と保健」、「労働・雇用」、「男女共同参画」、「収入と消費生活」、「社会福祉」と 10 領域中半数の 5 領域で 1 位となっているほか、「教育・文化・国際交流」、「生活環境」、「安全と個人の保護」でも 2 位となっている。次いで重要度の高い那覇市では、「教育・文化・国際交流」、「生活環境」、「安全と個人の保護」の 3 領域で 1 位、「医療と保健」、「労働・雇用」の 2 領域で 2 位となっている。また、宮古では「休暇と余暇」、「地域活動」が 1 位となっている。

一方、平均の重要度が最も低い八重山では全領域で中位から下位になっている。次いで低い北部では、「地域活動」が 2 位となっているほかはいずれの領域も中位から下位になっている。

表 2-1-5 地域別・領域別の重要度得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	3	4.14	1	4.18	2	4.17	4	4.11	6	4.04	5	4.10	4.15
教育・文化・国際交流	5	3.73	2	3.85	1	3.87	4	3.82	6	3.63	3	3.84	3.83
労働・雇用	5	4.15	1	4.25	2	4.20	4	4.18	2	4.20	6	4.13	4.21
生活環境	4	3.96	2	4.02	1	4.04	5	3.95	3	3.98	6	3.85	4.00
男女共同参画	6	3.57	1	3.76	3	3.71	3	3.71	2	3.75	5	3.60	3.72
安全と個人の保護	6	4.33	2	4.47	1	4.49	3	4.41	5	4.34	4	4.36	4.44
収入と消費生活	6	4.31	1	4.44	3	4.39	5	4.34	2	4.40	4	4.35	4.39
休暇と余暇	6	3.43	4	3.46	3	3.49	2	3.53	1	3.60	5	3.44	3.48
社会福祉	5	4.35	1	4.46	3	4.42	2	4.44	4	4.39	6	4.31	4.43
地域活動	2	3.79	4	3.66	5	3.65	3	3.74	1	3.80	6	3.58	3.69
計	5	3.98	1	4.06	2	4.04	3	4.02	4	4.01	6	3.96	4.03

(注) 順位は各領域の地域間の順位（高い順）である。

次に、各地域について具体的項目の順位を示したものが表 2-1-6 である。県平均で 1 位の「(47) 老後に不安のない年金」は北部、南部、宮古、八重山で 1 位、中部、那覇市で 2 位と、いずれの地域でも 2 位以内にある。また、県平均で 2 位の「(44) 犯罪の防止」は中部、那覇市、八重山で 1 位、南部、宮古で 2 位、北部で 3 位と、いずれの地域でも重要度が高いことに変わりはない。県平均で 3 位以降の項目についての重要度評価は地域により差がみられる。

各地域について県平均と比較して特徴をみると、北部では、上位項目は県平均と同様であるが、県平均 19 位の「(17) 仕事のやりがい」が 13 位、同 30 位の「(31) 廃棄物の減量化・リサイクル」が 24 位、同 31 位の「(5) 病気の予防・健康診断・健康相談」が 23 位となっていることなどに違いがみられる。

中部は項目の順位が県平均の順位と比較的類似している中で、県平均9位の「(51) 安全で安心な食品の確保」が5位、同11位の「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」が8位となっている。

那覇市では県平均7位の「(6) 救急患者の適切な治療」が4位、同8位の「(30) 水使用の安心」が5位、同11位の「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」が7位、同25位の「(32) 下水道の整備」が18位となっている。

南部では県平均9位の「(42) 防災対策の充実」が6位、同13位の「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」が10位、同20位の「(49) 商品・サービスの安全性の確保」が14位となっている。

宮古では上位項目についても県平均の順位と大きく異なっている。県平均8位の「(30) 水使用の安心」が3位、同11位の「(46) 物価の安定」が4位、同13位の「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」と同14位の「(48) 税負担の公平さ」がともに6位、同15位の「(45) 収入の着実な増加」が8位、同19位の「(17) 仕事のやりがい」が13位となっている。また、県平均では49位の「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」が21位となっている。

八重山で最も目につくのは、県平均で49位の「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」は9位になっている点である。このほか、県平均11位の「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」が4位、同31位の「(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育」が24位となっている。



表2-1-6 地域別・項目別重要度得点順位表

項 目	県計 順位	地 域 別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(47) 老後に不安のない年金	1	1	2	2	1	1	1
(44) 犯罪の防止	2	3	1	1	2	2	1
(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	3	2	3	5	3	4	3
(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	4	3	4	9	4	8	6
(35) 環境汚染の防止	5	6	5	3	7	10	5
(16) 失業の不安の解消	6	6	5	7	5	15	7
(6) 救急患者の適切な治療	7	5	9	4	8	21	11
(30) 水使用の安心	8	8	9	5	10	3	16
(42) 防災対策の充実	9	9	13	9	6	10	9
(51) 安全で安心な食品の確保	9	13	5	11	8	10	7
(12) 青少年の非行や犯罪の防止	11	15	8	7	13	18	4
(46) 物価の安定	11	10	9	12	12	4	13
(58) 安心して子供を生み育てられる環境の整備	13	20	13	12	10	6	16
(48) 税負担の公平さ	14	15	12	18	18	6	14
(4) 良質な診療・治療	15	11	16	16	16	18	19
(18) 職場内の安全性	15	15	15	14	22	13	12
(43) 交通安全の確保	15	19	16	15	14	15	15
(45) 収入の着実な増加	15	12	16	17	16	8	20
(17) 仕事のやりがい	19	13	20	20	18	13	18
(49) 商品・サービスの安全性の確保	20	29	19	21	14	23	21
(36) 自然の保全	21	18	21	22	20	18	23
(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	22	24	21	24	21	32	25
(52) 十分な貯蓄ができること	22	21	23	25	23	17	21
(41) 米軍基地の安全管理の確保	24	24	24	23	24	40	28
(32) 下水道の整備	25	24	27	18	24	23	28
(3) 費用の心配のない医療	26	22	25	27	29	27	28
(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	27	34	26	27	27	26	28
(61) 保育所・学童保育所の充実	28	28	29	30	26	29	39
(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	29	33	27	30	28	31	27
(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	30	24	33	29	30	25	26
(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	31	23	32	32	30	33	33
(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	31	34	30	26	35	44	24
(50) 商品・サービス、不当な勧誘等の苦情処理充実	31	31	31	33	32	28	32
(64) 住民意見の行政への反映	34	30	36	35	34	29	36
(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	35	42	34	34	36	45	38
(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	36	42	35	37	33	39	41
(66) 県関連情報の分かりやすい広報	37	32	38	39	37	37	35
(22) 職業紹介・訓練の充実	38	37	37	41	40	41	40
(34) 景観・町並みが美しいこと	39	34	43	36	43	34	37
(33) 公園や親しめる自然環境	40	41	41	38	38	49	44
(21) 職業・居住地選択の自由	41	38	41	44	42	36	42
(25) 良好な住環境	42	39	39	42	47	38	49
(28) 買物の利便性	42	42	39	39	45	48	53
(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	44	46	43	46	38	42	51
(2) 精神的緊張が少ないこと	45	45	45	47	46	50	43
(23) 持ち家の取得	46	39	47	53	41	34	49
(1) 体力の維持・増強	47	47	46	50	52	47	33
(29) 生活情報の得やすさ	47	47	48	42	48	42	45
(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動	49	53	53	51	43	21	9
(26) 交通機関の利便性	50	52	50	44	50	57	57
(14) 生涯学習の機会	51	49	51	49	48	52	47
(27) 渋滞の解消	51	51	48	47	53	55	60
(10) 大学教育の開放	53	61	52	51	50	61	48
(11) 各種・専修学校の充実	54	50	54	57	55	51	46
(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	54	53	56	55	54	46	55
(54) グラウンドや体育館の整備	56	56	57	57	56	54	59
(9) 外国語教育の充実	57	63	54	54	60	62	51
(15) 伝統工芸の振興	58	59	58	56	57	63	56
(13) 文化施設の整備	59	58	60	59	58	60	54
(24) 各家族員の個室の確保	60	57	59	61	63	53	61
(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	61	62	61	60	62	59	58
(63) 集会場や公民館の利用機会	62	55	63	63	59	56	62
(62) 地域行事への参加	63	59	62	62	61	57	63
(55) 趣味の会への参加の機会	64	64	64	64	64	65	64
(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと	65	65	65	65	65	64	65
(56) 多様な宿泊施設の整備	66	66	66	66	66	66	66

(4) 時系列比較

次に、重要度の水準が過去3回の調査と比べてどのように変化してきたかを時系列に示したのが表2-1-7である。

今回調査では、新たに3項目が追加されているため、厳密な比較ができないことに注意する必要がある。

全体を通覧すると、平成11年から16年の重要度得点の変動幅が $-0.20 \sim +0.56$ で、重要度得点が下降した項目数よりも上昇した項目数のほうが多かったが、今回調査では前回(平成16年)からの重要度得点の変動幅は $-0.26 \sim +0.18$ と、ややマイナスにシフトしており、重要度得点が上昇した項目数に比べ、下降した項目数のほうが多くなっている。また、今回重要度得点が上昇した項目は、「医療と保健」、「収入と消費生活」、「社会福祉」の領域で多くみられる。

項目別にみても、前回調査に比べて上昇幅の大きい項目は、県平均28位の「(61) 保育所・学童保育所の充実」(+0.18)、同3位の「(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備」(+0.15)、同13位の「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」(+0.11)で、すべて「社会福祉」領域の項目である。

また、表2-1-8に示すように、これら項目ごとの重要度の変化を領域別にみると、「安全と個人の保護」は昭和59年調査以来1位を維持し、平成7年以来2位を維持していた「収入と消費生活」は今回調査では3位となったものの、時勢に左右されない重要な生活条件であるといえる。また、「社会福祉」は平成7年以来順位の上昇を続け、今回調査では「収入と消費生活」に替わり2位となった。



表2-1-7 重要度の時系列比較

領域	項目	平成7年	平成11年	平成16年	平成21年	11年-7年	16年-11年	21年-16年
医療と保健	(1) 体力の維持・増強	3.90	3.92	3.87	3.81	0.02	-0.05	-0.06
	(2) 精神的緊張が少ないこと	*	3.84	3.90	3.86	*	0.06	-0.04
	(3) 費用の心配のない医療	4.14	4.22	4.16	4.21	0.08	-0.06	0.05
	(4) 良質な診療・治療	4.34	4.38	4.34	4.38	0.04	-0.04	0.04
	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	4.06	4.11	4.11	4.12	0.05	0.00	0.01
	(6) 救急患者の適切な治療	4.40	4.46	4.47	4.49	0.06	0.01	0.02
教育・国際文化力	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	3.61	3.92	3.99	4.02	0.31	0.07	0.03
	(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	3.81	3.98	4.10	4.12	0.17	0.12	0.02
	(9) 外国語教育の充実	*	*	3.68	3.54	*	*	-0.14
	(10) 大学教育の開放	3.62	3.79	3.67	3.70	0.17	-0.12	0.03
	(11) 各種・専修学校の充実	3.54	3.71	3.64	3.61	0.17	-0.07	-0.03
	(12) 青少年の非行や犯罪の防止(※)	4.18	4.26	4.57	4.45	0.08	0.31	-0.12
	(13) 文化施設の整備	3.60	3.69	3.54	3.46	0.09	-0.15	-0.08
	(14) 生涯学習の機会	3.65	3.80	3.74	3.75	0.15	-0.06	0.01
	(15) 伝統工芸の振興	3.23	3.44	3.56	3.51	0.21	0.12	-0.05
労働・雇用	(16) 失業の不安の解消	4.26	4.46	4.48	4.50	0.20	0.02	0.02
	(17) 仕事のやりがい	4.17	4.36	4.38	4.35	0.19	0.02	-0.03
	(18) 職場内の安全性	4.10	4.24	4.35	4.38	0.14	0.11	0.03
	(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	3.53	3.79	4.21	4.27	0.26	0.42	0.06
	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	3.72	3.90	4.01	4.01	0.18	0.11	0.00
	(21) 職業・居住地選択の自由	3.77	3.95	3.90	3.90	0.18	-0.05	0.00
	(22) 職業紹介・訓練の充実	3.78	4.03	3.95	3.94	0.25	-0.08	-0.01
生活環境	(23) 持ち家の取得	3.94	3.98	3.78	3.82	0.04	-0.20	0.04
	(24) 各家族員の個室の確保	3.56	3.54	3.42	3.40	-0.02	-0.12	-0.02
	(25) 良好な住環境	3.88	3.97	4.00	3.89	0.09	0.03	-0.11
	(26) 交通機関の利便性	3.81	3.89	3.85	3.76	0.08	-0.04	-0.09
	(27) 渋滞の解消	3.80	3.89	3.89	3.75	0.09	0.00	-0.14
	(28) 買物の利便性	3.75	3.89	3.84	3.89	0.14	-0.05	0.05
	(29) 生活情報の得やすさ	3.72	3.86	3.82	3.81	0.14	-0.04	-0.01
	(30) 水使用の安心	4.39	4.47	4.51	4.48	0.08	0.04	-0.03
	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	*	4.22	4.15	4.13	*	-0.07	-0.02
	(32) 下水道の整備	4.34	4.45	4.25	4.23	0.11	-0.20	-0.02
	(33) 公園や親しめる自然環境	3.90	4.07	3.97	3.91	0.17	-0.10	-0.06
	(34) 景観・町並みが美しいこと	*	*	3.98	3.93	*	*	-0.05
	(35) 環境汚染の防止	4.20	4.37	4.52	4.51	0.17	0.15	-0.01
(36) 自然の保全	*	4.35	4.35	4.30	*	0.00	-0.05	
男女参画	(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	*	*	4.19	4.16	*	*	-0.03
	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと(新規)	*	*	*	3.07	*	*	*
	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	*	*	3.65	3.39	*	*	-0.26
	(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	*	*	4.26	4.18	*	*	-0.08
安全と個人保護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	4.07	4.31	4.37	4.24	0.24	0.06	-0.13
	(42) 防災対策の充実	4.36	4.49	4.49	4.47	0.13	0.00	-0.02
	(43) 交通安全の確保	4.31	4.44	4.41	4.38	0.13	-0.03	-0.03
	(44) 犯罪の防止	4.47	4.61	4.68	4.66	0.14	0.07	-0.02
収入と消費生活	(45) 収入の着実な増加	4.26	4.37	4.37	4.38	0.11	0.00	0.01
	(46) 物価の安定	4.37	4.37	4.45	4.45	0.00	0.08	0.00
	(47) 老後に不安のない年金	4.44	4.51	4.63	4.67	0.07	0.12	0.04
	(48) 税負担の公平さ	4.30	4.37	4.46	4.39	0.07	0.09	-0.07
	(49) 商品・サービスの安全性の確保	4.01	4.26	4.31	4.33	0.25	0.05	0.02
	(50) 商品・サービスの苦情処理の充実	3.76	4.04	4.09	4.12	0.28	0.05	0.03
	(51) 安全で安心な食品の確保	*	*	4.45	4.47	*	*	0.02
(52) 十分な貯蓄ができること	*	4.16	4.26	4.27	*	0.10	0.01	
休暇と余暇	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	3.82	4.01	3.93	3.88	0.19	-0.08	-0.05
	(54) グラウンドや体育館の整備	3.52	3.64	3.72	3.56	0.12	0.08	-0.16
	(55) 趣味の会への参加の機会	3.21	3.34	3.29	3.18	0.13	-0.05	-0.11
	(56) 多様な宿泊施設の整備	3.07	3.18	3.11	2.96	0.11	-0.07	-0.15
	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動(新規)	*	*	*	3.79	*	*	*
社会福祉	(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備	3.53	3.75	4.31	4.42	0.22	0.56	0.11
	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	4.11	4.28	4.41	4.56	0.17	0.13	0.15
	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	4.13	4.32	4.45	4.52	0.19	0.13	0.07
	(61) 保育所・学童保育所の充実	3.58	3.98	3.99	4.17	0.40	0.01	0.18
地域活動	(62) 地域行事への参加	2.96	3.17	3.30	3.34	0.21	0.13	0.04
	(63) 集会場や公民館の利用機会	3.22	3.36	3.34	3.37	0.14	-0.02	0.03
	(64) 住民意見の行政への反映	3.82	4.03	4.05	4.03	0.21	0.02	-0.02
	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	3.66	3.80	3.62	3.61	0.14	-0.18	-0.01
	(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報(新規)	*	*	*	3.96	*	*	*

(注1) ※印(12)は表現の変更があった項目

表 2 - 1 - 8 領域別重要度得点の時系列比較

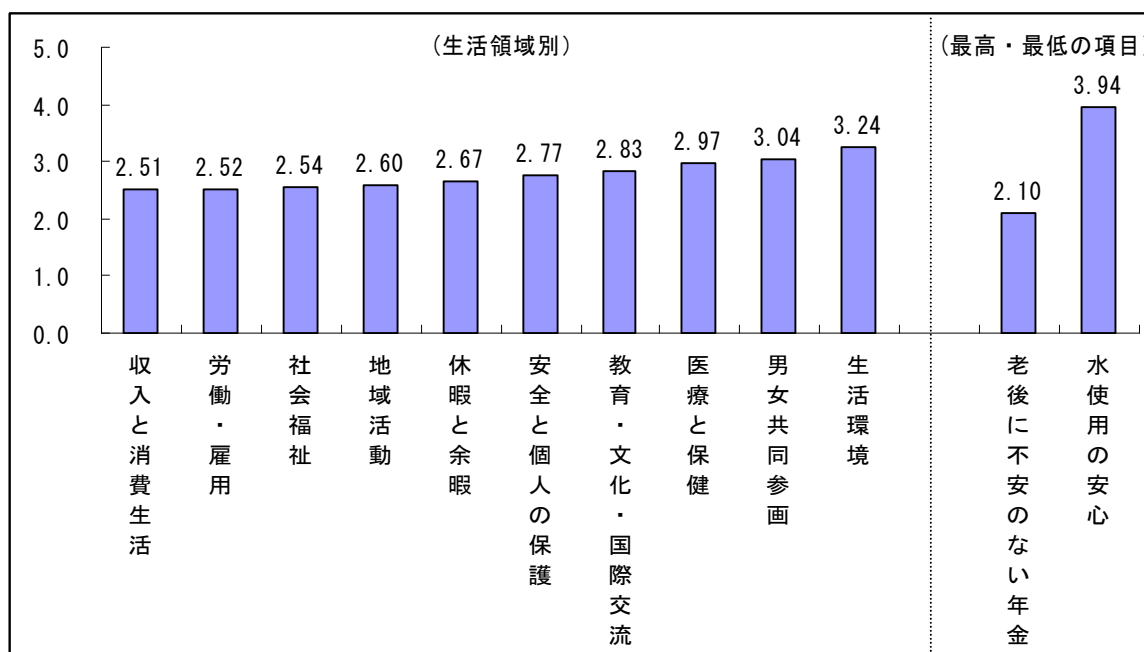
今回 順位	領 域	平成 7 年		平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	安全と個人の保護	1	4.29	1	4.46	1	4.50	1	4.44
2	社会福祉	6	3.79	5	4.08	3	4.31	2	4.43
3	収入と消費生活	2	4.19	2	4.29	2	4.40	3	4.39
4	労働・雇用	5	3.86	4	4.10	4	4.21	4	4.21
5	医療と保健	3	4.17	3	4.15	5	4.16	5	4.15
6	生活環境	4	3.92	6	4.01	6	4.05	6	4.00
7	教育・文化・国際交流	7	3.62	7	3.77	8	3.86	7	3.83
8	男女共同参画	*	*	*	*	7	4.05	8	3.72
9	地域活動	8	3.50	8	3.66	9	3.59	9	3.69
10	休暇と余暇	9	3.49	9	3.54	10	3.53	10	3.48
県 計		3.87		4.01		4.07		4.03	

2 生活の各側面に対する充足度（問2）

県民生活に関わる個別具体的な66項目について、重要度と同様に、県民の暮らしの中でどの程度充足されているかを「非常に満たされている」「かなり満たされている」「どちらともいえない」「あまり満たされていない」「ほとんど満たされていない」「わからない」の6分類で回答してもらった。集計についても重要度と同様、5段階評価方式により、「非常に満たされている」＝5点、「かなり満たされている」＝4点、「どちらともいえない」＝3点、「あまり満たされていない」＝2点、「ほとんど満たされていない」＝1点、の得点（ウェイト）を与えて、各項目ごとの平均点を求め、充足度に関する県民の評価の指標（充足度得点）とした。さらに、これらの項目を10の領域に分類し、各領域別の平均得点もあわせて算出した。

領域別にみた充足度の得点は、図2-2-1に示すように、得点の最も低い領域は「収入と消費生活」、最も高い領域は「生活環境」である。また、具体的な項目の中で得点の最も低い項目は「収入と消費生活」領域の「(47) 老後に不安のない年金」(2.10)で、最も高い項目は「生活環境」領域の「(30) 水使用の安心」(3.94)である。

図2-2-1 充足度得点



具体的に項目別の得点をみると、図2-2-2、表2-2-1に示すように、得点の最も低い項目は「(47) 老後に不安のない年金」(2.10)で、以下、「(52) 十分な貯蓄ができること」(2.11)、「(45) 収入の着実な増加」(2.18)、「(20) 高齢者・心身障害者の就業機会」(2.19)、「(48) 税負担の公平さ」(2.26)と続いている。

一方、得点の最も高い項目は「(30) 水使用の安心」(3.94)で、以下、「(28) 買物の利便性」(3.59)、「(32) 下水道の整備」(3.53)、「(31) 廃棄物の減量化・リサイクル」(3.36)、「(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実」(3.34)と続いている。

図 2 - 2 - 2 充足度の平均得点

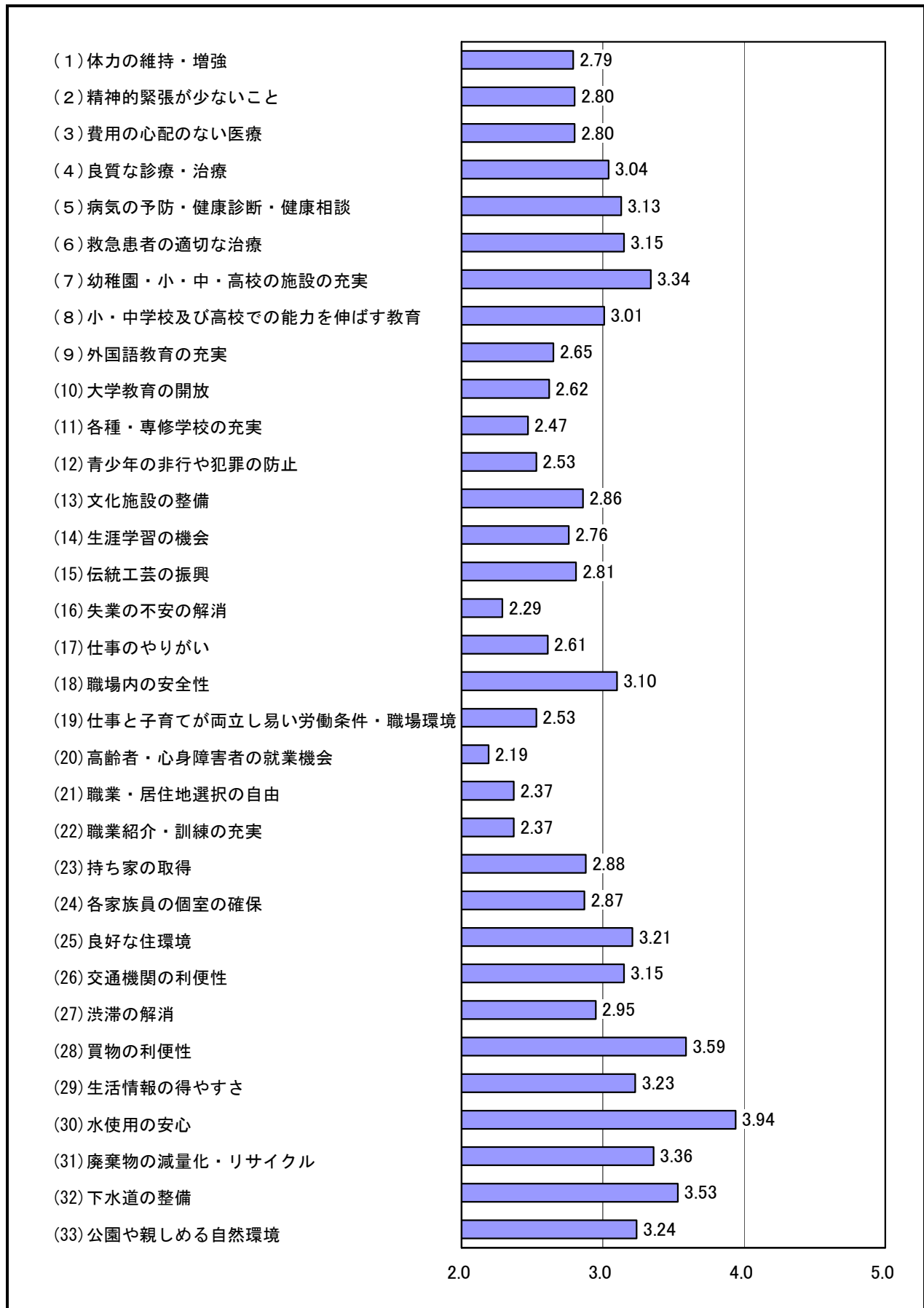


図 2 - 2 - 2 充足度の平均得点(続き)

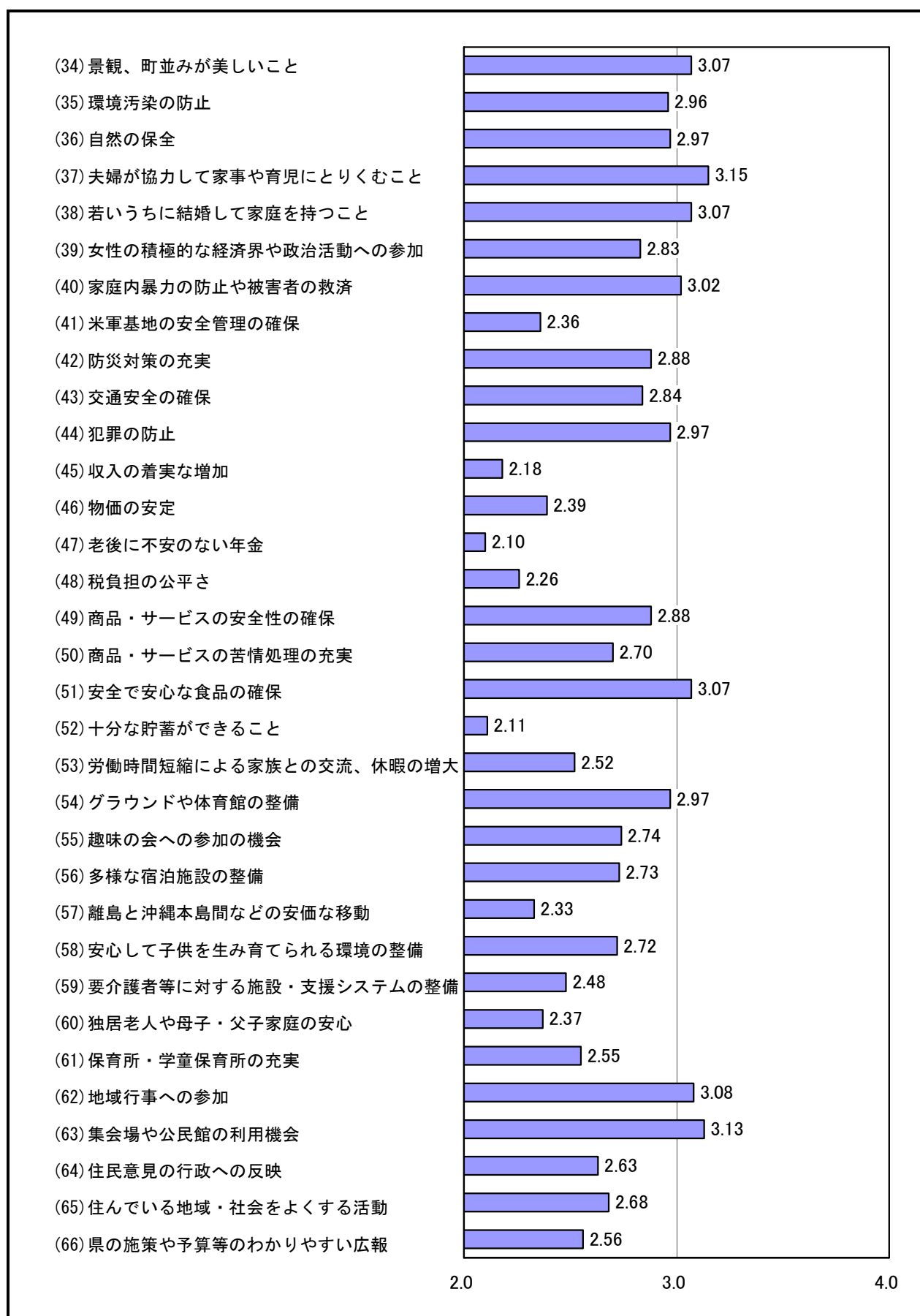


表 2 - 2 - 1 充足度の平均得点

領域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	(1) 体力の維持・増強	2.79	1.03	36.8	2.97
	(2) 精神的緊張が少ないこと	2.80	1.02	36.5	
	(3) 費用の心配のない医療	2.80	1.05	37.6	
	(4) 良質な診療・治療	3.04	0.97	31.9	
	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	3.13	0.96	30.7	
	(6) 救急患者の適切な治療	3.15	0.94	29.8	
教育・文化・国際協力	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	3.34	0.88	26.2	2.83
	(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	3.01	0.91	30.3	
	(9) 外国語教育の充実	2.65	0.91	34.5	
	(10) 大学教育の開放	2.62	0.97	37.2	
	(11) 各種・専修学校の充実	2.47	1.04	42.2	
	(12) 青少年の非行や犯罪の防止	2.53	1.04	40.9	
	(13) 文化施設の整備	2.86	1.06	37.1	
	(14) 生涯学習の機会	2.76	0.97	35.2	
労働・雇用	(15) 伝統工芸の振興	2.81	0.96	34.2	
	(16) 失業の不安の解消	2.29	1.17	51.1	2.52
	(17) 仕事のやりがい	2.61	1.18	45.3	
	(18) 職場内の安全性	3.10	0.99	32.1	
	(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	2.53	1.06	41.7	
	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	2.19	1.01	46.4	
	(21) 職業・居住地選択の自由	2.37	1.15	48.4	
生活環境	(22) 職業紹介・訓練の充実	2.37	0.99	41.8	
	(23) 持ち家の取得	2.88	1.37	47.5	3.24
	(24) 各家族員の個室の確保	2.87	1.29	44.9	
	(25) 良好な住環境	3.21	1.16	36.2	
	(26) 交通機関の利便性	3.15	1.13	35.7	
	(27) 渋滞の解消	2.95	1.09	36.8	
	(28) 買物の利便性	3.59	1.04	28.9	
	(29) 生活情報の得やすさ	3.23	0.94	29.3	
	(30) 水使用の安心	3.94	0.91	23.2	
	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	3.36	0.91	27.2	
	(32) 下水道の整備	3.53	1.08	30.7	
	(33) 公園や親しめる自然環境	3.24	1.08	33.3	
(34) 景観、町並みが美しいこと	3.07	0.99	32.2		
(35) 環境汚染の防止	2.96	1.10	37.2		
(36) 自然の保全	2.97	0.98	33.0		

表 2 - 2 - 1 充足度の平均得点(続き)

領域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
男女参 画同	(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	3.15	1.05	33.4	3.04
	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと	3.07	0.89	29.1	
	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	2.83	0.80	28.2	
	(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	3.02	1.01	33.5	
個人 安全の と保護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	2.36	1.05	44.5	2.77
	(42) 防災対策の充実	2.88	0.92	32.0	
	(43) 交通安全の確保	2.84	0.99	34.8	
	(44) 犯罪の防止	2.97	0.99	33.2	
収入と 消費生活	(45) 収入の着実な増加	2.18	1.02	46.6	2.51
	(46) 物価の安定	2.39	0.98	41.1	
	(47) 老後に不安のない年金	2.10	1.08	51.3	
	(48) 税負担の公平さ	2.26	1.01	44.6	
	(49) 商品・サービスの安全性の確保	2.88	0.91	31.4	
	(50) 商品・サービスの苦情処理の充実	2.70	0.94	34.7	
	(51) 安全で安心な食品の確保	3.07	0.92	30.0	
	(52) 十分な貯蓄ができること	2.11	1.06	50.0	
休暇と 余暇	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	2.52	1.06	42.2	2.67
	(54) グラウンドや体育館の整備	2.97	1.06	35.8	
	(55) 趣味の会への参加の機会	2.74	0.93	34.1	
	(56) 多様な宿泊施設の整備	2.73	0.99	36.4	
	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動	2.33	1.01	43.2	
社会 福祉	(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備	2.72	1.02	37.3	2.54
	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	2.48	1.06	42.9	
	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	2.37	1.02	43.0	
	(61) 保育所・学童保育所の充実	2.55	1.04	40.5	
地域 活動	(62) 地域行事への参加	3.08	0.93	30.0	2.60
	(63) 集会場や公民館の利用機会	3.13	0.97	31.1	
	(64) 住民意見の行政への反映	2.63	0.93	35.3	
	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	2.68	0.95	35.4	
	(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報	2.56	0.96	37.6	

(1) 充足度得点の低い項目と高い項目

充足度の低い項目と高い項目をそれぞれ 15 項目抜き出し、過去の結果と比較したのが表 2-2-2 と表 2-2-3 である。

表 2-2-2 で充足度の低い項目をみると、1 位は「(47) 老後に不安のない年金」、2 位は「(52) 十分な貯蓄ができること」で、以下、「(45) 収入の着実な増加」、「(20) 高齢者・心身障害者の就業機会」、「(48) 税負担の公平さ」、「(16) 失業の不安の解消」と続いている。「(47) 老後に不安のない年金」、「(52) 十分な貯蓄ができること」は前回に続き 1 位、2 位となり、変わらず充足度の低い項目となっている。今回 3 位の「(45) 収入の着実な増加」は前々回 7 位、前回 6 位と充足度の低下が続いている。同じく今回 5 位の「(48) 税負担の公平さ」も前々回 12 位、前回 7 位と充足度の低下が続いている。一方、今回 4 位の「(20) 高齢者・心身障害者の就業機会」は前々回 2 位、前回 3 位と充足度は上昇傾向にある。

その他の項目について前回調査と比較してみると、「(41) 米軍基地の安全管理の確保」(前々回 22 位→前回 5 位→今回 8 位)は前回顕著な低下をみせたが、今回調査では、順位、充足度得点ともにやや上昇した。これに対して、「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」(同 8 位→13 位→9 位)は前回充足度が上昇したが、今回は低下に転じた。

なお、前回 8 位の「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」は今回 16 位、前回 14 位の「(17) 仕事のやりがい」は今回 20 位と、下位 15 位グループからはずれた。

表 2-2-2 充足度の低い項目

領 域	項 目	平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点
収入と消費生活	(47) 老後に不安のない年金	6	2.31	1	2.00	1	2.10
収入と消費生活	(52) 十分な貯蓄ができること	1	2.11	2	2.06	2	2.11
収入と消費生活	(45) 収入の着実な増加	7	2.38	6	2.18	3	2.18
労働・雇用	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	2	2.16	3	2.14	4	2.19
収入と消費生活	(48) 税負担の公平さ	12	2.42	7	2.19	5	2.26
労働・雇用	(16) 失業の不安の解消	4	2.27	4	2.15	6	2.29
休暇と余暇	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動（新規）	*	*	*	*	7	2.33
安全と個人の保護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	22	2.60	5	2.17	8	2.36
労働・雇用	(21) 職業・居住地選択の自由	3	2.23	9	2.31	9	2.37
労働・雇用	(22) 職業紹介・訓練の充実	5	2.29	10	2.33	9	2.37
社会福祉	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	8	2.39	13	2.44	9	2.37
収入と消費生活	(46) 物価の安定	27	2.65	11	2.40	12	2.39
教育・文化・国際協力	(11) 各種・専修学校の充実	11	2.41	11	2.40	13	2.47
社会福祉	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	8	2.39	15	2.52	14	2.48
休暇と余暇	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	17	2.50	15	2.52	15	2.52
平成16年の下位15項目の中で、15位グループから離れた項目							
領 域	項 目			前回 順位		今回 順位	
教育・文化・国際協力	(12) 青少年の非行や犯罪の防止			8		16	
労働・雇用	(17) 仕事のやりがい			14		20	

一方、表2-2-3で充足度の高い項目を上位から順を追ってみると、「(30) 水使用の安心」、「(28) 買物の利便性」、「(32) 下水道の整備」が前回に引き続き、それぞれ1位～3位となっている。「(31) 廃棄物の減量化・リサイクル」は前々回の32位から前回6位に大きく上昇し、今回さらに4位に上昇した。「(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実」は前々回から1つずつ順位を落としているが、なお充足度の高い項目となっている。

前回調査との比較でみると、「(33) 公園や親しめる自然環境」(前々回18位→前回11位→今回6位)、「(29) 生活情報の得やすさ」(同13位→9位→7位)、「(26) 交通機関の利便性」(同14位→12位→9位)の充足度は上昇傾向が続いている。また、「(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと」(前回13位→今回9位)も充足度が高くなっている。反面、「(62) 地域行事への参加」(同5位→15位)の充足度は低下している。

なお、前回15位の「(4) 良質な診療・治療」は今回19位に後退している。

表2-2-3 充足度の高い項目

領 域	項 目	平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点
生活環境	(30) 水使用の安心	1	3.84	1	3.85	1	3.94
生活環境	(28) 買物の利便性	2	3.46	2	3.53	2	3.59
生活環境	(32) 下水道の整備	4	3.35	3	3.45	3	3.53
生活環境	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	32	2.78	6	3.19	4	3.36
教育・文化・国際協力	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	3	3.43	4	3.36	5	3.34
生活環境	(33) 公園や親しめる自然環境	18	2.95	11	3.15	6	3.24
生活環境	(29) 生活情報の得やすさ	13	3.14	9	3.16	7	3.23
生活環境	(25) 良好な住環境	12	3.15	7	3.18	8	3.21
医療と保健	(6) 救急患者の適切な治療	5	3.30	7	3.18	9	3.15
生活環境	(26) 交通機関の利便性	14	3.09	12	3.13	9	3.15
男女共同参画	(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	*	*	13	3.11	9	3.15
医療と保健	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	8	3.20	14	3.08	12	3.13
地域活動	(63) 集会場や公民館の利用機会	10	3.18	9	3.16	12	3.13
労働・雇用	(18) 職場内の安全性	6	3.24	16	3.01	14	3.10
地域活動	(62) 地域行事への参加	11	3.17	5	3.20	15	3.08
平成16年の上位15項目の中で、16位以下に後退した項目							
領 域	項 目			前回 順位		今回 順位	
医療と保健	(4) 良質な診療・治療			15		19	

(2) 領域別の比較

領域ごとの充足度の平均得点と上下15位に入った項目の数について、前回と今回の結果を比較表示したものが表2-2-4である。

各領域の平均得点をみると、「生活環境」、「男女共同参画」、「医療と保健」などが上位に位置し、「収入と消費生活」、「労働・雇用」、「社会福祉」などが下位に位置している。これらの傾向は前回調査とほぼ同様であり、「収入と消費生活」、「労働・雇用」、「社会福祉」などに関する関心や問題意識の持ち方など現在の世相を反映しているといえる。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「生活環境」領域では、14項目中8項目が入っている。一方、下位15位に入った項目数では最も得点の低いほうから「収入と消費生活」領域で8項目中5項目、「労働・雇用」で7項目中4項目、「社会福祉」で4項目中2項目と半数以上の項目が入っている。

平均点が最も高い「生活環境」領域と最も低い「収入と消費生活」領域の得点差は0.73ポイントで、前回と変わらない。

表2-2-4 領域別にみた充足度

今回 順位	領 域	前回 順位	領域ごとの 平均得点		上位15位に入った 項目数		下位15位に入った 項目数	
			平成16年	平成21年	平成16年	平成21年	平成16年	平成21年
1	生活環境	1	3.16	3.24	8/14	8/14	0/14	0/14
2	男女共同参画	2	2.98	3.04	1/3	1/4	0/3	0/4
3	医療と保健	3	2.93	2.97	3/6	2/6	0/6	0/6
4	教育・文化・国際交流	5	2.77	2.83	1/9	1/9	2/9	1/9
5	安全と個人の保護	6	2.72	2.77	0/4	0/4	1/4	1/4
6	休暇と余暇	7	2.71	2.67	0/4	0/5	1/4	2/5
7	地域活動	4	2.92	2.60	2/4	2/5	0/4	0/5
8	社会福祉	8	2.68	2.54	0/4	0/4	2/4	2/4
9	労働・雇用	9	2.46	2.52	0/7	1/7	5/7	4/7
10	収入と消費生活	10	2.43	2.51	0/8	0/8	5/8	5/8

(注) 項目数の表記は(該当する項目数)/(領域の項目数)

(3) 地域別の比較

次に、表 2-2-5 で領域別の充足度を地域別にみると、10 領域平均の充足度得点は南部が最も高く、以下、北部、中部、那覇市、八重山、宮古の順になっている。南部では 10 領域中半数の 5 領域で最も高い充足度となっている。

一方、平均の充足度が最も低い宮古では「医療と保健」、「労働・雇用」、「生活環境」、「男女共同参画」、「休暇と余暇」、「地域活動」の 6 領域で最も低い充足度となっているほか、「教育・文化・国際交流」、「収入と消費生活」でも低くなっている。宮古に次いで充足度の低い八重山では「教育・文化・国際交流」、「収入と消費生活」、「社会福祉」が最も低くなっているほか、「医療と保健」、「労働・雇用」、「男女共同参画」でも低くなっている。また、那覇市で「安全と個人の保護」が最も低く、「生活環境」、「休暇と余暇」、「社会福祉」、「地域活動」も低くなっている。

表 2-2-5 地域別・領域別の充足度得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計 得点
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	4	2.96	5	3.00	3	2.94	6	3.01	1	2.73	2	2.81	2.97
教育・文化・国際交流	4	2.87	4	2.87	3	2.80	4	2.87	2	2.51	1	2.47	2.83
労働・雇用	6	2.58	4	2.53	3	2.50	5	2.55	1	2.27	2	2.40	2.52
生活環境	3	3.22	4	3.24	2	3.18	6	3.34	1	3.12	5	3.32	3.24
男女共同参画	5	3.07	4	3.04	3	3.00	6	3.12	1	2.85	2	2.99	3.04
安全と個人の保護	5	2.92	2	2.73	1	2.65	4	2.91	6	2.93	3	2.79	2.77
収入と消費生活	5	2.56	4	2.53	3	2.44	6	2.60	2	2.36	1	2.30	2.51
休暇と余暇	6	2.73	3	2.68	2	2.63	4	2.70	1	2.44	5	2.71	2.67
社会福祉	6	2.67	3	2.54	2	2.41	5	2.66	4	2.56	1	2.32	2.54
地域活動	5	2.72	3	2.60	2	2.40	6	2.83	1	2.33	4	2.62	2.60
計	5	2.83	4	2.78	3	2.70	6	2.86	1	2.61	2	2.67	2.77

(注) 順位は各領域の地域間の順位(低い順)である。

次に、各地域について具体的項目の順位を低い順に示したものが表 2-2-6 である。県平均で最も低い「(47) 老後に不安のない年金」は中部、那覇市、南部で 1 位、北部で 3 位、八重山で 5 位、宮古で 6 位となっている。また、県平均で 2 位の「(52) 十分な貯蓄ができること」も北部で 1 位、中部、那覇市、八重山で 2 位、南部、宮古で 4 位と、いずれの地域でも比較的上位にあり、充足度の低いことは共通しているが、宮古と八重山の傾向は他の地域と異なっている。宮古と八重山では県平均で 13 位の「(11) 各種・専修学校の充実」が 1 位と、最も低い充足度となっているほか、県平均 9 位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」が宮古で 2 位、八重山で 4 位と低くなっている。また、宮古と八重山で充足度の低い「(11) 各種・専修学校の充実」と「(22) 職業紹介・訓練の充実」は、北部でもそれ

ぞれ5位、3位と充足度が低くなっている。これらの地域で充足度の低い「(11) 各種・専修学校の充実」は那覇市では28位と充足度は中位に位置し、地域差の大きいのが特徴である。このほか、県平均で7位の「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」は宮古では3位と充足度が低く、他の地域との差が大きい。

各地域の充足度の低い順位について県平均と比較すると以下のような特徴がみられる。

北部では、県平均9位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」が3位、県平均13位の「(11) 各種・専修学校の充実」が5位、県平均36位の「(13) 文化施設の整備」が16位と低い充足度となっている。一方、「(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備」、「(61) 保育所・学童保育所の充実」などは県平均より高い充足度となっている。

中部では、比較的県平均の充足度の順位と類似した序列傾向にあるが、県平均8位の「(41) 米軍基地の安全管理の確保」が5位、県平均18位の「(61) 保育所・学童保育所の充実」が14位、県平均41位の「(27) 渋滞の解消」が34位とやや低い充足度となっている。一方、「(13) 文化施設の整備」は県平均より高い充足度となっている。

那覇市では、県平均37位の「(24) 各家族員の個室の確保」が19位、県平均38位の「(23) 持ち家の取得」が21位、県平均41位の「(27) 渋滞の解消」が28位と低い充足度となっている。一方、「(22) 職業紹介・訓練の充実」、「(11) 各種・専修学校の充実」、「(56) 多様な宿泊施設の整備」、「(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加」、「(13) 文化施設の整備」などは県平均より高い充足度となっている。

南部では、県平均36位の「(13) 文化施設の整備」が17位と低い充足度となっている。一方、「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」、「(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動」などは県平均より高い充足度となっている。

宮古では、県平均の傾向とは異なり、県平均13位の「(11) 各種・専修学校の充実」が1位、県平均9位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」が2位のほか、県平均36位の「(13) 文化施設の整備」が9位、県平均19位の「(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報」が11位、県平均29位の「(14) 生涯学習の機会」が13位、県平均21位の「(10) 大学教育の開放」と県平均22位の「(64) 住民意見の行政への反映」がともに14位と低い充足度となっている。一方、県平均で3位の「(45) 収入の着実な増加」が県平均より高いほか、「(41) 米軍基地の安全管理の確保」、「(61) 保育所・学童保育所の充実」、「(2) 精神的緊張が少ないこと」などが県平均より高い充足度となっている。

八重山も県平均の傾向とは異なり、県平均13位の「(11) 各種・専修学校の充実」が1位、県平均9位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」が4位、県平均23位の「(9) 外国語教育の充実」が11位、県平均29位の「(14) 生涯学習の機会」が15位、県平均36位の「(13) 文化施設の整備」が20位と低い充足度となっている。一方、「(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大」、「(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境」、「(56) 多様な宿泊施設の整備」、「(54) 趣味の会への参加の機会」などは県平均より高い充足度となっている。

表2-2-6 地域別・項目別充足度得点順位表（低い順位）

項 目	県計 順位	地 域 別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(47)老後に不安のない年金	1	3	1	1	1	6	5
(52)十分な貯蓄ができること	2	1	2	2	4	4	2
(45)収入の着実な増加	3	2	4	3	3	10	3
(20)高齢者・心身障害者の就業機会	4	7	3	5	2	4	8
(48)税負担の公平さ	5	7	5	4	6	8	8
(16)失業の不安の解消	6	5	5	6	8	7	14
(57)離島と沖縄本島間などの安価な移動	7	12	11	8	5	3	6
(41)米軍基地の安全管理の確保	8	10	5	9	14	44	15
(21)職業・居住地選択の自由	9	9	8	14	10	12	15
(22)職業紹介・訓練の充実	9	3	12	17	7	2	4
(60)独居老人や母子・父子家庭の安心	9	15	9	6	11	14	7
(46)物価の安定	12	11	10	11	12	17	10
(11)各種・専修学校の充実	13	5	17	28	9	1	1
(59)要介護者等に対する施設・支援システムの整備	14	28	13	10	15	22	12
(53)労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	15	23	18	13	12	22	25
(12)青少年の非行や犯罪の防止	16	13	16	11	25	19	21
(19)仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	16	18	15	16	16	21	27
(61)保育所・学童保育所の充実	18	32	14	15	18	30	12
(66)県関連情報の分かりやすい広報	19	14	20	18	20	11	18
(17)仕事のやりがい	20	21	19	23	18	29	28
(10)大学教育の開放	21	25	21	24	22	14	18
(64)住民意見の行政への反映	22	17	23	21	24	14	22
(9)外国語教育の充実	23	22	24	27	20	22	11
(65)住んでいる地域・社会をよくする活動	24	27	26	20	32	17	32
(50)商品・サービス、不当な勧誘等の苦情処理充実	25	32	25	28	25	20	23
(58)安心して子供を生み育てられる環境の整備	26	31	28	25	31	35	24
(56)多様な宿泊施設の整備	27	37	22	42	23	27	44
(55)趣味の会への参加の機会	28	19	27	33	28	25	41
(14)生涯学習の機会	29	26	31	33	25	13	15
(1)体力の維持・増強	30	19	30	33	36	33	31
(2)精神的緊張が少ないこと	31	34	29	31	34	47	33
(3)費用の心配のない医療	31	24	31	33	30	35	34
(15)伝統工芸の振興	33	34	34	33	28	26	38
(39)女性の積極的な経済界や政治活動への参加	34	28	36	42	33	27	30
(43)交通安全の確保	35	45	31	25	38	47	46
(13)文化施設の整備	36	16	45	50	17	9	20
(24)各家族員の個室の確保	37	34	40	19	47	59	46
(23)持ち家の取得	38	30	42	21	53	54	48
(42)防災対策の充実	38	41	37	32	36	49	37
(49)商品・サービスの安全性の確保	38	39	37	44	34	34	25
(27)渋滞の解消	41	55	34	28	40	65	65
(35)環境汚染の防止	42	38	42	44	50	52	39
(36)自然の保全	43	50	40	39	55	39	45
(44)犯罪の防止	43	55	39	38	52	61	55
(54)グラウンドや体育館の整備	43	42	45	39	39	37	50
(8)小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	46	52	45	44	41	39	36
(40)家庭内暴力の防止や被害者の救済	47	43	44	50	50	51	42
(4)良質な診療・治療	48	44	50	55	42	31	29
(34)景観、町並みが美しいこと	49	52	48	48	57	44	58
(38)若いうちに結婚して家庭を持つこと	49	47	51	49	45	58	53
(51)安全で安心な食品の確保	49	47	52	53	42	44	40
(62)地域行事への参加	52	55	52	47	56	32	57
(18)職場内の安全性	53	59	49	53	53	55	50
(5)病気の予防・健康診断・健康相談	54	46	58	56	45	41	54
(63)集会場や公民館の利用機会	54	60	56	39	59	49	61
(6)救急患者の適切な治療	56	52	59	57	48	42	35
(26)交通機関の利便性	56	40	54	63	44	38	42
(37)夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	56	55	55	58	48	56	56
(25)良好な住環境	59	50	56	52	64	64	61
(29)生活情報の得やすさ	60	47	60	60	57	56	59
(33)公園や親しめる自然環境	61	60	61	59	59	42	60
(7)幼稚園・小・中・高校の施設の充実	62	64	62	62	62	60	49
(31)廃棄物の減量化・リサイクル	63	63	63	61	61	62	63
(32)下水道の整備	64	60	64	65	63	53	50
(28)買物の利便性	65	64	65	64	65	63	64
(30)水使用の安心	66	66	66	66	66	66	66

(4) 時系列比較

次に、充足度の水準が過去3回の調査と比べてどのように変化してきたかを時系列に示したのが表2-2-7である。

今回調査では、新たに3項目が追加されているため、厳密な比較ができないことに注意する必要がある。

全体を通覧すると、平成7年から11年調査にかけて増加した項目が多かったのに対し、平成11年から16年調査にかけては低下した項目が多くなったが、今回の調査では前回に比べて増加した項目が多くなっている。平成11年から16年の充足度得点の変動幅が $-0.43 \sim +0.41$ だったのに対し、今回調査では前回(平成16年)からの充足度得点の変動幅は $-0.31 \sim +0.24$ と縮小している。

項目別にみても、前回調査に比べて充足度得点が下降した項目は前回も調査した63項目中15項目にとどまり、下降幅の最も大きい項目は、県平均18位の「(61) 保育所・学童保育所の充実」(-0.31)、次いで、同52位の「(62) 地域行事への参加」(-0.12)となっている。充足度の低下した項目は「社会福祉」の領域では4項目すべてとなっている。

一方、前回調査に比べて充足度得点の上昇幅の最も大きい項目は、県平均16位の「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」($+0.24$)で、以下、同8位の「(41) 米軍基地の安全管理の確保」($+0.19$)、同41位の「(27) 渋滞の解消」($+0.19$)、同63位の「(31) 廃棄物の減量化・リサイクル」($+0.17$)などである。

また、表2-2-8に示すように、これら項目ごとの充足度の変化を領域別にみると、「収入と消費生活」、「労働・雇用」、「社会福祉」は前回同様、充足度の低い3領域となっている。前回7位の「地域活動」は今回4位に上昇し、充足度が低くなっている。

表2-2-7 充足度の時系列比較

領域	項目	平成7年	平成11年	平成16年	平成21年	11年-7年	16年-11年	21年-16年
医療と保健	(1) 体力の維持・増強	2.79	2.79	2.76	2.79	0.00	-0.03	0.03
	(2) 精神的緊張が少ないこと	*	2.82	2.71	2.80	*	-0.11	0.09
	(3) 費用の心配のない医療	2.94	2.94	2.77	2.80	0.00	-0.17	0.03
	(4) 良質な診療・治療	3.18	3.24	3.03	3.04	0.06	-0.21	0.01
	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	3.11	3.20	3.08	3.13	0.09	-0.12	0.05
	(6) 救急患者の適切な治療	3.11	3.30	3.18	3.15	0.19	-0.12	-0.03
教育・国際協力・文化	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	3.07	3.43	3.36	3.34	0.36	-0.07	-0.02
	(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	2.82	2.99	3.00	3.01	0.17	0.01	0.01
	(9) 外国語教育の充実	*	*	2.56	2.65	*	*	0.09
	(10) 大学教育の開放	2.59	2.72	2.65	2.62	0.13	-0.07	-0.03
	(11) 各種・専修学校の充実	2.35	2.41	2.40	2.47	0.06	-0.01	0.07
	(12) 青少年の非行や犯罪の防止(※)	2.27	2.40	2.29	2.53	0.13	-0.11	0.24
	(13) 文化施設の整備	2.47	2.60	2.77	2.86	0.13	0.17	0.09
	(14) 生涯学習の機会	2.51	2.63	2.71	2.76	0.12	0.08	0.05
(15) 伝統工芸の振興	2.55	2.76	2.87	2.81	0.21	0.11	-0.06	
労働・雇用	(16) 失業の不安の解消	2.40	2.27	2.15	2.29	-0.13	-0.12	0.14
	(17) 仕事のやりがい	2.52	2.57	2.50	2.61	0.05	-0.07	0.11
	(18) 職場内の安全性	3.03	3.24	3.01	3.10	0.21	-0.23	0.09
	(19) 仕事と子育てが両立しやすい労働条件・職場環境	2.73	2.66	2.56	2.53	-0.07	-0.10	-0.03
	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	2.18	2.16	2.14	2.19	-0.02	-0.02	0.05
	(21) 職業・居住地選択の自由	2.21	2.23	2.31	2.37	0.02	0.08	0.06
	(22) 職業紹介・訓練の充実	2.31	2.29	2.33	2.37	-0.02	0.04	0.04
生活環境	(23) 持ち家の取得	2.61	2.87	2.91	2.88	0.26	0.04	-0.03
	(24) 各家族員の個室の確保	2.59	2.80	2.89	2.87	0.21	0.09	-0.02
	(25) 良好な住環境	2.88	3.15	3.18	3.21	0.27	0.03	0.03
	(26) 交通機関の利便性	3.05	3.09	3.13	3.15	0.04	0.04	0.02
	(27) 渋滞の解消	2.71	2.72	2.76	2.95	0.01	0.04	0.19
	(28) 買物の利便性	3.45	3.46	3.53	3.59	0.01	0.07	0.06
	(29) 生活情報の得やすさ	3.06	3.14	3.16	3.23	0.08	0.02	0.07
	(30) 水使用の安心	3.64	3.84	3.85	3.94	0.20	0.01	0.09
	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	*	2.78	3.19	3.36	*	0.41	0.17
	(32) 下水道の整備	3.29	3.35	3.45	3.53	0.06	0.10	0.08
	(33) 公園や親しめる自然環境	2.87	2.95	3.15	3.24	0.08	0.20	0.09
	(34) 景観、町並みが美しいこと	*	*	2.98	3.07	*	*	0.09
(35) 環境汚染の防止	2.81	2.78	2.85	2.96	-0.03	0.07	0.11	
(36) 自然の保全	*	2.82	2.85	2.97	*	0.03	0.12	
男女共同参画	(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	*	*	3.11	3.15	*	*	0.04
	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと(新規)	*	*	*	3.07	*	*	*
	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	*	*	2.81	2.83	*	*	0.02
	(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	*	*	2.96	3.02	*	*	0.06
安全と個人の保護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	2.75	2.60	2.17	2.36	-0.15	-0.43	0.19
	(42) 防災対策の充実	2.81	2.80	2.95	2.88	-0.01	0.15	-0.07
	(43) 交通安全の確保	2.59	2.70	2.82	2.84	0.11	0.12	0.02
	(44) 犯罪の防止	3.03	3.20	2.85	2.97	0.17	-0.35	0.12
収入と消費生活	(45) 収入の着実な増加	2.44	2.38	2.18	2.18	-0.06	-0.20	0.00
	(46) 物価の安定	2.51	2.65	2.40	2.39	0.14	-0.25	-0.01
	(47) 老後に不安のない年金	2.49	2.31	2.00	2.10	-0.18	-0.31	0.10
	(48) 税負担の公平さ	2.44	2.42	2.19	2.26	-0.02	-0.23	0.07
	(49) 商品・サービスの安全性の確保	2.85	2.95	2.85	2.88	0.10	-0.10	0.03
	(50) 商品・サービスの苦情処理の充実	2.54	2.58	2.64	2.70	0.04	0.06	0.06
	(51) 安全で安心な食品の確保	*	*	2.93	3.07	*	*	0.14
(52) 十分な貯蓄ができること	*	2.11	2.06	2.11	*	-0.05	0.05	
休暇と余暇	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	2.56	2.50	2.52	2.52	-0.06	0.02	0.00
	(54) グラウンドや体育館の整備	2.75	2.84	2.94	2.97	0.09	0.10	0.03
	(55) 趣味の会への参加の機会	2.54	2.59	2.72	2.74	0.05	0.13	0.02
	(56) 多様な宿泊施設の整備	2.52	2.48	2.63	2.73	-0.04	0.15	0.10
	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動(新規)	*	*	*	2.33	*	*	*
社会福祉	(58) 安心して子供を生み育てられる環境の整備	2.50	2.55	2.81	2.72	0.05	0.26	-0.09
	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	2.38	2.39	2.52	2.48	0.01	0.13	-0.04
	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	2.41	2.39	2.44	2.37	-0.02	0.05	-0.07
	(61) 保育所・学童保育所の充実	2.64	2.71	2.86	2.55	0.07	0.15	-0.31
地域活動	(62) 地域行事への参加	2.85	3.17	3.20	3.08	0.32	0.03	-0.12
	(63) 集会場や公民館の利用機会	2.91	3.18	3.16	3.13	0.27	-0.02	-0.03
	(64) 住民意見の行政への反映	2.55	2.46	2.60	2.63	-0.09	0.14	0.03
	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	2.69	2.84	2.67	2.68	0.15	-0.17	0.01
	(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報(新規)	*	*	*	2.56	*	*	*

(注1) ※印(12)は表現の変更があった項目

表 2 - 2 - 8 領域別充足度得点の時系列比較

今回 順位	領 域	平成7年		平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	収入と消費生活	3	2.55	1	2.49	1	2.43	1	2.51
2	労働・雇用	1	2.51	2	2.50	2	2.46	2	2.52
3	社会福祉	1	2.51	3	2.51	3	2.68	3	2.54
4	地域活動	6	2.73	7	2.89	7	2.92	4	2.60
5	休暇と余暇	4	2.59	4	2.60	4	2.71	5	2.67
6	安全と個人の保護	7	2.81	6	2.86	5	2.72	6	2.77
7	教育・文化・国際交流	5	2.61	5	2.76	6	2.77	7	2.83
8	医療と保健	8	3.03	9	3.05	8	2.93	8	2.97
9	男女共同参画	*	*	*	*	9	2.98	9	3.04
10	生活環境	9	3.06	8	3.04	10	3.16	10	3.24
県 計		2.71		2.74		2.77		2.77	

3 生活の各側面に対するニーズ（問1、問2関連）

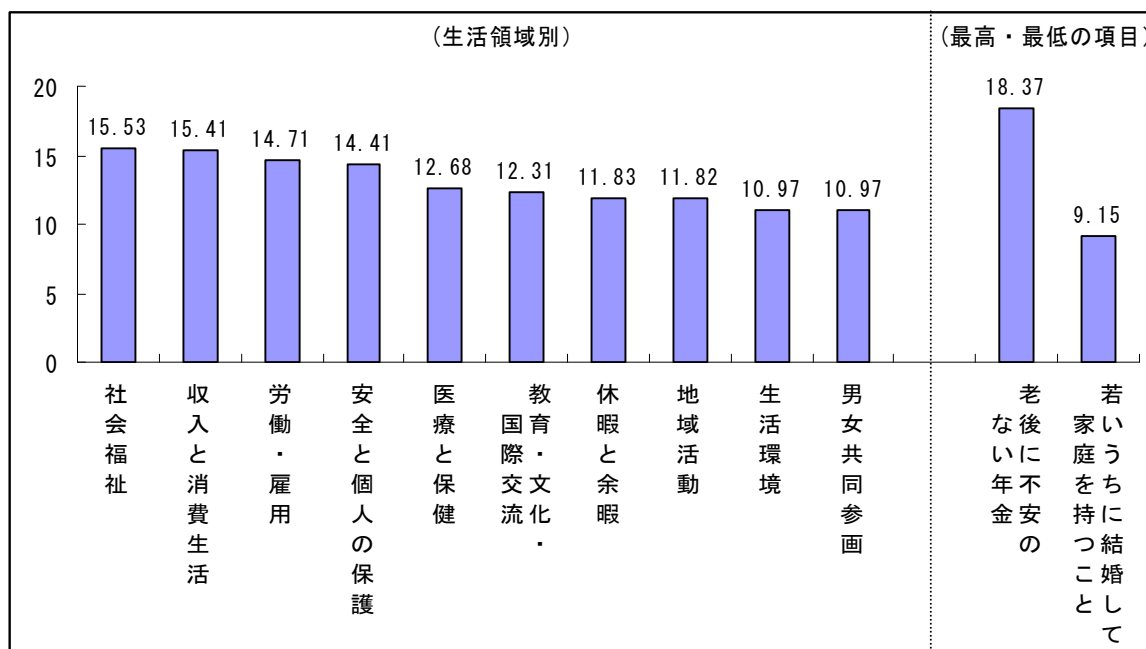
これまで、県民生活に関する具体的な項目について、その重要度と充足度をみてきたが、生活に対するニーズは両者相互に関係しているため、以下の式で定義されるニーズ得点を算出し、県民のニーズに関する評価の指数（ニーズ得点）とした。

$$\text{ニーズ得点} = \text{重要度得点} \times (6 - \text{充足度得点})$$

ここで、(6 - 充足度得点) は未充足を意味し、ニーズ得点は重要度、充足度によって変化し、重要度が高く、しかも充足されていない項目ほど高くなるという関係にある。

まず、領域別のニーズ得点を示したのが図2-3-1である。ニーズの高い領域は「社会福祉」、「収入と消費生活」、「労働・雇用」と続き、一方、「男女共同参画」、「生活環境」、「地域活動」に対するニーズは相対的に低くなっている。

図2-3-1 ニーズ得点



具体的な項目別の得点をみると、図2-3-2、表2-3-1に示すように、得点の最も高い項目は「(47) 老後に不安のない年金」(18.37)で、以下、「(16) 失業の不安の解消」(16.90)、「(45) 収入の着実な増加」(16.87)、「(52) 十分な貯蓄ができること」(16.74)、「(48) 税負担の公平さ」(16.67)と続いている。

一方、得点の最も低い項目は「(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと」(9.15)で、以下、「(30) 水使用の安心」(9.17)、「(28) 買物の利便性」(9.41)、「(63) 集会場や公民館の利用機会」(9.58)、「(56) 多様な宿泊施設の整備」(9.76)と続いている。

また、ニーズ得点の最も高い「(47) 老後に不安のない年金」(18.37)と最も低い「(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと」(9.15)には9.22ポイントの開きがあるが、ニーズの格差は前回調査の9.33ポイントとあまり変化はない。

図 2 - 3 - 2 ニーズ得点

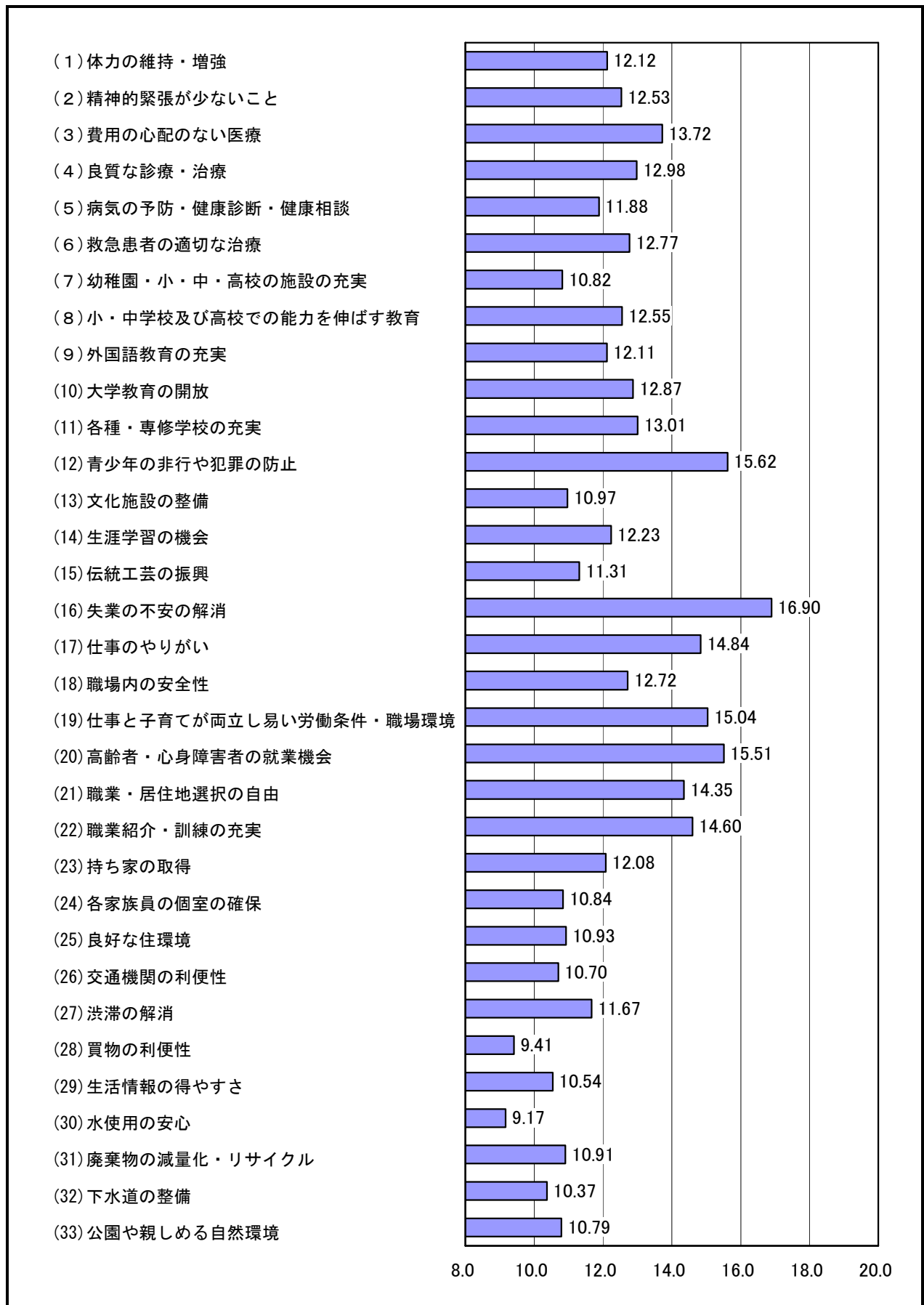


図 2 - 3 - 2 ニーズ得点 (続き)

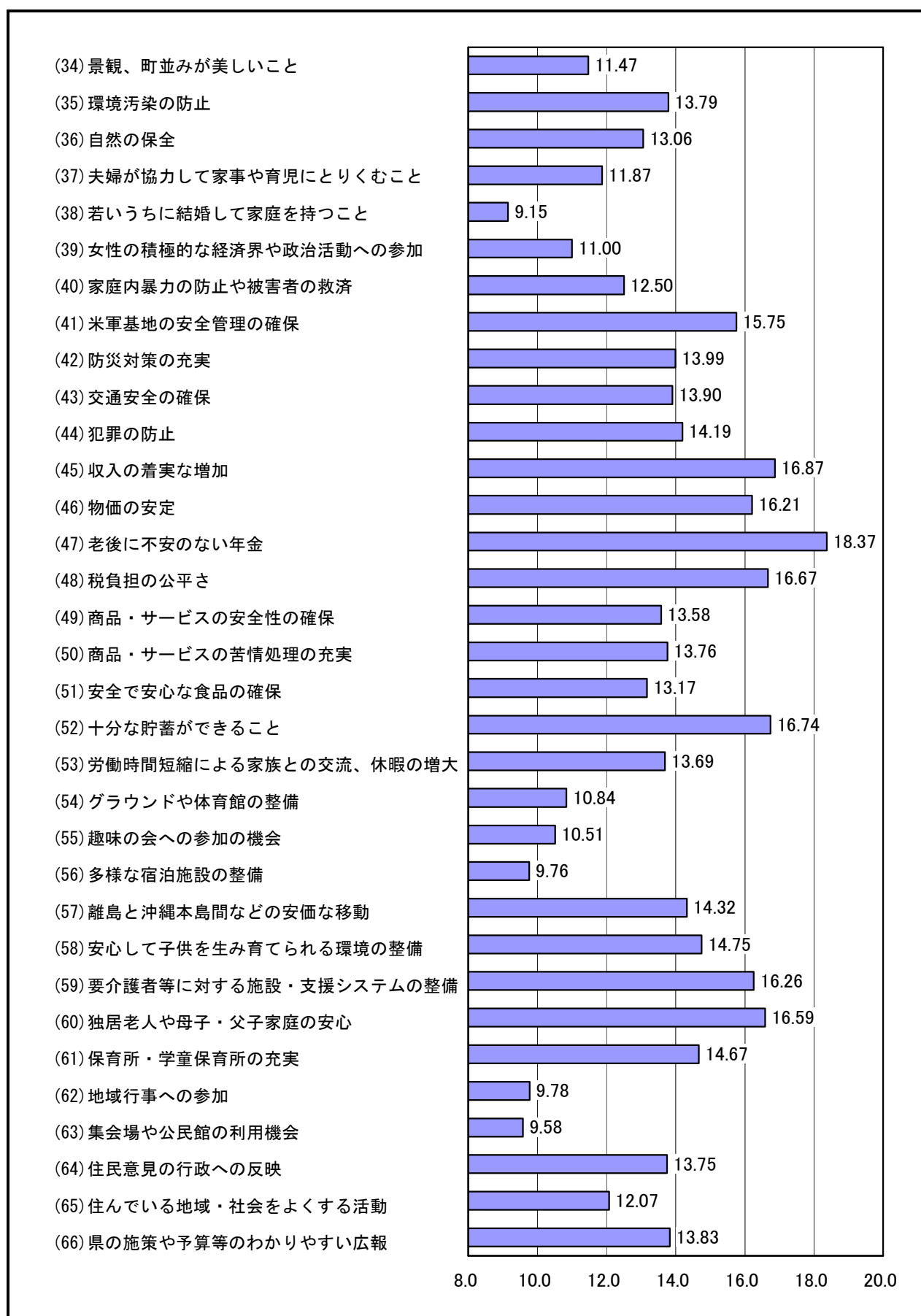


表 2 - 3 - 1 ニーズ得点

領域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
医療と保健	(1) 体力の維持・増強	12.12	4.90	40.5	12.68
	(2) 精神的緊張が少ないこと	12.53	5.56	44.4	
	(3) 費用の心配のない医療	13.72	5.82	42.4	
	(4) 良質な診療・治療	12.98	4.99	38.4	
	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	11.88	4.90	41.2	
	(6) 救急患者の適切な治療	12.77	4.82	37.8	
教育・文化・国際協力	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	10.82	4.58	42.3	12.31
	(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	12.55	5.07	40.4	
	(9) 外国語教育の充実	12.11	4.89	40.4	
	(10) 大学教育の開放	12.87	5.50	42.7	
	(11) 各種・専修学校の充実	13.01	5.68	43.6	
	(12) 青少年の非行や犯罪の防止	15.62	5.67	36.3	
	(13) 文化施設の整備	10.97	5.21	47.5	
	(14) 生涯学習の機会	12.23	4.82	39.4	
労働・雇用	(15) 伝統工芸の振興	11.31	4.65	41.1	
	(16) 失業の不安の解消	16.90	6.39	37.8	14.71
	(17) 仕事のやりがい	14.84	6.13	41.3	
	(18) 職場内の安全性	12.72	5.02	39.5	
	(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	15.04	5.76	38.3	
	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	15.51	5.52	35.6	
	(21) 職業・居住地選択の自由	14.35	6.05	42.2	
生活環境	(22) 職業紹介・訓練の充実	14.60	5.40	37.0	
	(23) 持ち家の取得	12.08	6.71	55.5	10.97
	(24) 各家族員の個室の確保	10.84	6.10	56.3	
	(25) 良好な住環境	10.93	5.53	50.6	
	(26) 交通機関の利便性	10.70	5.30	49.5	
	(27) 渋滞の解消	11.67	5.58	47.8	
	(28) 買物の利便性	9.41	4.85	51.6	
	(29) 生活情報の得やすさ	10.54	4.48	42.5	
	(30) 水使用の安心	9.17	4.36	47.5	
	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	10.91	4.42	40.5	
	(32) 下水道の整備	10.37	5.03	48.6	
	(33) 公園や親しめる自然環境	10.79	5.19	48.1	
	(34) 景観、町並みが美しいこと	11.47	4.81	42.0	
(35) 環境汚染の防止	13.79	5.69	41.3		
(36) 自然の保全	13.06	4.97	38.1		

表 2-3-1 ニーズ得点(続き)

領域	項 目	平均得点 (M)	標準偏差 (σ)	変動係数 (σ/M)	領域別 平均得点
男女参 画同	(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	11.87	5.16	43.5	10.97
	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと	9.15	3.94	43.0	
	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	11.00	4.33	39.4	
	(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	12.50	5.05	40.4	
個 人 の 安 全 と 保 護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	15.75	6.18	39.3	14.41
	(42) 防災対策の充実	13.99	4.90	35.0	
	(43) 交通安全の確保	13.90	5.07	36.5	
	(44) 犯罪の防止	14.19	5.12	36.1	
収 入 と 消 費 生 活	(45) 収入の着実な増加	16.87	5.73	34.0	15.41
	(46) 物価の安定	16.21	5.48	33.8	
	(47) 老後に不安のない年金	18.37	5.86	31.9	
	(48) 税負担の公平さ	16.67	5.76	34.6	
	(49) 商品・サービスの安全性の確保	13.58	4.84	35.7	
	(50) 商品・サービスの苦情処理の充実	13.76	4.99	36.2	
	(51) 安全で安心な食品の確保	13.17	4.70	35.7	
	(52) 十分な貯蓄ができること	16.74	5.85	34.9	
休 暇 と 余 暇	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	13.69	5.80	42.4	11.83
	(54) グラウンドや体育館の整備	10.84	5.09	46.9	
	(55) 趣味の会への参加の機会	10.51	4.60	43.7	
	(56) 多様な宿泊施設の整備	9.76	4.49	46.0	
	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動	14.32	6.05	42.3	
社 会 福 祉	(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備	14.75	5.52	37.4	15.53
	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	16.26	5.68	34.9	
	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	16.59	5.49	33.1	
	(61) 保育所・学童保育所の充実	14.67	5.71	38.9	
地 域 活 動	(62) 地域行事への参加	9.78	4.24	43.4	11.82
	(63) 集会場や公民館の利用機会	9.58	4.22	44.1	
	(64) 住民意見の行政への反映	13.75	4.93	35.9	
	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	12.07	4.46	37.0	
	(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報	13.83	5.22	37.7	

(1) ニーズ得点の高い項目と低い項目

ニーズ得点の高い項目と低い項目をそれぞれ 15 項目抜き出し、過去の結果と比較したのが表 2-3-2 と表 2-3-3 である。

表 2-3-2 でニーズ得点の高い項目をみると、1 位は「(47) 老後に不安のない年金」、2 位は「(16) 失業の不安の解消」で、以下、「(45) 収入の着実な増加」、「(52) 十分な貯蓄ができること」、「(48) 税負担の公平さ」、「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」、「(59)

要介護者等に対する施設・支援システムの整備」、「(46) 物価の安定」と続いている。上位15項目のうち、1位、3～5位、8位の5項目は「収入と消費生活」の領域が占めているほか、「労働・雇用」と「社会福祉」の領域もそれぞれ4項目と多い。

今回1位の「(47) 老後に不安のない年金」は前々回2位、前回1位で、今回2位の「(16) 失業の不安の解消」は前々回1位、前回2位と、引き続きニーズの高いものである。

その他の項目について前回調査と比較してみると、「(45) 収入の着実な増加」(前々回4位→前回7位→今回3位)、「(52) 十分な貯蓄ができること」(同3位→6位→4位)は前々回から前回にかけて順位を下げたが、今回は順位が上昇している。また、「社会福祉」の領域である「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」(前回9位→今回6位)、「(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備」(同11位→7位)、「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」(同20位→14位)、「(61) 保育所・学童保育所の充実」(同34位→15位)は、すべてニーズが高まっている。

なお、前回13位の「(44) 犯罪の防止」は今回19位、前回15位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」は今回16位と、上位15位グループからはずれた。

表2-3-2 ニーズ得点の高い項目

領域	項目	平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点
収入と消費生活	(47) 老後に不安のない年金	2	16.78	1	18.66	1	18.37
労働・雇用	(16) 失業の不安の解消	1	16.82	2	17.45	2	16.90
収入と消費生活	(45) 収入の着実な増加	4	15.91	7	16.85	3	16.87
収入と消費生活	(52) 十分な貯蓄ができること	3	16.25	6	16.93	4	16.74
収入と消費生活	(48) 税負担の公平さ	5	15.87	3	17.19	5	16.67
社会福祉	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	6	15.78	9	15.92	6	16.59
社会福祉	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	7	15.76	11	15.42	7	16.26
収入と消費生活	(46) 物価の安定	15	14.76	8	16.12	8	16.21
安全と個人の保護	(41) 米軍基地の安全管理の確保	14	14.94	5	17.00	9	15.75
教育・文化・国際協力	(12) 青少年の非行や犯罪の防止(※)	9	15.50	4	17.06	10	15.62
労働・雇用	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	10	15.22	10	15.64	11	15.51
労働・雇用	(19) 仕事と子育てが両立しやすい労働条件・職場環境	*	*	13	14.82	12	15.04
労働・雇用	(17) 仕事のやりがい	13	15.07	12	15.36	13	14.84
社会福祉	(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備	28	13.12	20	13.96	14	14.75
社会福祉	(61) 保育所・学童保育所の充実	27	13.40	34	12.87	15	14.67
平成16年の上位15項目の中で、15位グループから後退した項目							
領域	項目			前回 順位		今回 順位	
安全と個人の保護	(44) 犯罪の防止			13		19	
労働・雇用	(22) 職業紹介・訓練の充実			15		16	
(注1) ※印(12)は表現の変更があった項目							

一方、表2-3-3でニーズ得点の低い項目を下位から順を追ってみると、今回新規項目の「(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと」が1位で、ニーズの最も低い項目となっている。今回2位～5位の「(30) 水使用の安心」、「(28) 買物の利便性」、「(63) 集会場や公民館の利用機会」、「(56) 多様な宿泊施設の整備」は前回から引き続き、ニーズの低い項目となっている。

前回調査との比較でみると、前々回、前回と1位の「(62) 地域行事への参加」が今回6位とニーズが上昇している。このほか「(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実」(同5位→12位)もニーズが上昇している。

なお、ニーズ得点の低い項目には充足度の高い項目が目立つが、「(62) 地域行事への参加」、「(63) 集会場や公民館の利用機会」のように、充足度が高いが重要度は低い項目もあれば、「(30) 水使用の安心」のように、充足度が高く重要度も高い項目もある。

表2-3-3 ニーズ得点の低い項目

領域	項目	平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点
男女共同参画	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと(新規)	*	*	*	*	1	9.15
生活環境	(30) 水使用の安心	3	9.62	4	9.61	2	9.17
生活環境	(28) 買物の利便性	5	9.91	2	9.45	3	9.41
地域活動	(63) 集会場や公民館の利用機会	2	9.52	3	9.49	4	9.58
休暇と余暇	(56) 多様な宿泊施設の整備	13	11.46	6	10.72	5	9.76
地域活動	(62) 地域行事への参加	1	8.99	1	9.33	6	9.78
生活環境	(32) 下水道の整備	19	11.80	7	10.77	7	10.37
休暇と余暇	(55) 趣味の会への参加の機会	15	11.56	11	11.07	8	10.51
生活環境	(29) 生活情報の得やすさ	8	11.05	8	10.85	9	10.54
生活環境	(26) 交通機関の利便性	11	11.40	10	11.06	10	10.70
生活環境	(33) 公園や親しめる自然環境	25	12.42	13	11.33	11	10.79
教育・文化・国際協力	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	6	10.16	5	10.67	12	10.82
生活環境	(24) 各家族員の個室の確保	12	11.44	9	10.87	13	10.84
休暇と余暇	(54) グラウンドや体育館の整備	17	11.59	15	11.48	13	10.84
生活環境	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	40	13.69	17	11.63	15	10.91
平成16年の下位15項目の中で、16位以上に上げた項目							
領域	項目			前回 順位		今回 順位	
教育・文化・国際協力	(15) 伝統工芸の振興			12		19	
生活環境	(25) 良好な住環境			14		16	

(2) 領域別の比較

領域ごとのニーズ得点の平均得点と上下15位に入った項目の数について、前回と今回の結果を比較表示したものが表2-3-4である。

各領域の平均得点をみると、「社会福祉」、「収入と消費生活」、「労働・雇用」などが上位に位置し、「男女共同参画」、「生活環境」、「地域活動」、「休暇と余暇」などが下位に位置している。前回調査と比較すると、前回4位の「社会福祉」が1位に上がり、2位～4位の「収入と消費生活」、「労働・雇用」、「安全と個人の保護」が、それぞれ1つずつ順位を下

げている。また、前回7位の「男女共同参画」が9位に下がり、前回10位の「地域活動」が8位に上がっている。

領域別に上下15位に入った項目数をみると、最も得点の高い「社会福祉」領域では4項目中全項目が入っている。今回順位を1つずつ落としたものの、2位の「収入と消費生活」では8項目中5項目、3位の「労働・雇用」では7項目中4項目と過半数が入っており、各領域の平均得点の値と領域別上位項目数との相関が強いことがわかる。一方、下位15位に入った項目数では9位の「生活環境」と7位の「休暇と余暇」では過半数の項目が入っている。

平均点が最も高い「社会福祉」領域と最も低い「生活環境」及び「男女共同参画」領域の得点差は4.56ポイントで、前回の4.43ポイントから大きな変化はない。

表2-3-4 領域別にみたニーズ得点

今回 順位	領 域	前回 順位	領域ごとの 平均得点		上位15位に入った 項目数		下位15位に入った 項目数	
			平成16年	平成21年	平成16年	平成21年	平成16年	平成21年
1	社会福祉	4	14.50	15.53	2/4	4/4	0/4	0/4
2	収入と消費生活	1	15.82	15.41	5/8	5/8	0/8	0/8
3	労働・雇用	2	15.03	14.71	5/7	4/7	0/7	0/7
4	安全と個人の保護	3	14.84	14.41	2/4	1/4	0/4	0/4
5	医療と保健	5	12.77	12.68	0/6	0/6	0/6	0/6
6	教育・文化・国際交流	6	12.67	12.31	1/9	1/9	2/9	1/9
7	休暇と余暇	8	11.91	11.83	0/4	0/5	3/4	3/5
8	地域活動	10	11.39	11.82	0/4	0/5	2/4	2/5
9	生活環境	9	11.54	10.97	0/14	0/14	8/14	8/14
9	男女共同参画	7	12.31	10.97	0/3	0/4	0/3	1/4

(注) 項目数の表記は(該当する項目数)/(領域の項目数)

(3) 地域別の比較

次に、表2-3-5で領域別のニーズ得点を地域別にみると、10領域平均のニーズ得点は、宮古が最も高く、以下、那覇市、八重山、中部、南部、北部の順になっている。宮古では「労働と雇用」、「男女共同参画」、「収入と消費生活」、「休暇と余暇」、「地域活動」の5領域で最も高いほか、「医療と保健」、「教育・文化・国際交流」、「生活環境」が2位のニーズ得点となっている。続く、那覇市は「生活環境」、「安全と個人の保護」、「社会福祉」で最も高いほか、「医療と保健」、「労働・雇用」、「休暇と余暇」、「地域活動」が2位のニーズ得点となっている。八重山は「医療と保健」、「教育・文化・国際交流」の2領域で最も高いほか、「収入と消費生活」、「社会福祉」が2位のニーズ得点となっている。

一方、10領域平均のニーズ得点が最も低い北部と次に低い南部では、特にニーズ得点の高い領域はなく、いずれの領域についても中位、下位のニーズ得点となっている。また、

中部では「男女共同参画」、「安全と個人の保護」のニーズが高いが、「休暇と余暇」は低くなっている。

表 2-3-5 地域別・領域別のニーズ得点

領域	北部		中部		那覇市		南部		宮古		八重山		県計
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
医療と保健	5	12.60	4	12.70	2	12.73	6	12.49	2	12.73	1	13.13	12.68
教育・文化・国際交流	6	11.72	4	12.23	3	12.61	5	11.92	2	13.17	1	13.95	12.31
労働・雇用	6	13.98	4	14.78	2	14.95	5	14.32	1	15.88	3	14.86	14.71
生活環境	4	10.97	3	11.04	1	11.42	6	10.36	2	11.10	5	10.45	10.97
男女共同参画	6	10.07	2	11.19	3	11.01	5	10.72	1	11.81	4	10.92	10.97
安全と個人の保護	5	13.49	2	14.64	1	15.15	4	13.69	6	12.97	3	14.01	14.41
収入と消費生活	5	15.01	4	15.44	3	15.75	6	14.83	1	16.29	2	16.00	15.41
休暇と余暇	6	11.43	5	11.63	2	12.06	3	11.95	1	13.35	4	11.68	11.83
社会福祉	6	14.70	3	15.60	1	16.16	5	15.02	4	15.27	2	15.92	15.53
地域活動	3	12.22	4	11.59	2	12.30	6	11.24	1	13.92	5	11.48	11.82
計	6	12.62	4	13.08	2	13.41	5	12.65	1	13.65	3	13.24	13.06

(注) 順位は各領域の地域間の順位である。

次に、各地域について具体的項目の順位を高い順に示したものが表 2-3-6 である。県平均で最もニーズ得点の高い「(47) 老後に不安のない年金」はすべての地域で 1 位を占め、地域に関係なくニーズの高いものとなっている。県平均で 2 位の「(16) 失業の不安の解消」は中部、南部で 2 位、北部で 3 位、那覇市、宮古で 5 位と比較的上位にあるが、八重山では 10 位とややニーズが低い。同様に、県平均で 5 位の「(48) 税負担の公平さ」も八重山で 9 位と他の地域に比べてニーズはやや低くなっている。県平均で 3 位の「(45) 収入の着実な増加」は各地域で 2 位～6 位、県平均で 4 位の「(52) 十分な貯蓄ができること」は各地域で 3 位～7 位と、地域を問わずニーズが高い。

各地域のニーズ得点の順位について県平均と比較すると以下のような特徴がみられる。

北部では、県平均 16 位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」が 9 位のほか、県平均 23 位の「(35) 環境汚染の防止」及び県平均 31 位の「(11) 各種・専修学校の充実」が 15 位、県平均 25 位の「(64) 住民意見の行政への反映」が 17 位と県平均に比べて高いニーズとなっている。一方、「(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境」、「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」、「(61) 保育所・学童保育所の充実」、「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」のニーズがやや低いほか、「(44) 犯罪の防止」、「(43) 交通安全の確保」、「(10) 大学教育の開放」などは県平均の順位を大きく下回っている。

中部では、比較的県平均の順位と類似した序列傾向にあるが、県平均 5 位の「(48) 税負担の公平さ」が 3 位とやや高いニーズとなっている。一方、「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」はニーズが低くなっている。

那覇市では、県平均6位の「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」が3位のほか、県平均27位の「(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大」が20位と県平均に比べてやや高いニーズとなっている。一方、「(11) 各種・専修学校の充実」などのニーズは低く、県平均の順位を大きく下回っている。

南部では、県平均18位の「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」が12位、県平均27位の「(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大」が18位、県平均28位の「(49) 商品・サービスの安全性の確保」が22位、県平均31位の「(11) 各種・専修学校の充実」が25位と県平均に比べてやや高いニーズとなっている。一方、「(44) 犯罪の防止」、「(35) 環境汚染の防止」のニーズはやや低くなっている。

宮古では、県平均18位の「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」が2位、県平均16位の「(22) 職業紹介・訓練の充実」が7位と上位のニーズとなっているほか、県平均31位の「(11) 各種・専修学校の充実」が10位、県平均25位の「(64) 住民意見の行政への反映」が14位、県平均32位の「(4) 良質な診療・治療」が21位、県平均43位の「(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動」が22位、県平均39位の「(14) 生涯学習の機会」が24位と県平均に比べて高いニーズとなっている。一方、「(41) 米軍基地の安全管理の確保」、「(44) 犯罪の防止」、「(43) 交通安全の確保」、「(35) 環境汚染の防止」、「(2) 精神的緊張が少ないこと」、「(9) 外国語教育の充実」、「(27) 渋滞の解消」などは県平均の順位を大きく下回り、傾向が異なっている。

八重山でも、県平均18位の「(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動」が2位、県平均31位の「(11) 各種・専修学校の充実」が8位と上位のニーズとなっているほか、県平均28位の「(49) 商品・サービスの安全性の確保」が18位、県平均33位の「(10) 大学教育の開放」が21位、県平均32位の「(4) 良質な診療・治療」が22位、県平均34位の「(6) 救急患者の適切な治療」が23位と県平均に比べて高いニーズとなっている。一方、「(16) 失業の不安の解消」がやや低いほか、「(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境」、「(44) 犯罪の防止」、「(43) 交通安全の確保」、「(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大」などは県平均の順位を大きく下回り、傾向が異なっている。

さらに、県平均下位の項目についても地域により順位は異なっている。全体として地域別のニーズ得点は、本島と離島、都市部とへき地、米軍基地の有無または占有割合などによって、項目ごとの重要度や充足度の地域差が大きく、ニーズに違いがみられるものが多い。

表2-3-6 地域別・項目別ニーズ得点順位表

項 目	県計 順位	地 域 別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(47) 老後に不安のない年金	1	1	1	1	1	1	1
(16) 失業の不安の解消	2	3	2	5	2	5	10
(45) 収入の着実な増加	3	2	4	2	3	6	3
(52) 十分な貯蓄ができること	4	3	5	4	7	3	4
(48) 税負担の公平さ	5	5	3	6	5	4	9
(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	6	7	6	3	4	9	5
(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	7	12	8	7	6	12	6
(46) 物価の安定	8	6	7	9	8	8	7
(41) 米軍基地の安全管理の確保	9	8	9	10	10	44	14
(12) 青少年の非行や犯罪の防止	10	10	11	8	14	13	11
(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	11	11	10	11	9	11	13
(19) 仕事と子育てが両立し易い労働条件・職場環境	12	19	12	12	11	19	24
(17) 仕事のやりがい	13	12	13	16	13	17	19
(58) 安心して子供を生み育てられる環境の整備	14	21	14	13	16	20	15
(61) 保育所・学童保育所の充実	15	22	15	15	17	23	16
(22) 職業紹介・訓練の充実	16	9	18	21	15	7	12
(21) 職業・居住地選択の自由	17	14	17	24	19	16	20
(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動	18	25	25	19	12	2	2
(44) 犯罪の防止	19	31	16	14	27	39	36
(42) 防災対策の充実	20	23	22	18	20	27	28
(43) 交通安全の確保	21	32	19	17	26	31	35
(66) 県関連情報の分かりやすい広報	22	18	26	24	24	15	17
(35) 環境汚染の防止	23	15	21	22	32	33	27
(50) 商品・サービス、不当な勧誘等の苦情処理充実	24	24	20	28	23	18	26
(64) 住民意見の行政への反映	25	17	28	23	27	14	25
(3) 費用の心配のない医療	26	20	23	27	21	26	32
(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	27	27	27	20	18	32	42
(49) 商品・サービスの安全性の確保	28	28	24	29	22	25	18
(51) 安全で安心な食品の確保	29	29	30	32	29	29	29
(36) 自然の保全	30	37	29	26	34	29	38
(11) 各種・専修学校の充実	31	15	36	49	25	10	8
(4) 良質な診療・治療	32	26	33	37	31	21	22
(10) 大学教育の開放	33	44	31	31	33	38	21
(6) 救急患者の適切な治療	34	33	38	35	30	27	23
(18) 職場内の安全性	35	41	32	33	35	35	37
(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	36	43	37	30	39	41	33
(2) 精神的緊張が少ないこと	37	36	35	39	35	55	40
(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	38	44	34	36	41	42	41
(14) 生涯学習の機会	39	35	45	41	38	24	31
(1) 体力の維持・増強	40	34	41	44	45	49	34
(9) 外国語教育の充実	41	50	40	42	43	52	30
(23) 持ち家の取得	42	29	44	34	47	43	46
(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	43	38	43	40	44	22	49
(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	44	39	46	45	37	34	47
(37) 夫婦が協力して家事や育児にとりくむこと	45	57	42	46	39	46	45
(27) 渋滞の解消	46	58	39	38	48	66	66
(34) 景観、町並みが美しいこと	47	48	47	42	56	40	50
(15) 伝統工芸の振興	48	53	48	50	46	48	51
(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	49	52	50	55	52	44	48
(13) 文化施設の整備	50	40	59	57	42	37	39
(25) 良好な住環境	51	47	49	48	61	62	55
(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	52	51	56	51	49	50	56
(24) 各家族員の個室の確保	53	42	52	47	60	60	57
(54) グラウンドや体育館の整備	53	54	54	53	53	51	58
(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	55	60	52	54	55	59	44
(33) 公園や親しめる自然環境	56	59	57	52	51	47	54
(26) 交通機関の利便性	57	46	51	61	50	58	52
(29) 生活情報の得やすさ	58	56	58	56	57	53	53
(55) 趣味の会への参加の機会	59	55	55	58	58	56	59
(32) 下水道の整備	60	49	60	63	54	36	43
(62) 地域行事への参加	61	62	62	60	63	54	60
(56) 多様な宿泊施設の整備	62	64	61	64	59	61	62
(63) 集会場や公民館の利用機会	63	63	66	59	62	56	61
(28) 買物の利便性	64	61	64	62	64	63	64
(30) 水使用の安心	65	65	63	65	66	65	65
(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと	66	66	65	66	65	64	63

(4) 時系列比較

次に、ニーズ得点の水準が過去3回の調査と比べてどのように変化してきたかを時系列に示したのが表2-3-7である。

今回調査では、重要度、充足度の調査項目に新たに3項目が追加されているため、厳密な比較ができないことに注意する必要がある。

全体を通覧すると、平成7年から11年調査にかけてニーズ得点が増加した項目が多かったが、平成11年から16年調査にかけては増加した項目と低下した項目がほぼ半々となった。今回の調査では前回に比べてニーズ得点が低下した項目が3/4を占めている。また、平成11年から16年のニーズ得点の変動幅が-2.06~+2.06だったのに対し、今回調査では前回(平成16年)からのニーズ得点の変動幅は-1.44~+1.80と縮小している。

項目別にみても、前回調査に比べてニーズ得点の増加が最も大きい項目は、県平均15位の「(61) 保育所・学童保育所の充実」(+1.80)で、以下、同7位の「(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備」(+0.84)、同14位の「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」(+0.79)、同6位の「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」(+0.67)などであり、いずれも「社会福祉」の領域である。このうち、「(58) 安心して子供を産み育てられる環境の整備」と「(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心」は前々回、前回に引き続きニーズ得点が増加している。

一方、前回調査に比べてニーズ得点の減少が最も大きい項目は、県平均10位の「(12) 青少年の非行や犯罪の防止」(-1.44)で、以下、同9位の「(41) 米軍基地の安全管理の確保」(-1.25)、同46位の「(27) 渋滞の解消」(-1.14)、同62位の「(56) 多様な宿泊施設の整備」(-0.96)、同41位の「(9) 外国語教育の充実」(-0.91)、同49位の「(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加」(-0.90)などとなっている。「男女共同参画」、「休暇と余暇」の領域ではすべての項目のニーズ得点が増加しているほか、「教育・文化・国際協力」、「労働・雇用」、「生活環境」、「安全と個人の保護」、「収入と消費生活」の領域でもほとんどの項目で減少している。

また、表2-3-8に示すように、これら項目ごとのニーズ得点の変化を領域別にみると、前回4位の「社会福祉」が1位に上昇した一方、今回2位の「収入と消費生活」、同3位の「労働・雇用」、同4位の「安全と個人の保護」はそれぞれ1ランクニーズが低下している。また、前回7位の「男女共同参画」がニーズ得点、順位ともに低下している。

表2-3-7 ニーズ得点の時系列比較

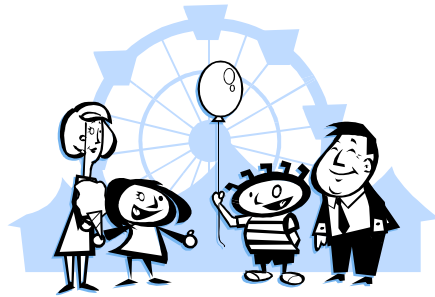
領域	項目	平成7年	平成11年	平成16年	平成21年	11年-7年	16年-11年	21年-16年
医療と保健	(1) 体力の維持・増強	12.32	12.56	12.49	12.12	0.24	-0.07	-0.37
	(2) 精神的緊張が少ないこと	*	12.37	13.00	12.53	*	0.63	-0.47
	(3) 費用の心配のない医療	12.60	13.05	13.61	13.72	0.45	0.56	0.11
	(4) 良質な診療・治療	12.08	12.13	12.98	12.98	0.05	0.85	0.00
	(5) 病気の予防・健康診断・健康相談	11.45	11.48	12.05	11.88	0.03	0.57	-0.17
	(6) 救急患者の適切な治療	12.54	11.99	12.58	12.77	-0.55	0.59	0.19
教育・国際協力・文化	(7) 幼稚園・小・中・高校の施設の充実	10.34	10.16	10.67	10.82	-0.18	0.51	0.15
	(8) 小・中学校及び高校での能力を伸ばす教育	11.94	12.19	12.59	12.55	0.25	0.40	-0.04
	(9) 外国語教育の充実	*	*	13.02	12.11	*	*	-0.91
	(10) 大学教育の開放	12.18	12.82	12.61	12.87	0.64	-0.21	0.26
	(11) 各種・専修学校の充実	12.86	13.64	13.41	13.01	0.78	-0.23	-0.40
	(12) 青少年の非行や犯罪の防止(※)	15.53	15.50	17.06	15.62	-0.03	1.56	-1.44
	(13) 文化施設の整備	12.58	12.66	11.57	10.97	0.08	-1.09	-0.60
	(14) 生涯学習の機会	12.54	12.97	12.48	12.23	0.43	-0.49	-0.25
労働・雇用	(15) 伝統工芸の振興	10.96	11.29	11.32	11.31	0.33	0.03	-0.01
	(16) 失業の不安の解消	15.32	16.82	17.45	16.90	1.50	0.63	-0.55
	(17) 仕事のやりがい	14.35	15.07	15.36	14.84	0.72	0.29	-0.52
	(18) 職場内の安全性	11.90	11.71	13.00	12.72	-0.19	1.29	-0.28
	(19) 仕事と子育てが両立しやすい労働条件・職場環境	11.42	12.93	14.82	15.04	1.51	1.89	0.22
	(20) 高齢者・心身障害者の就業機会	14.16	15.22	15.64	15.51	1.06	0.42	-0.13
	(21) 職業・居住地選択の自由	14.23	15.10	14.62	14.35	0.87	-0.48	-0.27
	(22) 職業紹介・訓練の充実	13.83	15.12	14.67	14.60	1.29	-0.45	-0.07
生活環境	(23) 持ち家の取得	13.33	12.52	11.98	12.08	-0.81	-0.54	0.10
	(24) 各家族員の個室の確保	12.15	11.44	10.87	10.84	-0.71	-0.57	-0.03
	(25) 良好な住環境	11.98	11.35	11.34	10.93	-0.63	-0.01	-0.41
	(26) 交通機関の利便性	11.10	11.40	11.06	10.70	0.30	-0.34	-0.36
	(27) 渋滞の解消	12.46	12.94	12.81	11.67	0.48	-0.13	-1.14
	(28) 買物の利便性	9.29	9.91	9.45	9.41	0.62	-0.46	-0.04
	(29) 生活情報の得やすさ	10.71	11.05	10.85	10.54	0.34	-0.20	-0.31
	(30) 水使用の安心	10.08	9.62	9.61	9.17	-0.46	-0.01	-0.44
	(31) 廃棄物の減量化・リサイクル	*	13.69	11.63	10.91	*	-2.06	-0.72
	(32) 下水道の整備	11.49	11.80	10.77	10.37	0.31	-1.03	-0.40
	(33) 公園や親しめる自然環境	12.03	12.42	11.33	10.79	0.39	-1.09	-0.54
	(34) 景観、町並みが美しいこと	*	*	11.98	11.47	*	*	-0.51
男女共同参画	(35) 環境汚染の防止	13.27	14.19	14.28	13.79	0.92	0.09	-0.49
	(36) 自然の保全	*	13.95	13.79	13.06	*	-0.16	-0.73
	(37) 夫婦が協力で家事や育児にとりくむこと	*	*	12.07	11.87	*	*	-0.20
	(38) 若いうちに結婚して家庭を持つこと(新規)	*	*	*	9.15	*	*	*
安人の安全と保護	(39) 女性の積極的な経済界や政治活動への参加	*	*	11.90	11.00	*	*	-0.90
	(40) 家庭内暴力の防止や被害者の救済	*	*	13.08	12.50	*	*	-0.58
	(41) 米軍基地の安全管理の確保	13.17	14.94	17.00	15.75	1.77	2.06	-1.25
	(42) 防災対策の充実	13.73	14.38	13.71	13.99	0.65	-0.67	0.28
収入と消費生活	(43) 交通安全の確保	14.52	14.69	14.07	13.90	0.17	-0.62	-0.17
	(44) 犯罪の防止	13.06	12.93	14.82	14.19	-0.13	1.89	-0.63
	(45) 収入の着実な増加	15.05	15.91	16.85	16.87	0.86	0.94	0.02
	(46) 物価の安定	15.11	14.76	16.12	16.21	-0.35	1.36	0.09
	(47) 老後に不安のない年金	15.47	16.78	18.66	18.37	1.31	1.88	-0.29
	(48) 税負担の公平さ	15.20	15.87	17.19	16.67	0.67	1.32	-0.52
	(49) 商品・サービスの安全性の確保	12.41	13.09	13.64	13.58	0.68	0.55	-0.06
	(50) 商品・サービスの苦情処理の充実	12.84	13.98	13.89	13.76	1.14	-0.09	-0.13
休暇と余暇	(51) 安全で安心な食品の確保	*	*	13.74	13.17	*	*	-0.57
	(52) 十分な貯蓄ができること	*	16.25	16.93	16.74	*	0.68	-0.19
	(53) 労働時間短縮による家族との交流、休暇の増大	12.95	14.22	13.95	13.69	1.27	-0.27	-0.26
	(54) グラウンドや体育館の整備	11.20	11.59	11.48	10.84	0.39	-0.11	-0.64
	(55) 趣味の会への参加の機会	10.88	11.56	11.07	10.51	0.68	-0.49	-0.56
	(56) 多様な宿泊施設の整備	10.52	11.46	10.72	9.76	0.94	-0.74	-0.96
	(57) 離島と沖縄本島間などの安価な移動(新規)	*	*	*	14.32	*	*	*
社会福祉	(58) 安心して子供を生み育てられる環境の整備	12.26	13.12	13.96	14.75	0.86	0.84	0.79
	(59) 要介護者等に対する施設・支援システムの整備	14.79	15.76	15.42	16.26	0.97	-0.34	0.84
	(60) 独居老人や母子・父子家庭の安心	14.72	15.78	15.92	16.59	1.06	0.14	0.67
	(61) 保育所・学童保育所の充実	11.88	13.40	12.87	14.67	1.52	-0.53	1.80
地域活動	(62) 地域行事への参加	9.07	8.99	9.33	9.78	-0.08	0.34	0.45
	(63) 集会場や公民館の利用機会	9.64	9.52	9.49	9.58	-0.12	-0.03	0.09
	(64) 住民意見の行政への反映	12.97	14.49	14.01	13.75	1.52	-0.48	-0.26
	(65) 住んでいる地域・社会をよくする活動	11.93	12.09	12.27	12.07	0.16	0.18	-0.20
	(66) 県の施策や予算等のわかりやすい広報(新規)	*	*	*	13.83	*	*	*

(注1) ※印(12)は表現の変更があった項目

表 2 - 3 - 8 領域別ニーズ得点の時系列比較

今回 順位	領 域	平成7年		平成11年		平成16年		平成21年	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	社会福祉	4	13.10	2	14.52	4	14.50	1	15.53
2	収入と消費生活	1	14.35	1	15.23	1	15.82	2	15.41
3	労働・雇用	3	13.33	3	14.51	2	15.03	3	14.71
4	安全と個人の保護	2	13.50	4	14.10	3	14.84	4	14.41
5	医療と保健	5	12.20	6	12.26	5	12.77	5	12.68
6	教育・文化・国際交流	7	12.10	5	12.40	6	12.67	6	12.31
7	休暇と余暇	8	11.70	7	12.20	8	11.91	7	11.83
8	地域活動	9	11.25	9	11.54	10	11.39	8	11.82
9	生活環境	6	12.12	8	11.90	9	11.54	9	10.97
9	男女共同参画	*	*	*	*	7	12.31	9	10.97
県 計		12.63		13.18		13.28		13.06	

第3章 施策の優先度、重要度等



第3章 施策の優先度、重要度等

前章までは、県民の生活状態や暮らし向きに対するそれぞれの認識や、生活の各領域に対する重要度、充足度、ニーズ得点などについてみてきた。県民のニーズは身近な生活に直接結びつく基礎的な生活環境の整備のみならず、より多様で高次の問題にも向けられている。これらのニーズを充たすためには、県民個々人の自助努力とともに公の政策の果たす役割が重要である。そのため、本調査では、県や国、市町村等の公的主体に対してどのような要求を持ち、どのような分野に力をいれ、どのような施策を行うべきかといったことなどを尋ねて、政策に対する県民の意向を把握し、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的としている。

本章においては、生活領域別の政策優先度や本県の振興のためにそれぞれの産業にどれくらい力を入れるべきかをみる産業振興度のほか、重点施策、米軍基地、環境保全と負担、地方分権や道州制、介護、「沖縄21世紀ビジョン」実現のための取り組みなどに対する県民の意識についてみていく。

1 生活領域別の政策優先度（問3）

本調査では、県民の生活に関連した10の政策分野について、県や国、市町村の公的機関に力を入れてほしいものを尋ねている。前章においても、生活に関する具体的項目（66項目）を本節と同様に10領域に大分類して分析を行っているが、本章の分析は以下のような点で前章との違いがある。前章で分析した問1や問2では、回答者に各項目の重要度や充足度について、「非常に重要である（非常に満たされている）」から「全く重要でない（ほとんど満たされていない）」までの回答をもとに5段階評価をし、その項目自体の『絶対的評価』を求めており、領域の順位（相対的評価）については、その『絶対的評価』されたものから結果的に算出されたものである。これに対して、本節では10領域についてその『相対的な評価（政策優先度）』を直接求めている。

（1）順位別にみた政策優先度

県や国、市町村の政策として力を入れてほしいものは何かについて、10の生活領域の中から順位をつけて3つ選んでもらった（問3）。

政策として1番目に力を入れてほしい生活領域として最も高かったのは「医療と保健」（33.0%）であり、次いで、「労働・雇用」（26.3%）、「収入と消費生活」（18.1%）、「社会福祉」（9.2%）、「教育・文化・国際交流」（4.3%）が続いている。

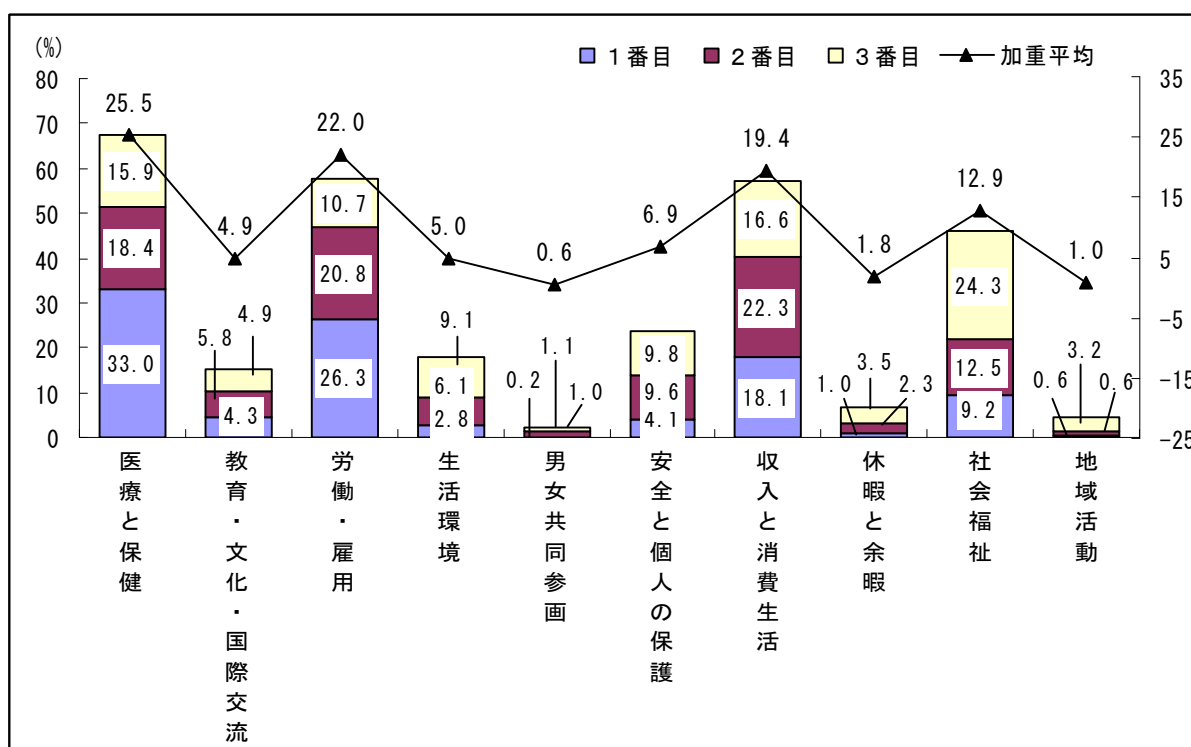
2番目については、「収入と消費生活」（22.3%）が最も高く、次いで、「労働・雇用」（20.8%）、「医療と保健」（18.4%）、「社会福祉」（12.5%）、「安全と個人の保護」（9.6%）が続いている。

3番目については、「社会福祉」（24.3%）が最も高く、次いで、「収入と消費生活」（16.6%）、「医療と保健」（15.9%）、「労働・雇用」（10.7%）、「安全と個人の保護」（9.8%）が続い

ている。

選択領域を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウェイトづけをし、各領域の加重平均を求め、グラフにしたのが図3-1-1である。このように算出した政策優先度では、「医療と保健」が25.5と最も高く、以下、「労働・雇用」(22.0)、「収入と消費生活」(19.4)、「社会福祉」(12.9)、「安全と個人の保護」(6.9)と前回調査同様、生活の基礎的ニーズに関する領域の優先度が高い傾向にあり、「生活環境」(5.0)、「教育・文化・国際交流」(4.9)、「休暇と余暇」(1.8)、「地域活動」(1.0)、「男女共同参画」(0.6)などの生活の質的向上に関する領域の優先度は低い傾向にある。

図3-1-1 生活領域別の政策優先度（県計）

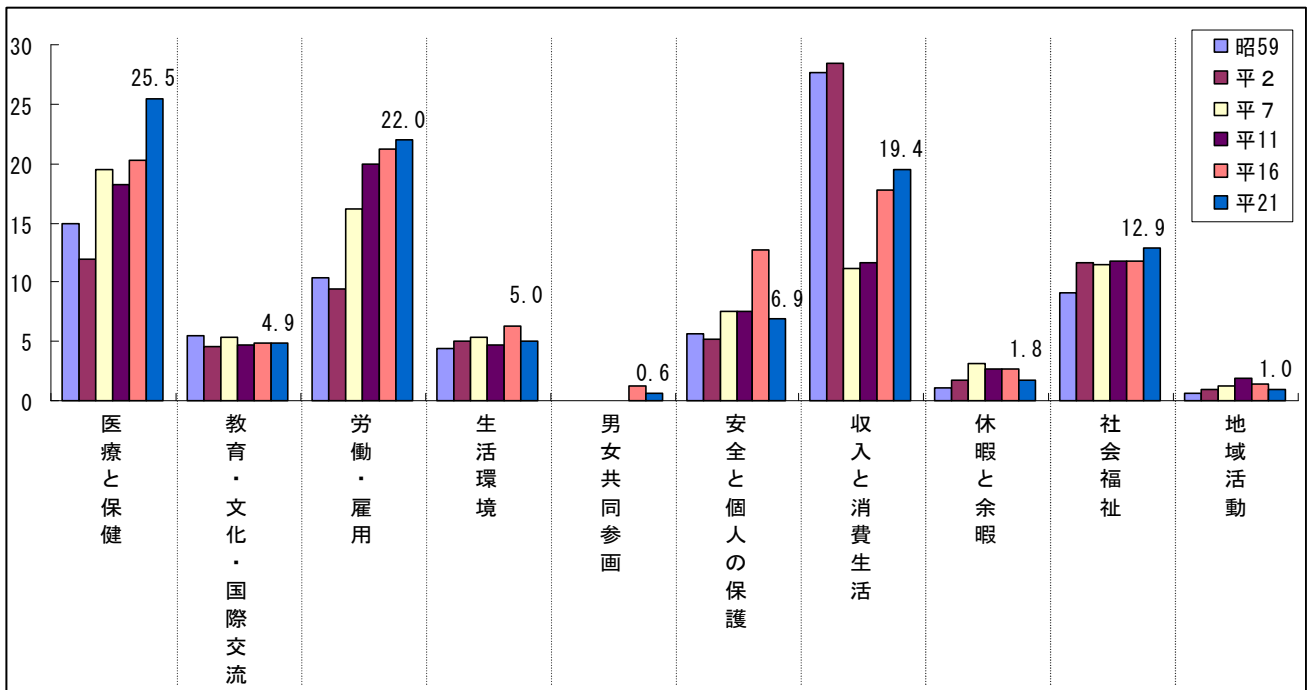


(2) 政策優先度の推移

生活領域別の政策優先度加重平均の推移を時系列で見ると、図3-1-2のとおりである。

今回1位、2位の「医療と保健」と「労働・雇用」は、順位の入替わりがあるものの前回、前々回も1位、2位にあり、引き続き政策優先度は高い。「労働・雇用」の加重平均値は前回と同水準にあるが、「医療と保健」の加重平均値は前回より5.3ポイント増加している。また、前回5位の「安全と個人の保護」は今回5.8ポイント減で5位に後退した。

図3-1-2 加重平均でみた政策優先度の推移

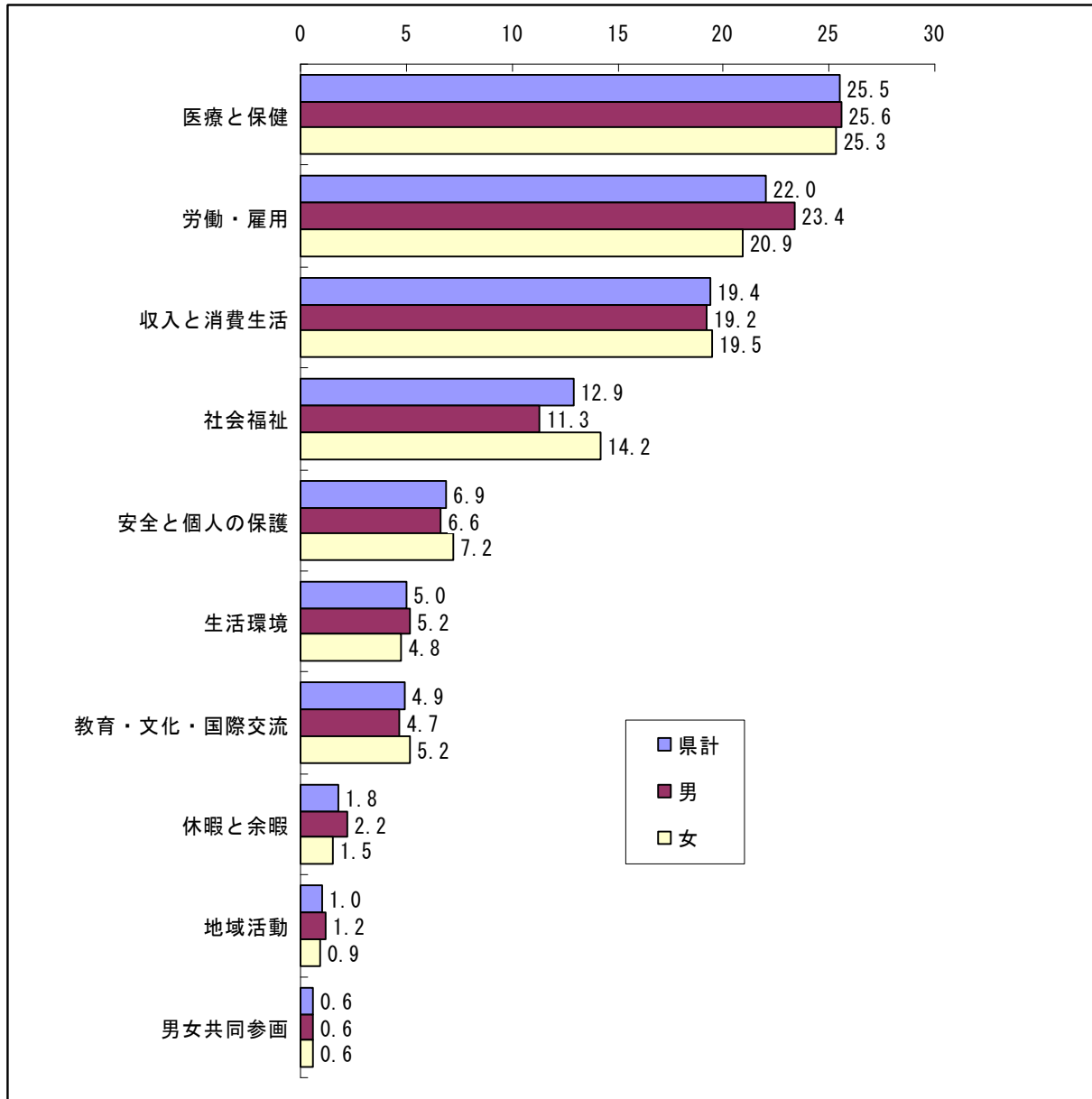


(3) 性別でみた政策優先度

各領域における政策優先順位を性別に加重平均で比較したのが図3-1-3である。

性別で見ると、「労働・雇用」が女性に比べ男性が2.5ポイント高く、「社会福祉」が男性に比べ女性が2.9ポイント高いほか、際立った差はみられない。

図3-1-3 性別加重平均でみた政策優先度



(4) 年齢別でみた政策優先度

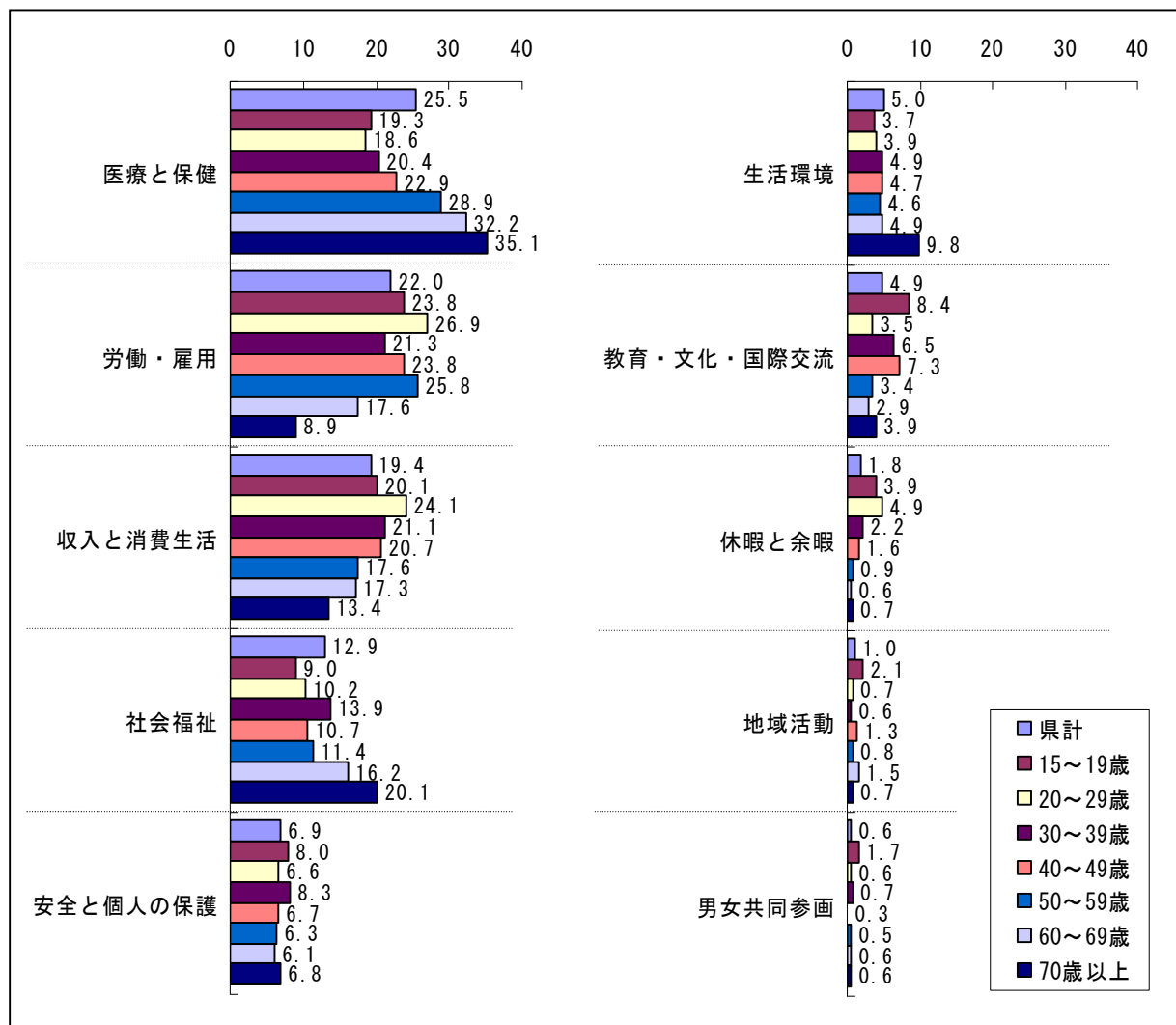
各領域における政策優先順位を年齢別に加重平均で比較したのが図3-1-4である。

年齢別でみると、県平均で1位の「医療と保健」は年齢が高くなるにつれ優先度も高くなり、50歳代以上では1位の政策優先領域となっている。県平均で2位の「労働・雇用」は40歳代以下で1位にあげられているが、値は、20～29歳と50～59歳で高く、60歳代以上では低くなっている。県平均で3位の「収入と消費生活」は各年齢層で2～3位と優先度は高いが、その値は20～29歳を中心に40歳代以下の年齢層で高く、50歳代以上で低くなっている。県平均で4位の「社会福祉」は、70歳以上では2位の政策優先領域となっている。

このほか、「生活環境」は70歳以上で高く、「教育・文化・国際交流」は15～19歳及び30～40歳代で高くなっている。

「医療と保健」、「労働・雇用」、「収入と消費生活」、「社会福祉」はすべての年齢層で上位4位に入っているが、順位や値は様々で、年齢層の違いにより、政策に対するニーズが異なっていることがわかる。

図3-1-4 年齢別加重平均でみた政策優先度

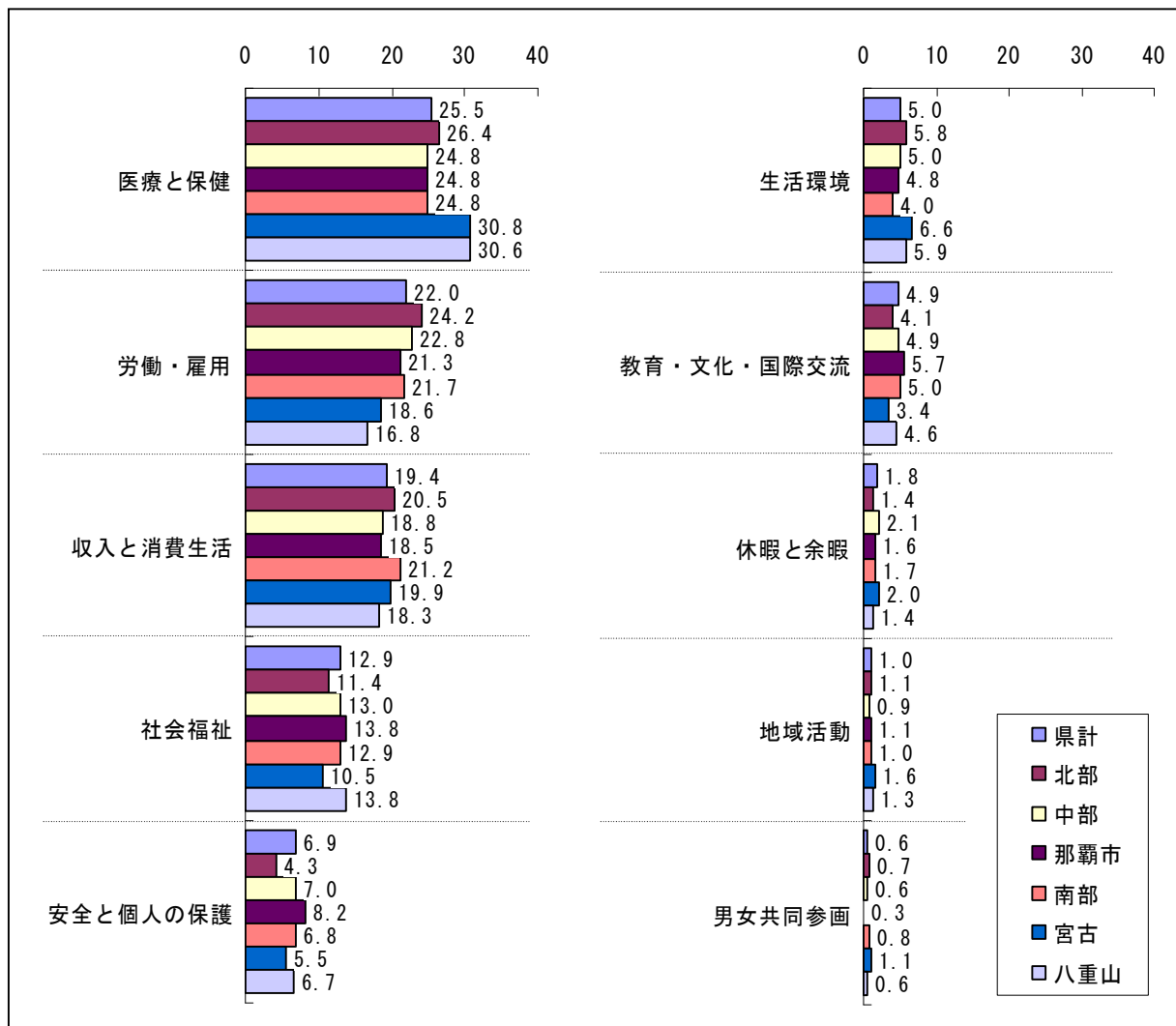


(5) 地域別でみた政策優先度

各領域における政策優先順位を地域別に加重平均で比較したのが図3-1-5である。

地域別でみると、県平均で1～3位の「医療と保健」、「労働・雇用」、「収入と消費生活」が各地域に共通して上位の政策優先領域としてあげられている。「医療と保健」は全地域で1位にあげられているが、宮古と八重山の値が目立って高い。「労働・雇用」は宮古と八重山の値が低く3位となっているが、他の地域では2位にあげられている。「収入と消費生活」は宮古と八重山で2位、他の地域で3位の政策優先領域となっているが、値の地域差は小さい。

図3-1-5 地域別加重平均でみた政策優先度



(6) 年収別でみた政策優先度

各領域における政策優先順位を年収別に加重平均で比較したのが図3-1-6である。

県平均1位の「医療と保健」は600～700万円未満を除く各層で1位にあげられ、600～700万円未満でも2位と、各層に共通して高い政策優先領域となっている。県平均2位の「労働・雇用」は600～700万円未満での優先度が1位と高いほか、1,000万円以上でも同水準となっている。県平均3位の「収入と消費生活」は400～500万円未満では2位、それ以外では3位の政策優先領域となっているが、値は100～600万円未満で高くなっている。

一方、「教育・文化・国際交流」は全体的に優先度は低いが、年収が高くなるにつれ優先度が高くなり、800～900万円未満で最も高くなっている。

図3-1-6 年収別加重平均でみた政策優先度

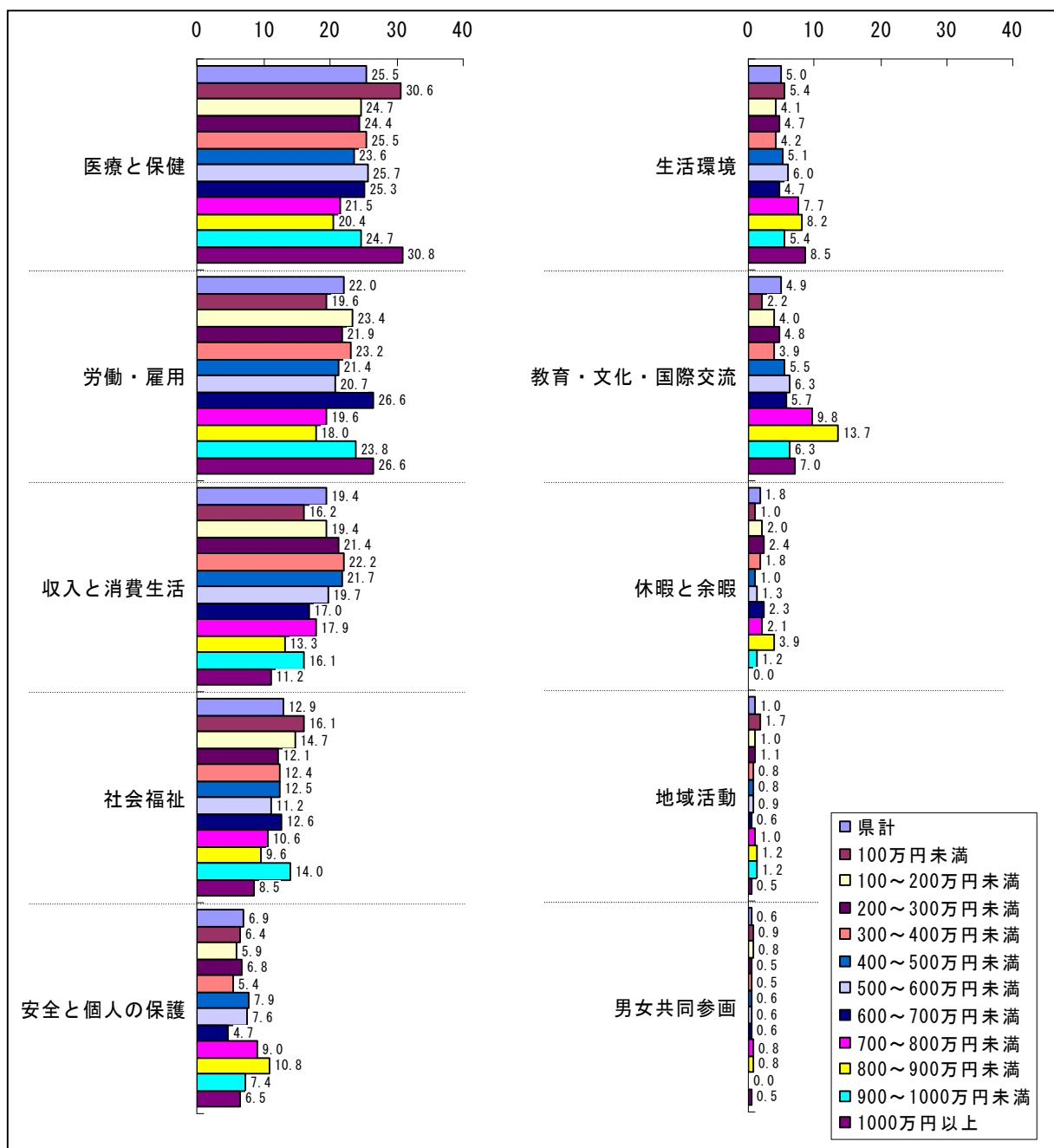


表3-1-1 県計、時系列、属性別にみた政策優先度

(%)

	【県計】			
	1番目	2番目	3番目	合計
医療と保健	33.0	18.4	15.9	67.3
教育・文化・国際交流	4.3	5.8	4.9	15.0
労働・雇用	26.3	20.8	10.7	57.8
生活環境	2.8	6.1	9.1	18.0
男女共同参画	0.2	1.0	1.1	2.3
安全と個人の保護	4.1	9.6	9.8	23.5
収入と消費生活	18.1	22.3	16.6	57.0
休暇と余暇	1.0	2.3	3.5	6.8
社会福祉	9.2	12.5	24.3	46.0
地域活動	0.6	0.6	3.2	4.4

	【県計加重平均の推移】				【性別加重平均】		【年齢別加重平均】						
	平成7年	平成11年	平成16年	平成21年	男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
医療と保健	19.5	18.2	20.2	25.5	25.6	25.3	19.3	18.6	20.4	22.9	28.9	32.2	35.1
教育・文化・国際交流	5.4	4.7	4.9	4.9	4.7	5.2	8.4	3.5	6.5	7.3	3.4	2.9	3.9
労働・雇用	16.2	19.9	21.2	22.0	23.4	20.9	23.8	26.9	21.3	23.8	25.8	17.6	8.9
生活環境	5.3	4.8	6.3	5.0	5.2	4.8	3.7	3.9	4.9	4.7	4.6	4.9	9.8
男女共同参画	*	*	1.2	0.6	0.6	0.6	1.7	0.6	0.7	0.3	0.5	0.6	0.6
安全と個人の保護	7.5	7.5	12.7	6.9	6.6	7.2	8.0	6.6	8.3	6.7	6.3	6.1	6.8
収入と消費生活	11.1	11.6	17.7	19.4	19.2	19.5	20.1	24.1	21.1	20.7	17.6	17.3	13.4
休暇と余暇	3.1	2.7	2.7	1.8	2.2	1.5	3.9	4.9	2.2	1.6	0.9	0.6	0.7
社会福祉	11.4	11.8	11.8	12.9	11.3	14.2	9.0	10.2	13.9	10.7	11.4	16.2	20.1
地域活動	1.2	1.9	1.4	1.0	1.2	0.9	2.1	0.7	0.6	1.3	0.8	1.5	0.7

	【地域別加重平均】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
医療と保健	26.4	24.8	24.8	24.8	30.8	30.6
教育・文化・国際交流	4.1	4.9	5.7	5.0	3.4	4.6
労働・雇用	24.2	22.8	21.3	21.7	18.6	16.8
生活環境	5.8	5.0	4.8	4.0	6.6	5.9
男女共同参画	0.7	0.6	0.3	0.8	1.1	0.6
安全と個人の保護	4.3	7.0	8.2	6.8	5.5	6.7
収入と消費生活	20.5	18.8	18.5	21.2	19.9	18.3
休暇と余暇	1.4	2.1	1.6	1.7	2.0	1.4
社会福祉	11.4	13.0	13.8	12.9	10.5	13.8
地域活動	1.1	0.9	1.1	1.0	1.6	1.3

	【年収別加重平均】										
	100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1,000万円未満	1,000万円以上
医療と保健	30.6	24.7	24.4	25.5	23.6	25.7	25.3	21.5	20.4	24.7	30.8
教育・文化・国際交流	2.2	4.0	4.8	3.9	5.5	6.3	5.7	9.8	13.7	6.3	7.0
労働・雇用	19.6	23.4	21.9	23.2	21.4	20.7	26.6	19.6	18.0	23.8	26.6
生活環境	5.4	4.1	4.7	4.2	5.1	6.0	4.7	7.7	8.2	5.4	8.5
男女共同参画	0.9	0.8	0.5	0.5	0.6	0.6	0.6	0.8	0.8	0.0	0.5
安全と個人の保護	6.4	5.9	6.8	5.4	7.9	7.6	4.7	9.0	10.8	7.4	6.5
収入と消費生活	16.2	19.4	21.4	22.2	21.7	19.7	17.0	17.9	13.3	16.1	11.2
休暇と余暇	1.0	2.0	2.4	1.8	1.0	1.3	2.3	2.1	3.9	1.2	0.0
社会福祉	16.1	14.7	12.1	12.4	12.5	11.2	12.6	10.6	9.6	14.0	8.5
地域活動	1.7	1.0	1.1	0.8	0.8	0.9	0.6	1.0	1.2	1.2	0.5

表3-1-2 属性別にみた政策優先度（上位5位）

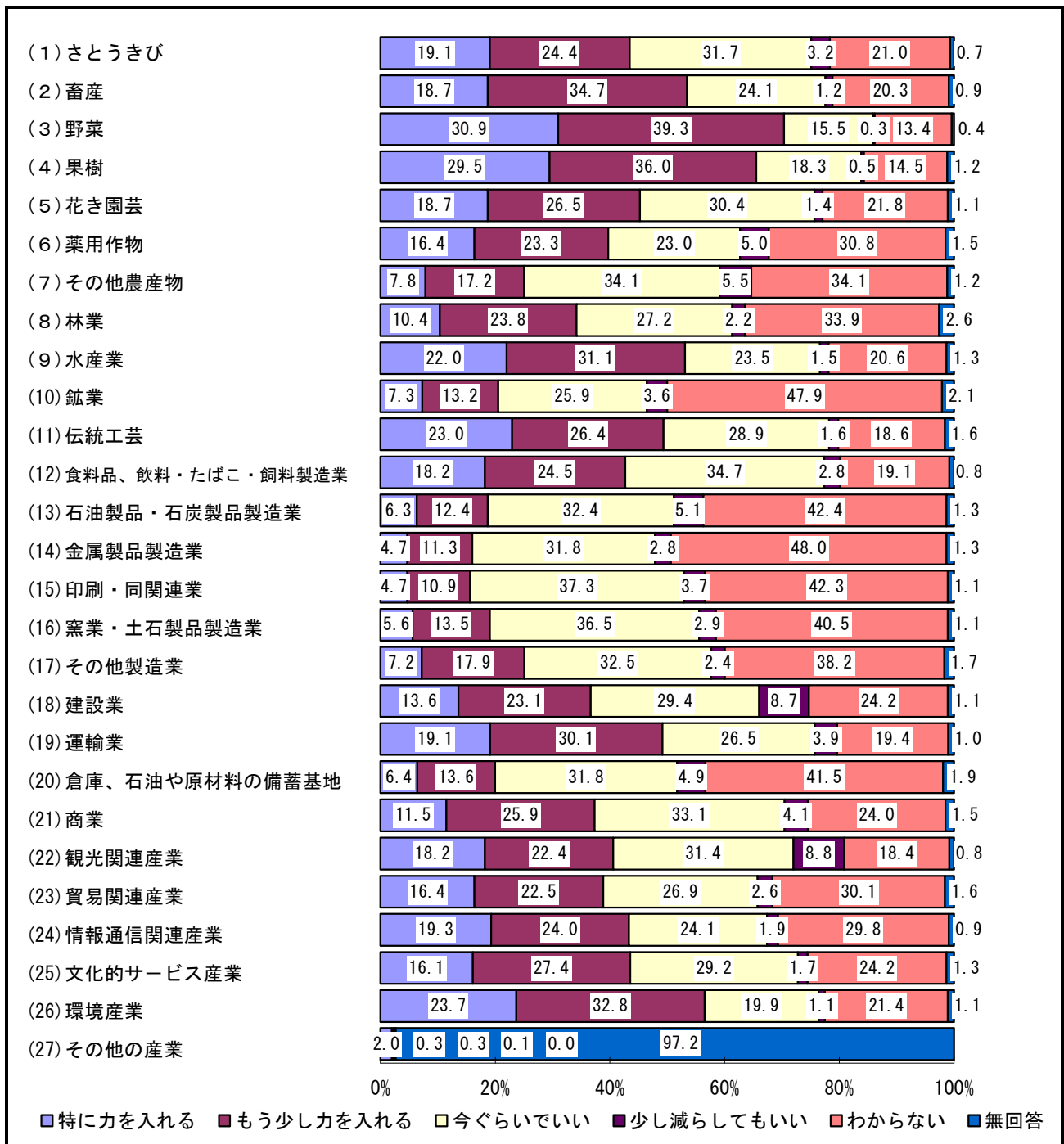
		1位	2位	3位	4位	5位
県計		医療と保健 25.5	労働・雇用 22.0	収入と消費生活 19.4	社会福祉 12.9	安全と個人の保護 6.9
【性別】	男	医療と保健 25.6	労働・雇用 23.4	収入と消費生活 19.2	社会福祉 11.3	安全と個人の保護 6.6
	女	医療と保健 25.3	労働・雇用 20.9	収入と消費生活 19.5	社会福祉 14.2	安全と個人の保護 7.2
【年齢】	15～19歳	労働・雇用 23.8	収入と消費生活 20.1	医療と保健 19.3	社会福祉 9.0	教育・文化・国際交流 8.4
	20～29歳	労働・雇用 26.9	収入と消費生活 24.1	医療と保健 18.6	社会福祉 10.2	安全と個人の保護 6.6
	30～39歳	労働・雇用 21.3	収入と消費生活 21.1	医療と保健 20.4	社会福祉 13.9	安全と個人の保護 8.3
	40～49歳	労働・雇用 23.8	医療と保健 22.9	収入と消費生活 20.7	社会福祉 10.7	教育・文化・国際交流 7.3
	50～59歳	医療と保健 28.9	労働・雇用 25.8	収入と消費生活 17.6	社会福祉 11.4	安全と個人の保護 6.3
	60～69歳	医療と保健 32.2	労働・雇用 17.6	収入と消費生活 17.3	社会福祉 16.2	安全と個人の保護 6.1
	70歳以上	医療と保健 35.1	社会福祉 20.1	収入と消費生活 13.4	生活環境 9.8	労働・雇用 8.9
【地域別】	北部	医療と保健 26.4	労働・雇用 24.2	収入と消費生活 20.5	社会福祉 11.4	生活環境 5.8
	中部	医療と保健 24.8	労働・雇用 22.8	収入と消費生活 18.8	社会福祉 13.0	安全と個人の保護 7.0
	那覇市	医療と保健 24.8	労働・雇用 21.3	収入と消費生活 18.5	社会福祉 13.8	安全と個人の保護 8.2
	南部	医療と保健 24.8	労働・雇用 21.7	収入と消費生活 21.2	社会福祉 12.9	安全と個人の保護 6.8
	宮古	医療と保健 30.8	収入と消費生活 19.9	労働・雇用 18.6	社会福祉 10.5	生活環境 6.6
	八重山	医療と保健 30.6	収入と消費生活 18.3	労働・雇用 16.8	社会福祉 13.8	安全と個人の保護 6.7
【年収別】	100万円未満	医療と保健 30.6	労働・雇用 19.6	収入と消費生活 16.2	社会福祉 16.1	安全と個人の保護 6.4
	100万円以上 200万円未満	医療と保健 24.7	労働・雇用 23.4	収入と消費生活 19.4	社会福祉 14.7	安全と個人の保護 5.9
	200万円以上 300万円未満	医療と保健 24.4	労働・雇用 21.9	収入と消費生活 21.4	社会福祉 12.1	安全と個人の保護 6.8
	300万円以上 400万円未満	医療と保健 25.5	労働・雇用 23.2	収入と消費生活 22.2	社会福祉 12.4	安全と個人の保護 5.4
	400万円以上 500万円未満	医療と保健 23.6	収入と消費生活 21.7	労働・雇用 21.4	社会福祉 12.5	安全と個人の保護 7.9
	500万円以上 600万円未満	医療と保健 25.7	労働・雇用 20.7	収入と消費生活 19.7	社会福祉 11.2	安全と個人の保護 7.6
	600万円以上 700万円未満	労働・雇用 26.6	医療と保健 25.3	収入と消費生活 17.0	社会福祉 12.6	教育・文化・国際交流 5.7
	700万円以上 800万円未満	医療と保健 21.5	労働・雇用 19.6	収入と消費生活 17.9	社会福祉 10.6	教育・文化・国際交流 9.8
	800万円以上 900万円未満	医療と保健 20.4	労働・雇用 18.0	教育・文化・国際交流 13.7	収入と消費生活 13.3	安全と個人の保護 10.8
	900万円以上 1,000万円未満	医療と保健 24.7	労働・雇用 23.8	収入と消費生活 16.1	社会福祉 14.0	安全と個人の保護 7.4
1,000万円以上	医療と保健 30.8	労働・雇用 26.6	収入と消費生活 11.2	生活環境/社会福祉	8.5	

2 産業の振興度（問9）

（1）各産業の振興度

本県の振興のために、それぞれの産業にどのくらい力を入れるべきか「特に力を入れる」、「もう少し力を入れる」、「今ぐらいでいい」、「少し減らしてもいい」の4分類の回答の中から選択してもらい、その結果をまとめたのが図3-2-1である。

図3-2-1 産業の振興



「特に力を入れる」べきだとする割合が最も高い産業は「(3) 野菜」(30.9%)であり、以下、「(4) 果樹」(29.5%)、「(26) 環境産業」(23.7%)、「(11) 伝統工芸」(23.0%)、「(9) 水産業」(22.0%)、「(24) 情報通信関連産業」(19.3%)、「(1) さとうきび」と「(19) 運輸業」(各 19.1%)、「(2) 畜産」と「(5) 花き園芸」(各 18.7%)が上位 10 位になっている。

逆に、「特に力を入れる」べきだとする割合が低い産業は、「(14) 金属製品製造業」と「(15) 印刷・同関連業」(各 4.7%)、「(16) 窯業・土石製品製造業」(5.6%)、「(13) 石油製品・石炭製品製造業」(6.3%)、「(20) 倉庫、石油や原材料の備蓄基地」(6.4%)、「(17) その他製造業」(7.2%)、「(10) 鉱業」(7.3%)、「(7) その他農産物」(7.8%)など、10%未満にとどまっているが、これらの産業はイメージが把握しにくいことがあるのか、「わからない」とする割合が3～4割と多くなっている。

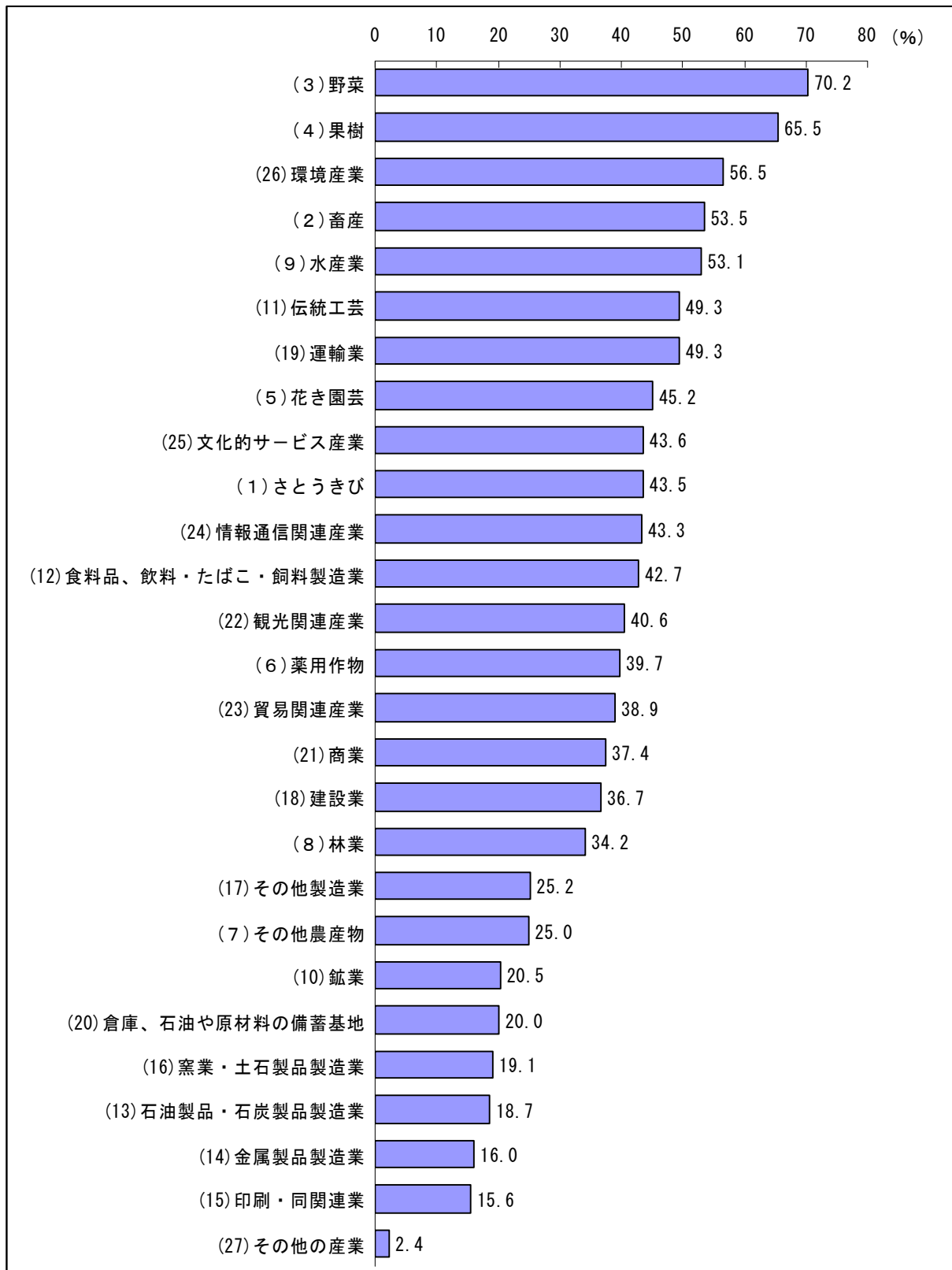
一方、「少し減らしてもいい」とする割合が高いのは、「(22) 観光関連産業」(8.8%)、「(18) 建設業」(8.7%)などであるが、いずれも「特に力を入れる」べきだとする割合のほうが上回っている。

続いて、それぞれの産業について、「特に力を入れる」と「もう少し力を入れる」の2つを合計した結果をまとめたのが図3-2-2である。この結果は提示されている産業の振興を積極的に図るべきと解釈されるものである。

「特に力を入れる」と「もう少し力を入れる」の合計比率の高いものとして「(3) 野菜」(70.2%)が1位に、次いで「(4) 果樹」(65.5%)が2位にあげられている。以下、「(26) 環境産業」(56.5%)、「(2) 畜産」(53.5%)、「(9) 水産業」(53.1%)、「(11) 伝統工芸」と「(19) 運輸業」(各 49.3%)、「(5) 「花き園芸」(45.2%)、「(25) 文化的サービス産業」(43.6%)、「(1) さとうきび」(43.5%)、「(24) 情報通信関連産業」(43.3%)、「(12) 食料品、飲料・たばこ・飼料製造業」(42.7%)、「(22) 観光関連産業」(40.6%)などが続いている。

今回1位の「(3) 野菜」(前回 67.3%→今回 70.2%)は2.9ポイント増加、今回2位の「(4) 果樹」(同 67.6%→65.5%)は2.1ポイント減となり、前回と1、2位が入れ替わり、前回はほとんどなかった両者の差が4.7ポイントとなった。「(26) 環境産業」(同 64.4%→56.5%)は前回同様3位となっているが、前回より7.9ポイント減少している。また、今回4位の「(2) 畜産」(同 46.8%→53.5%)は6.7ポイント増で前回の11位から大きく上昇した。一方、今回5位の「(9) 水産業」(同 58.0%→53.1%)、今回6位の「(11) 伝統工芸」(同 56.5%→49.3%)それぞれ4.9ポイント減、7.2ポイント減となり、順位も1つずつ低下している。

図3-2-2 産業の振興 「特に力を入れる」 + 「もう少し力を入れる」の合計



(2) 産業の振興度の推移

各産業ごとに「特に力を入れる」に4点、「もう少し力を入れる」に3点、「今ぐらいでいい」に2点、「少し減らしてもいい」に1点のウェイトを与えて加重平均を求め、さらにこれらの産業を4つにまとめて時系列比較を行ったのが図3-2-3である。加重平均を求めるにあたっては、「わからない」と回答する割合が大きい産業が一部あるため、無回答とともに母数から除いた。

力を入れるべき産業の推移をみると、どの産業も若干の増減はあるものの変化は小さい。

図3-2-3 力を入れるべき産業の加重平均得点の推移

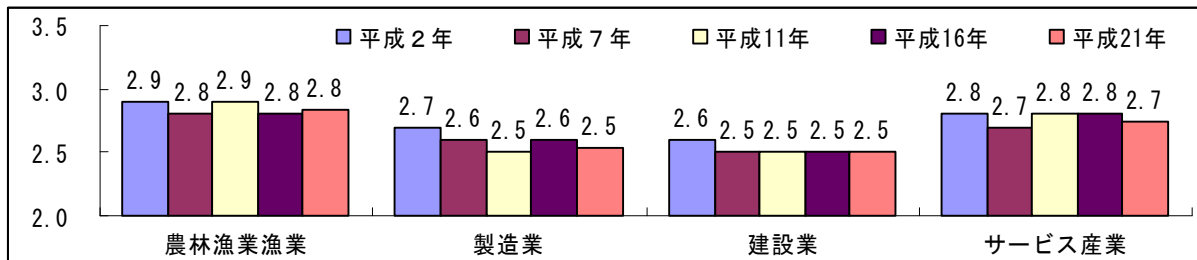


表3-2-1 産業別加重平均得点の推移

	平成7年	平成11年	平成16年	平成21年
農林漁業	2.8	2.9	2.8	2.8
さとうきび	2.6	2.7	2.7	2.8
畜産	2.7	2.8	2.8	2.9
野菜	3.1	3.1	3.1	3.2
果樹	3.1	3.2	3.1	3.1
花き園芸	3.0	3.0	2.8	2.8
薬用作物	*	2.9	2.8	2.8
その他農産物（水稻、葉たばこ等）	2.5	2.5	2.4	2.4
林業（きのこを含む）	2.7	2.6	2.6	2.7
水産業	3.0	3.0	3.1	2.9
製造業	2.6	2.5	2.6	2.5
伝統工芸	2.9	3.0	3.0	2.9
食料品、飲料・たばこ・飼料製造業	2.8	2.8	2.8	2.7
石油製品・石炭製品製造業	2.3	2.2	2.4	2.4
金属製品製造業	2.4	2.3	2.3	2.4
印刷・同関連業	2.4	2.4	2.4	2.3
その他製造業	2.5	2.4	2.5	2.5
建設業	2.5	2.5	2.5	2.5
窯業・土石製品製造業	2.5	2.4	2.4	2.4
鉱業	2.5	2.4	2.5	2.5
建設業	2.6	2.6	2.5	2.6
サービス産業	2.7	2.8	2.8	2.7
運輸業	2.6	2.6	2.8	2.8
倉庫、石油や原材料の備蓄基地	2.3	2.3	2.3	2.4
商業	2.6	2.7	2.6	2.6
サービス業	2.6	2.8	*	*
観光関連産業	2.7	2.8	2.8	2.6
貿易関連産業	2.9	3.0	2.8	2.8
情報通信関連産業	2.9	3.2	2.9	2.9
文化的サービス産業	2.9	3.0	2.9	2.8
環境産業(※)	*	*	3.2	3.0
その他の産業	*	*	3.4	3.5

(注1) ※印は平成16年調査では「静脈産業」

(3) 地域別にみた産業振興度

産業振興度の加重平均得点を地域別に上位5位を表示したのが表3-2-2である。

県全体では「野菜」(3.2)、「果樹」(3.1)、「環境産業」(3.0)、「畜産」、「水産業」、「伝統工芸」、「情報通信関連産業」(各2.9)などの加重平均得点が高い。

地域別に上位5位の産業をみると、「野菜」、「果樹」、「環境産業」、「畜産」の4産業ほどの地域でも上位5位以内にあげられている。各地域に共通して上位5位にあげられた4産業以外をみると、北部では「薬用作物」、中部、那覇市、南部では、「水産業」、「伝統工芸」、「情報通信関連産業」、那覇市ではこのほか「運輸業」、「貿易関連産業」、「文化的サービス産業」、宮古、八重山では、「さとうきび」がそれぞれ5位以内にあげられている。

表3-2-2 地域別にみた産業振興度加重平均得点（上位5位）

		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
県 計		野菜 3.2	果樹 3.1	環境産業 3.0	畜産/水産業/伝統工芸/情報通信関連産業 2.9	
【地 域】	北部	野菜 3.2	果樹 3.1	畜産/薬用作物/環境産業 2.9		
	中部	野菜 3.2	果樹 3.1	環境産業 3.0	畜産/水産業/伝統工芸/情報通信関連産業 2.9	
	那覇市	野菜 3.2	果樹/環境産業 3.1		畜産/水産業/伝統工芸/運輸業/貿易関連産業/情報通信関連産業/文化的サービス産業 2.9	
	南部	野菜/果樹/環境産業 3.1			水産業 3.0	畜産/伝統工芸/情報通信関連産業 2.9
	宮古	さとうきび/野菜 3.3		果樹 3.2	畜産/環境産業 3.1	
	八重山	野菜/果樹 3.3		環境産業 3.2	さとうきび/畜産 3.1	

表3-2-3 時系列にみた産業振興度

(%)

	特に力を入れる	もう少し力を入れる	今ぐらいでいい	少し減らしてもいい	わからない	無回答	「特に力を入れる」+「もう少し力を入れる」の合計			
							平7年	平11年	平16年	平21年
(1) さとうきび	19.1	24.4	31.7	3.2	21.0	0.7	40.3	41.8	41.4	43.5
(2) 畜産	18.7	34.7	24.1	1.2	20.3	0.9	41.3	44.8	46.8	53.5
(3) 野菜	30.9	39.3	15.5	0.3	13.4	0.4	63.2	65.4	67.3	70.2
(4) 果樹	29.5	36.0	18.3	0.5	14.5	1.2	64.1	65.8	67.6	65.5
(5) 花き園芸	18.7	26.5	30.4	1.4	21.8	1.1	52.5	54.1	48.4	45.2
(6) 薬用作物	16.4	23.3	23.0	5.0	30.8	1.5	*	43.9	43.2	39.7
(7) その他農産物(水稻、葉たばこ等)	7.8	17.2	34.1	5.5	34.1	1.2	29.1	27.5	23.6	25.0
(8) 林業(きのこを含む)	10.4	23.8	27.2	2.2	33.9	2.6	34.5	31.4	30.3	34.2
(9) 水産業	22.0	31.1	23.5	1.5	20.6	1.3	52.0	51.0	58.0	53.1
(10) 鉱業	7.3	13.2	25.9	3.6	47.9	2.1	20.0	17.8	20.9	20.5
(11) 伝統工芸	23.0	26.4	28.9	1.6	18.6	1.6	48.8	51.6	56.5	49.3
(12) 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	18.2	24.5	34.7	2.8	19.1	0.8	42.1	45.4	46.3	42.7
(13) 石油製品・石炭製品製造業	6.3	12.4	32.4	5.1	42.4	1.3	18.8	16.5	20.9	18.7
(14) 金属製品製造業	4.7	11.3	31.8	2.8	48.0	1.3	21.0	18.6	15.9	16.0
(15) 印刷・同関連業	4.7	10.9	37.3	3.7	42.3	1.1	23.1	22.5	18.2	15.6
(16) 窯業・土石製品製造業	5.6	13.5	36.5	2.9	40.5	1.1	23.5	22.5	22.2	19.1
(17) その他製造業	7.2	17.9	32.5	2.4	38.2	1.7	22.7	21.6	25.7	25.2
(18) 建設業	13.6	23.1	29.4	8.7	24.2	1.1	35.1	39.1	38.0	36.7
(19) 運輸業	19.1	30.1	26.5	3.9	19.4	1.0	37.8	38.4	49.4	49.3
(20) 倉庫、石油や原材料の備蓄基地	6.4	13.6	31.8	4.9	41.5	1.9	19.8	20.0	20.6	20.0
(21) 商業	11.5	25.9	33.1	4.1	24.0	1.5	33.3	39.5	38.9	37.4
サービス業	*	*	*	*	*	*	38.1	46.2	*	*
(22) 観光関連産業	18.2	22.4	31.4	8.8	18.4	0.8	42.3	48.7	46.9	40.6
(23) 貿易関連産業	16.4	22.5	26.9	2.6	30.1	1.6	43.5	49.0	42.0	38.9
(24) 情報通信関連産業	19.3	24.0	24.1	1.9	29.8	0.9	47.0	57.3	49.0	43.3
(25) 文化的サービス産業	16.1	27.4	29.2	1.7	24.2	1.3	48.4	52.2	48.6	43.6
(26) 環境産業(※)	23.7	32.8	19.9	1.1	21.4	1.1	*	*	64.4	56.5
(27) その他の産業	2.0	0.3	0.3	0.1	0.0	97.2	*	*	1.6	2.4

(注1) ※印は平成16年調査では「静脈産業」



表3-2-4 地域別にみた産業振興度加重平均得点

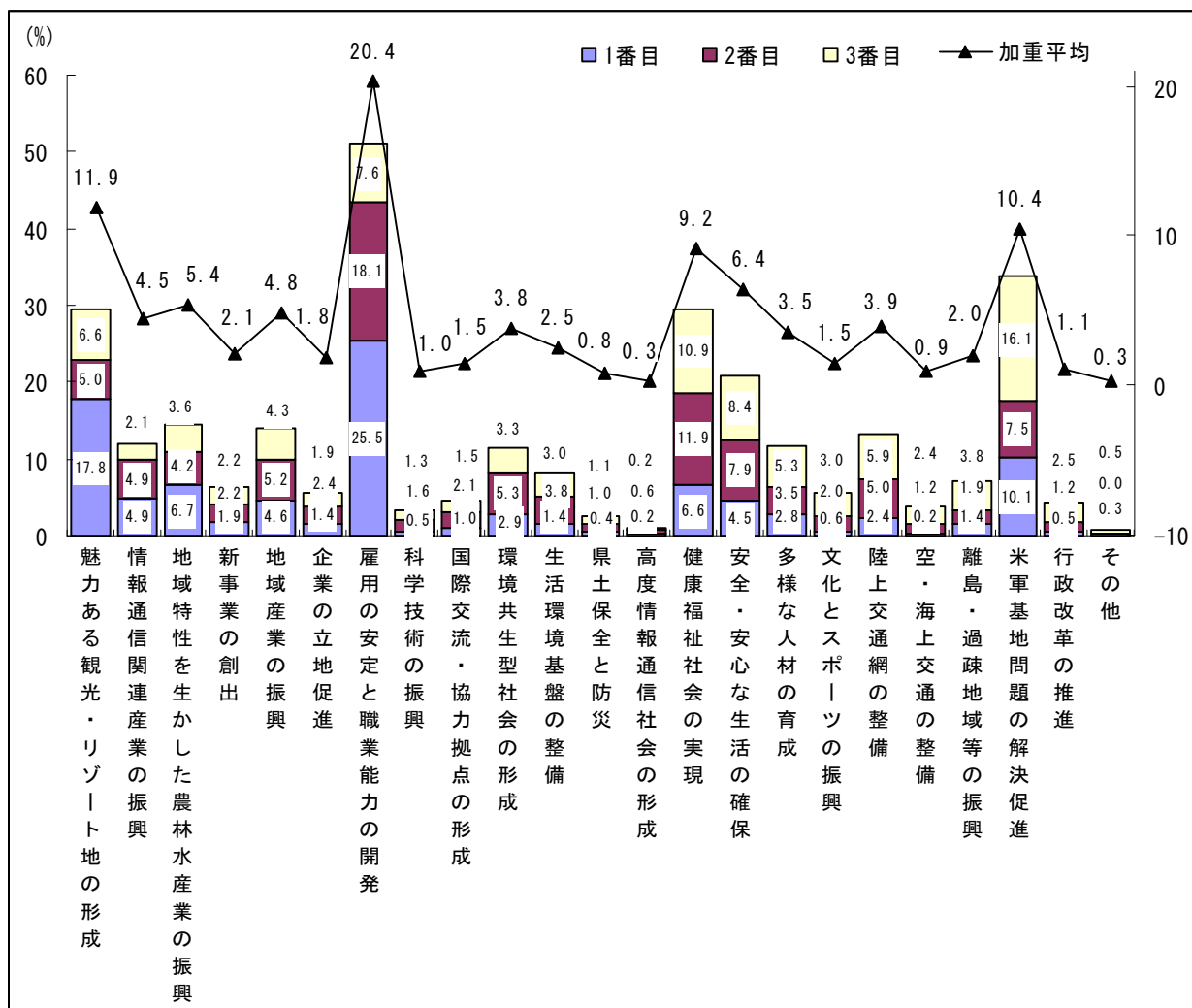
項 目	県計	地 域 別					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(1) さとうきび	2.8	2.8	2.7	2.7	2.8	3.3	3.1
(2) 畜産	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	3.1	3.1
(3) 野菜	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.3	3.3
(4) 果樹	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	3.3
(5) 花き園芸	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	3.0
(6) 薬用作物	2.8	2.9	2.7	2.8	2.6	2.8	3.0
(7) その他農産物（水稻、葉たばこ等）	2.4	2.6	2.4	2.4	2.4	2.4	2.6
(8) 林業（きのこを含む）	2.7	2.8	2.6	2.7	2.6	2.7	2.8
(9) 水産業	2.9	2.8	2.9	2.9	3.0	3.0	3.0
(10) 鉱業	2.5	2.5	2.5	2.5	2.4	2.5	2.7
(11) 伝統工芸	2.9	2.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
(12) 食料品、飲料・たばこ・飼料製造業	2.7	2.7	2.7	2.7	2.8	2.6	2.7
(13) 石油製品・石炭製品製造業	2.4	2.5	2.4	2.3	2.3	2.4	2.5
(14) 金属製品製造業	2.4	2.4	2.3	2.3	2.4	2.3	2.4
(15) 印刷・同関連業	2.3	2.1	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4
(16) 窯業・土石製品製造業	2.4	2.3	2.4	2.4	2.3	2.4	2.4
(17) その他製造業	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.6
(18) 建設業	2.6	2.4	2.6	2.5	2.6	2.7	2.6
(19) 運輸業	2.8	2.6	2.8	2.9	2.8	2.8	2.8
(20) 倉庫、石油や原材料の備蓄基地	2.4	2.3	2.4	2.4	2.4	2.5	2.6
(21) 商業	2.6	2.6	2.6	2.7	2.6	2.6	2.5
(22) 観光関連産業	2.6	2.4	2.6	2.6	2.8	2.6	2.6
(23) 貿易関連産業	2.8	2.6	2.7	2.9	2.8	2.7	2.7
(24) 情報通信関連産業	2.9	2.8	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
(25) 文化的サービス産業	2.8	2.6	2.8	2.9	2.7	2.9	2.6
(26) 環境産業	3.0	2.9	3.0	3.1	3.1	3.1	3.2
(27) その他の産業	3.5	4.0	3.5	3.7	2.8	4.0	4.0

3 重点施策（問 10）

（1）順位別にみた重点施策

沖縄県の施策として行政が重点を置いて取り組むべきことは何かについて、23 項目の施策の中から順位をつけて3つ選んでもらった。選択された3つの施策の1位、2位、3位それぞれの比率と、これらの施策を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウェイトづけをし、各施策の加重平均を求め、グラフにしたのが図3-3-1である。

図3-3-1 重点振興方策



1番目に力を入れてほしい施策として最も高かったのは「雇用の安定と職業能力の開発」（25.5%）で、次いで、「魅力ある観光・リゾート地の形成」（17.8%）、「米軍基地問題の解決促進」（10.1%）、「地域特性を生かした農林水産業の振興」（6.7%）、「健康福祉社会の実現」（6.6%）、「情報通信関連産業の振興」（4.9%）、「地域産業の振興」（4.6%）、「安全・安心な生活の確保」（4.5%）が続いている。

2番目についても、1番目と同様に「雇用の安定と職業能力の開発」（18.1%）が最も高く、次いで、「健康福祉社会の実現」（11.9%）、「安全・安心な生活の確保」（7.9%）、「米軍基地問題の解決促進」（7.5%）、「環境共生型社会の形成」（5.3%）、「地域産業の振興」

(5.2%)、「魅力ある観光・リゾート地の形成」と「陸上交通網の整備」(各5.0%)が続いている。

一方、3番目については、「米軍基地問題の解決促進」(16.1%)が最も高く、次いで、「健康福祉社会の実現」(10.9%)、「安全・安心な生活の確保」(8.4%)、「雇用の安定と職業能力の開発」(7.6%)、「魅力ある観光・リゾート地の形成」(6.6%)、「陸上交通網の整備」(5.9%)が続いている。

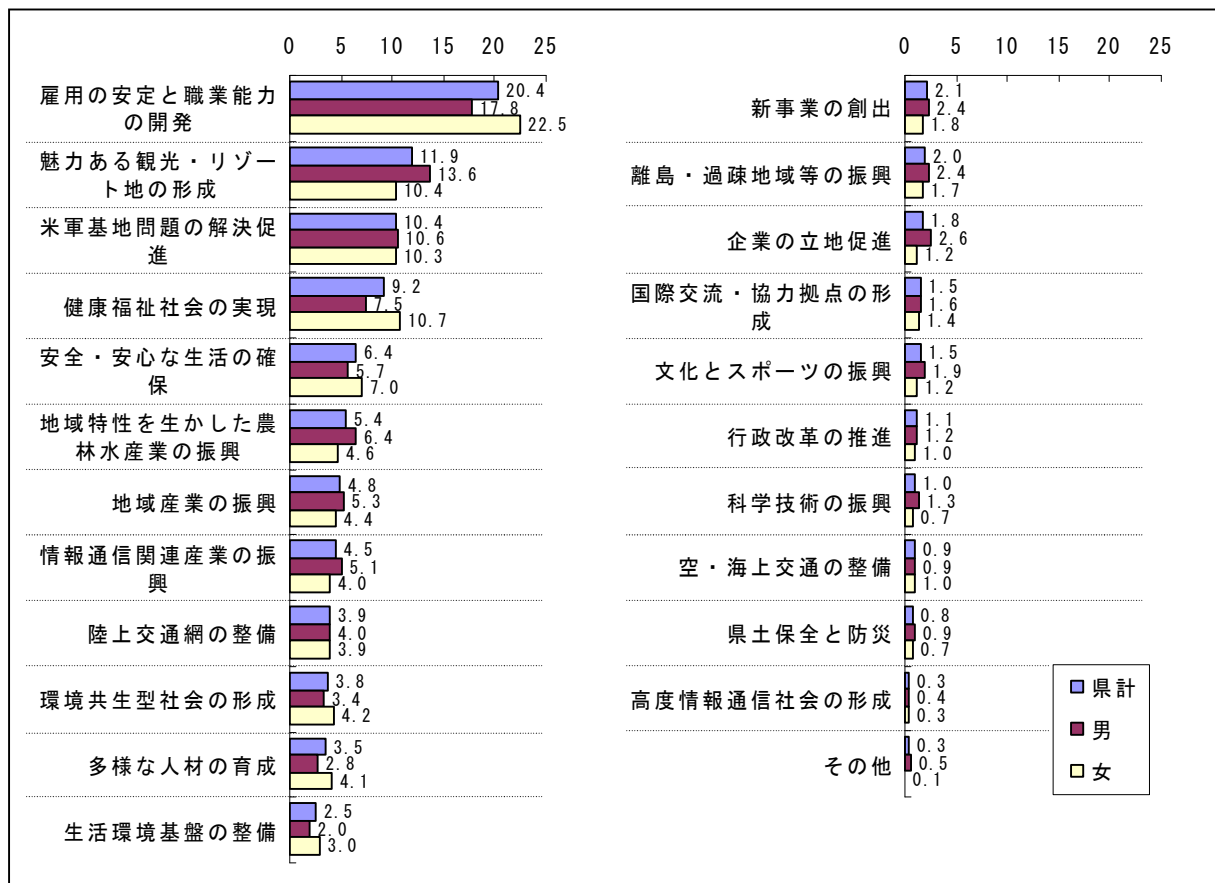
また、選択された施策を総合的に評価するため、1位＝3点、2位＝2点、3位＝1点のウェイトづけをして算出した加重平均値で比較すると、「雇用の安定と職業能力の開発」が20.4で最も高く、以下、「魅力ある観光・リゾート地の形成」(11.9)、「米軍基地問題の解決促進」(10.4)、「健康福祉社会の実現」(9.2)、「安全・安心な生活の確保」(6.4)、「地域特性を生かした農林水産業の振興」(5.4)の順に高い。これに対して、「高度情報通信社会の形成」(0.3)、「県土保全と防災」(0.8)、「空・海上交通の整備」(0.9)、「科学技術の振興」(1.0)、「行政改革の推進」(1.1)などは低い評価となっている。

(2) 性別にみた重点施策

重点施策を性別に加重平均で比較したのが図3-3-2である。

性別でみると、男性では「魅力ある観光・リゾート地の形成」が2位にあげられ、女性の値を3.2ポイント上回っている。一方、女性では「雇用の安定と職業能力の開発」が4.7ポイント、「健康福祉社会の実現」が3.2ポイント、男性に比べて高くなっている。

図3-3-2 性別加重平均でみた重点振興方策



(3) 年齢別にみた重点施策

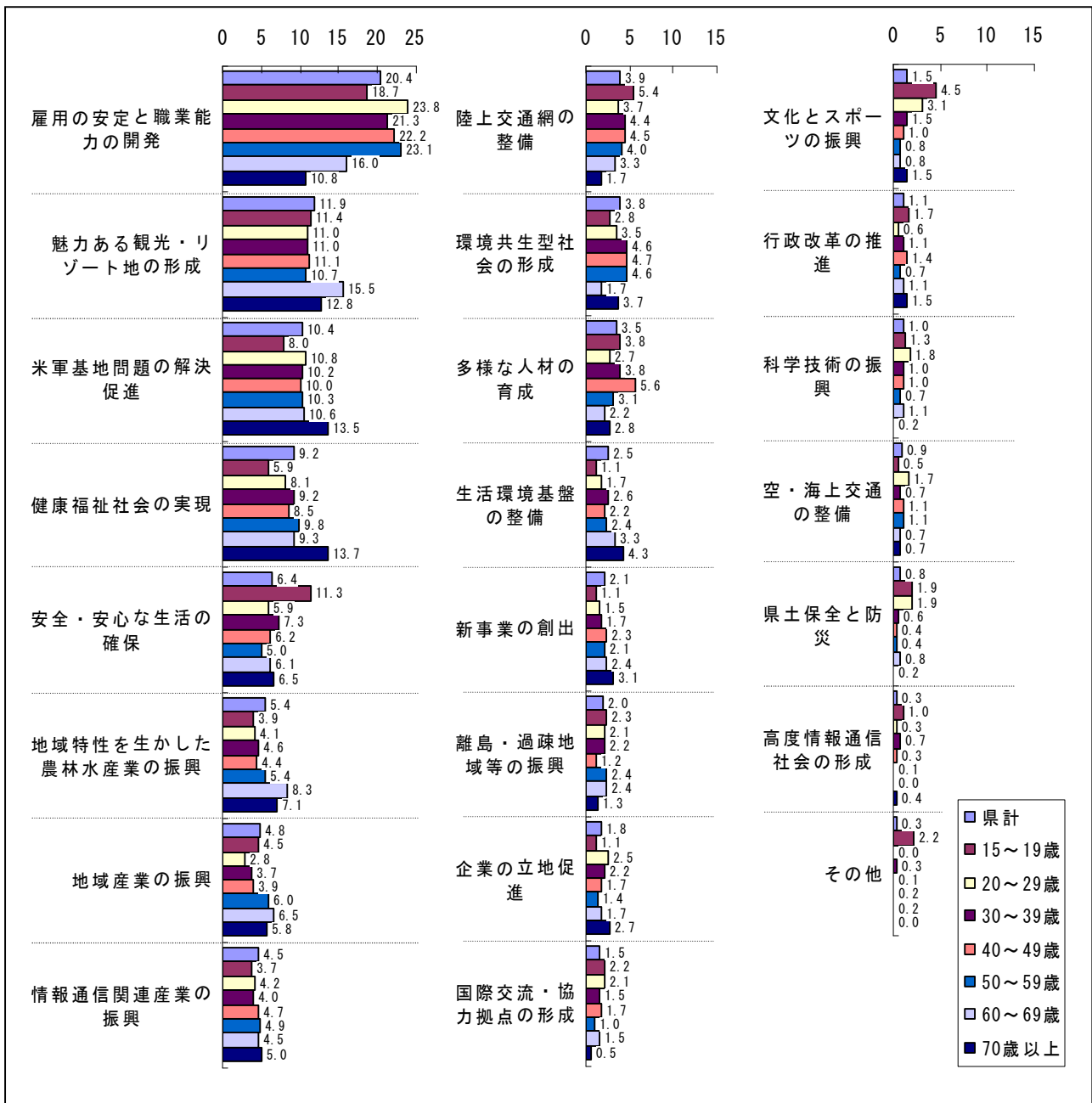
重点施策を年齢別に加重平均で比較したのが図3-3-3である。

年齢別で見ると、県平均で1位の「雇用の安定と職業能力の開発」は60歳代以下で1位にあげられ、なかでも20～50歳代で高くなっている。一方、県平均で2位の「魅力ある観光・リゾート地の形成」も60歳代以下で2位の重点施策にあげられ、60～69歳で高くなっている。県平均で3位の「米軍基地問題の解決促進」、4位の「健康福祉社会の実現」は、70歳以上で高く、70歳以上では「健康福祉社会の実現」が1位に、「米軍基地問題の解決促進」が2位になっている。また、県平均で5位の「安全・安心な生活の確保」は15～19歳で高く、3位にあげられている。

このほか、「陸上交通網の整備」、「文化とスポーツの振興」は全体的に評価が低い、若年層ほど評価が高くなる傾向がみられる。一方、「地域特性を生かした農林水産業の振興」、「地域産業の振興」、「生活環境基盤の整備」も全体的に評価が低い、高年層で評価が高くなる傾向がみられ、「地域特性を生かした農林水産業の振興」は60歳代以上で、「地域産業の振興」は50～59歳でそれぞれ5位にあげられている。



図 3-3-3 年齢別加重平均でみた重点施策



(4) 地域別にみた重点施策

重点施策を地域別に加重平均で比較したのが図3-3-4である。

地域別でみると、県平均で1～4位の「雇用の安定と職業能力の開発」、「魅力ある観光・リゾート地の形成」、「米軍基地問題の解決促進」、「健康福祉社会の実現」は北部、中部、那覇市、南部では共通して上位の重点施策としてあげられているが、宮古と八重山では傾向が異なっている。宮古では「米軍基地問題の解決促進」と「健康福祉社会の実現」の評価が他の地域に比べて低いが、「地域特性を生かした農林水産業の振興」と「離島・過疎地域等の振興」が高く、3～4位にあげられている。「米軍基地問題の解決促進」は宮古でも評価が低く、「地域特性を生かした農林水産業の振興」の評価が高く3位にあげられている。また、「地域特性を生かした農林水産業の振興」は北部でも高く5位に入っている。

図3-3-4 地域別加重平均でみた重点施策

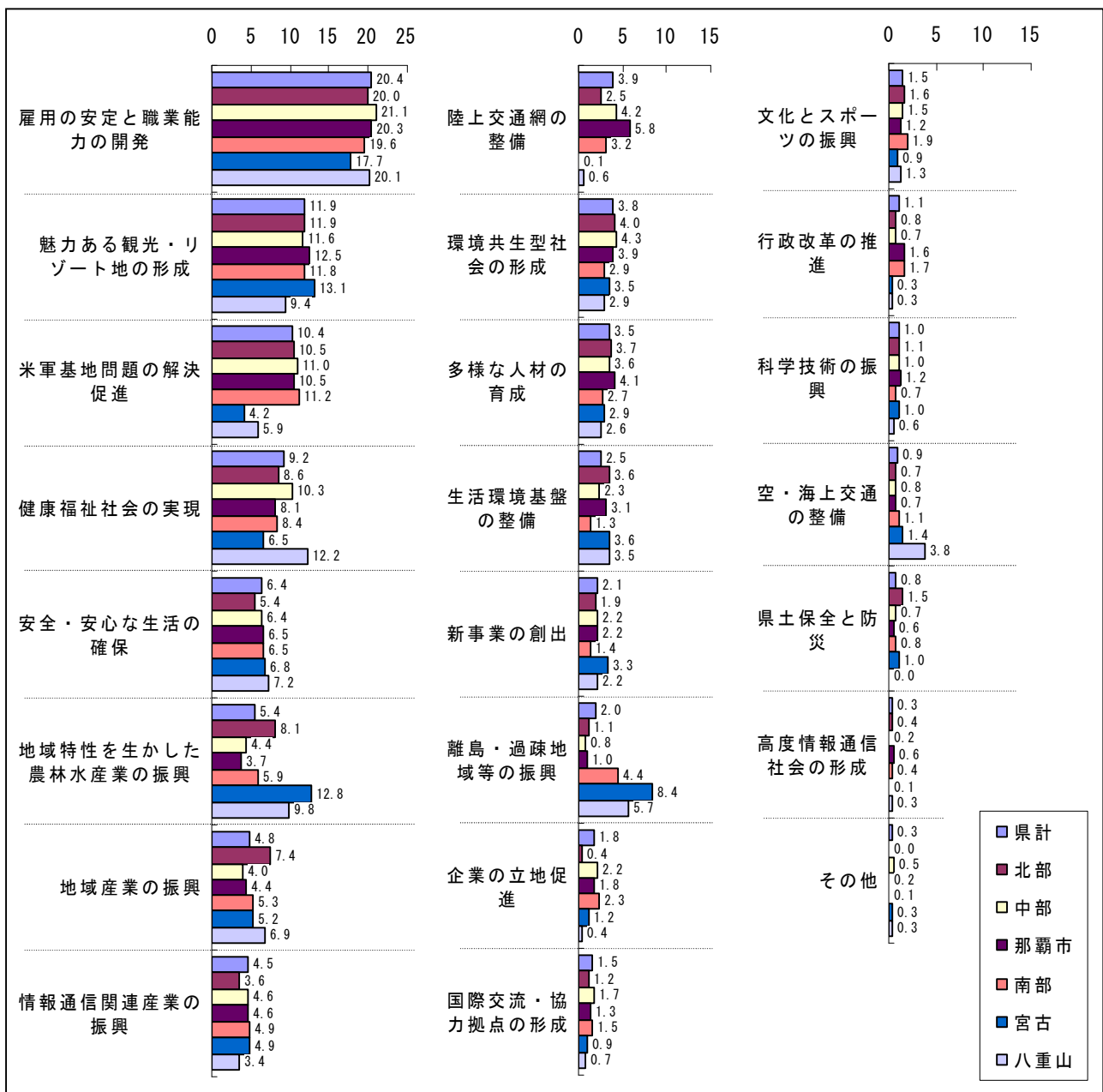


表3-3-1 属性別にみた重点施策

(%)

	【県計】			
	1番目	2番目	3番目	合計
魅力ある観光・リゾート地の形成	17.8	5.0	6.6	29.4
情報通信関連産業の振興	4.9	4.9	2.1	11.9
地域特性を生かした農林水産業の振興	6.7	4.2	3.6	14.5
新事業の創出	1.9	2.2	2.2	6.3
地域産業の振興	4.6	5.2	4.3	14.1
企業の立地促進	1.4	2.4	1.9	5.7
雇用の安定と職業能力の開発	25.5	18.1	7.6	51.2
科学技術の振興	0.5	1.6	1.3	3.4
国際交流・協力拠点の形成	1.0	2.1	1.5	4.6
環境共生型社会の形成	2.9	5.3	3.3	11.5
生活環境基盤の整備	1.4	3.8	3.0	8.2
県土保全と防災	0.4	1.0	1.1	2.5
高度情報通信社会の形成	0.2	0.6	0.2	1.0
健康福祉社会の実現	6.6	11.9	10.9	29.4
安全・安心な生活の確保	4.5	7.9	8.4	20.8
多様な人材の育成	2.8	3.5	5.3	11.6
文化とスポーツの振興	0.6	2.0	3.0	5.6
陸上交通網の整備	2.4	5.0	5.9	13.3
空・海上交通の整備	0.2	1.2	2.4	3.8
離島・過疎地域等の振興	1.4	1.9	3.8	7.1
米軍基地問題の解決促進	10.1	7.5	16.1	33.7
行政改革の推進	0.5	1.2	2.5	4.2
その他	0.3	0.0	0.5	0.8

	県計 加重平均	【性別加重平均】		【年齢別加重平均】						
		男	女	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上
				歳	歳	歳	歳	歳	歳	歳
魅力ある観光・リゾート地の形成	11.9	13.6	10.4	11.4	11.0	11.0	11.1	10.7	15.5	12.8
情報通信関連産業の振興	4.5	5.1	4.0	3.7	4.2	4.0	4.7	4.9	4.5	5.0
地域特性を生かした農林水産業の振興	5.4	6.4	4.6	3.9	4.1	4.6	4.4	5.4	8.3	7.1
新事業の創出	2.1	2.4	1.8	1.1	1.5	1.7	2.3	2.1	2.4	3.1
地域産業の振興	4.8	5.3	4.4	4.5	2.8	3.7	3.9	6.0	6.5	5.8
企業の立地促進	1.8	2.6	1.2	1.1	2.5	2.2	1.7	1.4	1.7	2.7
雇用の安定と職業能力の開発	20.4	17.8	22.5	18.7	23.8	21.3	22.2	23.1	16.0	10.8
科学技術の振興	1.0	1.3	0.7	1.3	1.8	1.0	1.0	0.7	1.1	0.2
国際交流・協力拠点の形成	1.5	1.6	1.4	2.2	2.1	1.5	1.7	1.0	1.5	0.5
環境共生型社会の形成	3.8	3.4	4.2	2.8	3.5	4.6	4.7	4.6	1.7	3.7
生活環境基盤の整備	2.5	2.0	3.0	1.1	1.7	2.6	2.2	2.4	3.3	4.3
県土保全と防災	0.8	0.9	0.7	1.9	1.9	0.6	0.4	0.4	0.8	0.2
高度情報通信社会の形成	0.3	0.4	0.3	1.0	0.3	0.7	0.3	0.1	0.0	0.4
健康福祉社会の実現	9.2	7.5	10.7	5.9	8.1	9.2	8.5	9.8	9.3	13.7
安全・安心な生活の確保	6.4	5.7	7.0	11.3	5.9	7.3	6.2	5.0	6.1	6.5
多様な人材の育成	3.5	2.8	4.1	3.8	2.7	3.8	5.6	3.1	2.2	2.8
文化とスポーツの振興	1.5	1.9	1.2	4.5	3.1	1.5	1.0	0.8	0.8	1.5
陸上交通網の整備	3.9	4.0	3.9	5.4	3.7	4.4	4.5	4.0	3.3	1.7
空・海上交通の整備	0.9	0.9	1.0	0.5	1.7	0.7	1.1	1.1	0.7	0.7
離島・過疎地域等の振興	2.0	2.4	1.7	2.3	2.1	2.2	1.2	2.4	2.4	1.3
米軍基地問題の解決促進	10.4	10.6	10.3	8.0	10.8	10.2	10.0	10.3	10.6	13.5
行政改革の推進	1.1	1.2	1.0	1.7	0.6	1.1	1.4	0.7	1.1	1.5
その他	0.3	0.5	0.1	2.2	0.0	0.3	0.1	0.2	0.2	0.0

	【地域別加重平均】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
魅力ある観光・リゾート地の形成	11.9	11.6	12.5	11.8	13.1	9.4
情報通信関連産業の振興	3.6	4.6	4.6	4.9	4.9	3.4
地域特性を生かした農林水産業の振興	8.1	4.4	3.7	5.9	12.8	9.8
新事業の創出	1.9	2.2	2.2	1.4	3.3	2.2
地域産業の振興	7.4	4.0	4.4	5.3	5.2	6.9
企業の立地促進	0.4	2.2	1.8	2.3	1.2	0.4
雇用の安定と職業能力の開発	20.0	21.1	20.3	19.6	17.7	20.1
科学技術の振興	1.1	1.0	1.2	0.7	1.0	0.6
国際交流・協力拠点の形成	1.2	1.7	1.3	1.5	0.9	0.7
環境共生型社会の形成	4.0	4.3	3.9	2.9	3.5	2.9
生活環境基盤の整備	3.6	2.3	3.1	1.3	3.6	3.5
県土保全と防災	1.5	0.7	0.6	0.8	1.0	0.0
高度情報通信社会の形成	0.4	0.2	0.6	0.4	0.1	0.3
健康福祉社会の実現	8.6	10.3	8.1	8.4	6.5	12.2
安全・安心な生活の確保	5.4	6.4	6.5	6.5	6.8	7.2
多様な人材の育成	3.7	3.6	4.1	2.7	2.9	2.6
文化とスポーツの振興	1.6	1.5	1.2	1.9	0.9	1.3
陸上交通網の整備	2.5	4.2	5.8	3.2	0.1	0.6
空・海上交通の整備	0.7	0.8	0.7	1.1	1.4	3.8
離島・過疎地域等の振興	1.1	0.8	1.0	4.4	8.4	5.7
米軍基地問題の解決促進	10.5	11.0	10.5	11.2	4.2	5.9
行政改革の推進	0.8	0.7	1.6	1.7	0.3	0.3
その他	0.0	0.5	0.2	0.1	0.3	0.3

表 3-3-2 属性別にみた重点施策（上位5位）

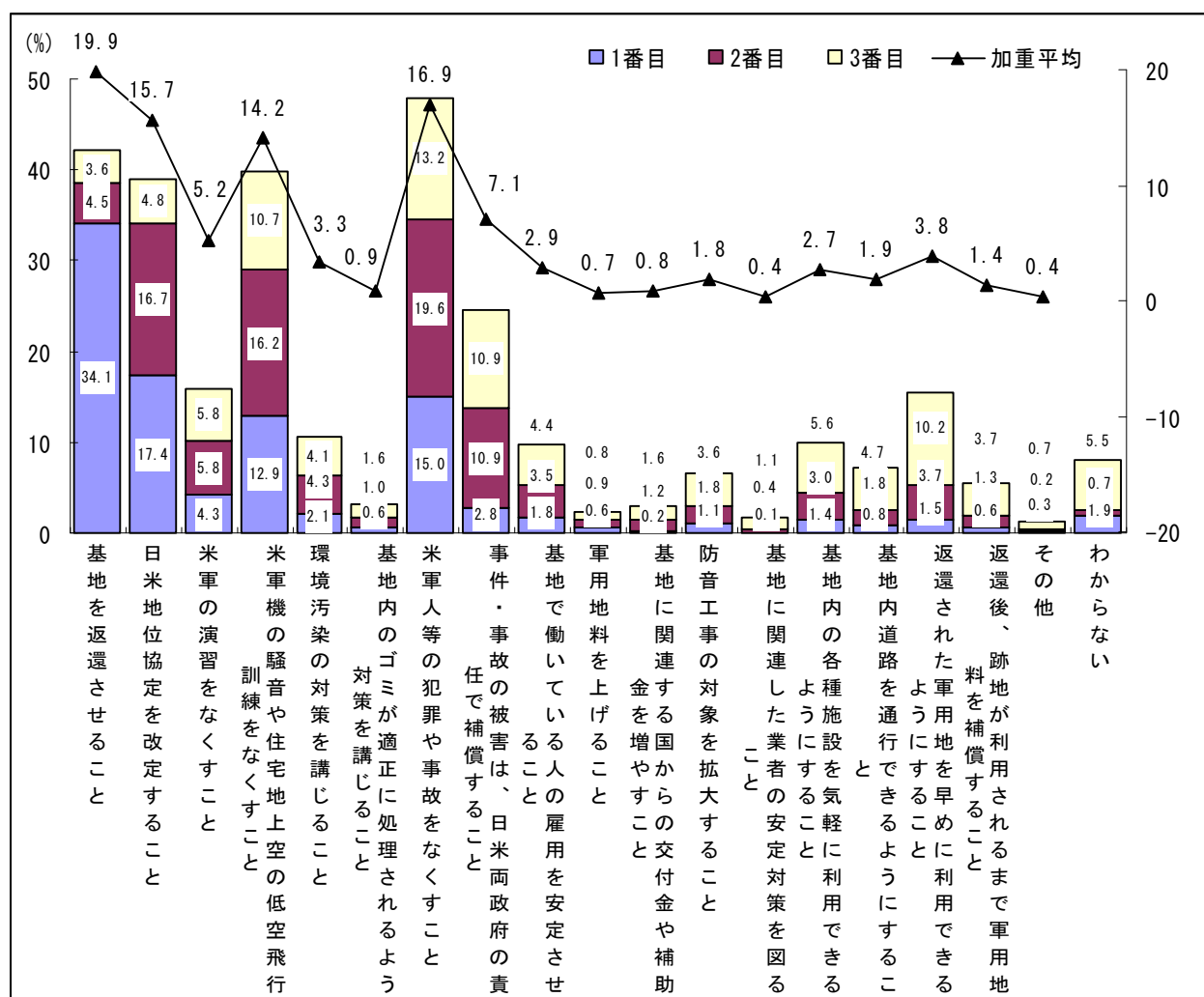
		1位	2位	3位	4位	5位
県計		雇用の安定と職業能力の開発 20.4	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.9	米軍基地問題の解決促進 10.4	健康福祉社会の実現 9.2	安全・安心な生活の確保 6.4
【性別】	男	雇用の安定と職業能力の開発 17.8	魅力ある観光・リゾート地の形成 13.6	米軍基地問題の解決促進 10.6	健康福祉社会の実現 7.5	地域特性を生かした農林水産業の振興 6.4
	女	雇用の安定と職業能力の開発 22.5	健康福祉社会の実現 10.7	魅力ある観光・リゾート地の形成 10.4	米軍基地問題の解決促進 10.3	安全・安心な生活の確保 7.0
【年齢】	15～19歳	雇用の安定と職業能力の開発 18.7	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.4	安全・安心な生活の確保 11.3	米軍基地問題の解決促進 8.0	健康福祉社会の実現 5.9
	20～29歳	雇用の安定と職業能力の開発 23.8	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.0	米軍基地問題の解決促進 10.8	健康福祉社会の実現 8.1	安全・安心な生活の確保 5.9
	30～39歳	雇用の安定と職業能力の開発 21.3	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.0	米軍基地問題の解決促進 10.2	健康福祉社会の実現 9.2	安全・安心な生活の確保 7.3
	40～49歳	雇用の安定と職業能力の開発 22.2	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.1	米軍基地問題の解決促進 10.0	健康福祉社会の実現 8.5	安全・安心な生活の確保 6.2
	50～59歳	雇用の安定と職業能力の開発 23.1	魅力ある観光・リゾート地の形成 10.7	米軍基地問題の解決促進 10.3	健康福祉社会の実現 9.8	地域産業の振興 6.0
	60～69歳	雇用の安定と職業能力の開発 16.0	魅力ある観光・リゾート地の形成 15.5	米軍基地問題の解決促進 10.6	健康福祉社会の実現 9.3	地域特性を生かした農林水産業の振興 8.3
	70歳以上	健康福祉社会の実現 13.7	米軍基地問題の解決促進 13.5	魅力ある観光・リゾート地の形成 12.8	雇用の安定と職業能力の開発 10.8	地域特性を生かした農林水産業の振興 7.1
【地域別】	北部	雇用の安定と職業能力の開発 20.0	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.9	米軍基地問題の解決促進 10.5	健康福祉社会の実現 8.6	地域特性を生かした農林水産業の振興 8.1
	中部	雇用の安定と職業能力の開発 21.1	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.6	米軍基地問題の解決促進 11.0	健康福祉社会の実現 10.3	安全・安心な生活の確保 6.4
	那覇市	雇用の安定と職業能力の開発 20.3	魅力ある観光・リゾート地の形成 12.5	米軍基地問題の解決促進 10.5	健康福祉社会の実現 8.1	安全・安心な生活の確保 6.5
	南部	雇用の安定と職業能力の開発 19.6	魅力ある観光・リゾート地の形成 11.8	米軍基地問題の解決促進 11.2	健康福祉社会の実現 8.4	安全・安心な生活の確保 6.5
	宮古	雇用の安定と職業能力の開発 17.7	魅力ある観光・リゾート地の形成 13.1	地域特性を生かした農林水産業の振興 12.8	離島・過疎地域等の振興 8.4	安全・安心な生活の確保 6.8
	八重山	雇用の安定と職業能力の開発 20.1	健康福祉社会の実現 12.2	地域特性を生かした農林水産業の振興 9.8	魅力ある観光・リゾート地の形成 9.4	安全・安心な生活の確保 7.2

4 米軍基地について（問 11）

（1）順位別にみた米軍基地対策

米軍基地について、県や国に特に力を入れてほしいものについて、18の項目の中から順位をつけて3つ選んでもらった。選択された3つの回答の1位、2位、3位それぞれの比率と、その選択項目を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウェイトづけをして加重平均を求め、グラフにしたのが図3-4-1である。

図3-4-1 米軍基地対策



1番目に力を入れてほしい対策として、「基地を返還させること」が34.1%と最も高く、次いで比率が下がって、「日米地位協定を改定すること」(17.4%)、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(15.0%)、「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」(12.9%)が続いている。

2番目については、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(19.6%)が最も高く、次いで、「日米地位協定を改定すること」(16.7%)、「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」(16.2%)、「事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること」

(10.9%)、「米軍の演習をなくすこと」(5.8%)の順に高い。

3番目については、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(13.2%)が最も高く、次いで、「事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること」(10.9%)、「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」(10.7%)、「返還された軍用地を早めに利用できるようにすること」(10.2%)、「米軍の演習をなくすこと」(5.8%)が続いている。

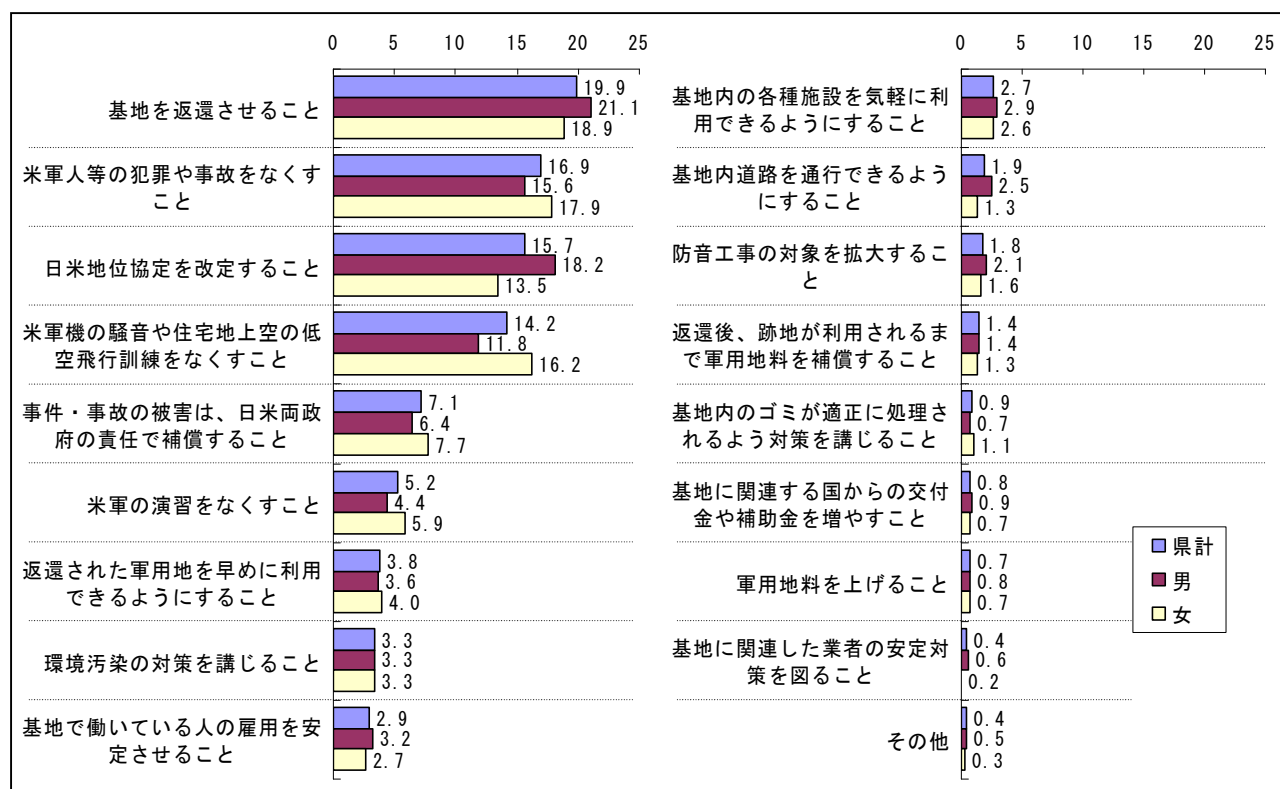
また、選択された項目を総合的に評価するため、1位=3点、2位=2点、3位=1点のウェイトづけをして算出した加重平均値で比較すると、「基地を返還させること」(19.9)が最も高く、次いで、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」(16.9)、「日米地位協定を改定すること」(15.7)、「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」(14.2)、「事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること」(7.1)、「米軍の演習をなくすこと」(5.2)の順に高い。

(2) 性別にみた米軍基地対策

米軍基地対策を性別に加重平均で比較したのが図3-4-2である。

性別でみると、上位項目は男女とも県平均と同様であるが、「基地を返還させること」、「日米地位協定を改定すること」は女性に比べて男性で高く、特に「日米地位協定を改定すること」が4.7ポイント差となっている。一方、「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」、「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」は女性が男性の値を上回り、特に「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」が4.4ポイント差となっている。

図3-4-2 性別加重平均でみた米軍基地対策

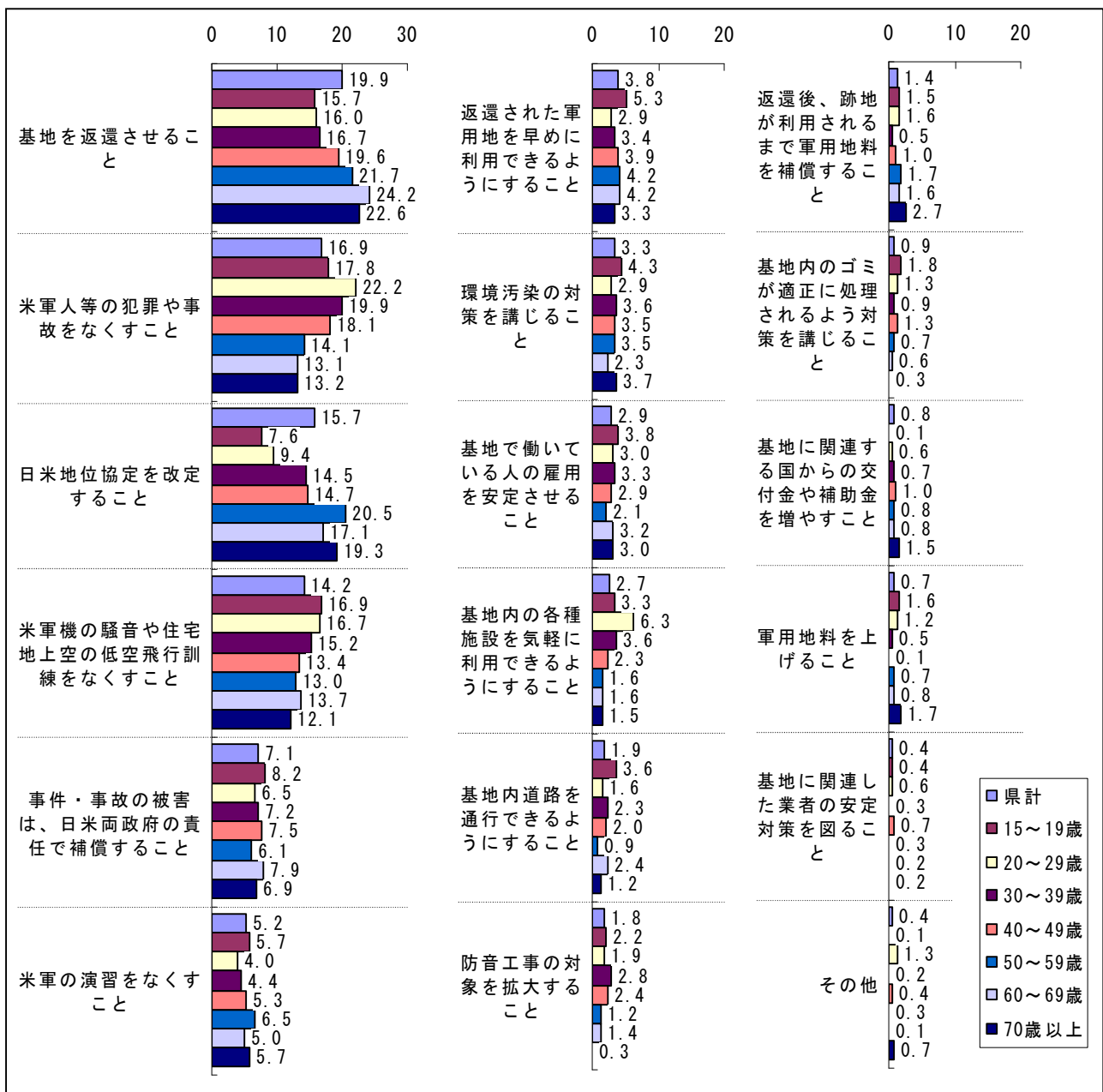


(3) 年齢別にみた米軍基地対策

米軍基地対策を年齢別に加重平均で比較したのが図3-4-3である。

年齢別でみると、県平均で1位の「基地を返還させること」は年齢が高くなるほど高くなる傾向がみられ、20歳代以下では3位、30～39歳では2位、40歳代以上の年齢層では1位となっている。これに対し、県平均で2位の「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」は年齢が低くなるほど高くなる傾向にあり、30歳代以下の年齢層では1位の対策としてあげられている。県平均で3位の「日米地位協定を改定すること」は50歳代以上の年齢層で高く、これらの年齢層では2位にあげられている。また、県平均で4位の「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」は年齢が低くなるほど高くなり、15～19歳と20～29歳では2位の要望となっている。

図3-4-3 年齢別加重平均でみた米軍基地対策



(4) 地域別にみた米軍基地対策

米軍基地対策を地域別に加重平均で比較したのが図3-4-4である。

地域別でみると、県平均で1位の「基地を返還させること」はすべての地域で1位となっているが、その値は八重山で最も高く、最も低い中部とは9.0ポイントの差がある。県平均で2～3位の「米軍人等の犯罪や事故をなくすこと」、「日米地位協定を改定すること」は各地域で上位4位までにあげられ、値の地域差も小さく、共通した認識があると言える。また、嘉手納飛行場や普天間飛行場のある中部では「米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと」が高く、3位となっている。

図3-4-4 地域別加重平均でみた米軍基地対策

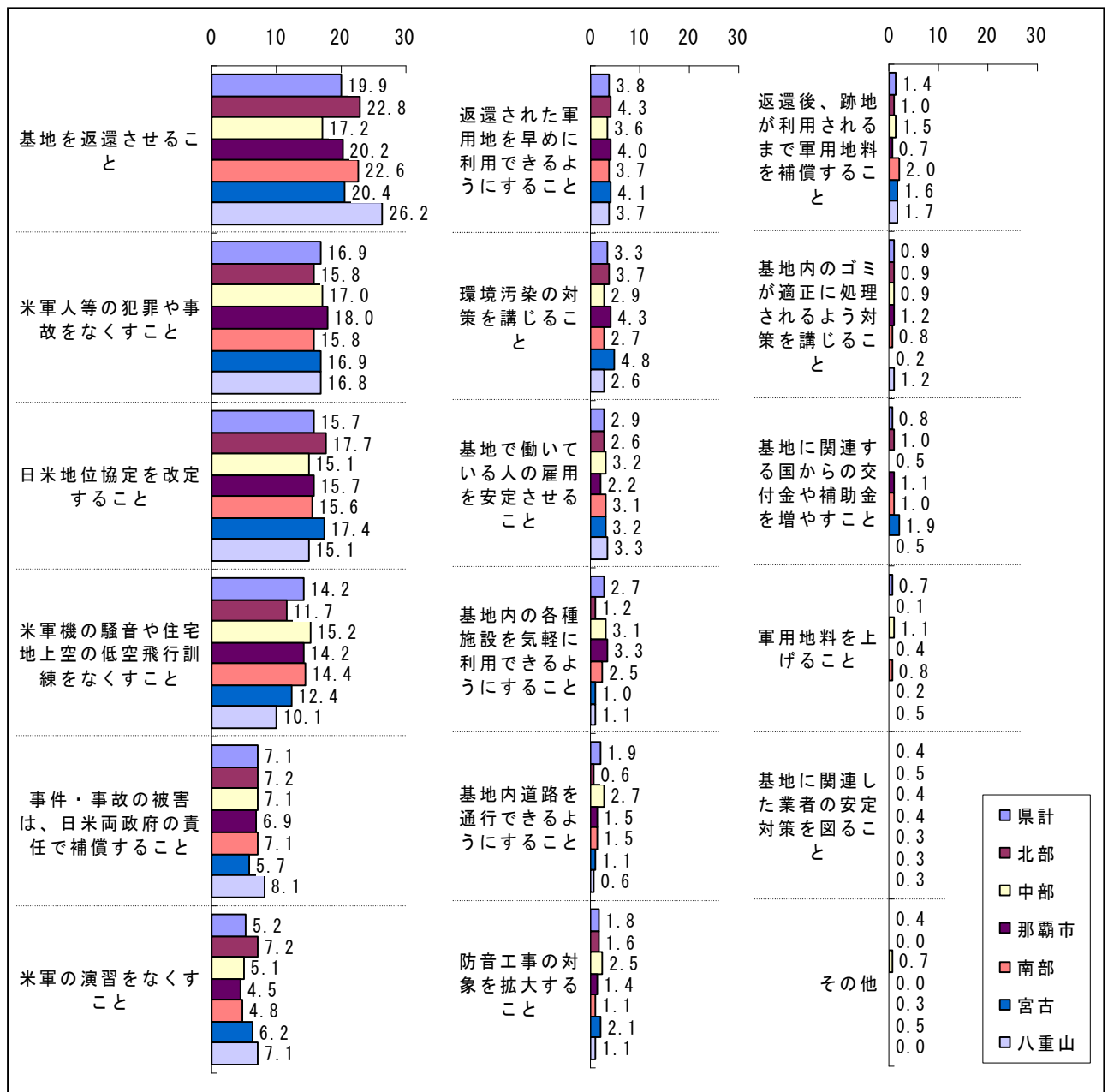


表 3 - 4 - 1 属性別にみた米軍基地対策

(%)

	【県計】			
	1 番目	2 番目	3 番目	合計
基地を返還させること	34.1	4.5	3.6	42.2
日米地位協定を改定すること	17.4	16.7	4.8	38.9
米軍の演習をなくすこと	4.3	5.8	5.8	15.9
米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと	12.9	16.2	10.7	39.8
環境汚染の対策を講じること	2.1	4.3	4.1	10.5
基地内のゴミが適正に処理されるよう対策を講じること	0.6	1.0	1.6	3.2
米軍人等の犯罪や事故をなくすこと	15.0	19.6	13.2	47.8
事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること	2.8	10.9	10.9	24.6
基地で働いている人の雇用を安定させること	1.8	3.5	4.4	9.7
軍用地料を上げること	0.6	0.9	0.8	2.3
基地に関連する国からの交付金や補助金を増やすこと	0.2	1.2	1.6	3.0
防音工事の対象を拡大すること	1.1	1.8	3.6	6.5
基地に関連した業者の安定対策を図ること	0.1	0.4	1.1	1.6
基地内の各種施設を気軽に利用できるようにすること	1.4	3.0	5.6	10.0
基地内道路を通行できるようにすること	0.8	1.8	4.7	7.3
返還された軍用地を早めに利用できるようにすること	1.5	3.7	10.2	15.4
返還後、跡地が利用されるまで軍用地料を補償すること	0.6	1.3	3.7	5.6
その他	0.3	0.2	0.7	1.2

	県計 加重平均	【性別加重平均】		【年齢別加重平均】						
		男	女	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上
				歳	歳	歳	歳	歳	歳	以上
基地を返還させること	19.9	21.1	18.9	15.7	16.0	16.7	19.6	21.7	24.2	22.6
日米地位協定を改定すること	15.7	18.2	13.5	7.6	9.4	14.5	14.7	20.5	17.1	19.3
米軍の演習をなくすこと	5.2	4.4	5.9	5.7	4.0	4.4	5.3	6.5	5.0	5.7
米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと	14.2	11.8	16.2	16.9	16.7	15.2	13.4	13.0	13.7	12.1
環境汚染の対策を講じること	3.3	3.3	3.3	4.3	2.9	3.6	3.5	3.5	2.3	3.7
基地内のゴミが適正に処理されるよう対策を講じること	0.9	0.7	1.1	1.8	1.3	0.9	1.3	0.7	0.6	0.3
米軍人等の犯罪や事故をなくすこと	16.9	15.6	17.9	17.8	22.2	19.9	18.1	14.1	13.1	13.2
事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること	7.1	6.4	7.7	8.2	6.5	7.2	7.5	6.1	7.9	6.9
基地で働いている人の雇用を安定させること	2.9	3.2	2.7	3.8	3.0	3.3	2.9	2.1	3.2	3.0
軍用地料を上げること	0.7	0.8	0.7	1.6	1.2	0.5	0.1	0.7	0.8	1.7
基地に関連する国からの交付金や補助金を増やすこと	0.8	0.9	0.7	0.1	0.6	0.7	1.0	0.8	0.8	1.5
防音工事の対象を拡大すること	1.8	2.1	1.6	2.2	1.9	2.8	2.4	1.2	1.4	0.3
基地に関連した業者の安定対策を図ること	0.4	0.6	0.2	0.4	0.6	0.3	0.7	0.3	0.2	0.2
基地内の各種施設を気軽に利用できるようにすること	2.7	2.9	2.6	3.3	6.3	3.6	2.3	1.6	1.6	1.5
基地内道路を通行できるようにすること	1.9	2.5	1.3	3.6	1.6	2.3	2.0	0.9	2.4	1.2
返還された軍用地を早めに利用できるようにすること	3.8	3.6	4.0	5.3	2.9	3.4	3.9	4.2	4.2	3.3
返還後、跡地が利用されるまで軍用地料を補償すること	1.4	1.4	1.3	1.5	1.6	0.5	1.0	1.7	1.6	2.7
その他	0.4	0.5	0.3	0.1	1.3	0.2	0.4	0.3	0.1	0.7

	【地域別加重平均】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
基地を返還させること	22.8	17.2	20.2	22.6	20.4	26.2
日米地位協定を改定すること	17.7	15.1	15.7	15.6	17.4	15.1
米軍の演習をなくすこと	7.2	5.1	4.5	4.8	6.2	7.1
米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと	11.7	15.2	14.2	14.4	12.4	10.1
環境汚染の対策を講じること	3.7	2.9	4.3	2.7	4.8	2.6
基地内のゴミが適正に処理されるよう対策を講じること	0.9	0.9	1.2	0.8	0.2	1.2
米軍人等の犯罪や事故をなくすこと	15.8	17.0	18.0	15.8	16.9	16.8
事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること	7.2	7.1	6.9	7.1	5.7	8.1
基地で働いている人の雇用を安定させること	2.6	3.2	2.2	3.1	3.2	3.3
軍用地料を上げること	0.1	1.1	0.4	0.8	0.2	0.5
基地に関連する国からの交付金や補助金を増やすこと	1.0	0.5	1.1	1.0	1.9	0.5
防音工事の対象を拡大すること	1.6	2.5	1.4	1.1	2.1	1.1
基地に関連した業者の安定対策を図ること	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
基地内の各種施設を気軽に利用できるようにすること	1.2	3.1	3.3	2.5	1.0	1.1
基地内道路を通行できるようにすること	0.6	2.7	1.5	1.5	1.1	0.6
返還された軍用地を早めに利用できるようにすること	4.3	3.6	4.0	3.7	4.1	3.7
返還後、跡地が利用されるまで軍用地料を補償すること	1.0	1.5	0.7	2.0	1.6	1.7
その他	0.0	0.7	0.0	0.3	0.5	0.0

表3-4-2 属性別にみた米軍基地対策（上位5位）

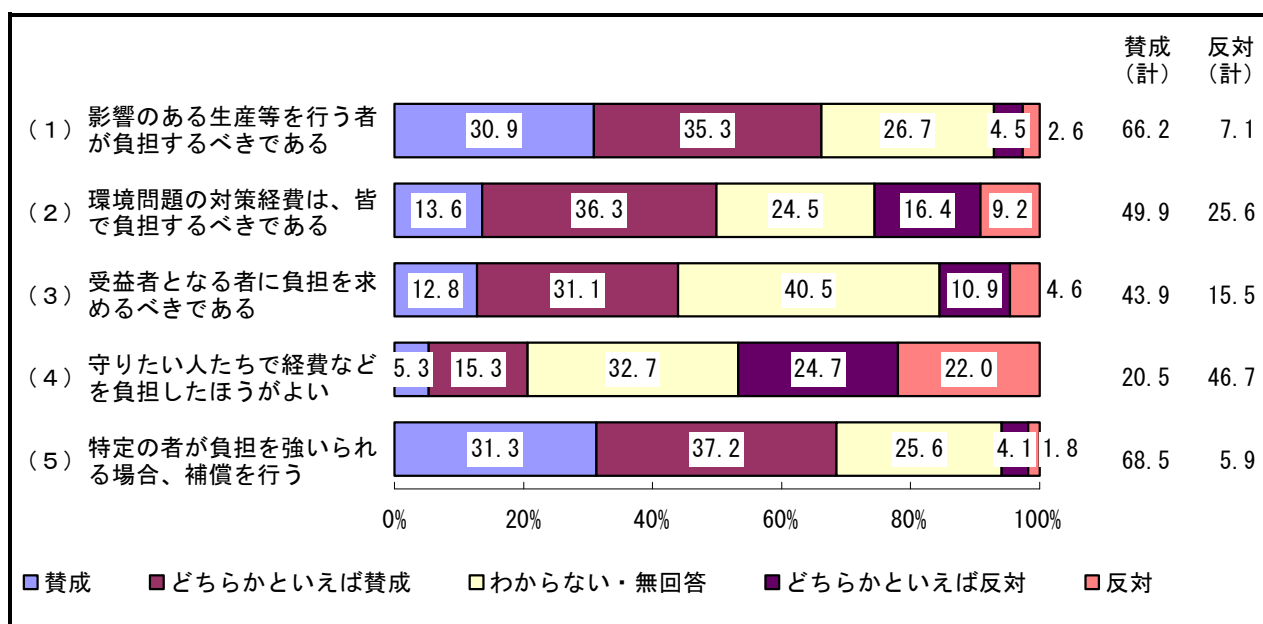
		1位	2位	3位	4位	5位
県計		基地を返還させること 19.9	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 16.9	日米地位協定を改定すること 15.7	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 14.2	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.1
【性別】	男	基地を返還させること 21.1	日米地位協定を改定すること 18.2	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 15.6	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 11.8	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 6.4
	女	基地を返還させること 18.9	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 17.9	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 16.2	日米地位協定を改定すること 13.5	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.7
【年齢】	15～19歳	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 17.8	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 16.9	基地を返還させること 15.7	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 8.2	日米地位協定を改定すること 7.6
	20～29歳	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 22.2	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 16.7	基地を返還させること 16.0	日米地位協定を改定すること 9.4	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 6.5
	30～39歳	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 19.9	基地を返還させること 16.7	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 15.2	日米地位協定を改定すること 14.5	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.2
	40～49歳	基地を返還させること 19.6	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 18.1	日米地位協定を改定すること 14.7	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 13.4	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.5
	50～59歳	基地を返還させること 21.7	日米地位協定を改定すること 20.5	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 14.1	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 13.0	米軍の演習をなくすこと 6.5
	60～69歳	基地を返還させること 24.2	日米地位協定を改定すること 17.1	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 13.7	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 13.1	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.9
	70歳以上	基地を返還させること 22.6	日米地位協定を改定すること 19.3	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 13.2	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 12.1	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 6.9
【地域別】	北部	基地を返還させること 22.8	日米地位協定を改定すること 17.7	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 15.8	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 11.7	米軍の演習をなくすこと/事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.2
	中部	基地を返還させること 17.2	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 17.0	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 15.2	日米地位協定を改定すること 15.1	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.1
	那覇市	基地を返還させること 20.2	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 18.0	日米地位協定を改定すること 15.7	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 14.2	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 6.9
	南部	基地を返還させること 22.6	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 15.8	日米地位協定を改定すること 15.6	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 14.4	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 7.1
	宮古	基地を返還させること 20.4	日米地位協定を改定すること 17.4	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 16.9	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 12.4	米軍の演習をなくすこと 6.2
	八重山	基地を返還させること 26.2	米軍人等の犯罪や事故をなくすこと 16.8	日米地位協定を改定すること 15.1	米軍機の騒音や住宅地上空の低空飛行訓練をなくすこと 10.1	事件・事故の被害は、日米両政府の責任で補償すること 8.1

5 環境保全と負担について（問 12）

（1）県民の環境対策に伴う負担意識

県民の環境対策に伴う負担意識を探るため、『（1）環境に良くない影響を及ぼす物の生産や消費を行う者が経済的な負担をするべきである』、『（2）環境問題は全体に関わることなので、環境問題の対策経費は皆で少しずつ負担するべきである』、『（3）ある環境が保全・再生されることにより、受益者となる者に負担を求めるべきである』、『（4）人によって守りたい自然・環境は様々なので、その守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい』、『（5）ある環境を保護するために、その地域の住民など特定の者が生活水準の低下などの負担を強いられる場合は、経済的な補償などの適切な援助を行ったほうがよい』の5つの意見、それぞれについての賛否を、「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「反対」、「わからない」の5項目の中から選択してもらい、その結果をまとめたものが図3-5-1である。

図3-5-1 環境対策に伴う負担意識



『（5）ある環境を保護するために、その地域の住民など特定の者が生活水準の低下などの負担を強いられる場合は、経済的な補償などの適切な援助を行ったほうがよい』について「賛成」は31.3%、「どちらかといえば賛成」は37.2%で、合わせて68.5%が『賛成』と答えている。さらに、『（1）環境に良くない影響を及ぼす物の生産や消費を行う者が経済的な負担をするべきである』について「賛成」は30.9%、「どちらかといえば賛成」は35.3%と、合わせて66.2%が『賛成』と答え、両者の『賛成』は7割近くに達している。

『（2）環境問題は全体に関わることなので、環境問題の対策経費は皆で少しずつ負担するべきである』について「賛成」は13.6%にとどまり、「どちらかといえば賛成」（36.3%）

を合わせた『賛成』は49.9%と約半数となっている。『(3)ある環境が保全・再生されることにより、受益者となる者に負担を求めるべきである』についても『賛成』(「賛成」12.8%+「どちらかといえば賛成」31.1%)は43.9%と4割強にとどまっている。ただし、いずれの意見に対しても「わからない」が2~4割を占め、この2つの意見に対する『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)は『(2)環境問題対策経費は皆で負担するべき』で25.6%、『(3)受益者となる者に負担を求めるべき』で15.5%と、それぞれ『賛成』を下回っている。

逆に、『(4)人によって守りたい自然・環境は様々なので、その守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい』については、『反対』(「反対」22.0%+「どちらかといえば反対」24.7%)が46.7%で、『賛成』(「賛成」5.3%+「どちらかといえば賛成」15.3%)の20.5%を大きく上回っている。

続いて、環境対策に伴う負担意識について、性別、年齢別、地域別にみたのが図3-5-2である。

(2) 性別にみた環境対策に伴う負担意識

性別にみると、男性では『(5)ある環境を保護するために、その地域の住民など特定の者が生活水準の低下などの負担を強いられる場合は、経済的な補償などの適切な援助を行ったほうがよい』に『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)とする人は71.5%に及び、『(1)環境に良くない影響を及ぼす物の生産や消費を行う者が経済的な負担をするべきである』でも『賛成』は70.6%と7割に達している。全体的にみて、それぞれの意見に対して『賛成』とする人の比率は女性よりも男性で高く、『(3)ある環境が保全・再生されることにより、受益者となる者に負担を求めるべきである』(男性49.7%、女性39.0%)では10.7ポイント女性を上回り、『賛成』率の最も低い『(4)人によって守りたい自然・環境は様々なので、その守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい』(男性25.5%、女性16.4%)についても9.1ポイント女性を上回っている。反面、『反対』(「反対」+「どちらかといえば反対」)とする人の比率は大きな男女差はみられず、女性では「わからない」が男性に比べて多い傾向にある。

(3) 年齢別にみた環境対策に伴う負担意識

年齢別にみると、『(5)ある環境を保護するために、その地域の住民など特定の者が生活水準の低下などの負担を強いられる場合は、経済的な補償などの適切な援助を行ったほうがよい』と『(1)環境に良くない影響を及ぼす物の生産や消費を行う者が経済的な負担をするべきである』に対する『賛成』の比率は、全年齢層で過半数を占め多数意見となっている。なかでも40~50歳代では両項目とも7割に達している。

『(2)環境問題は全体に関わることなので、環境問題の対策経費は皆で少しずつ負担するべきである』に対する『賛成』の比率は30~50歳代で、『(3)ある環境が保全・再生されることにより、受益者となる者に負担を求めるべきである』に対する『賛成』の比率は

50 歳代で、それぞれ過半数を占めている。

『(4)人によって守りたい自然・環境は様々なので、その守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい』については、『反対』が 30～40 歳代で 5 割を超えているが、この年齢層から離れるにしたがって比率は低くなっている。

(4) 地域別にみた環境対策に伴う負担意識

地域別にみると、『(5)ある環境を保護するために、その地域の住民など特定の者が生活水準の低下などの負担を強いられる場合は、経済的な補償などの適切な援助を行ったほうがよい』と『(1)環境に良くない影響を及ぼす物の生産や消費を行う者が経済的な負担をするべきである』に対する『賛成』の比率は、県全体の傾向と同様、どの地域でも過半数を占め、多数意見となっているが、比率には地域によるばらつきがみられる。『(5)ある環境を保護するために、その地域の住民など特定の者が生活水準の低下などの負担を強いられる場合は、経済的な補償などの適切な援助を行ったほうがよい』は宮古(58.5%)で、『(1)環境に良くない影響を及ぼす物の生産や消費を行う者が経済的な負担をするべきである』は北部(54.3%)と宮古(54.2%)で 5 割台と低く、他の地域では 7 割前後を占めている。

県全体で約半数が『賛成』した『(2)環境問題は全体に関わることなので、環境問題の対策経費は皆で少しずつ負担するべきである』は北部(36.2%)と宮古(36.4%)で 3 割台と低く、中部(50.1%)、那覇市(52.8%)、南部(56.3%)で過半数を占めている。『(3)ある環境が保全・再生されることにより、受益者となる者に負担を求めるべきである』については、南部(38.8%)、宮古(33.1%)で低く、中部(47.5%)、八重山(46.1%)で高くなっている。

『(4)人によって守りたい自然・環境は様々なので、その守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい』については、『反対』が宮古で 36.4%とやや低い、那覇市(51.9%)では過半数を占め、他の地域でも 4 割台となっている。

全体を通して、宮古では他の地域と比べ『賛成』、『反対』とする人の比率が低くなっているが、これは「わからない」と回答した人の比率が高かったことによる。

図3-5-2 属性別にみた環境対策に伴う負担意識

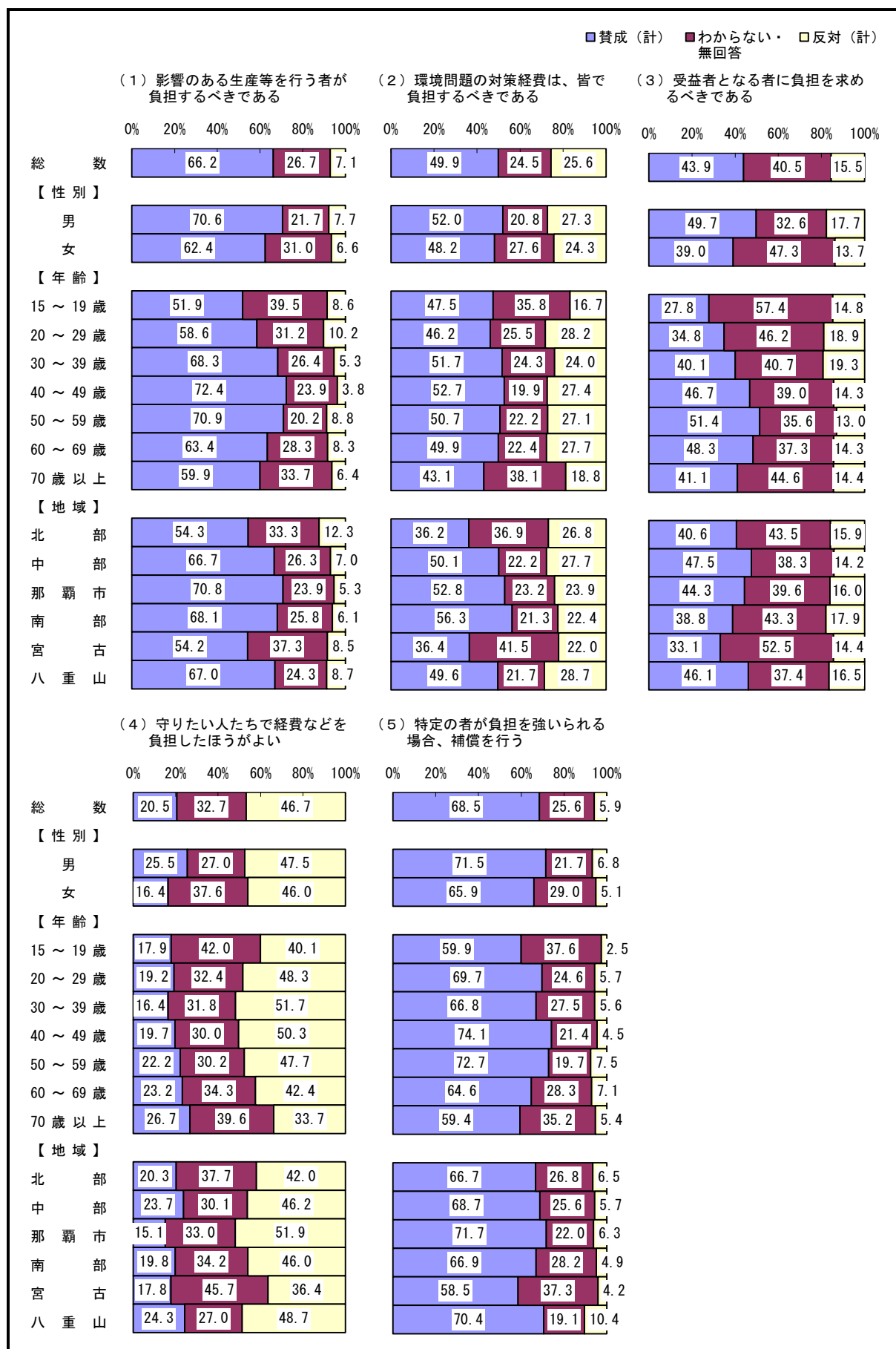


表3-5-1 属性別にみた環境対策に伴う負担意識

(%)

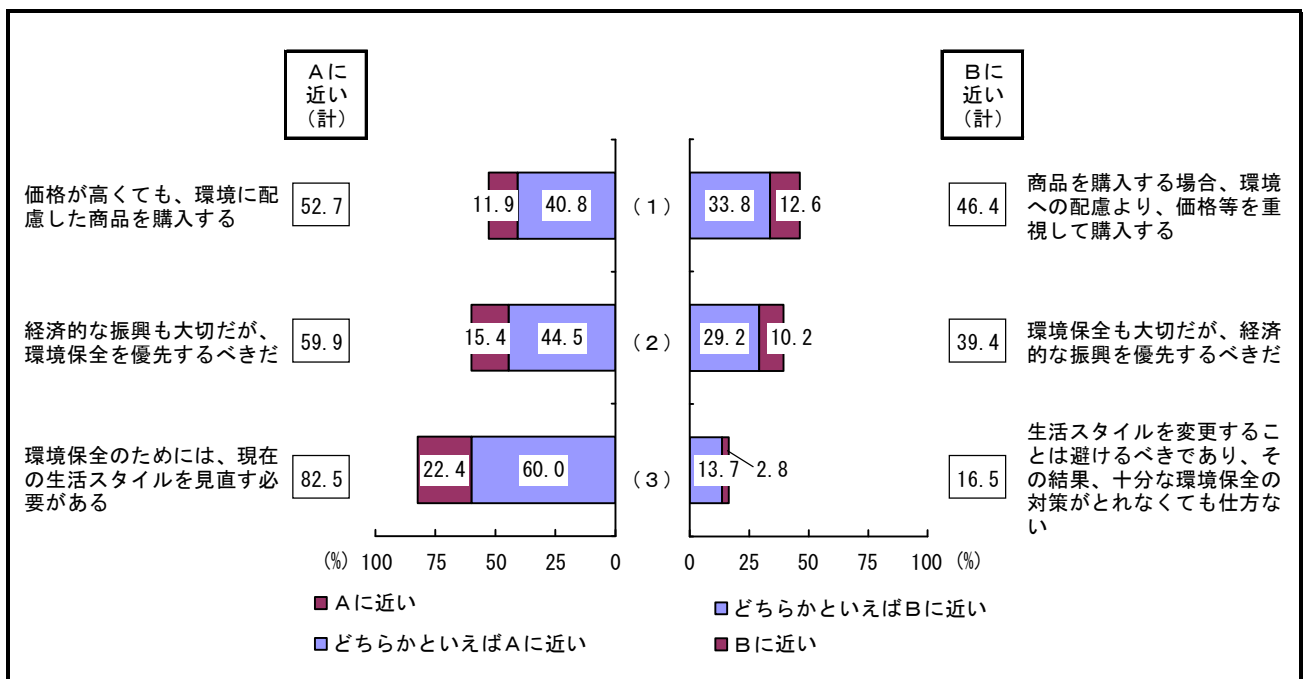
		県計	【性別】		【年齢別】						
			男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
(1) 影響のある生産等を行う者が負担するべきである	賛成	30.9	35.2	27.2	25.9	14.1	31.9	29.6	34.5	37.4	35.6
	どちらかといえば賛成	35.3	35.4	35.2	25.9	44.4	36.4	42.8	36.4	26.1	24.3
	どちらかといえば反対	4.5	5.0	4.1	4.9	7.2	3.3	2.8	5.9	4.2	4.0
	反対	2.6	2.6	2.6	3.7	3.0	2.0	0.9	2.9	4.0	2.5
	わからない・無回答	26.7	21.7	31.0	39.5	31.2	26.4	23.9	20.2	28.3	33.7
	賛成(計)	66.2	70.6	62.4	51.9	58.6	68.3	72.4	70.9	63.4	59.9
(2) 環境問題の対策経費は、皆で負担するべきである	賛成	13.6	15.3	12.1	11.7	10.5	16.0	13.5	13.8	14.5	10.9
	どちらかといえば賛成	36.3	36.6	36.0	35.8	35.7	35.7	39.2	36.9	35.4	32.2
	どちらかといえば反対	16.4	17.1	15.8	9.3	21.0	15.7	19.7	18.8	12.9	9.4
	反対	9.2	10.1	8.4	7.4	7.2	8.4	7.7	8.3	14.7	9.4
	わからない・無回答	24.5	20.8	27.6	35.8	25.5	24.3	19.9	22.2	22.4	38.1
	賛成(計)	49.9	52.0	48.2	47.5	46.2	51.7	52.7	50.7	49.9	43.1
(3) 受益者となる者に負担を求めべきである	賛成	12.8	16.1	10.0	6.8	8.7	10.7	12.4	15.6	17.2	11.9
	どちらかといえば賛成	31.1	33.6	28.9	21.0	26.1	29.3	34.3	35.8	31.1	29.2
	どちらかといえば反対	10.9	11.9	10.1	9.9	14.4	15.1	11.6	8.5	7.3	9.4
	反対	4.6	5.8	3.6	4.9	4.5	4.2	2.6	4.5	7.1	5.0
	わからない・無回答	40.5	32.6	47.3	57.4	46.2	40.7	39.0	35.6	37.3	44.6
	賛成(計)	43.9	49.7	39.0	27.8	34.8	40.1	46.7	51.4	48.3	41.1
(4) 守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい	賛成	5.3	7.6	3.3	5.6	3.9	5.3	4.9	4.2	7.1	7.4
	どちらかといえば賛成	15.3	17.9	13.0	12.3	15.3	11.1	14.8	18.0	16.2	19.3
	どちらかといえば反対	24.7	24.7	24.7	22.8	26.1	29.5	26.5	25.4	20.6	13.9
	反対	22.0	22.8	21.3	17.3	22.2	22.2	23.8	22.3	21.8	19.8
	わからない・無回答	32.7	27.0	37.6	42.0	32.4	31.8	30.0	30.2	34.3	39.6
	賛成(計)	20.5	25.5	16.4	17.9	19.2	16.4	19.7	22.2	23.2	26.7
(5) 特定の者が負担を強いられる場合、補償を行う	賛成	31.3	33.6	29.3	30.2	35.4	32.8	28.5	30.7	30.7	32.2
	どちらかといえば賛成	37.2	37.8	36.6	29.6	34.2	34.1	45.6	42.1	33.9	27.2
	どちらかといえば反対	4.1	4.8	3.5	1.2	3.9	4.2	3.9	4.2	5.3	3.5
	反対	1.8	2.0	1.7	1.2	1.8	1.5	0.6	3.4	1.8	2.0
	わからない・無回答	25.6	21.7	29.0	37.6	24.6	27.5	21.4	19.7	28.3	35.2
	賛成(計)	68.5	71.5	65.9	59.9	69.7	66.8	74.1	72.7	64.6	59.4

		【地域別】					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(1) 影響のある生産等を行う者が負担するべきである	賛成	24.6	29.2	34.3	32.7	28.0	39.1
	どちらかといえば賛成	29.7	37.5	36.5	35.4	26.3	27.8
	どちらかといえば反対	6.5	4.7	3.5	3.8	4.2	7.0
	反対	5.8	2.3	1.9	2.3	4.2	1.7
	わからない・無回答	33.3	26.3	23.9	25.8	37.3	24.3
	賛成(計)	54.3	66.7	70.8	68.1	54.2	67.0
(2) 環境問題の対策経費は、皆で負担するべきである	賛成	13.0	13.7	12.6	16.7	9.3	9.6
	どちらかといえば賛成	23.2	36.4	40.3	39.5	27.1	40.0
	どちらかといえば反対	16.7	17.6	16.4	13.7	12.7	20.0
	反対	10.1	10.1	7.5	8.7	9.3	8.7
	わからない・無回答	36.9	22.2	23.2	21.3	41.5	21.7
	賛成(計)	36.2	50.1	52.8	56.3	36.4	49.6
(3) 受益者となる者に負担を求めべきである	賛成	12.3	14.8	10.7	11.8	9.3	12.2
	どちらかといえば賛成	28.3	32.6	33.6	27.0	23.7	33.9
	どちらかといえば反対	10.1	11.3	9.1	13.7	7.6	10.4
	反対	5.8	2.9	6.9	4.2	6.8	6.1
	わからない・無回答	43.5	38.3	39.6	43.3	52.5	37.4
	賛成(計)	40.6	47.5	44.3	38.8	33.1	46.1
(4) 守りたい人たちで経費などを負担したほうがよい	賛成	5.8	7.0	2.8	4.2	5.9	3.5
	どちらかといえば賛成	14.5	16.6	12.3	15.6	11.9	20.9
	どちらかといえば反対	17.4	25.3	27.4	24.7	18.6	27.0
	反対	24.6	20.9	24.5	21.3	17.8	21.7
	わからない・無回答	37.7	30.1	33.0	34.2	45.7	27.0
	賛成(計)	20.3	23.7	15.1	19.8	17.8	24.3
(5) 特定の者が負担を強いられる場合、補償を行う	賛成	29.7	32.5	29.9	32.7	29.7	26.1
	どちらかといえば賛成	37.0	36.2	41.8	34.2	28.8	44.3
	どちらかといえば反対	5.1	4.2	3.1	3.8	1.7	8.7
	反対	1.4	1.5	3.1	1.1	2.5	1.7
	わからない・無回答	26.8	25.6	22.0	28.2	37.3	19.1
	賛成(計)	66.7	68.7	71.7	66.9	58.5	70.4

(5) 環境保全に関する考え方

県民の環境保全に関する考え方を図るため、『(1) A=価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する←→B=商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する』、『(2) A=経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ←→B=環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ』、『(3) A=環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある←→B=生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない』の3項目について、対立する2つの考え方のそれぞれどちらに近いか、「Aに近い」、「どちらかといえばAに近い」、「どちらかといえばBに近い」、「Bに近い」の4項目の中から選択させ、その結果をまとめたものが図3-5-3である。

図3-5-3 環境保全に関する考え方



『(1) A=価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する←→B=商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する』については、「環境に配慮した商品を購入する」と「どちらかといえば、環境に配慮した商品を購入する」を合わせた『環境重視派』は、52.7%で、「価格等を重視して購入する」と「どちらかといえば、価格等を重視して購入する」を合わせた『価格等重視派』46.4%を上回っている。

同様に、『(2) A=経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ←→B=環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ』については、『環境保全優先派』が59.9%で、『経済的振興優先派』の39.4%を大きく上回っている。

『(3) A=環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある←→B=生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなく

ても仕方ない』については、『生活スタイル見直し派』が82.5%と8割に及び、『生活スタイル維持派』の16.5%を大きく上回っている。

いずれの場合も、「どちらかといえば環境重視」(40.8%)、「どちらかといえば環境保全優先」(44.5%)、「どちらかといえば生活スタイル見直し」(60.0%)の消極的回答のほうが多数を占めているものの、環境に配慮した考え方が多数意見となっている。

続いて、環境保全に関する考えについて、性別、年齢別、年収別、地域別にみたのが図3-5-4である。

(6) 性別にみた環境保全に関する考え方

性別にみると、『(2) A=経済的な振興も大切だが、環境保全を優先すべきだ←→B=環境保全も大切だが、経済的な振興を優先すべきだ』の考え方について、『環境保全優先派』が男性でやや高く、『経済的振興優先派』が女性でやや高いほか、際立った差はみられない。

(7) 年齢別にみた環境保全に関する考え方

年齢別にみると、『(1) A=価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する←→B=商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する』の考え方について、『環境重視派』は60~69歳(62.4%)で最も高く、40~50歳代と70歳以上では過半数を占めるのに対し、15~19歳(43.8%)と30~39歳(48.8%)で4割台、20~29歳(37.5%)で最も低く3割台となっている。『価格等重視派』は20~29歳で61.9%と多数を占めるほか、15~19歳(56.2%)と30~39歳(50.8%)で過半数を占めている。

『(2) A=経済的な振興も大切だが、環境保全を優先すべきだ←→B=環境保全も大切だが、経済的な振興を優先すべきだ』については、『環境保全優先派』がすべての年齢層で過半数を占め、なかでも30~50歳代で6割に達している。

『(3) A=環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある←→B=生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない』については、各年齢層とも『生活スタイル見直し派』が圧倒的多数を占めているが、比率は20~29歳(88.9%)で最も高く、年齢が上がるにしたがって低くなり、60~69歳(74.7%)で最も低くなっている。

(8) 年収別にみた環境保全に関する考え方

年収別にみると、『(1) A=価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する←→B=商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する』の考え方については、『環境重視派』は100万円未満で37.0%と3割台にとどまるのに対し、1,000万円以上では81.2%に達している。年収によって『環境重視派』の比率にばらつきはあるものの、概

ね年収の高い層で低い層より高くなる傾向がみられるが、700～800万円未満（54.9%）と900～1,000万円未満（58.9%）は低くなっている。一方、『価格等重視派』は100万円未満で61.6%、100万円～200万円未満（55.1%）、300万円～400万円未満（51.4%）でも過半数を占め、これらの層では『環境重視派』を上回っている。

『（2） A=経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ↔B=環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ』についても、『環境保全優先派』は年収が高い層ほど高くなる傾向にあるが、同様に700～800万円未満（69.5%）と900～1,000万円未満（60.7%）は低くなっている。

『（3） A=環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある↔B=生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない』については、各層とも『生活スタイル見直し派』が圧倒的多数を占めているが、100万円未満（72.6%）と100万円～200万円未満（78.3%）の層で低く、8割に満たない。

（9）地域別にみた環境保全に関する考え方

地域別にみると、『（1） A=価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する↔B=商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する』の考え方については、北部を除く地域では『環境重視派』が過半数を占めているが、北部（47.1%）では半数を下回り、逆に『価格等重視派』が52.2%と過半数を占めている。

『（2） A=経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ↔B=環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ』については、『環境保全優先派』は各地域で5～6割台となっているが、北部（50.0%）、宮古（50.8%）で低く、那覇市（68.6%）で高い。

『（3） A=環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある↔B=生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない』については、各層とも『生活スタイル見直し派』が圧倒的多数を占めるが、北部（71.0%）と宮古（73.7%）では7割台にとどまるのに対し、他の地域はいずれも8割を超えている。



図3-5-4 属性別にみた環境保全に関する考え方

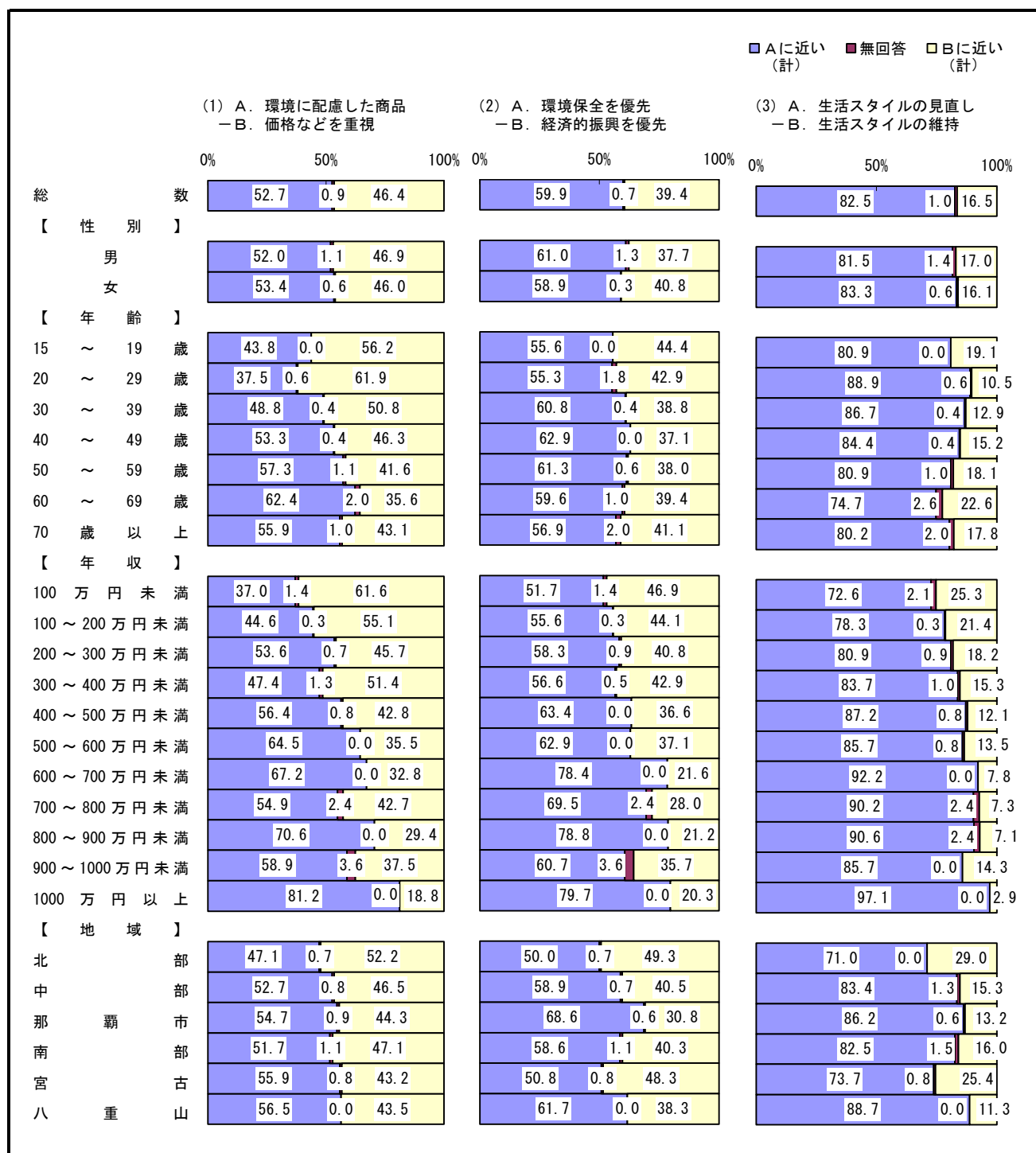


表3-5-2 属性別にみた環境保全に関する考え方

(%)

		県計	【性別】		【年齢別】							
			男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
(1)	A. 価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する	Aに近い	11.9	11.9	11.9	5.6	7.8	7.5	13.9	13.3	13.9	20.8
		どちらかといえばAに近い	40.8	40.1	41.5	38.3	29.7	41.3	39.4	44.0	48.5	35.1
	B. 商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する	どちらかといえばBに近い	33.8	33.9	33.7	40.1	46.5	36.1	36.6	32.1	21.8	28.7
		Bに近い	12.6	13.1	12.3	16.0	15.3	14.8	9.8	9.5	13.7	14.4
	無回答	0.9	1.1	0.6	0.0	0.6	0.4	0.4	1.1	2.0	1.0	
	【計】	Aに近い(計)	52.7	52.0	53.4	43.8	37.5	48.8	53.3	57.3	62.4	55.9
Bに近い(計)	46.4	46.9	46.0	56.2	61.9	50.8	46.3	41.6	35.6	43.1		
(2)	A. 経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ	Aに近い	15.4	17.8	13.4	9.3	11.1	15.8	14.6	15.9	16.8	23.8
		どちらかといえばAに近い	44.5	43.2	45.5	46.3	44.1	45.0	48.2	45.4	42.8	33.2
	B. 環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ	どちらかといえばBに近い	29.2	27.0	31.1	32.1	30.9	29.0	28.7	27.4	27.9	34.2
		Bに近い	10.2	10.7	9.8	12.3	12.0	9.8	8.4	10.6	11.5	6.9
	無回答	0.7	1.3	0.3	0.0	1.8	0.4	0.0	0.6	1.0	2.0	
	【計】	Aに近い(計)	59.9	61.0	58.9	55.6	55.3	60.8	62.9	61.3	59.6	56.9
Bに近い(計)	39.4	37.7	40.8	44.4	42.9	38.8	37.1	38.0	39.4	41.1		
(3)	A. 環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある	Aに近い	22.4	20.6	24.0	26.5	26.7	25.3	23.5	19.3	16.6	25.7
		どちらかといえばAに近い	60.0	60.9	59.3	54.3	62.2	61.4	61.0	61.6	58.2	54.5
	B. 生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない	どちらかといえばBに近い	13.7	13.6	13.9	16.7	9.9	10.7	13.7	14.8	18.4	11.4
		Bに近い	2.8	3.5	2.2	2.5	0.6	2.2	1.5	3.4	4.2	6.4
	無回答	1.0	1.4	0.6	0.0	0.6	0.4	0.4	1.0	2.6	2.0	
	【計】	Aに近い(計)	82.5	81.5	83.3	80.9	88.9	86.7	84.4	80.9	74.7	80.2
Bに近い(計)	16.5	17.0	16.1	19.1	10.5	12.9	15.2	18.1	22.6	17.8		

		【地域別】						
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山	
(1)	A. 価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する	Aに近い	15.9	12.9	9.4	9.5	14.4	13.0
		どちらかといえばAに近い	31.2	39.8	45.3	42.2	41.5	43.5
	B. 商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する	どちらかといえばBに近い	31.9	35.1	31.4	36.5	33.9	25.2
		Bに近い	20.3	11.4	12.9	10.6	9.3	18.3
	無回答	0.7	0.8	0.9	1.1	0.8	0.0	
	【計】	Aに近い(計)	47.1	52.7	54.7	51.7	55.9	56.5
Bに近い(計)	52.2	46.5	44.3	47.1	43.2	43.5		
(2)	A. 経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ	Aに近い	18.1	14.7	15.7	16.3	12.7	13.9
		どちらかといえばAに近い	31.9	44.2	52.8	42.2	38.1	47.8
	B. 環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ	どちらかといえばBに近い	33.3	31.5	23.3	28.1	33.9	27.0
		Bに近い	15.9	9.0	7.5	12.2	14.4	11.3
	無回答	0.7	0.7	0.6	1.1	0.8	0.0	
	【計】	Aに近い(計)	50.0	58.9	68.6	58.6	50.8	61.7
Bに近い(計)	49.3	40.5	30.8	40.3	48.3	38.3		
(3)	A. 環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある	Aに近い	19.6	22.0	23.9	21.7	25.4	26.1
		どちらかといえばAに近い	51.4	61.3	62.3	60.8	48.3	62.6
	B. 生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない	どちらかといえばBに近い	21.0	12.9	11.6	12.9	24.6	9.6
		Bに近い	8.0	2.4	1.6	3.0	0.8	1.7
	無回答	0.0	1.3	0.6	1.5	0.8	0.0	
	【計】	Aに近い(計)	71.0	83.4	86.2	82.5	73.7	88.7
Bに近い(計)	29.0	15.3	13.2	16.0	25.4	11.3		

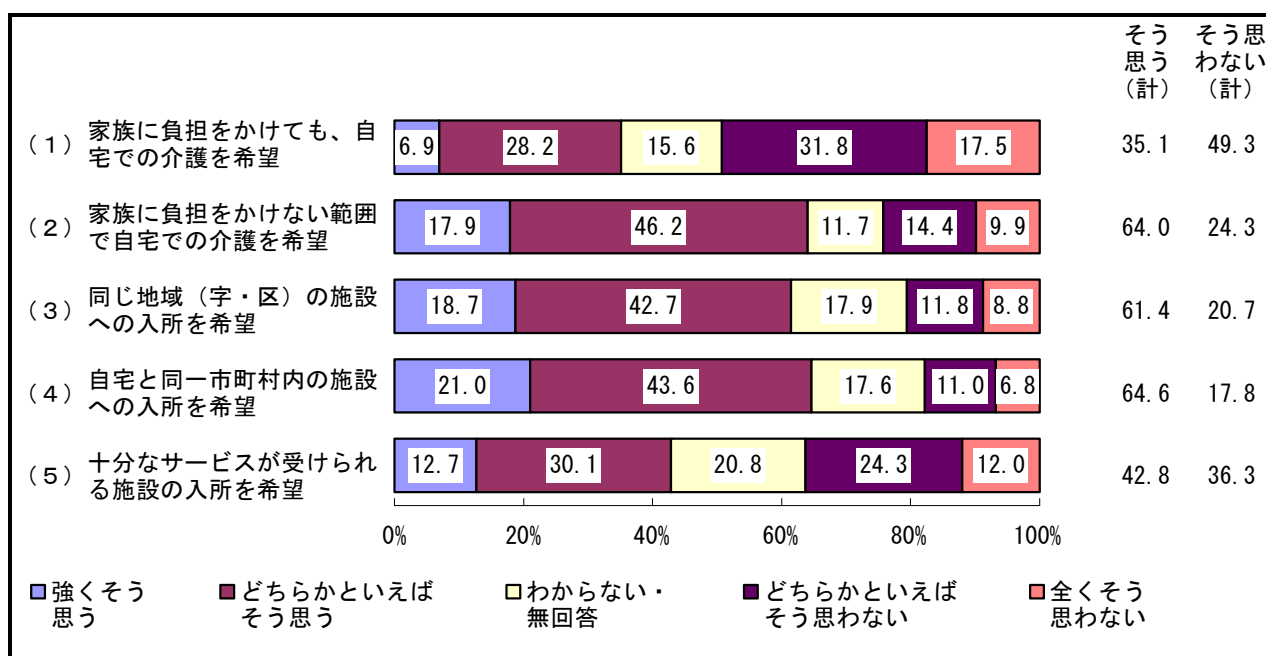
		【年収別】											
		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1,000万円未満	1,000万円以上	
(1)	A. 価格が高くても、環境に配慮した商品を購入する	Aに近い	11.6	13.4	9.0	9.5	7.4	12.7	18.1	13.4	15.3	10.7	26.1
		どちらかといえばAに近い	25.3	31.2	44.6	37.8	49.0	51.8	49.1	41.5	55.3	48.2	55.1
	B. 商品を購入する場合、環境への配慮より、価格等を重視して購入する	どちらかといえばBに近い	42.5	36.4	34.4	40.4	31.5	25.1	25.0	35.4	27.1	30.4	13.0
		Bに近い	19.2	18.7	11.3	11.0	11.3	10.4	7.8	7.3	2.4	7.1	5.8
	無回答	1.4	0.3	0.7	1.3	0.8	0.0	0.0	2.4	0.0	3.6	0.0	
	【計】	Aに近い(計)	37.0	44.6	53.6	47.4	56.4	64.5	67.2	54.9	70.6	58.9	81.2
Bに近い(計)	61.6	55.1	45.7	51.4	42.8	35.5	32.8	42.7	29.4	37.5	18.8		
(2)	A. 経済的な振興も大切だが、環境保全を優先するべきだ	Aに近い	14.4	14.7	14.4	13.5	11.7	22.7	21.6	11.0	23.5	7.1	34.8
		どちらかといえばAに近い	37.3	40.9	43.9	43.1	51.8	40.2	56.9	58.5	55.3	53.6	44.9
	B. 環境保全も大切だが、経済的な振興を優先するべきだ	どちらかといえばBに近い	33.6	28.0	30.8	33.1	26.1	30.7	18.1	23.2	17.6	28.6	20.3
		Bに近い	13.4	16.0	10.1	9.8	10.5	6.4	3.4	4.9	3.5	7.1	0.0
	無回答	1.4	0.3	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	3.6	0.0	
	【計】	Aに近い(計)	51.7	55.6	58.3	56.6	63.4	62.9	78.4	69.5	78.8	60.7	79.7
Bに近い(計)	46.9	44.1	40.8	42.9	36.6	37.1	21.6	28.0	21.2	35.7	20.3		
(3)	A. 環境保全のためには、現在の生活スタイルを見直す必要がある	Aに近い	18.8	20.4	25.5	17.5	16.7	29.5	32.8	20.7	30.6	16.1	37.7
		どちらかといえばAに近い	53.8	57.9	55.4	66.2	70.4	56.2	59.5	69.5	60.0	69.6	59.4
	B. 生活スタイルを変更することは避けるべきであり、その結果、十分な環境保全の対策がとれなくても仕方ない	どちらかといえばBに近い	18.2	17.7	15.1	14.3	10.1	10.4	7.8	7.3	7.1	14.3	2.9
		Bに近い	7.2	3.7	3.1	1.0	1.9	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答	2.1	0.3	0.9	1.0	0.8	0.8	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	
	【計】	Aに近い(計)	72.6	78.3	80.9	83.7	87.2	85.7	92.2	90.2	90.6	85.7	97.1
Bに近い(計)	25.3	21.4	18.2	15.3	12.1	13.5	7.8	7.3	7.1	14.3	2.9		

6 介護について（問 13）

（1）介護に対する希望

高齢で介護を受けることになった場合、『（1）家族に負担をかけるかもしれないが、自宅での介護を希望する』、『（2）家族に負担をかけない範囲で、自宅での介護を希望する』、『（3）施設を希望するが、住み慣れた街を離れたくないので、同じ地域（字・区）の施設への入所を希望する』、『（4）自宅と同一市町村内の施設への入所を希望する』、『（5）自宅から遠く離れることになっても、十分なサービスが受けられる施設であれば入所を希望する』の5つの介護の受け方を提示して、それぞれについて「強くそう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「全く思わない」、「わからない」の5項目の中から選択してもらい、その結果をまとめたものが図3-6-1である。

図3-6-1 介護に対する希望



『（4）自宅と同一市町村内の施設への入所を希望する』について「強くそう思う」は21.0%、「どちらかといえばそう思う」は43.6%で、合わせて64.6%が『そう思う』と答えている。さらに、『（2）家族に負担をかけない範囲で、自宅での介護を希望する』についても『そう思う』（「強くそう思う」17.9%+「どちらかといえばそう思う」46.2%）が64.0%、『（3）施設を希望するが、住み慣れた街を離れたくないので、同じ地域（字・区）の施設への入所を希望する』についても『そう思う』（「強くそう思う」18.7%+「どちらかといえばそう思う」42.7%）が61.4%と両者とも6割を超えている。

また、『（5）自宅から遠く離れることになっても、十分なサービスが受けられる施設であれば入所を希望する』については、『そう思う』（「強くそう思う」12.7%+「どちらかといえばそう思う」30.1%）が42.8%で半数を下回るが、『そう思わない』（「全く思わない」12.0%

+「どちらかといえばそう思わない」24.3%)の36.3%を上回っている。

一方、『(1)家族に負担をかけるかもしれないが、自宅での介護を希望する』について「強くそう思う」が6.9%、「どちらかといえばそう思う」(28.2%)を合わせた『そう思う』は35.1%にとどまり、『そう思わない』(「全く思わない」17.5%+「どちらかといえばそう思わない」31.8%)が49.3%で『そう思う』を上回っている。

続いて、介護に対する希望について、性別、年齢別、地域別にみたのが図3-6-2である。

(2) 性別にみた介護に対する希望

性別にみると、『そう思う』(「強くそう思う」+「どちらかといえばそう思う」とする人の比率は、『(4)自宅と同一市町村内の施設への入所を希望する』(男性62.6%、女性66.3%)と『(3)施設を希望するが、住み慣れた街を離れたくないので、同じ地域(字・区)の施設への入所を希望する』(男性59.6%、女性62.9%)で、男性に比べ女性にやや高い。一方、『そう思わない』(「全く思わない」+「どちらかといえばそう思わない」とする人の比率は、『(1)家族に負担をかけるかもしれないが、自宅での介護を希望する』(男性46.5%、女性51.7%)で、女性のほうが5.2ポイント高くなっている。

(3) 年齢別にみた介護に対する希望

年齢別にみると、『(4)自宅と同一市町村内の施設への入所を希望する』と『(2)家族に負担をかけない範囲で、自宅での介護を希望する』に対する『そう思う』の比率は、15~19歳で、「わからない」への回答が多い分、低くなっているが、20歳代以上の年齢層ではいずれも6割台となっている。『(3)施設を希望するが、住み慣れた街を離れたくないので、同じ地域(字・区)の施設への入所を希望する』も同様に15~19歳で低いが、20~60歳代では6割台、70歳以上(54.0%)でやや低いものの、過半数を占めている。

『(5)自宅から遠く離れることになっても、十分なサービスが受けられる施設であれば入所を希望する』に対する『そう思う』の比率は、40~50歳代で半数近くを占め、『そう思わない』の比率を上回っている。30~39歳、60歳代以上では『そう思う』、『そう思わない』の比率がともに4割前後で拮抗している。また、15~19歳では『そう思う』(37.0%)が『そう思わない』(29.6%)を上回り、20~29歳では『そう思わない』(39.6%)が『そう思う』(35.7%)を上回っている。

『(1)家族に負担をかけるかもしれないが、自宅での介護を希望する』に対する『そう思う』の比率は、年齢が上がるにつれて高くなる傾向があり、30歳代以下の若年層では3割前後にとどまるが、60歳代以上では4割を超える。また、60歳代以下の年齢層では『そう思わない』の比率が『そう思う』を上回るが、70歳以上のみ『そう思う』(44.1%)が『そう思わない』(32.7%)を上回っている。

(4) 地域別にみた介護に対する希望

地域別にみると、『(4)自宅と同一市町村内の施設への入所を希望する』に対する『そう思う』の比率は、県全体の傾向と同様、どの地域でも6割以上を占めているが、北部(71.7%)と八重山(77.4%)で特に高く、ともに7割を超えている。『(3)施設を希望するが、住み慣れた街を離れたくないので、同じ地域(字・区)の施設への入所を希望する』についても、『そう思う』が全地域で過半数を占め、八重山で74.8%と目立って高い。

『(2)家族に負担をかけない範囲で、自宅での介護を希望する』は、県全体では『そう思う』が64.0%を占めたが、宮古で50.0%と低く、北部(57.2%)でも5割台にとどまる。

『(5)自宅から遠く離れることになっても、十分なサービスが受けられる施設であれば入所を希望する』に対する『そう思う』の比率は、中部(44.9%)、那覇市(45.6%)、南部(42.6%)、八重山(43.5%)で4割台となっているが、北部(30.4%)と宮古(35.6%)で3割台と低く、これらの地域では『そう思わない』が4割を超え、『そう思う』を上回っている。八重山でも『そう思わない』(43.5%)が4割を超えるが、『そう思う』と同率である。

『(1)家族に負担をかけるかもしれないが、自宅での介護を希望する』については、『そう思う』が八重山で40.9%と最も高いが、『そう思わない』(44.3%)の比率は下回る。『そう思わない』はいずれの地域でも『そう思う』の比率を上回っており、なかでも那覇市で54.1%と高くなっている。

図 3-6-2 属性別にみた介護に対する希望

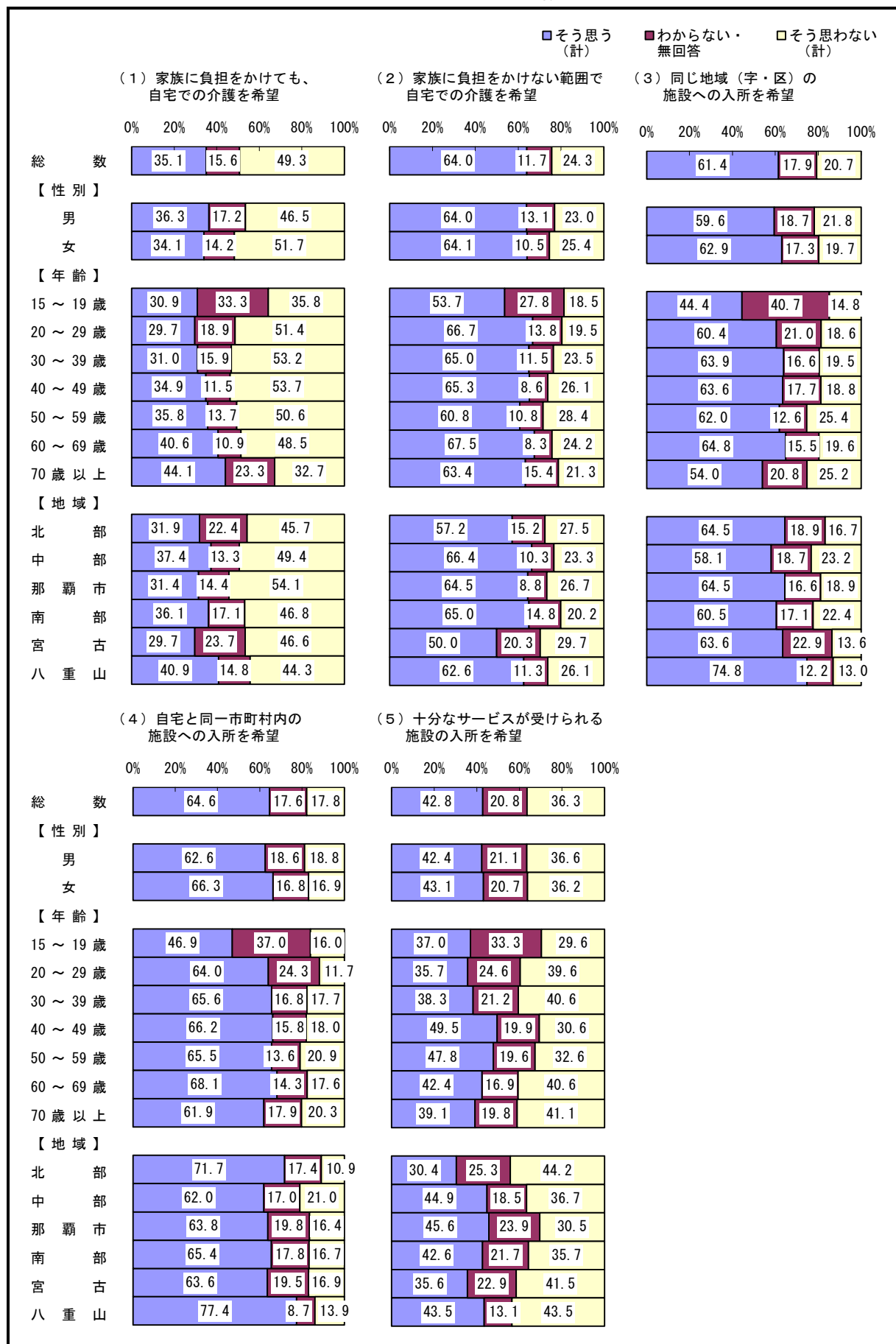


表3-6-1 属性別にみた介護に対する希望

(%)

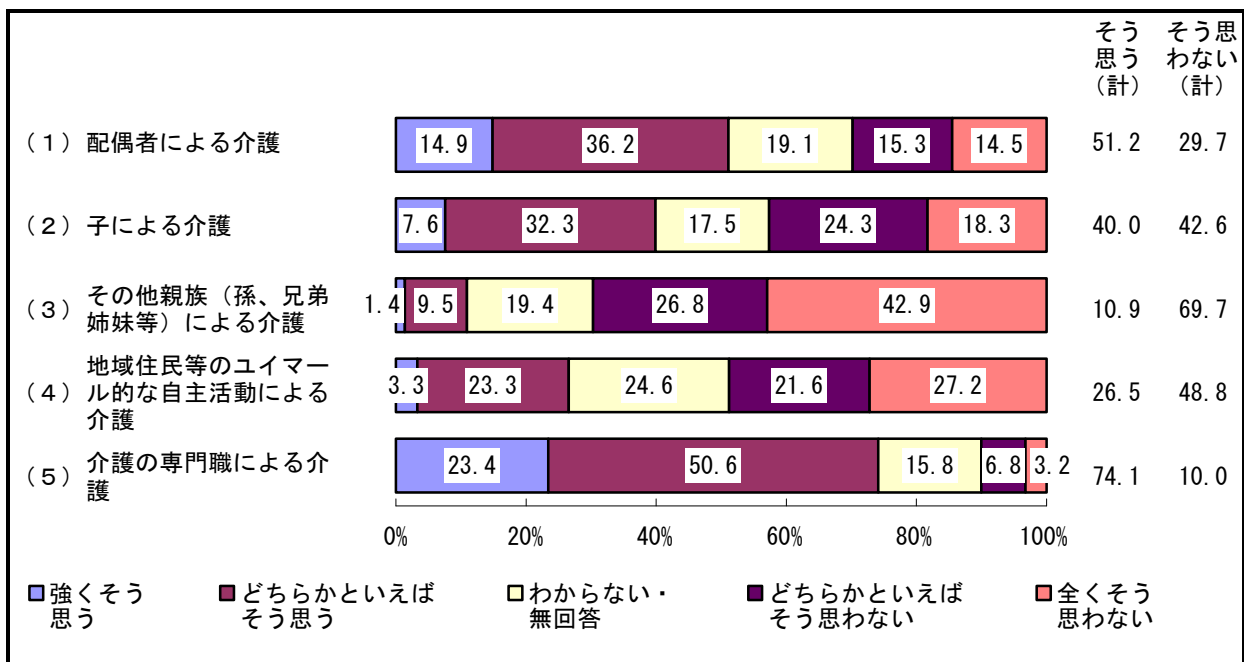
		県計	【性別】		【年齢別】						
			男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
(1) 家族に負担をかけても、自宅での介護を希望	強くそう思う	6.9	7.0	6.9	8.6	2.4	4.9	6.0	7.1	8.1	17.8
	どちらかといえばそう思う	28.2	29.4	27.2	22.2	27.3	26.0	28.9	28.7	32.5	26.2
	どちらかといえばそう思わない	31.8	29.5	33.7	21.6	39.3	34.8	33.2	29.7	32.1	20.8
	全くそう思わない	17.5	17.0	18.0	14.2	12.0	18.4	20.5	20.9	16.4	11.9
	わからない・無回答	15.6	17.2	14.2	33.3	18.9	15.9	11.5	13.7	10.9	23.3
	そう思う(計)	35.1	36.3	34.1	30.9	29.7	31.0	34.9	35.8	40.6	44.1
(2) 家族に負担をかけない範囲で自宅での介護を希望	強くそう思う	17.9	16.8	18.8	17.3	15.6	19.7	16.3	15.2	19.2	26.2
	どちらかといえばそう思う	46.2	47.1	45.3	36.4	51.1	45.4	49.0	45.6	48.3	37.1
	どちらかといえばそう思わない	14.4	13.1	15.4	8.6	13.2	14.0	16.9	15.2	15.6	9.4
	全くそう思わない	9.9	9.8	10.0	9.9	6.3	9.5	9.2	13.2	8.7	11.9
	わからない・無回答	11.7	13.1	10.5	27.8	13.8	11.5	8.6	10.8	8.3	15.4
	そう思う(計)	64.0	64.0	64.1	53.7	66.7	65.0	65.3	60.8	67.5	63.4
(3) 同じ地域(字・区)の施設への入所を希望	強くそう思う	18.7	15.8	21.2	9.3	15.9	20.4	15.9	19.7	20.6	25.7
	どちらかといえばそう思う	42.7	43.8	41.7	35.2	44.4	43.5	47.7	42.2	44.2	28.2
	どちらかといえばそう思わない	11.8	12.7	11.1	7.4	13.5	12.4	9.8	13.3	11.5	12.9
	全くそう思わない	8.8	9.1	8.6	7.4	5.1	7.1	9.0	12.0	8.1	12.4
	わからない・無回答	17.9	18.7	17.3	40.7	21.0	16.6	17.7	12.6	15.5	20.8
	そう思う(計)	61.4	59.6	62.9	44.4	60.4	63.9	63.6	62.0	64.8	54.0
(4) 自宅と同一市町村内の施設への入所を希望	強くそう思う	21.0	17.9	23.6	11.1	19.5	20.2	18.9	23.1	23.2	27.2
	どちらかといえばそう思う	43.6	44.7	42.7	35.8	44.4	45.4	47.3	42.4	44.8	34.7
	どちらかといえばそう思わない	11.0	11.3	10.9	8.6	7.8	12.9	10.9	10.4	12.3	12.4
	全くそう思わない	6.8	7.6	6.1	7.4	3.9	4.7	7.1	10.4	5.3	7.9
	わからない・無回答	17.6	18.6	16.8	37.0	24.3	16.8	15.8	13.6	14.3	17.9
	そう思う(計)	64.6	62.6	66.3	46.9	64.0	65.6	66.2	65.5	68.1	61.9
(5) 十分なサービスが受けられる施設の入所を希望	強くそう思う	12.7	12.8	12.7	19.8	8.1	9.3	15.0	11.4	14.7	17.3
	どちらかといえばそう思う	30.1	29.6	30.5	17.3	27.6	29.0	34.5	36.4	27.7	21.8
	どちらかといえばそう思わない	24.3	23.5	25.0	16.0	25.5	27.5	21.0	22.2	28.7	24.8
	全くそう思わない	12.0	13.1	11.2	13.6	14.1	13.1	9.6	10.4	11.9	16.3
	わからない・無回答	20.8	21.1	20.7	33.3	24.6	21.2	19.9	19.6	16.9	19.8
	そう思う(計)	42.8	42.4	43.1	37.0	35.7	38.3	49.5	47.8	42.4	39.1
		36.3	36.6	36.2	29.6	39.6	40.6	30.6	32.6	40.6	41.1

		【地域別】					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(1) 家族に負担をかけても、自宅での介護を希望	強くそう思う	8.7	6.9	5.7	7.2	9.3	7.0
	どちらかといえばそう思う	23.2	30.5	25.8	28.9	20.3	33.9
	どちらかといえばそう思わない	23.9	34.6	34.6	28.1	25.4	27.8
	全くそう思わない	21.7	14.8	19.5	18.6	21.2	16.5
	わからない・無回答	22.4	13.3	14.4	17.1	23.7	14.8
	そう思う(計)	31.9	37.4	31.4	36.1	29.7	40.9
(2) 家族に負担をかけない範囲で自宅での介護を希望	強くそう思う	15.2	18.9	17.6	16.7	17.8	20.0
	どちらかといえばそう思う	42.0	47.5	46.9	48.3	32.2	42.6
	どちらかといえばそう思わない	12.3	16.3	14.2	10.6	14.4	16.5
	全くそう思わない	15.2	7.0	12.6	9.5	15.3	9.6
	わからない・無回答	15.2	10.3	8.8	14.8	20.3	11.3
	そう思う(計)	57.2	66.4	64.5	65.0	50.0	62.6
(3) 同じ地域(字・区)の施設への入所を希望	強くそう思う	23.9	17.0	17.0	20.2	19.5	27.0
	どちらかといえばそう思う	40.6	41.1	47.5	40.3	44.1	47.8
	どちらかといえばそう思わない	9.4	13.9	11.0	11.4	7.6	7.0
	全くそう思わない	7.2	9.3	7.9	11.0	5.9	6.1
	わからない・無回答	18.9	18.7	16.6	17.1	22.9	12.2
	そう思う(計)	64.5	58.1	64.5	60.5	63.6	74.8
(4) 自宅と同一市町村内の施設への入所を希望	強くそう思う	16.7	23.2	18.9	22.4	13.6	13.0
	どちらかといえばそう思う	29.7	18.8	20.1	20.5	22.0	30.4
	どちらかといえばそう思わない	42.0	43.2	43.7	44.9	41.5	47.0
	どちらかといえばそう思わない	6.5	13.2	11.3	8.7	11.9	7.0
	全くそう思わない	4.3	7.8	5.0	8.0	5.1	7.0
	わからない・無回答	17.4	17.0	19.8	17.8	19.5	8.7
(5) 十分なサービスが受けられる施設の入所を希望	強くそう思う	71.7	62.0	63.8	65.4	63.6	77.4
	どちらかといえばそう思う	10.9	21.0	16.4	16.7	16.9	13.9
	どちらかといえばそう思わない	9.4	12.7	13.2	13.7	15.3	11.3
	どちらかといえばそう思わない	21.0	32.1	32.4	28.9	20.3	32.2
	全くそう思わない	23.2	25.8	22.3	23.6	25.4	24.3
	わからない・無回答	21.0	10.9	8.2	12.2	16.1	19.1
わからない・無回答	25.3	18.5	23.9	21.7	22.9	13.1	
そう思う(計)	30.4	44.9	45.6	42.6	35.6	43.5	
そう思わない(計)	44.2	36.7	30.5	35.7	41.5	43.5	

(5) 誰から介護を受けたいか

高齢で介護を受けることになった場合、誰から介護を受けたいか、『(1)配偶者による介護』、『(2)子による介護』、『(3)その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護』、『(4)地域住民等のユイマール(相互扶助)的な自主活動による介護』、『(5)介護の専門職による介護』の5つを提示して、それぞれについて「強くそう思う」、「どちらかといえばそう思う」、「どちらかといえばそう思わない」、「全く思わない」、「わからない」の5項目の中から選択してもらい、その結果をまとめたものが図3-6-3である。

図3-6-3 誰から介護を受けたいか



『(5)介護の専門職による介護』について「強くそう思う」は23.4%、「どちらかといえばそう思う」は50.6%で、合わせて74.1%が『そう思う』と答えている。一方、『そう思わない』(「全く思わない」3.2%+「どちらかといえばそう思わない」6.8%)は10.0%に過ぎない。

『(1)配偶者による介護』については『そう思う』(「強くそう思う」14.9%+「どちらかといえばそう思う」36.2%)が51.2%と過半数を占め、『そう思わない』(「全く思わない」14.5%+「どちらかといえばそう思わない」15.3%)の29.7%を上回っている。

『(2)子による介護』については『そう思う』(「強くそう思う」7.6%+「どちらかといえばそう思う」32.3%)が40.0%で、『そう思わない』(「全く思わない」18.3%+「どちらかといえばそう思わない」24.3%)の42.6%と拮抗している。

『(4)地域住民等のユイマール(相互扶助)的な自主活動による介護』については、『そう思う』(「強くそう思う」3.3%+「どちらかといえばそう思う」23.3%)が26.5%にとどまり、『そう思わない』(「全く思わない」27.2%+「どちらかといえばそう思わない」21.6%)

が48.8%で『そう思う』を大きく上回っている。

『(3)その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護』について『そう思う』(「強くそう思う」1.4%+「どちらかといえばそう思う」9.5%)は10.9%にとどまり、『そう思わない』(「全く思わない」42.9%+「どちらかといえばそう思わない」26.8%)が69.7%と7割近い。

続いて、介護に対する希望について、性別、年齢別、地域別にみたのが図3-6-4である。

(6) 性別にみた誰から介護を受けたいか

性別にみると、『(5)介護の専門職による介護』に対する『そう思う』(「強くそう思う」+「どちらかといえばそう思う」)の比率は、男女ともに7割を超えるが、男性(70.7%)より女性(76.9%)のほうが高い。『そう思う』の比率は、親族による介護のうち、『(1)配偶者による介護』(男性57.7%、女性45.6%)では、男性のほうが12.1ポイント高いのに対し、『(2)子による介護』(男性35.1%、女性44.2%)では、女性のほうが9.1ポイント高くなっている。『(3)その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護』、『(4)地域住民等のユイマール(相互扶助)的な自主活動による介護』については、男女差はみられない。

(7) 年齢別にみた誰から介護を受けたいか

年齢別にみると、『(5)介護の専門職による介護』に対する『そう思う』の比率は、20歳代以下の年齢層で、「わからない」への回答が多い分、低くなっているが、30歳代以上の年齢層ではいずれも7割台となっている。

『(1)配偶者による介護』に対する『そう思う』の比率は、15~19歳で、「わからない」への回答が多い分、低いが、20~60歳代では5割台、70歳以上(47.5%)で半数を下回るものの、『そう思わない』の比率は上回る。

『(2)子による介護』に対する『そう思う』の比率は、60歳代で33.1%と最も低く、『そう思わない』(47.9%)を14.8ポイント下回っている。対して70歳以上で『そう思う』は45.0%と最も高く『そう思わない』(36.6%)を8.4ポイント上回っている。50歳代以下の年齢層では『そう思う』、『そう思わない』の比率がともに4割前後で拮抗している。

『(4)地域住民等のユイマール(相互扶助)的な自主活動による介護』に対する『そう思う』の比率は、20~29歳で36.9%と最も高いのをはじめ、15~19歳(31.5%)、30~39歳(33.5%)の若年層で高くなっている。一方、『そう思わない』は年齢が上がるにつれて高くなる傾向があり、60~69歳(61.8%)を中心に、50~59歳(57.1%)、70歳以上(54.0%)で過半数を占めている。

『(3)その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護』については、20歳代以上の年齢層では『そう思わない』の比率が、6割以上を占めている。

(8) 地域別にみた誰から介護を受けたいか

地域別にみると、『(5)介護の専門職による介護』に対する『そう思う』の比率は、宮古(67.8%)でやや低いが、いずれの地域も多数を占めている。

『(1)配偶者による介護』については、『そう思う』が八重山で55.7%と最も高く、宮古以外の地域でも5割前後となっている。宮古では39.0%と低いが、『そう思わない』(33.1%)の比率は上回る。

『(2)子による介護』は、地域差が大きく、『そう思う』が中部(43.2%)、南部(43.3%)、八重山(45.2%)で4割台となっているのに対し、北部(26.8%)、宮古(25.4%)では2割台にとどまり、これらの地域では『そう思わない』の比率が約5割を占め、大きく上回る。また、那覇市でも『そう思わない』(44.7%)が『そう思う』(38.4%)を上回っている。

『(4)地域住民等のユイマール(相互扶助)的な自主活動による介護』に対する『そう思う』の比率は、どの地域でも2割台となっているが、八重山(22.6%)で最も低く、八重山では『そう思わない』が53.9%と唯一過半数を占めている。

『(3)その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護』については、すべての地域で『そう思わない』の比率が、6割以上を占めている。



図3-6-4 属性別にみた誰から介護を受けたいか

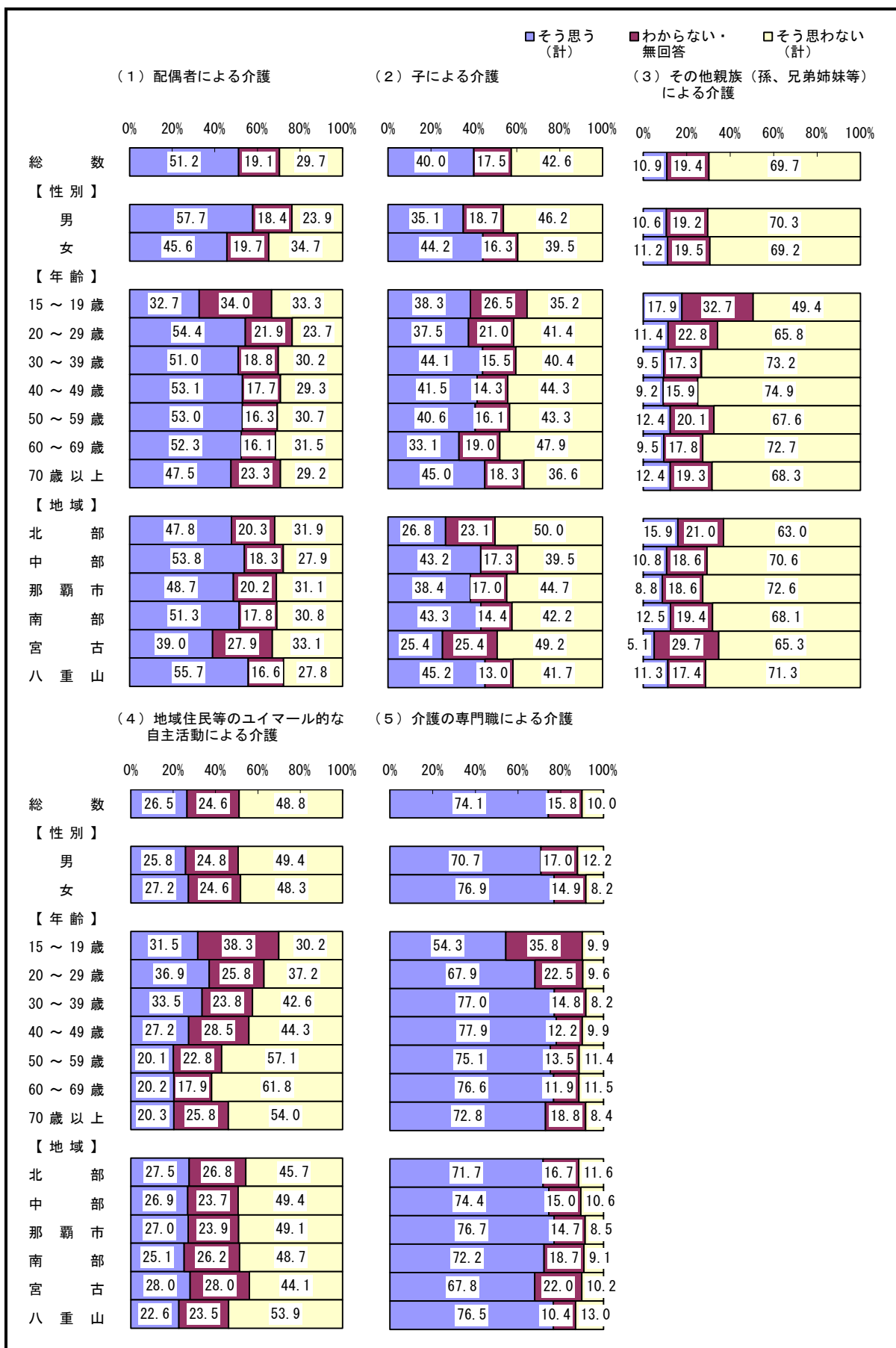


表3-6-2 属性別にみた誰から介護を受けたいか

(%)

	県計	【性別】		【年齢別】							
		男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
(1) 配偶者による介護	強く思う	14.9	17.0	13.1	11.1	7.5	15.8	12.6	15.4	19.6	20.8
	どちらかといえば思う	36.2	40.7	32.5	21.6	46.8	35.2	40.5	37.6	32.7	26.7
	どちらかといえばそう思わない	15.3	13.1	17.1	13.0	15.0	16.2	16.7	12.2	18.0	13.9
	全くそう思わない	14.5	10.7	17.6	20.4	8.7	14.0	12.6	18.5	13.5	15.3
	わからない・無回答	19.1	18.4	19.7	34.0	21.9	18.8	17.7	16.3	16.1	23.3
	そう思う(計)	51.2	57.7	45.6	32.7	54.4	51.0	53.1	53.0	52.3	47.5
(2) 子による介護	強く思う	7.6	5.7	9.3	4.9	7.5	8.4	7.3	6.3	6.3	16.3
	どちらかといえば思う	32.3	29.4	34.9	33.3	30.0	35.7	34.1	34.3	26.9	28.7
	どちらかといえばそう思わない	24.3	27.9	21.3	13.6	30.0	19.7	25.3	24.4	30.5	17.8
	全くそう思わない	18.3	18.4	18.2	21.6	11.4	20.8	18.9	18.9	17.4	18.8
	わからない・無回答	17.5	18.7	16.3	26.5	21.0	15.5	14.3	16.1	19.0	18.3
	そう思う(計)	40.0	35.1	44.2	38.3	37.5	44.1	41.5	40.6	33.1	45.0
(3) その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護	強く思う	1.4	1.3	1.6	4.9	0.3	1.5	0.4	1.0	1.8	4.0
	どちらかといえば思う	9.5	9.3	9.6	13.0	11.1	8.0	8.8	11.4	7.7	8.4
	どちらかといえばそう思わない	26.8	27.3	26.4	20.4	33.9	27.5	28.5	21.3	27.3	29.2
	全くそう思わない	42.9	43.0	42.8	29.0	31.8	45.7	46.3	46.2	45.5	39.1
	わからない・無回答	19.4	19.2	19.5	32.7	22.8	17.3	15.9	20.1	17.8	19.3
	そう思う(計)	10.9	10.6	11.2	17.9	11.4	9.5	9.2	12.4	9.5	12.4
(4) 地域住民等のユイマー的な自主活動による介護	強く思う	3.3	3.2	3.4	2.5	1.5	2.7	3.2	3.4	4.4	5.4
	どちらかといえば思う	23.3	22.7	23.8	29.0	35.4	30.8	24.0	16.7	15.8	14.9
	どちらかといえばそう思わない	21.6	23.1	20.3	17.3	24.9	21.7	17.6	23.8	22.8	19.8
	全くそう思わない	27.2	26.3	28.1	13.0	12.3	20.9	26.6	33.4	39.0	34.2
	わからない・無回答	24.6	24.8	24.6	38.3	25.8	23.8	28.5	22.8	17.9	25.8
	そう思う(計)	26.5	25.8	27.2	31.5	36.9	33.5	27.2	20.1	20.2	20.3
(5) 介護の専門職による介護	強く思う	23.4	20.9	25.6	17.3	18.6	21.7	22.1	23.1	28.1	34.2
	どちらかといえば思う	50.6	49.8	51.3	37.0	49.2	55.4	55.7	52.0	48.5	38.6
	どちらかといえばそう思わない	6.8	7.8	5.9	3.7	7.8	6.2	7.1	6.9	8.3	4.5
	全くそう思わない	3.2	4.4	2.2	6.2	1.8	2.0	2.8	4.5	3.2	4.0
	わからない・無回答	15.8	17.0	14.9	35.8	22.5	14.8	12.2	13.5	11.9	18.8
	そう思う(計)	74.1	70.7	76.9	54.3	67.9	77.0	77.9	75.1	76.6	72.8
そう思わない(計)	10.0	12.2	8.2	9.9	9.6	8.2	9.9	11.4	11.5	8.4	

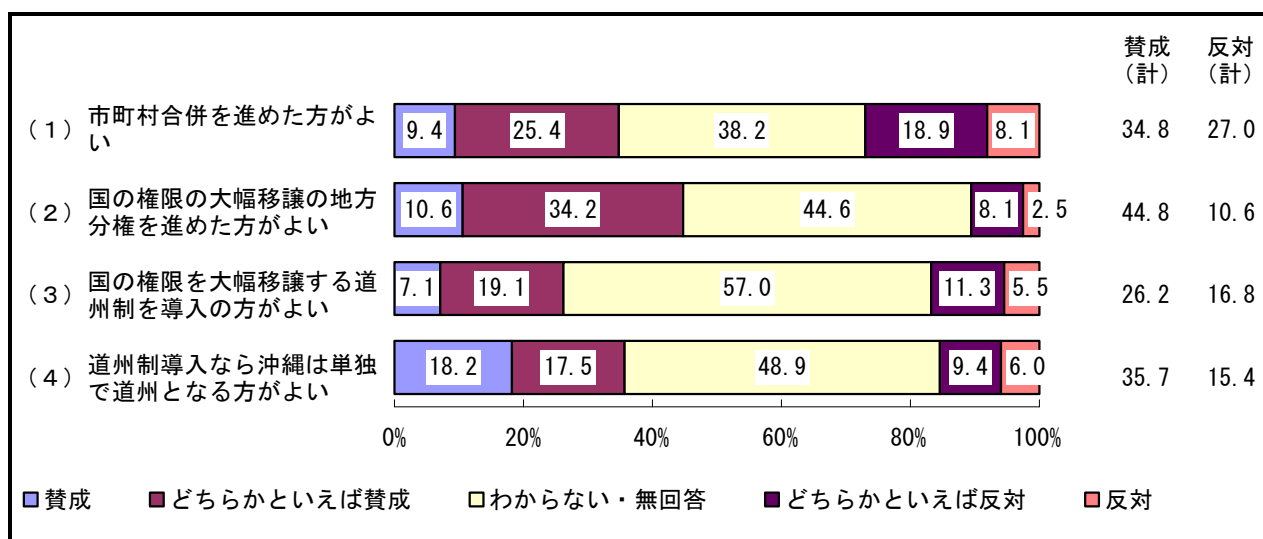
	北部	中部	【地域別】				
			那覇市	南部	宮古	八重山	
(1) 配偶者による介護	強く思う	15.2	16.5	10.4	16.0	14.4	18.3
	どちらかといえば思う	32.6	37.4	38.4	35.4	24.6	37.4
	どちらかといえばそう思わない	13.0	15.3	15.7	15.2	16.9	15.7
	全くそう思わない	18.8	12.6	15.4	15.6	16.1	12.2
	わからない・無回答	20.3	18.3	20.2	17.8	27.9	16.6
	そう思う(計)	47.8	53.8	48.7	51.3	39.0	55.7
(2) 子による介護	強く思う	5.8	8.6	6.9	6.5	5.1	13.0
	どちらかといえば思う	21.0	34.6	31.4	36.9	20.3	32.2
	どちらかといえばそう思わない	28.3	24.1	25.2	21.7	23.7	24.3
	全くそう思わない	21.7	15.3	19.5	20.5	25.4	17.4
	わからない・無回答	23.1	17.3	17.0	14.4	25.4	13.0
	そう思う(計)	26.8	43.2	38.4	43.3	25.4	45.2
(3) その他親族(孫、兄弟姉妹等)による介護	強く思う	1.4	1.6	0.9	1.9	0.0	1.7
	どちらかといえば思う	14.5	9.1	7.9	10.6	5.1	9.6
	どちらかといえばそう思わない	25.4	27.1	27.0	28.5	18.6	26.1
	全くそう思わない	37.7	43.6	45.6	39.5	46.6	45.2
	わからない・無回答	21.0	18.6	18.6	19.4	29.7	17.4
	そう思う(計)	15.9	10.8	8.8	12.5	5.1	11.3
(4) 地域住民等のユイマー的な自主活動による介護	強く思う	4.3	3.1	3.8	2.3	5.1	2.6
	どちらかといえば思う	23.2	23.8	23.3	22.8	22.9	20.0
	どちらかといえばそう思わない	17.4	21.9	22.0	24.0	13.6	23.5
	全くそう思わない	28.3	27.6	27.0	24.7	30.5	30.4
	わからない・無回答	26.8	23.7	23.9	26.2	28.0	23.5
	そう思う(計)	27.5	26.9	27.0	25.1	28.0	22.6
(5) 介護の専門職による介護	強く思う	21.7	23.7	23.9	22.4	27.1	23.5
	どちらかといえば思う	50.0	50.7	52.8	49.8	40.7	53.0
	どちらかといえばそう思わない	5.8	7.7	6.3	5.7	6.8	7.8
	全くそう思わない	5.8	2.9	2.2	3.4	3.4	5.2
	わからない・無回答	16.7	15.0	14.7	18.7	22.0	10.4
	そう思う(計)	71.7	74.4	76.7	72.2	67.8	76.5
そう思わない(計)	11.6	10.6	8.5	9.1	10.2	13.0	

7 地方分権や道州制について（問 14）

（1）地方分権や道州制についての考え

地方分権や道州制についての県民の意識を探るため、『（1）地方自治を強化して住民サービスを向上させるため、市町村合併を進めた方がよい』、『（2）市町村合併の如何に関わらず、国の権限を地方公共団体に大幅に移譲する地方分権を進めた方がよい』、『（3）地方分権を進めるだけでは地方自治強化には足りないので、国の権限を大幅に移譲する道州制を導入した方がよい』、『（4）道州制が導入されるとしたら、沖縄は単独で道州となる方がよい』の4つの意見、それぞれについての賛否を、「賛成」、「どちらかといえば賛成」、「どちらかといえば反対」、「反対」、「わからない」の5項目の中から選択してもらい、その結果をまとめたものが図3-7-1である。

図3-7-1 地方分権や道州制についての考え



『（1）地方自治を強化して住民サービスを向上させるため、市町村合併を進めた方がよい』について「賛成」は9.4%、「どちらかといえば賛成」は25.4%と、合わせて34.8%が『賛成』と答え、『反対』（「反対」8.1%+「どちらかといえば反対」18.9%）の27.0%を7.8ポイント上回る。なお、「わからない・無回答」が38.2%となっている。

『（2）市町村合併の如何に関わらず、国の権限を地方公共団体に大幅に移譲する地方分権を進めた方がよい』について「賛成」は10.6%、「どちらかといえば賛成」は34.2%で、合わせて44.8%が『賛成』と答え、『反対』（「反対」2.5%+「どちらかといえば反対」8.1%）の10.6%を34.2ポイント上回る。なお、「わからない・無回答」が44.6%に及ぶ。

『（3）地方分権を進めるだけでは地方自治強化には足りないので、国の権限を大幅に移譲する道州制を導入した方がよい』について「賛成」は7.1%、「どちらかといえば賛成」は19.1%で、合わせて26.2%が『賛成』と答え、『反対』（「反対」5.5%+「どちらかといえば反対」11.3%）の16.8%を9.4ポイント上回る。なお、「わからない・無回答」が57.0%

と過半数に及ぶ。

『(4)道州制が導入されるとしたら、沖縄は単独で道州となる方がよい』について「賛成」は18.2%、「どちらかといえば賛成」は17.5%で、合わせて35.7%が『賛成』と答え、『反対』(「反対」6.0%+「どちらかといえば反対」9.4%)の15.4%を20.3ポイント上回る。なお、「わからない・無回答」が48.9%に及ぶ。

地方分権や道州制については、国や地方自治体で議論が行われたり、選挙の際のマニフェストに盛り込まれたり、マスコミで取り上げられたりしているものの、県民が明確な意見を持つに至っていない実情が今調査で明らかになったと言える。提示した4つの意見について「わからない・無回答」とする人の比率が、最も少ない『(1)地方自治を強化して住民サービスを向上させるため、市町村合併を進めた方がよい』でも38.2%を占め、最も多い『(3)地方分権を進めるだけでは地方自治強化には足りないの、国の権限を大幅に移譲する道州制を導入した方がよい』で57.0%に達している。今後の議論の深まりとともに、県民の関心も高まっていくであろうと思われる。

続いて、地方分権や道州制についての考えを、性別、年齢別、地域別にみたのが図3-7-2である。

(2) 性別でみた地方分権や道州制についての考え

性別にみると、男性では『(2)市町村合併の如何に関わらず、国の権限を地方公共団体に大幅に移譲する地方分権を進めた方がよい』に『賛成』(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)とする人は52.3%に及んでいるが、女性は38.5%にとどまり、13.8ポイントの差がひらいている。全体的にみて、それぞれの意見に対して『賛成』とする人の比率は女性よりも男性で高く、『(1)地方自治を強化して住民サービスを向上させるため、市町村合併を進めた方がよい』(男性38.1%、女性31.9%)では6.2ポイント女性を上回り、『(3)地方分権を進めるだけでは地方自治強化には足りないの、国の権限を大幅に移譲する道州制を導入した方がよい』(男性33.6%、女性19.9%)では13.7ポイント女性を上回り、『(4)道州制が導入されるとしたら、沖縄は単独で道州となる方がよい』(男性43.8%、女性28.7%)では15.1ポイント女性を上回っている。反面、『反対』とする人の比率は大きな男女差はみられず、女性では「わからない」が男性に比べて多くなっている。

(3) 年齢別でみた地方分権や道州制についての考え

年齢別にみると、『(2)市町村合併の如何に関わらず、国の権限を地方公共団体に大幅に移譲する地方分権を進めた方がよい』と『(4)道州制が導入されるとしたら、沖縄は単独で道州となる方がよい』については、『賛成』の比率は、50~59歳で最も高く、年齢が離れるにしたがって比率が低くなっている。

『(1)地方自治を強化して住民サービスを向上させるため、市町村合併を進めた方がよい』に対する『賛成』の比率は、60~69歳(40.2%)で最も高く、『反対』(24.2%)を16.0ポイント上回っている。30歳代以上の年齢層では『賛成』が『反対』を上回るが、20歳代

以下の若年層では両者が3割弱で拮抗している。

『(3)地方分権を進めるだけでは地方自治強化には足りないので、国の権限を大幅に移譲する道州制を導入した方がよい』に対する『賛成』の比率は50～60歳代で3割強と高く、20歳代以下の若年層で低くなっている。

(4) 地域別でみた地方分権や道州制についての考え

地域別にみると、『(1)地方自治を強化して住民サービスを向上させるため、市町村合併を進めた方がよい』に対する『賛成』は、那覇市(39.6%)、八重山(39.1%)で高く、北部(29.0%)、宮古(28.0%)で低い。北部と宮古を除く地域では、『賛成』の比率が『反対』を上回っている。

『(2)市町村合併の如何に関わらず、国の権限を地方公共団体に大幅に移譲する地方分権を進めた方がよい』については、『賛成』の比率は、那覇市(50.0%)と八重山(51.3%)で5割台、中部(43.7%)と南部(46.0%)で4割台、北部(37.7%)と宮古(33.1%)で3割台と地域によるばらつきがみられる。

『(3)地方分権を進めるだけでは地方自治強化には足りないので、国の権限を大幅に移譲する道州制を導入した方がよい』に対する『賛成』は、那覇市(29.9%)、八重山(32.2%)で高く、宮古(20.3%)で低い。

『(4)道州制が導入されるとしたら、沖縄は単独で道州となる方がよい』に対する『賛成』は、中部(37.2%)、那覇市(38.1%)、八重山(38.3%)で高く、宮古(26.3%)でやや低い。

図3-7-2 属性別にみた地方分権や道州制についての考え

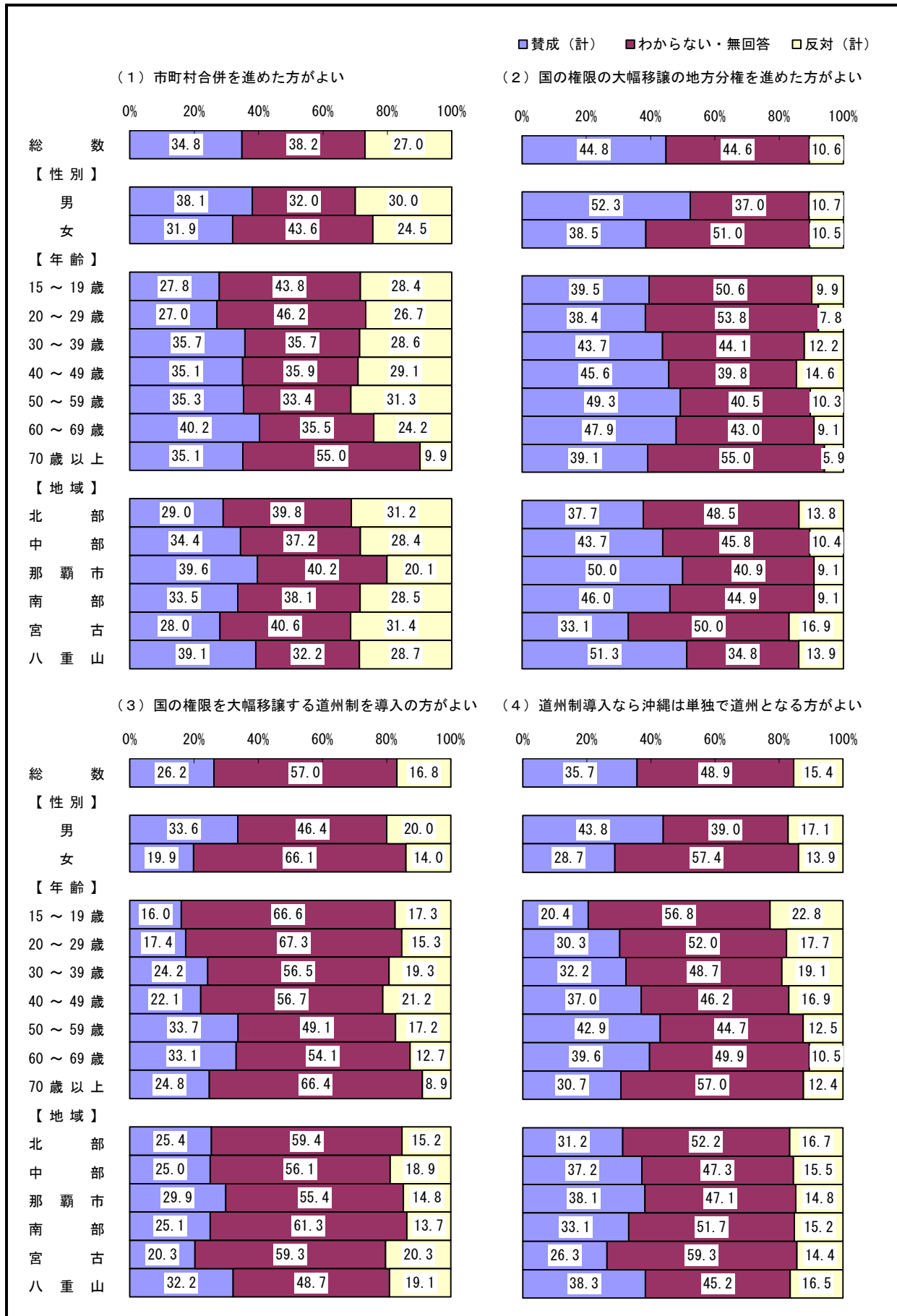


表3-7-1 属性別にみた地方分権や道州制についての考え

(%)

		県計	【性別】		【年齢別】						
			男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
(1) 市町村合併を進めた方がよい	賛成	9.4	11.6	7.6	5.6	3.3	7.1	5.4	10.8	15.8	19.8
	どちらかといえば賛成	25.4	26.6	24.3	22.2	23.7	28.6	29.6	24.6	24.4	15.3
	どちらかといえば反対	18.9	19.6	18.3	21.0	18.6	22.0	23.1	21.7	12.9	4.5
	反対	8.1	10.4	6.1	7.4	8.1	6.6	6.0	9.6	11.3	5.4
	わからない・無回答	38.2	32.0	43.6	43.8	46.2	35.7	35.9	33.4	35.5	55.0
	賛成(計)	34.8	38.1	31.9	27.8	27.0	35.7	35.1	35.3	40.2	35.1
	反対(計)	27.0	30.0	24.5	28.4	26.7	28.6	29.1	31.3	24.2	9.9
(2) 国の権限の大幅移譲の地方分権を進めた方がよい	賛成	10.6	13.4	8.2	8.0	5.7	7.7	6.8	12.5	16.2	19.8
	どちらかといえば賛成	34.2	38.8	30.2	31.5	32.7	36.1	38.8	36.8	31.7	19.3
	どちらかといえば反対	8.1	8.3	7.9	6.2	7.5	9.8	11.3	7.9	5.5	5.0
	反対	2.5	2.4	2.6	3.7	0.3	2.4	3.4	2.4	3.6	1.0
	わからない・無回答	44.6	37.0	51.0	50.6	53.8	44.1	39.8	40.5	43.0	55.0
	賛成(計)	44.8	52.3	38.5	39.5	38.4	43.7	45.6	49.3	47.9	39.1
	反対(計)	10.6	10.7	10.5	9.9	7.8	12.2	14.6	10.3	9.1	5.9
(3) 国の権限を大幅移譲する道州制を導入の方がよい	賛成	7.1	10.7	4.2	6.2	3.6	5.5	4.3	7.7	11.5	13.4
	どちらかといえば賛成	19.1	22.9	15.8	9.9	13.8	18.8	17.8	26.0	21.6	11.4
	どちらかといえば反対	11.3	13.1	9.8	8.6	12.0	14.0	15.9	10.6	7.3	5.0
	反対	5.5	6.9	4.2	8.6	3.3	5.3	5.3	6.6	5.5	4.0
	わからない・無回答	57.0	46.4	66.1	66.6	67.3	56.5	56.7	49.1	54.1	66.4
	賛成(計)	26.2	33.6	19.9	16.0	17.4	24.2	22.1	33.7	33.1	24.8
	反対(計)	16.8	20.0	14.0	17.3	15.3	19.3	21.2	17.2	12.7	8.9
(4) 道州制導入なら沖縄は単独で道州となる方がよい	賛成	18.2	25.1	12.3	14.2	12.6	14.8	13.9	23.8	23.4	20.8
	どちらかといえば賛成	17.5	18.8	16.4	6.2	17.7	17.5	23.1	19.1	16.2	9.9
	どちらかといえば反対	9.4	10.1	8.7	15.4	8.4	11.8	12.6	8.0	4.0	7.9
	反対	6.0	7.0	5.2	7.4	9.3	7.3	4.3	4.5	6.5	4.5
	わからない・無回答	48.9	39.0	57.4	56.8	52.0	48.7	46.2	44.7	49.9	57.0
	賛成(計)	35.7	43.8	28.7	20.4	30.3	32.2	37.0	42.9	39.6	30.7
	反対(計)	15.4	17.1	13.9	22.8	17.7	19.1	16.9	12.5	10.5	12.4

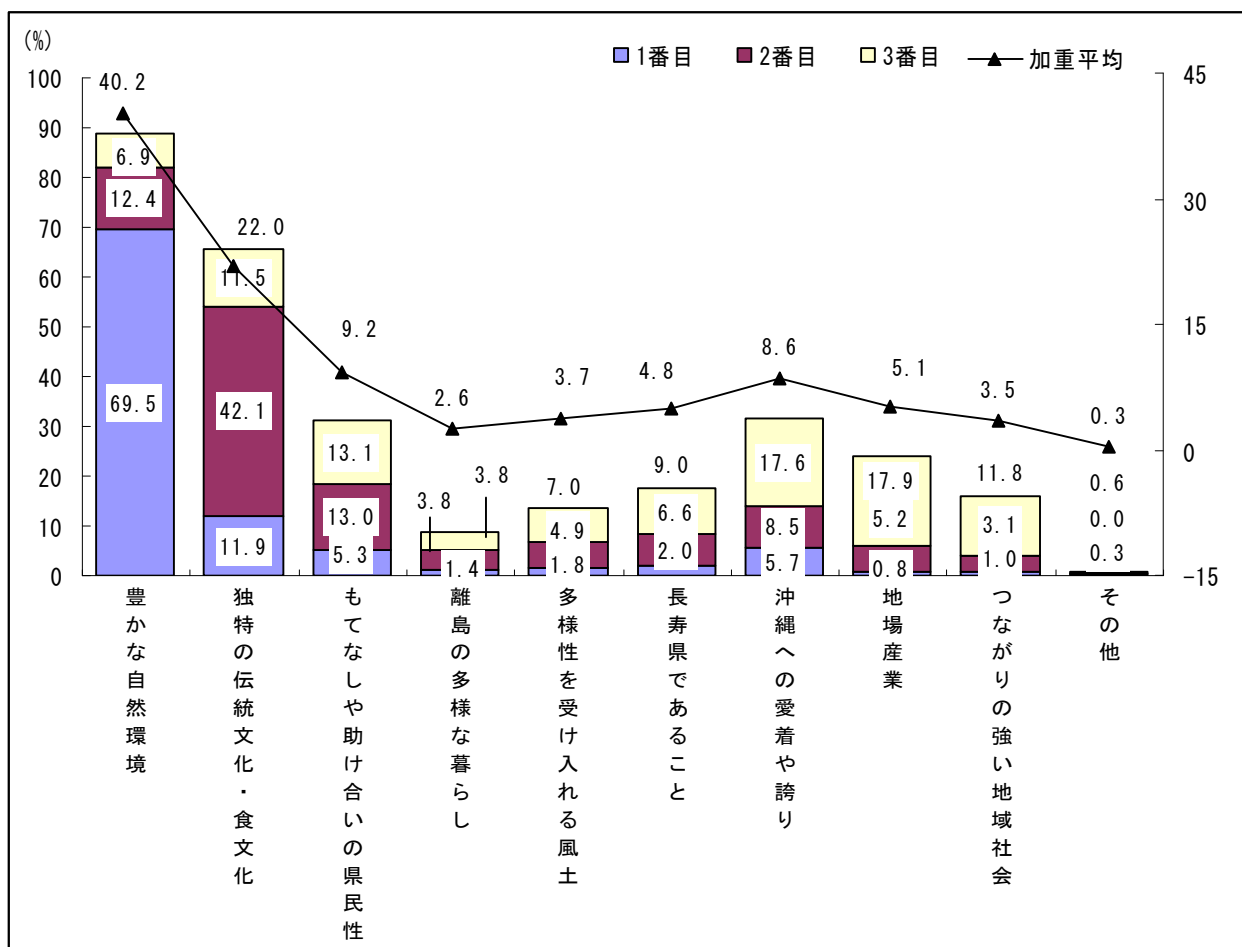
		【地域別】					
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
(1) 市町村合併を進めた方がよい	賛成	10.9	10.0	7.9	8.7	7.6	13.9
	どちらかといえば賛成	18.1	24.5	31.8	24.7	20.3	25.2
	どちらかといえば反対	19.6	20.4	15.4	19.0	19.5	20.0
	反対	11.6	8.0	4.7	9.5	11.9	8.7
	わからない・無回答	39.8	37.2	40.2	38.1	40.6	32.2
	賛成(計)	29.0	34.4	39.6	33.5	28.0	39.1
	反対(計)	31.2	28.4	20.1	28.5	31.4	28.7
(2) 国の権限の大幅移譲の地方分権を進めた方がよい	賛成	13.0	10.3	8.2	11.0	15.3	15.7
	どちらかといえば賛成	24.6	33.4	41.8	35.0	17.8	35.7
	どちらかといえば反対	11.6	7.2	8.2	6.1	14.4	12.2
	反対	2.2	3.3	0.9	3.0	2.5	1.7
	わからない・無回答	48.5	45.8	40.9	44.9	50.0	34.8
	賛成(計)	37.7	43.7	50.0	46.0	33.1	51.3
	反対(計)	13.8	10.4	9.1	9.1	16.9	13.9
(3) 国の権限を大幅移譲する道州制を導入の方がよい	賛成	9.4	6.4	6.6	7.2	11.0	8.7
	どちらかといえば賛成	15.9	18.6	23.3	17.9	9.3	23.5
	どちらかといえば反対	9.4	12.7	9.7	9.9	14.4	13.0
	反対	5.8	6.2	5.0	3.8	5.9	6.1
	わからない・無回答	59.4	56.1	55.4	61.3	59.3	48.7
	賛成(計)	25.4	25.0	29.9	25.1	20.3	32.2
	反対(計)	15.2	18.9	14.8	13.7	20.3	19.1
(4) 道州制導入なら沖縄は単独で道州となる方がよい	賛成	18.8	18.4	17.0	18.6	12.7	23.5
	どちらかといえば賛成	12.3	18.8	21.1	14.4	13.6	14.8
	どちらかといえば反対	10.1	9.6	7.9	9.5	11.0	10.4
	反対	6.5	5.9	6.9	5.7	3.4	6.1
	わからない・無回答	52.2	47.3	47.1	51.7	59.3	45.2
	賛成(計)	31.2	37.2	38.1	33.1	26.3	38.3
	反対(計)	16.7	15.5	14.8	15.2	14.4	16.5

8 「沖縄21世紀ビジョン」実現のための取り組み（問15）

（1）順位別にみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

目指すべき将来像を実現するために、残していくべきものについて、10項目の中から順位をつけて3つ選んでもらった。選択された3つの回答の1位、2位、3位それぞれの比率と、その選択項目を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウェイトづけをして加重平均を求め、グラフにしたのが図3-8-1である。

図3-8-1 沖縄県の将来像実現のために残すべきもの



1番目に残したいものとしては、「豊かな自然環境」が69.5%と圧倒的に高くなっている。以下、大きく比率が下がって、「独特の伝統文化・食文化」(11.9%)、「沖縄への愛着や誇り」(5.7%)、「もてなしや助け合いの県民性」(5.3%)が続いている。

2番目については、「独特の伝統文化・食文化」(42.1%)が最も高く、次いで、「もてなしや助け合いの県民性」(13.0%)、「豊かな自然環境」(12.4%)、「沖縄への愛着や誇り」(8.5%)、「長寿県であること」(6.6%)の順に高い。

3番目については、「地場産業」(17.9%)が最も高く、次いで、「沖縄への愛着や誇り」

(17.6%)、「もてなしや助け合いの県民性」(13.1%)、「つながりの強い地域社会」(11.8%)、「独特の伝統文化・食文化」(11.5%)、「長寿県であること」(9.0%)、「多様性を受け入れる風土」(7.0%)が続いている。

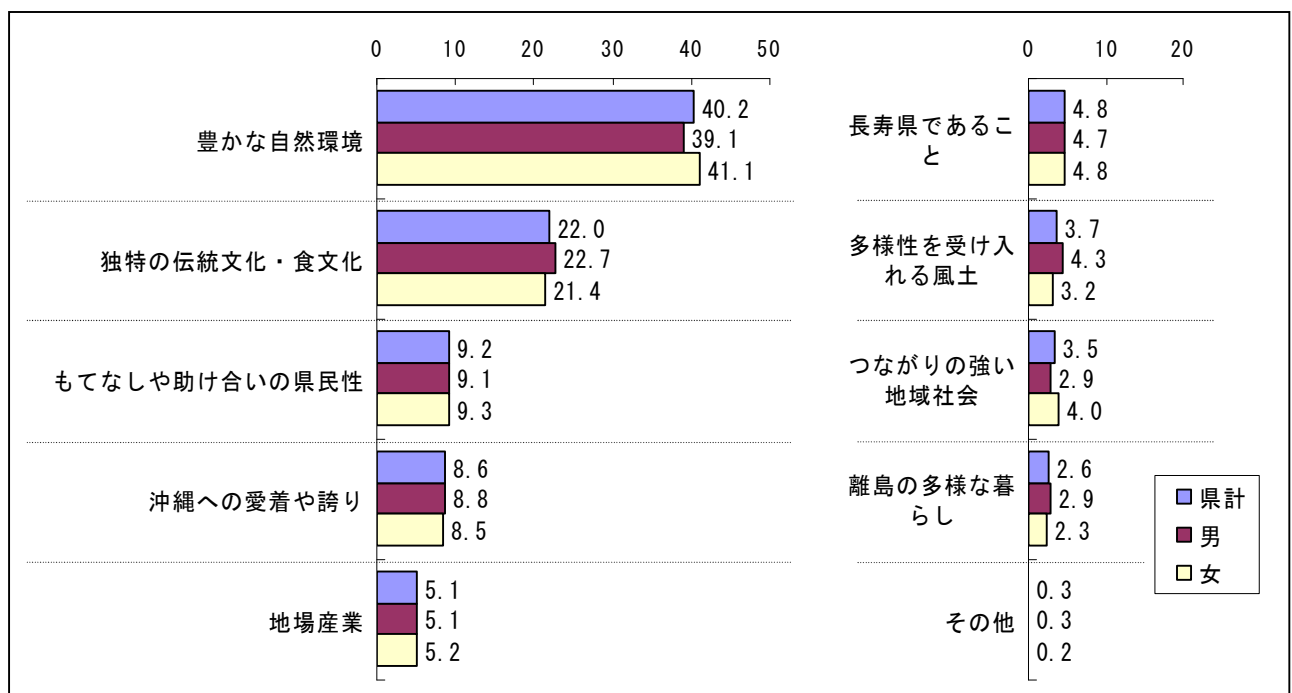
また、選択された項目を総合的に評価するため、1位＝3点、2位＝2点、3位＝1点のウェイトづけをして算出した加重平均値で比較すると、「豊かな自然環境」(40.2)が最も高く、次いで、「独特の伝統文化・食文化」(22.0)、「もてなしや助け合いの県民性」(9.2)、「沖縄への愛着や誇り」(8.6)、「地場産業」(5.1)の順に高い。

(2) 性別にみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

沖縄県の将来像実現のために残すべきものを性別に加重平均で比較したのが図3-8-2である。

性別で見ると、男女の傾向にほとんど差はみられない。

図3-8-2 性別加重平均でみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

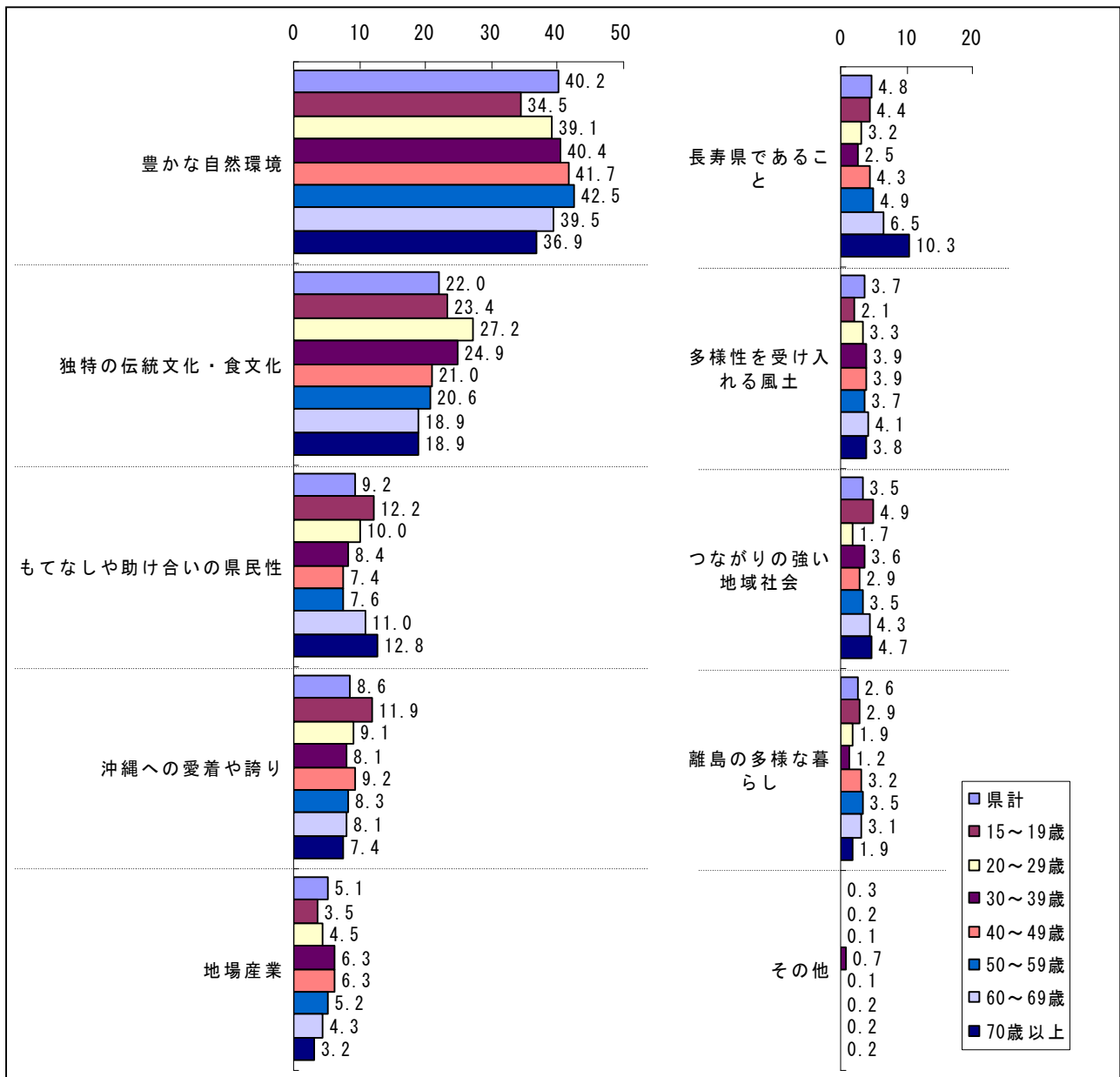


(3) 年齢別にみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

沖縄県の将来像実現のために残すべきものを年齢別に加重平均で比較したのが図3-8-3である。

年齢別で見ると、県平均で1位の「豊かな自然環境」は15～19歳、70歳以上でやや低いものの、すべての年齢層で1位にあげられている。県平均で2位の「独特の伝統文化・食文化」もすべての年齢層で2位にあげられているが、20～29歳を中心に若年層で高くなっている。県平均で3位の「もてなしや助け合いの県民性」は、15～19歳及び70歳以上の両極で最も高く、中年層で低くなっている。これに対し、県平均で5位の「地場産業」は30～40歳代で高く、年齢が離れるにしたがって低くなっている。このほか、「沖縄への愛着や誇り」は15～19歳でやや高く、「長寿県であること」は70歳以上で高くなっている。「長寿県であること」は60～69歳と70歳以上で4～5位に入っている。

図3-8-3 年齢別加重平均でみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの



(4) 地域別にみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

沖縄県の将来像実現のために残すべきものを地域別に加重平均で比較したのが図3-8-4である。

地域別で見ると、県平均で1～2位の「豊かな自然環境」、「独特の伝統文化・食文化」は各地域でも同様に1～2位を占めており、その値にも大差はみられず、この2項目については、地域にかかわらず残すべきものとして共通の認識があることがわかる。このほか特徴がみられるのは、「離島の多様な暮らし」で当該地域である宮古と八重山が高く、それぞれ3～4位にあげられている。

図3-8-4 地域別加重平均でみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

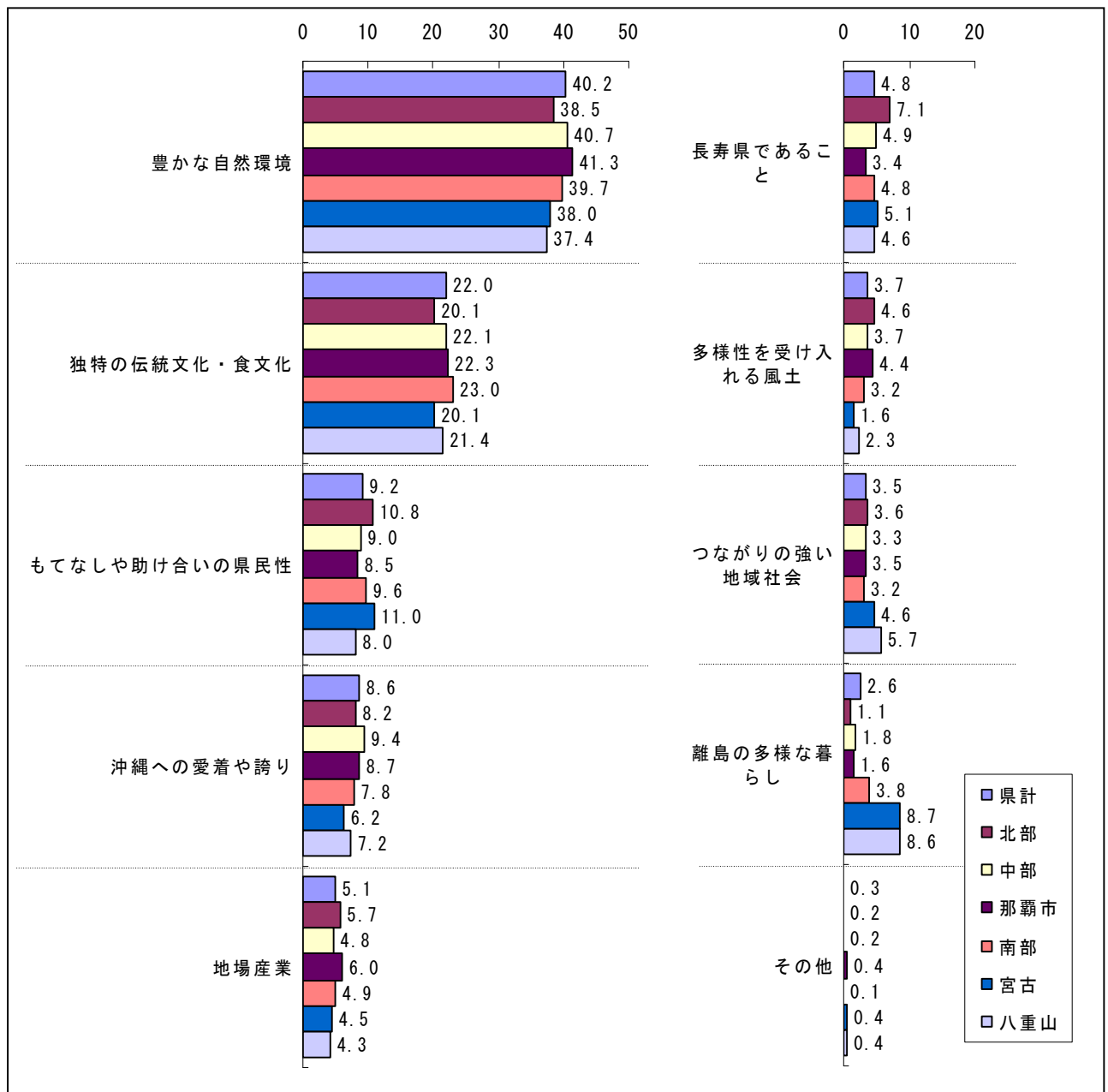


表3-8-1 属性別にみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの

(%)

	【県計】			
	1番目	2番目	3番目	合計
豊かな自然環境	69.5	12.4	6.9	88.8
独特の伝統文化・食文化	11.9	42.1	11.5	65.5
もてなしや助け合いの県民性	5.3	13.0	13.1	31.4
離島の多様な暮らし	1.4	3.8	3.8	9.0
多様性を受け入れる風土	1.8	4.9	7.0	13.7
長寿県であること	2.0	6.6	9.0	17.6
沖縄への愛着や誇り	5.7	8.5	17.6	31.8
地場産業	0.8	5.2	17.9	23.9
つながりの強い地域社会	1.0	3.1	11.8	15.9
その他	0.3	0.0	0.6	0.9

	県計加重平均	【性別加重平均】		【年齢別加重平均】						
		男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
豊かな自然環境	40.2	39.1	41.1	34.5	39.1	40.4	41.7	42.5	39.5	36.9
独特の伝統文化・食文化	22.0	22.7	21.4	23.4	27.2	24.9	21.0	20.6	18.9	18.9
もてなしや助け合いの県民性	9.2	9.1	9.3	12.2	10.0	8.4	7.4	7.6	11.0	12.8
離島の多様な暮らし	2.6	2.9	2.3	2.9	1.9	1.2	3.2	3.5	3.1	1.9
多様性を受け入れる風土	3.7	4.3	3.2	2.1	3.3	3.9	3.9	3.7	4.1	3.8
長寿県であること	4.8	4.7	4.8	4.4	3.2	2.5	4.3	4.9	6.5	10.3
沖縄への愛着や誇り	8.6	8.8	8.5	11.9	9.1	8.1	9.2	8.3	8.1	7.4
地場産業	5.1	5.1	5.2	3.5	4.5	6.3	6.3	5.2	4.3	3.2
つながりの強い地域社会	3.5	2.9	4.0	4.9	1.7	3.6	2.9	3.5	4.3	4.7
その他	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	0.7	0.1	0.2	0.2	0.2

	【地域別加重平均】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
豊かな自然環境	38.5	40.7	41.3	39.7	38.0	37.4
独特の伝統文化・食文化	20.1	22.1	22.3	23.0	20.1	21.4
もてなしや助け合いの県民性	10.8	9.0	8.5	9.6	11.0	8.0
離島の多様な暮らし	1.1	1.8	1.6	3.8	8.7	8.6
多様性を受け入れる風土	4.6	3.7	4.4	3.2	1.6	2.3
長寿県であること	7.1	4.9	3.4	4.8	5.1	4.6
沖縄への愛着や誇り	8.2	9.4	8.7	7.8	6.2	7.2
地場産業	5.7	4.8	6.0	4.9	4.5	4.3
つながりの強い地域社会	3.6	3.3	3.5	3.2	4.6	5.7
その他	0.2	0.2	0.4	0.1	0.4	0.4

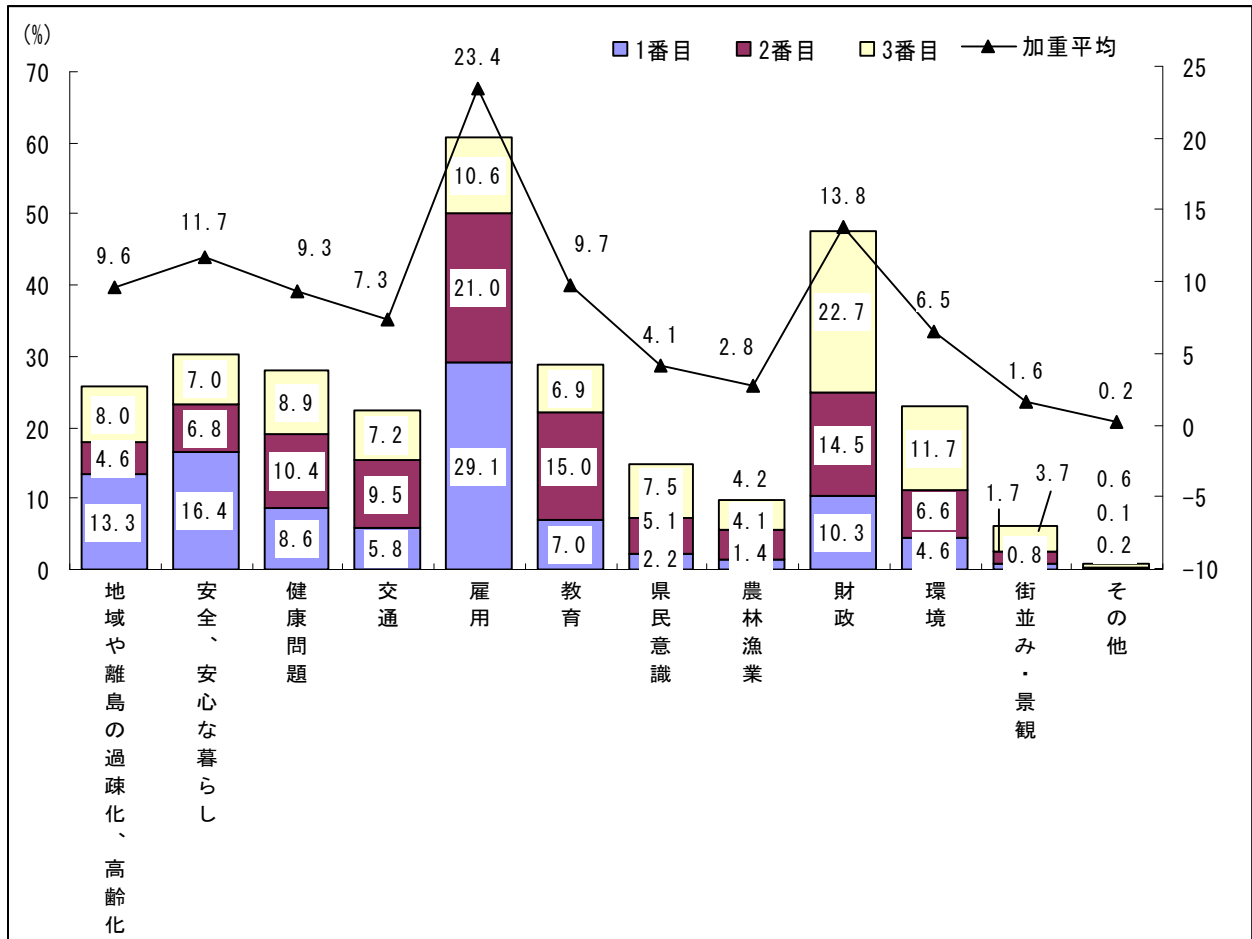
表3-8-2 属性別にみた沖縄県の将来像実現のために残すべきもの（上位5位）

		1位	2位	3位	4位	5位
県計		豊かな自然環境 40.2	独特の伝統文化・食文化 22.0	もてなしや助け合いの県民性 9.2	沖縄への愛着や誇り 8.6	地場産業 5.1
【性別】	男	豊かな自然環境 39.1	独特の伝統文化・食文化 22.7	もてなしや助け合いの県民性 9.1	沖縄への愛着や誇り 8.8	地場産業 5.1
	女	豊かな自然環境 41.1	独特の伝統文化・食文化 21.4	もてなしや助け合いの県民性 9.3	沖縄への愛着や誇り 8.5	地場産業 5.2
【年齢】	15～19歳	豊かな自然環境 34.5	独特の伝統文化・食文化 23.4	もてなしや助け合いの県民性 12.2	沖縄への愛着や誇り 11.9	つながりの強い地域社会 4.9
	20～29歳	豊かな自然環境 39.1	独特の伝統文化・食文化 27.2	もてなしや助け合いの県民性 10.0	沖縄への愛着や誇り 9.1	地場産業 4.5
	30～39歳	豊かな自然環境 40.4	独特の伝統文化・食文化 24.9	もてなしや助け合いの県民性 8.4	沖縄への愛着や誇り 8.1	地場産業 6.3
	40～49歳	豊かな自然環境 41.7	独特の伝統文化・食文化 21.0	沖縄への愛着や誇り 9.2	もてなしや助け合いの県民性 7.4	地場産業 6.3
	50～59歳	豊かな自然環境 42.5	独特の伝統文化・食文化 20.6	沖縄への愛着や誇り 8.3	もてなしや助け合いの県民性 7.6	地場産業 5.2
	60～69歳	豊かな自然環境 39.5	独特の伝統文化・食文化 18.9	もてなしや助け合いの県民性 11.0	沖縄への愛着や誇り 8.1	長寿県であること 6.5
	70歳以上	豊かな自然環境 36.9	独特の伝統文化・食文化 18.9	もてなしや助け合いの県民性 12.8	長寿県であること 10.3	沖縄への愛着や誇り 7.4
【地域別】	北部	豊かな自然環境 38.5	独特の伝統文化・食文化 20.1	もてなしや助け合いの県民性 10.8	沖縄への愛着や誇り 8.2	長寿県であること 7.1
	中部	豊かな自然環境 40.7	独特の伝統文化・食文化 22.1	沖縄への愛着や誇り 9.4	もてなしや助け合いの県民性 9.0	長寿県であること 4.9
	那覇市	豊かな自然環境 41.3	独特の伝統文化・食文化 22.3	沖縄への愛着や誇り 8.7	もてなしや助け合いの県民性 8.5	地場産業 6.0
	南部	豊かな自然環境 39.7	独特の伝統文化・食文化 23.0	もてなしや助け合いの県民性 9.6	沖縄への愛着や誇り 7.8	地場産業 4.9
	宮古	豊かな自然環境 38.0	独特の伝統文化・食文化 20.1	もてなしや助け合いの県民性 11.0	離島の多様な暮らし 8.7	沖縄への愛着や誇り 6.2
	八重山	豊かな自然環境 37.4	独特の伝統文化・食文化 21.4	離島の多様な暮らし 8.6	もてなしや助け合いの県民性 8.0	沖縄への愛着や誇り 7.2

(5) 順位別にみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと

目指すべき将来像を実現するために、改善すべきことについて、12項目の中から順位をつけて3つ選んでもらった。選択された3つの回答の1位、2位、3位それぞれの比率と、その選択項目を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウエイトづけをして加重平均を求め、グラフにしたのが図3-8-5である。

図3-8-5 沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと



1番目に改善すべきこととしては、「雇用」が29.1%と最も高く、次いで、比率が下がって、「安全、安心な暮らし」(16.4%)、「地域や離島の過疎化、高齢化」(13.3%)、「財政」(10.3%)、「健康問題」(8.6%)、「教育」(7.0%)が続いている。

2番目については、「雇用」(21.0%)が最も高く、次いで、「教育」(15.0%)、「財政」(14.5%)、「健康問題」(10.4%)、「交通」(9.5%)、「安全、安心な暮らし」(6.8%)、「環境」(6.6%)の順に高い。

3番目については、「財政」(22.7%)が最も高く、次いで、「環境」(11.7%)、「雇用」(10.6%)、「健康問題」(8.9%)、「地域や離島の過疎化、高齢化」(8.0%)、「県民意識」(7.5%)、「交通」(7.2%)、「安全、安心な暮らし」(7.0%)が続いている。

また、選択された項目を総合的に評価するため、1位=3点、2位=2点、3位=1点の

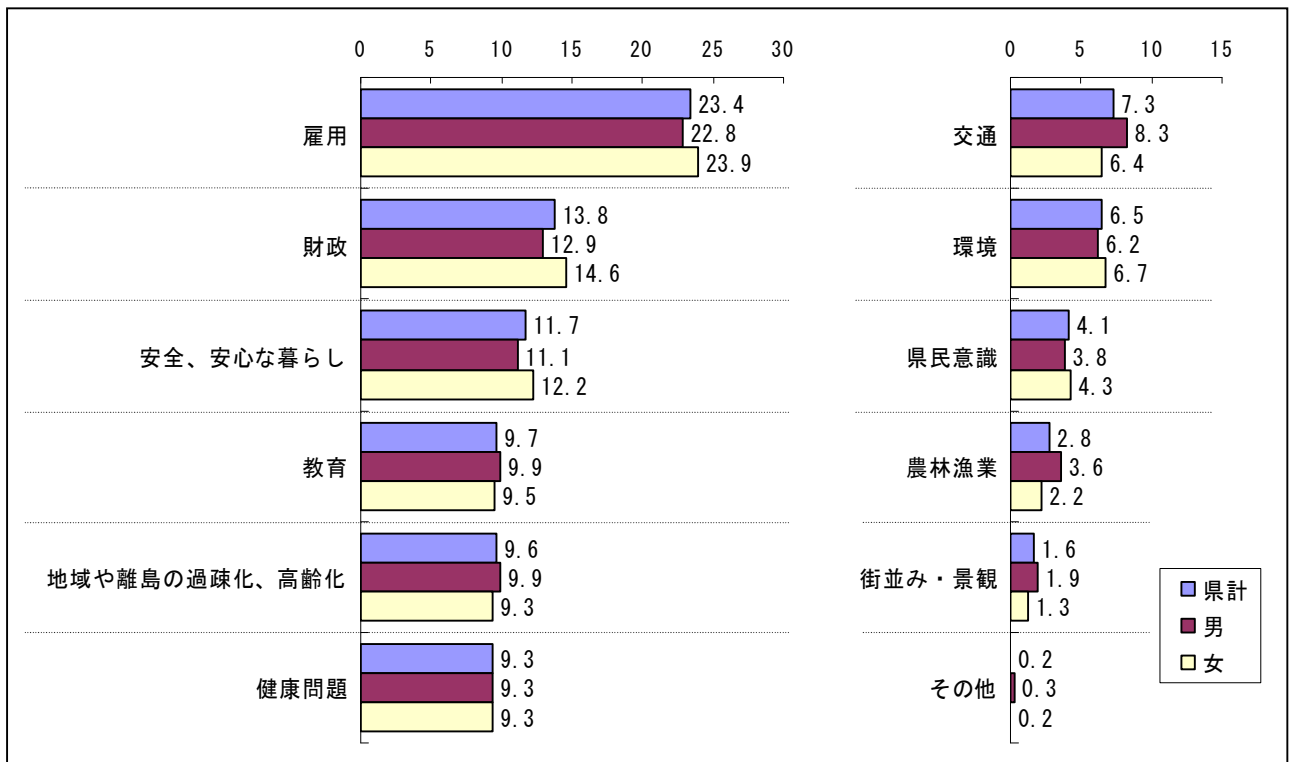
ウエイトづけをして算出した加重平均値で比較すると、「雇用」(23.4)が最も高く、次いで、「財政」(13.8)、「安全、安心な暮らし」(11.7)、「教育」(9.7)、「地域や離島の過疎化、高齢化」(9.6)、「健康問題」(9.3)の順に高い。

(6) 性別にみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと

沖縄県の将来像実現のために改善すべきことを性別に加重平均で比較したのが図3-8-6である。

性別でみると、男女の傾向にほとんど差はみられない。

図3-8-6 性別加重平均でみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと



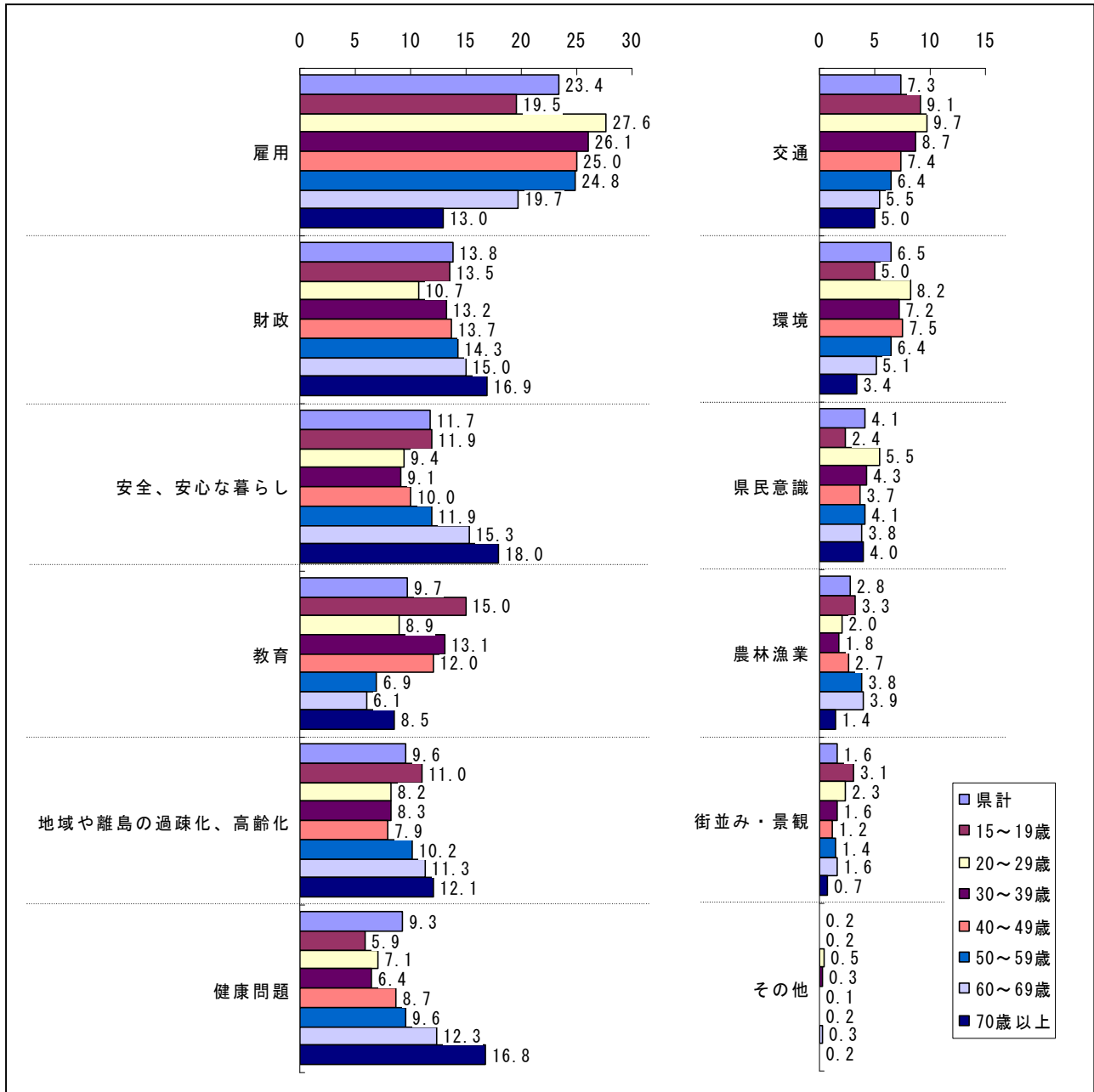
(7) 年齢別にみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと

沖縄県の将来像実現のために改善すべきことを年齢別に加重平均で比較したのが図3-8-7である。

年齢別でみると、県平均で1位の「雇用」は60歳代以下の年齢層では1位にあげられているが、値は20~29歳で最も高く、30~50歳代でも改善すべきこととしての要望が高い。県平均で2位の「財政」は20~29歳で低く、年齢が上がるにしたがって高くなっているが、すべての年齢層で2~3位にあげられている。県平均で3位の「安全、安心な暮らし」は、20~30歳代で低く、年齢が上がるにしたがって高くなり、順位も40歳代以下で4位、50~59歳で3位、60~69歳で2位、70歳以上で1位と上昇している。県平均5位の「地域や離島の過疎化、高齢化」や県平均で6位の「健康問題」も概ね年齢が高いほど高くなる傾

向がみられ、50歳代以上ではそろって上位5位に入っている。一方、県平均で7位の「交通」は若年層ほど高くなる傾向がみられ、20～30歳代で5位以内にあげられている。

図3-8-7 年齢別加重平均でみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと



(8) 地域別にみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと

沖縄県の将来像実現のために改善すべきことを地域別に加重平均で比較したのが図3-8-8である。

地域別でみると、県平均で1位の「雇用」はすべての地域で1位となっているが、宮古と八重山で低い。一方、県平均で5位の「地域や離島の過疎化、高齢化」は宮古と八重山で高く、両地域では2位にあげられ、高い要望となっているほか、南部でも高く、3位にあげられている。県平均で2位の「財政」、3位の「安全、安心な暮らし」、6位の「健康問題」は全地域で上位5位以内にある。また、県平均で4位の「教育」は中部と那覇市、県平均で7位の「交通」は中部、那覇市、南部で高くなっている。

図3-8-8 地域別加重平均でみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと

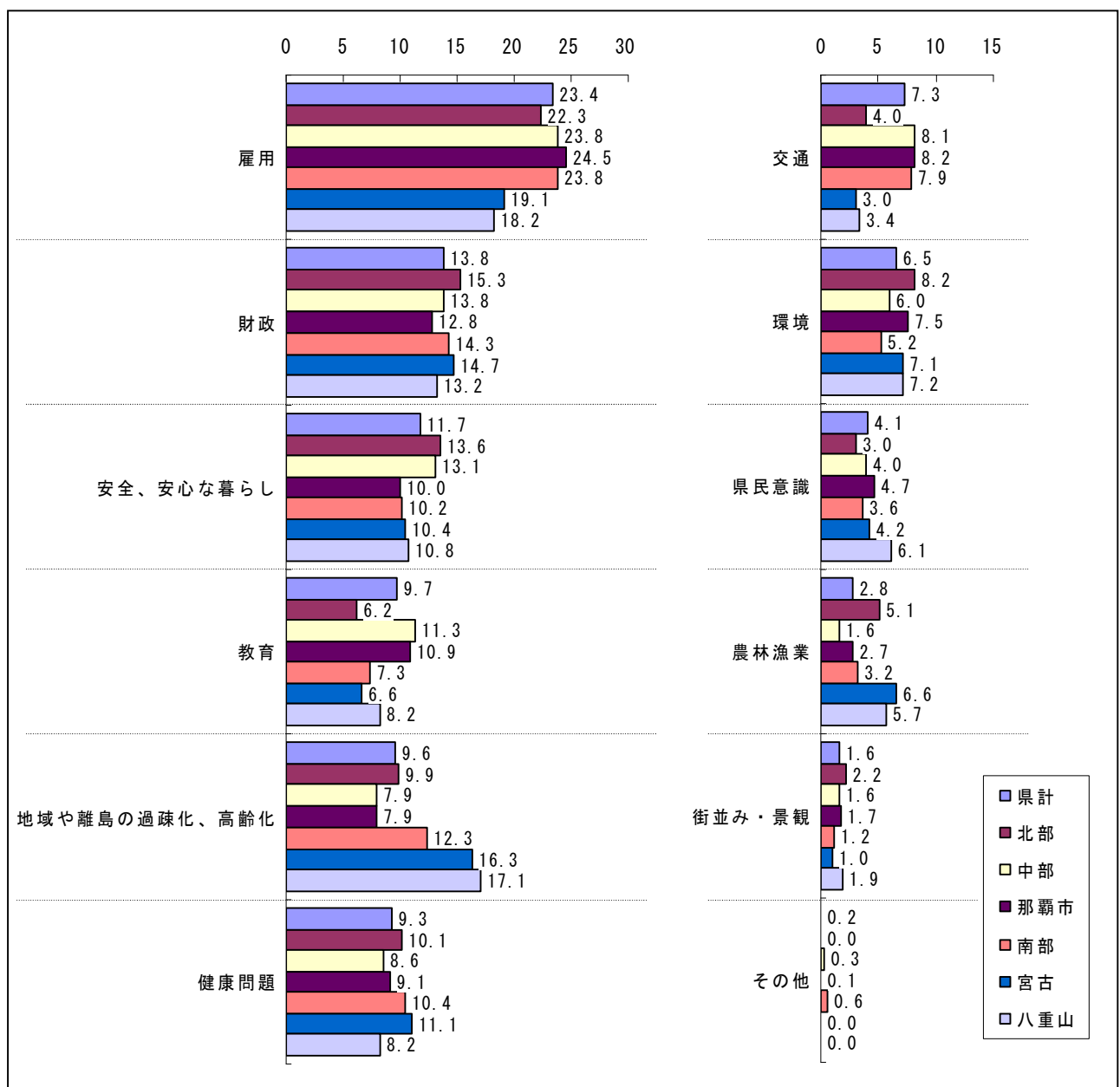


表3-8-3 属性別にみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと
(%)

	【県計】			
	1 番目	2 番目	3 番目	合計
地域や離島の過疎化、高齢化	13.3	4.6	8.0	25.9
安全、安心な暮らし	16.4	6.8	7.0	30.2
健康問題	8.6	10.4	8.9	27.9
交通	5.8	9.5	7.2	22.5
雇用	29.1	21.0	10.6	60.7
教育	7.0	15.0	6.9	28.9
県民意識	2.2	5.1	7.5	14.8
農林漁業	1.4	4.1	4.2	9.7
財政	10.3	14.5	22.7	47.5
環境	4.6	6.6	11.7	22.9
街並み・景観	0.8	1.7	3.7	6.2
その他	0.2	0.1	0.6	0.9

	県計加重平均	【性別加重平均】		【年齢別加重平均】						
		男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
地域や離島の過疎化、高齢化	9.6	9.9	9.3	11.0	8.2	8.3	7.9	10.2	11.3	12.1
安全、安心な暮らし	11.7	11.1	12.2	11.9	9.4	9.1	10.0	11.9	15.3	18.0
健康問題	9.3	9.3	9.3	5.9	7.1	6.4	8.7	9.6	12.3	16.8
交通	7.3	8.3	6.4	9.1	9.7	8.7	7.4	6.4	5.5	5.0
雇用	23.4	22.8	23.9	19.5	27.6	26.1	25.0	24.8	19.7	13.0
教育	9.7	9.9	9.5	15.0	8.9	13.1	12.0	6.9	6.1	8.5
県民意識	4.1	3.8	4.3	2.4	5.5	4.3	3.7	4.1	3.8	4.0
農林漁業	2.8	3.6	2.2	3.3	2.0	1.8	2.7	3.8	3.9	1.4
財政	13.8	12.9	14.6	13.5	10.7	13.2	13.7	14.3	15.0	16.9
環境	6.5	6.2	6.7	5.0	8.2	7.2	7.5	6.4	5.1	3.4
街並み・景観	1.6	1.9	1.3	3.1	2.3	1.6	1.2	1.4	1.6	0.7
その他	0.2	0.3	0.2	0.2	0.5	0.3	0.1	0.2	0.3	0.2

	【地域別加重平均】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
地域や離島の過疎化、高齢化	9.9	7.9	7.9	12.3	16.3	17.1
安全、安心な暮らし	13.6	13.1	10.0	10.2	10.4	10.8
健康問題	10.1	8.6	9.1	10.4	11.1	8.2
交通	4.0	8.1	8.2	7.9	3.0	3.4
雇用	22.3	23.8	24.5	23.8	19.1	18.2
教育	6.2	11.3	10.9	7.3	6.6	8.2
県民意識	3.0	4.0	4.7	3.6	4.2	6.1
農林漁業	5.1	1.6	2.7	3.2	6.6	5.7
財政	15.3	13.8	12.8	14.3	14.7	13.2
環境	8.2	6.0	7.5	5.2	7.1	7.2
街並み・景観	2.2	1.6	1.7	1.2	1.0	1.9
その他	0.0	0.3	0.1	0.6	0.0	0.0

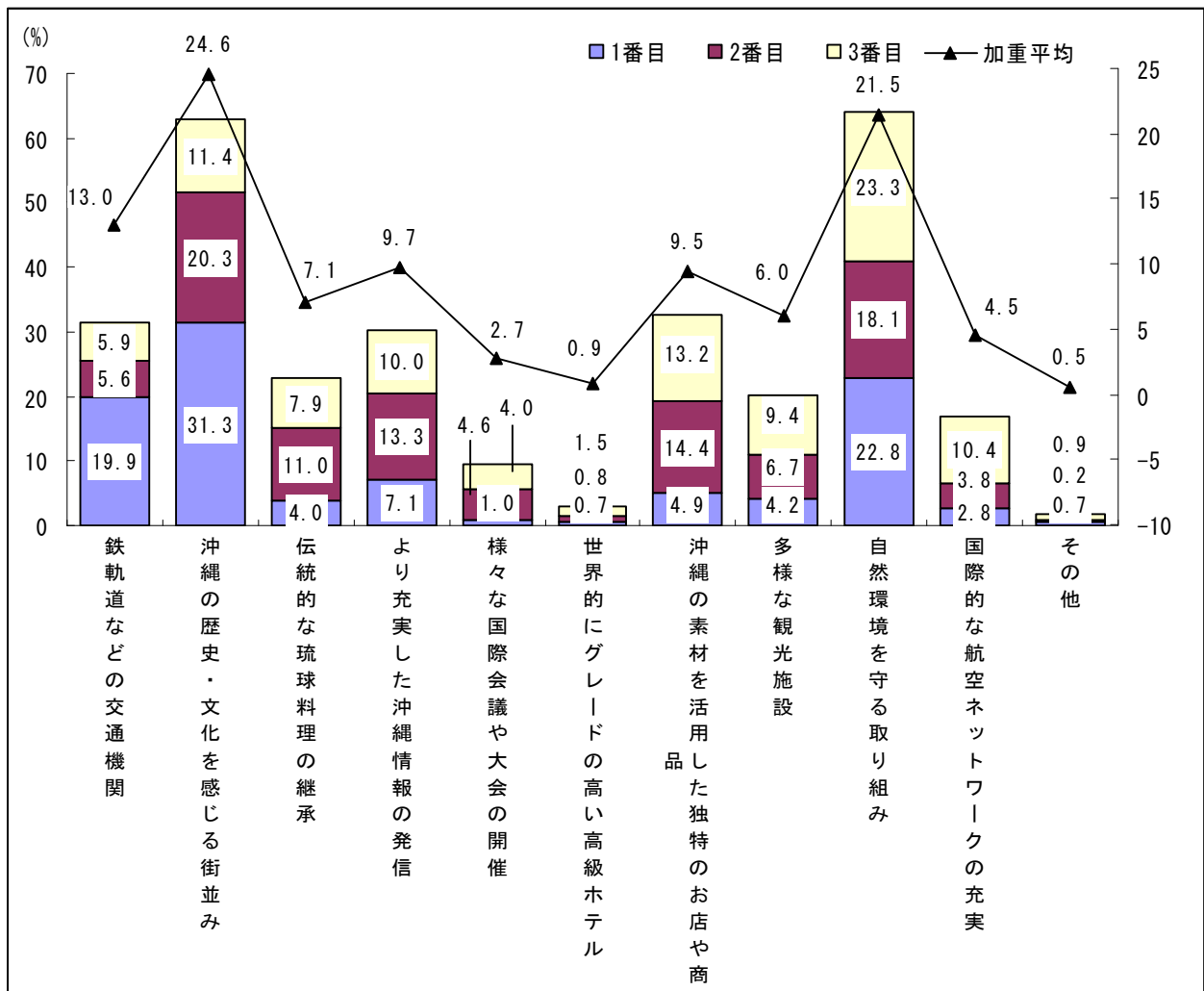
表3-8-4 属性別にみた沖縄県の将来像実現のために改善すべきこと（上位5位）

		1位	2位	3位	4位	5位
県計		雇用 23.4	財政 13.8	安全、安心な暮らし 11.7	教育 9.7	地域や離島の過疎化、高齢化 9.6
【性別】	男	雇用 22.8	財政 12.9	安全、安心な暮らし 11.1	地域や離島の過疎化、高齢化 9.9	教育 9.9
	女	雇用 23.9	財政 14.6	安全、安心な暮らし 12.2	教育 9.5	地域や離島の過疎化、高齢化/健康問題 9.3
【年齢】	15～19歳	雇用 19.5	教育 15.0	財政 13.5	安全、安心な暮らし 11.9	地域や離島の過疎化、高齢化 11.0
	20～29歳	雇用 27.6	財政 10.7	交通 9.7	安全、安心な暮らし 9.4	教育 8.9
	30～39歳	雇用 26.1	財政 13.2	教育 13.1	安全、安心な暮らし 9.1	交通 8.7
	40～49歳	雇用 25.0	財政 13.7	教育 12.0	安全、安心な暮らし 10.0	健康問題 8.7
	50～59歳	雇用 24.8	財政 14.3	安全、安心な暮らし 11.9	地域や離島の過疎化、高齢化 10.2	健康問題 9.6
	60～69歳	雇用 19.7	安全、安心な暮らし 15.3	財政 15.0	健康問題 12.3	地域や離島の過疎化、高齢化 11.3
	70歳以上	安全、安心な暮らし 18.0	財政 16.9	健康問題 16.8	雇用 13.0	地域や離島の過疎化、高齢化 12.1
【地域別】	北部	雇用 22.3	財政 15.3	安全、安心な暮らし 13.6	健康問題 10.1	地域や離島の過疎化、高齢化 9.9
	中部	雇用 23.8	財政 13.8	安全、安心な暮らし 13.1	教育 11.3	健康問題 8.6
	那覇市	雇用 24.5	財政 12.8	教育 10.9	安全、安心な暮らし 10.0	健康問題 9.1
	南部	雇用 23.8	財政 14.3	地域や離島の過疎化、高齢化 12.3	健康問題 10.4	安全、安心な暮らし 10.2
	宮古	雇用 19.1	地域や離島の過疎化、高齢化 16.3	財政 14.7	健康問題 11.1	安全、安心な暮らし 10.4
	八重山	雇用 18.2	地域や離島の過疎化、高齢化 17.1	財政 13.2	安全、安心な暮らし 10.8	健康問題/教育 8.2

(9) 順位別にみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

沖縄をもっと魅力的にするために必要なことについて、11項目の中から順位をつけて3つ選んでもらった。選択された3つの回答の1位、2位、3位それぞれの比率と、その選択項目を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウェイトづけをして加重平均を求め、グラフにしたのが図3-8-9である。

図3-8-9 沖縄を魅力的にするために必要なこと



1番目に必要なこととしては、「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」が31.3%と最も高く、次いで、「自然環境を守る取り組み」(22.8%)、「鉄軌道などの交通機関」(19.9%)、「より充実した沖縄情報の発信」(7.1%)が続いている。

2番目については、「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」(20.3%)が最も高く、次いで、「自然環境を守る取り組み」(18.1%)、「沖縄の素材を活用した独特のお店や商品」(14.4%)、「より充実した沖縄情報の発信」(13.3%)、「伝統的な琉球料理の継承」(11.0%)の順に高い。

3番目については、「自然環境を守る取り組み」(23.3%)が最も高く、次いで、「沖縄の素材を活用した独特のお店や商品」(13.2%)、「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」(11.4%)、

「国際的な航空ネットワークの充実」(10.4%)、「より充実した沖縄情報の発信」(10.0%)、「多様な観光施設」(9.4%)、「伝統的な琉球料理の継承」(7.9%)が続いている。

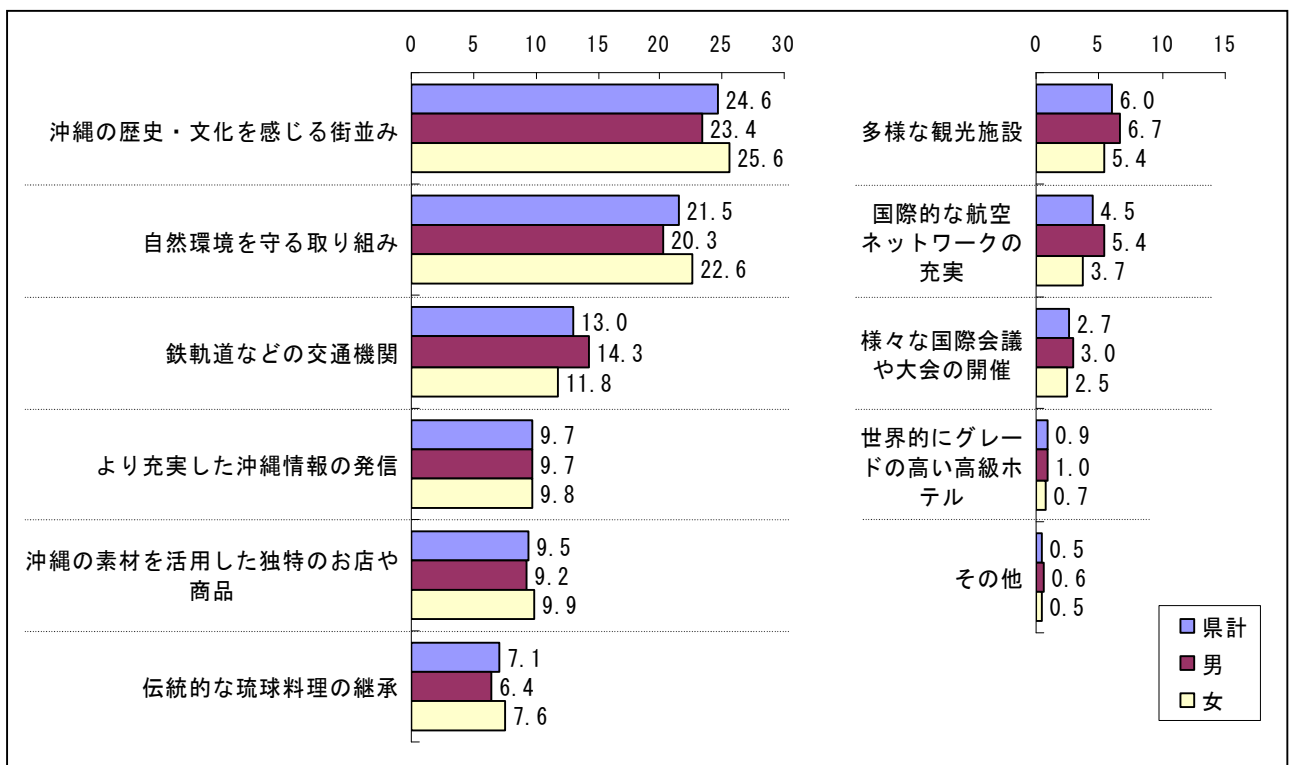
また、選択された項目を総合的に評価するため、1位＝3点、2位＝2点、3位＝1点のウェイトづけをして算出した加重平均値で比較すると、「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」(24.6)が最も高く、次いで、「自然環境を守る取り組み」(21.5)、「鉄軌道などの交通機関」(13.0)、「より充実した沖縄情報の発信」(9.7)、「沖縄の素材を活用した独特のお店や商品」(9.5)の順に高い。

(10) 性別にみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

沖縄を魅力的にするために必要なことを性別に加重平均で比較したのが図3-8-10である。

性別で見ると、男女とも上位5位までには4、5位の順位の入れ替わりがあるものの、同じ項目があげられている。県平均1～2位の「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」と「自然環境を守る取り組み」は男性に比べて女性でやや高くなっている。

図3-8-10 性別加重平均でみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

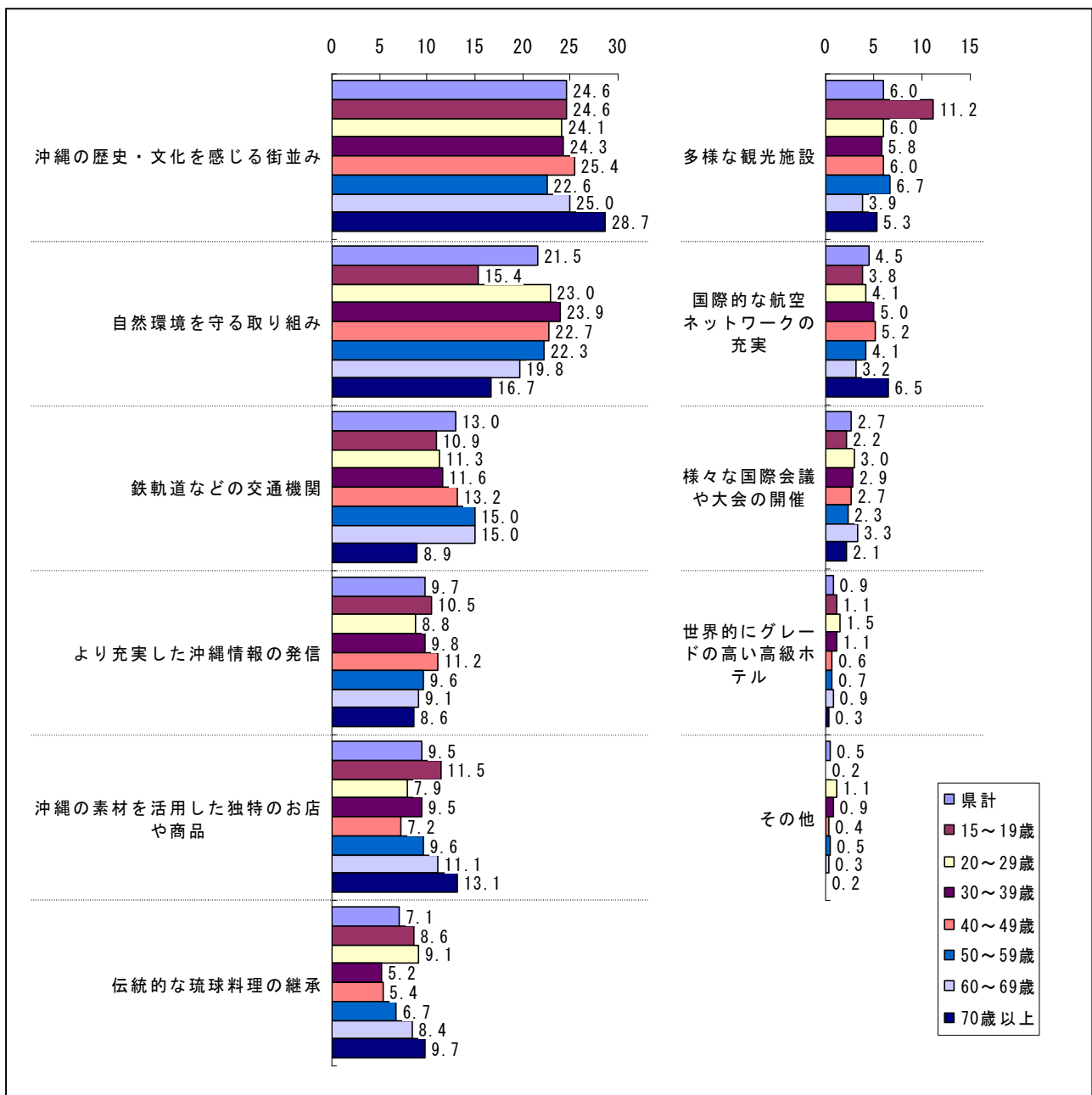


(11) 年齢別にみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

沖縄を魅力的にするために必要なことを年齢別に加重平均で比較したのが図3-8-11である。

年齢別でみると、県平均で1～2位の「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」と「自然環境を守る取り組み」は各年齢層で同様に1～2位にあげられているが、「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」は70歳以上で高く、「自然環境を守る取り組み」は15～19歳と70歳以上の両極で低く、20～50歳代で高くなっている。県平均で3位の「鉄軌道などの交通機関」は年齢が上がるにしたがって高くなり、50～60歳代で最も高いが、70歳以上では最も低くなっている。また、「多様な観光施設」は15～19歳で高くなっている。

図3-8-11 年齢別加重平均でみた沖縄を魅力的にするために必要なこと



(12) 地域別にみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

沖縄を魅力的にするために必要なことを地域別に加重平均で比較したのが図3-8-12である。

地域別でみると、県平均で1～2位の「沖縄の歴史・文化を感じる街並み」、「自然環境を守る取り組み」は各地域でも同様に1～2位を占めている。県平均で3位の「鉄軌道などの交通機関」は宮古と八重山で低く、これらの地域以外では3位にあげられている。県平均で4位の「より充実した沖縄情報の発信」は各地域で4～5位に入っており、値も大きな差はない。県平均で5位の「沖縄の素材を活用した独特のお店や商品」は全地域で上位5位以内に入っているが、特に宮古と八重山では3位と重視されている。

図3-8-12 地域別加重平均でみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

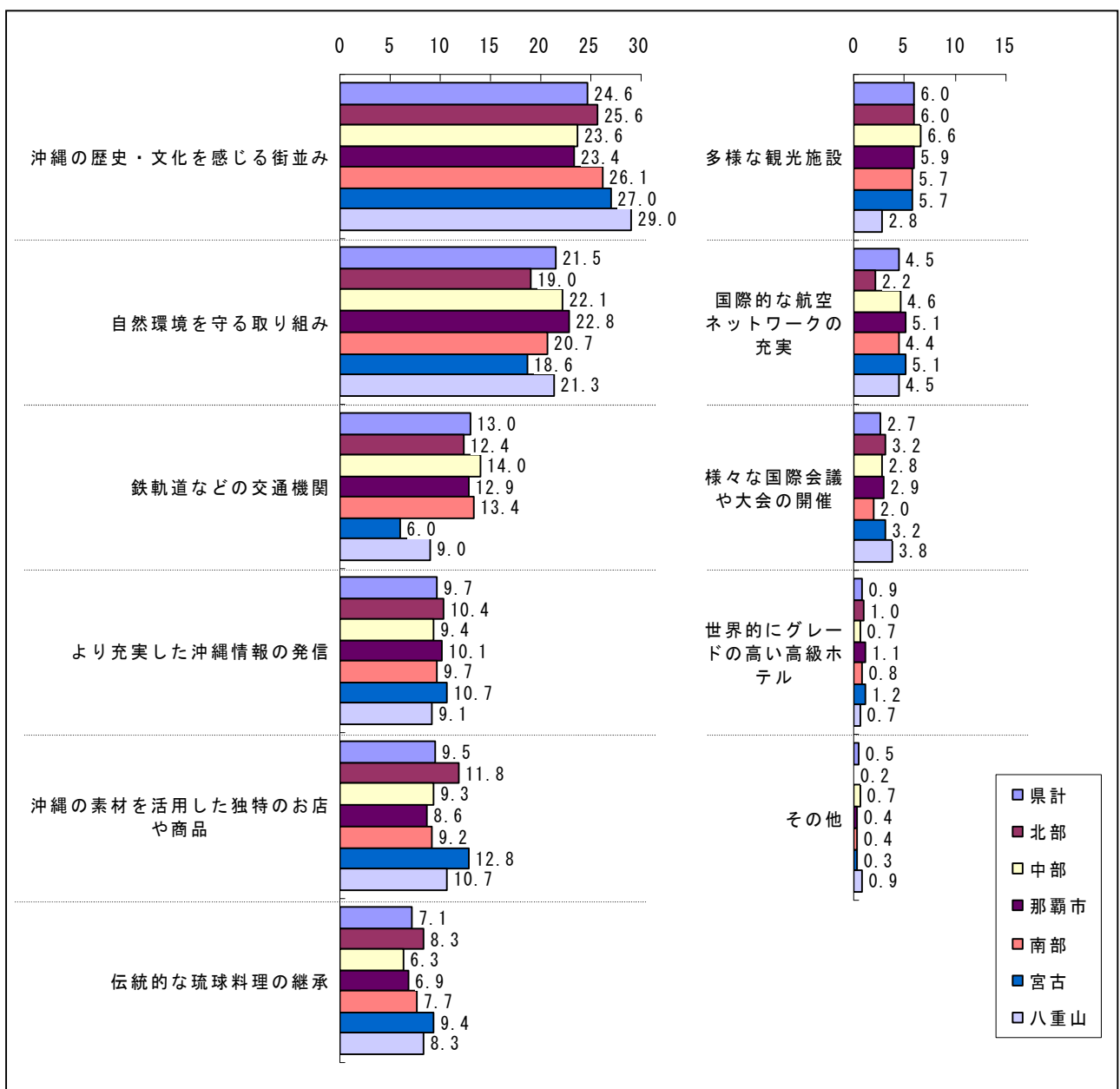


表3-8-5 属性別にみた沖縄を魅力的にするために必要なこと

(%)

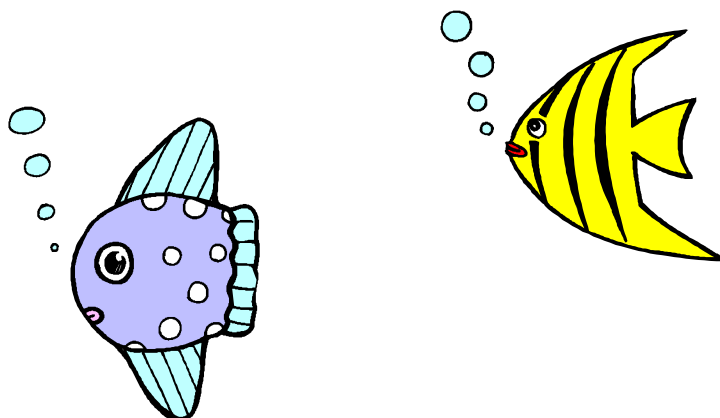
	【県計】			
	1 番目	2 番目	3 番目	合計
鉄軌道などの交通機関	19.9	5.6	5.9	31.4
沖縄の歴史・文化を感じる街並み	31.3	20.3	11.4	63.0
伝統的な琉球料理の継承	4.0	11.0	7.9	22.9
より充実した沖縄情報の発信	7.1	13.3	10.0	30.4
様々な国際会議や大会の開催	1.0	4.6	4.0	9.6
世界的にグレードの高い高級ホテル	0.7	0.8	1.5	3.0
沖縄の素材を活用した独特のお店や商品	4.9	14.4	13.2	32.5
多様な観光施設	4.2	6.7	9.4	20.3
自然環境を守る取り組み	22.8	18.1	23.3	64.2
国際的な航空ネットワークの充実	2.8	3.8	10.4	17.0
その他	0.7	0.2	0.9	1.8

	県計加重平均	【性別加重平均】		【年齢別加重平均】						
		男	女	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上
				歳	歳	歳	歳	歳	歳	
鉄軌道などの交通機関	13.0	14.3	11.8	10.9	11.3	11.6	13.2	15.0	15.0	8.9
沖縄の歴史・文化を感じる街並み	24.6	23.4	25.6	24.6	24.1	24.3	25.4	22.6	25.0	28.7
伝統的な琉球料理の継承	7.1	6.4	7.6	8.6	9.1	5.2	5.4	6.7	8.4	9.7
より充実した沖縄情報の発信	9.7	9.7	9.8	10.5	8.8	9.8	11.2	9.6	9.1	8.6
様々な国際会議や大会の開催	2.7	3.0	2.5	2.2	3.0	2.9	2.7	2.3	3.3	2.1
世界的にグレードの高い高級ホテル	0.9	1.0	0.7	1.1	1.5	1.1	0.6	0.7	0.9	0.3
沖縄の素材を活用した独特のお店や商品	9.5	9.2	9.9	11.5	7.9	9.5	7.2	9.6	11.1	13.1
多様な観光施設	6.0	6.7	5.4	11.2	6.0	5.8	6.0	6.7	3.9	5.3
自然環境を守る取り組み	21.5	20.3	22.6	15.4	23.0	23.9	22.7	22.3	19.8	16.7
国際的な航空ネットワークの充実	4.5	5.4	3.7	3.8	4.1	5.0	5.2	4.1	3.2	6.5
その他	0.5	0.6	0.5	0.2	1.1	0.9	0.4	0.5	0.3	0.2

	【地域別加重平均】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
鉄軌道などの交通機関	12.4	14.0	12.9	13.4	6.0	9.0
沖縄の歴史・文化を感じる街並み	25.6	23.6	23.4	26.1	27.0	29.0
伝統的な琉球料理の継承	8.3	6.3	6.9	7.7	9.4	8.3
より充実した沖縄情報の発信	10.4	9.4	10.1	9.7	10.7	9.1
様々な国際会議や大会の開催	3.2	2.8	2.9	2.0	3.2	3.8
世界的にグレードの高い高級ホテル	1.0	0.7	1.1	0.8	1.2	0.7
沖縄の素材を活用した独特のお店や商品	11.8	9.3	8.6	9.2	12.8	10.7
多様な観光施設	6.0	6.6	5.9	5.7	5.7	2.8
自然環境を守る取り組み	19.0	22.1	22.8	20.7	18.6	21.3
国際的な航空ネットワークの充実	2.2	4.6	5.1	4.4	5.1	4.5
その他	0.2	0.7	0.4	0.4	0.3	0.9

表3-8-6 属性別にみた沖縄を魅力的にするために必要なこと（上位5位）

		1位	2位	3位	4位	5位
県計		沖縄の歴史・文化を感じる街並み 24.6	自然環境を守る取り組み 21.5	鉄軌道などの交通機関 13.0	より充実した沖縄情報の発信 9.7	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.5
【性別】	男	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 23.4	自然環境を守る取り組み 20.3	鉄軌道などの交通機関 14.3	より充実した沖縄情報の発信 9.7	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.2
	女	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 25.6	自然環境を守る取り組み 22.6	鉄軌道などの交通機関 11.8	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.9	より充実した沖縄情報の発信 9.8
【年齢】	15～19歳	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 24.6	自然環境を守る取り組み 15.4	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 11.5	多様な観光施設 11.2	鉄軌道などの交通機関 10.9
	20～29歳	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 24.1	自然環境を守る取り組み 23.0	鉄軌道などの交通機関 11.3	伝統的な琉球料理の継承 9.1	より充実した沖縄情報の発信 8.8
	30～39歳	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 24.3	自然環境を守る取り組み 23.9	鉄軌道などの交通機関 11.6	より充実した沖縄情報の発信 9.8	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.5
	40～49歳	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 25.4	自然環境を守る取り組み 22.7	鉄軌道などの交通機関 13.2	より充実した沖縄情報の発信 11.2	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 7.2
	50～59歳	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 22.6	自然環境を守る取り組み 22.3	鉄軌道などの交通機関 15.0	より充実した沖縄情報の発信/沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.6	
	60～69歳	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 25.0	自然環境を守る取り組み 19.8	鉄軌道などの交通機関 15.0	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 11.1	より充実した沖縄情報の発信 9.1
	70歳以上	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 28.7	自然環境を守る取り組み 16.7	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 13.1	伝統的な琉球料理の継承 9.7	鉄軌道などの交通機関 8.9
【地域別】	北部	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 25.6	自然環境を守る取り組み 19.0	鉄軌道などの交通機関 12.4	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 11.8	より充実した沖縄情報の発信 10.4
	中部	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 23.6	自然環境を守る取り組み 22.1	鉄軌道などの交通機関 14.0	より充実した沖縄情報の発信 9.4	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.3
	那覇市	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 23.4	自然環境を守る取り組み 22.8	鉄軌道などの交通機関 12.9	より充実した沖縄情報の発信 10.1	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 8.6
	南部	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 26.1	自然環境を守る取り組み 20.7	鉄軌道などの交通機関 13.4	より充実した沖縄情報の発信 9.7	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 9.2
	宮古	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 27.0	自然環境を守る取り組み 18.6	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 12.8	より充実した沖縄情報の発信 10.7	伝統的な琉球料理の継承 9.4
	八重山	沖縄の歴史・文化を感じる街並み 29.0	自然環境を守る取り組み 21.3	沖縄の素材を活用した独特のお店や商品 10.7	より充実した沖縄情報の発信 9.1	鉄軌道などの交通機関 9.0



第4章 県民の価値観等



第4章 県民の価値観等

前章までは、生活の状況についての認識やそこから生じるニーズの把握及び政策優先度や沖縄の施策についてみてきたが、本章ではこれらの意識の背景にある県民の価値観、本県（民）の長所と短所、居住希望についてみていく。

1 県民の価値観（問4）

県民の価値観を図るため、対立する2つの考え方それぞれについてどちらに最も近いかを尋ねて、その結果をまとめたものが図4-1-1である。

『仕事と余暇』については、「いつでも仕事を優先させる」とする「仕事優先派」が53.3%と過半数に及び、「休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない」とする「余暇優先派」の45.8%を上回る。前回調査では「仕事優先派」の50.1%に対し、「余暇優先派」が48.2%で拮抗していたが、前回調査に比べて「仕事優先派」が3.2ポイント増え、差が広がった。

『精神的豊かさと物質的豊かさ』については、「物質的豊かさより精神的豊かさがより大切である」が79.7%と8割近くに及び、「精神的豊かさより物質的豊かさがより大切である」は19.1%にとどまっている。「精神的豊かさ」が大切する考え方は前回調査でも79.9%の多数を占め、今回も同様の結果となった。

『女性の社会進出と家事専念』については、「女性も外に出てどんどん働いた方がいい」とする「女性の社会進出」を支持する考え方が64.9%と、「女性は家にいて家事や育児に専念した方がいい」の34.1%を、30.8ポイント上回っている。「女性の社会進出」を支持する考え方は前回調査（64.6%）と同水準であった。

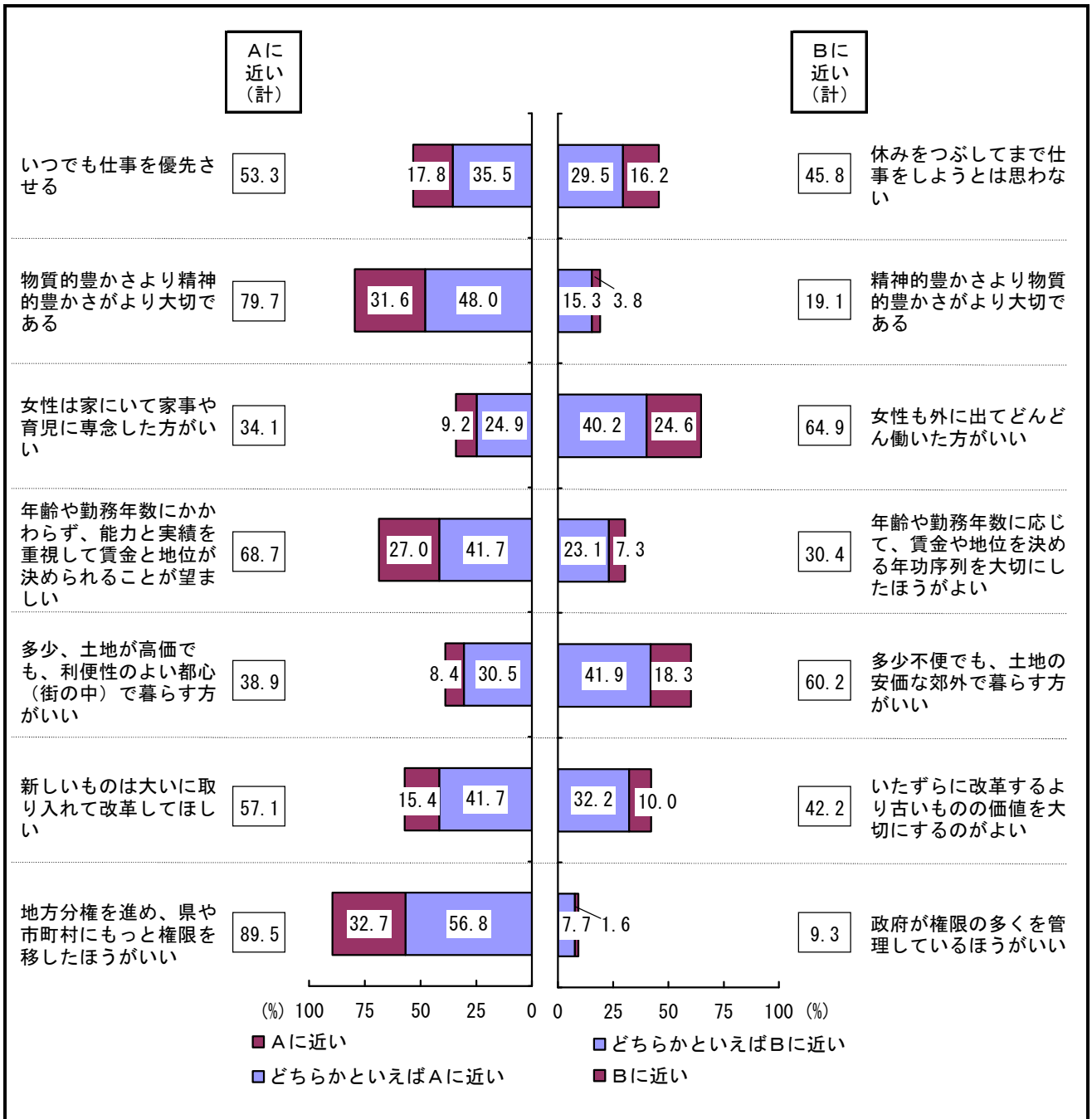
『能力・実績主義と年功・序列主義』については、「年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決められることが望ましい」とする「能力・実績主義」（68.7%）が7割近くを占め、「年齢や勤務年数に応じて、賃金や地位を決める年功序列を大切にしたいほうがよい」とする「年功・序列主義」（30.4%）を大きく上回っている。「能力・実績主義」を支持する考え方は、前回調査（72.6%）より3.9ポイント減少している。

『都心での生活と郊外での生活』については、「多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい」（60.2%）が6割を占め、「多少、土地が高価でも、利便性のよい都心（街の中）で暮らす方がいい」（38.9%）を21.3ポイント上回っている。前回調査とはほとんど変化がみられない。

『改革と保守』については、「新しいものは大いに取り入れて改革してほしい」とする「改革派」が57.1%で、「いたずらに改革するより古いものの価値を大切にするのがよい」とする「保守派」（42.2%）を14.9ポイント上回り、前回調査と同様の結果となった。

『地方分権と中央集権』については、「地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移したほうがよい」とする「地方分権派」が89.5%と9割近くに達し、「政府が権限の多くを管理しているほうがよい」とする「中央集権派」は9.3%にとどまった。前回調査同様、約9割を「地方分権派」が占める結果となった。

図 4 - 1 - 1 県民の価値観



(1) 仕事と余暇

『仕事と余暇』に対する考え方について、属性別に表示したのが図4-1-2である。

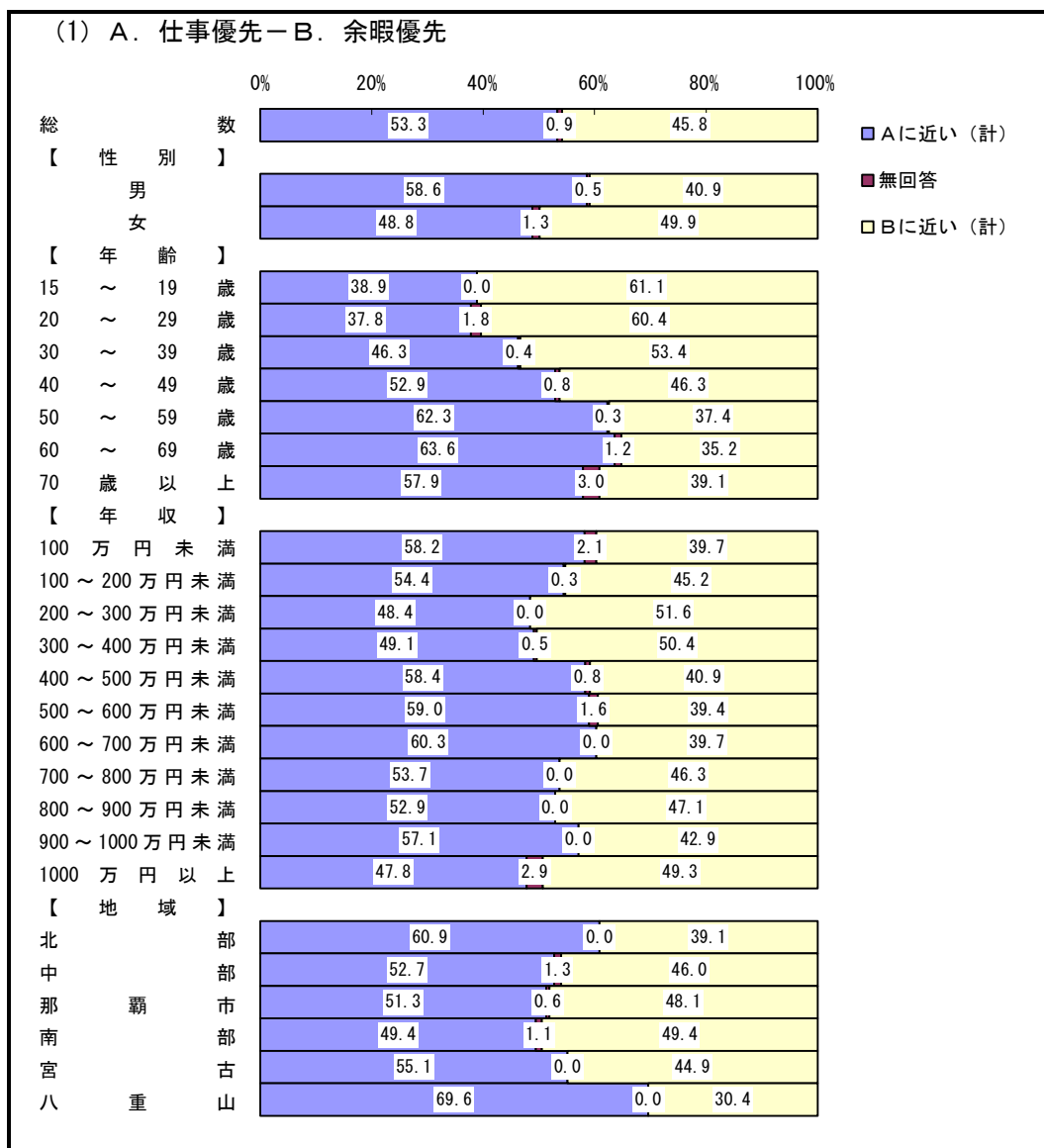
性別では、「いつでも仕事を優先させる」は男性で58.6%、女性で48.8%と、男性の方が仕事を優先する傾向にある。前回調査と比較すると、「仕事優先派」は男性では4.1ポイントの増加、女性では3.2ポイントの減少となっている。

年齢別では、「仕事優先派」は50～59歳、60～69歳で高く、それを境に年齢が離れるにつれ減少しており、「余暇優先派」が30～39歳で5割台、20歳代以下では6割台と若年層で多数を占めている。

地域別では、「仕事優先派」は八重山が69.6%と最も高く、次いで北部(60.9%)も6割を超えている。一方、南部(49.4%)で半数を下回るほか、中部(52.7%)、那覇市(51.3%)でも低い。

年収別では、「仕事優先派」は100万円未満、400～700万円未満、900～1,000万円未満の層で6割前後と高く、「余暇優先派」は200～400万円未満の層で過半数を占めている。

図4-1-2 『仕事と余暇』に対する価値観



(2) 精神的豊かさと物質的豊かさ

『精神的豊かさと物質的豊かさ』に対する考え方について、属性別に表示したのが図4-1-3である。

すべての属性において、「物質的豊かさより精神的豊かさがより大切である」とする「精神的豊かさ重視派」が多数を占めている。

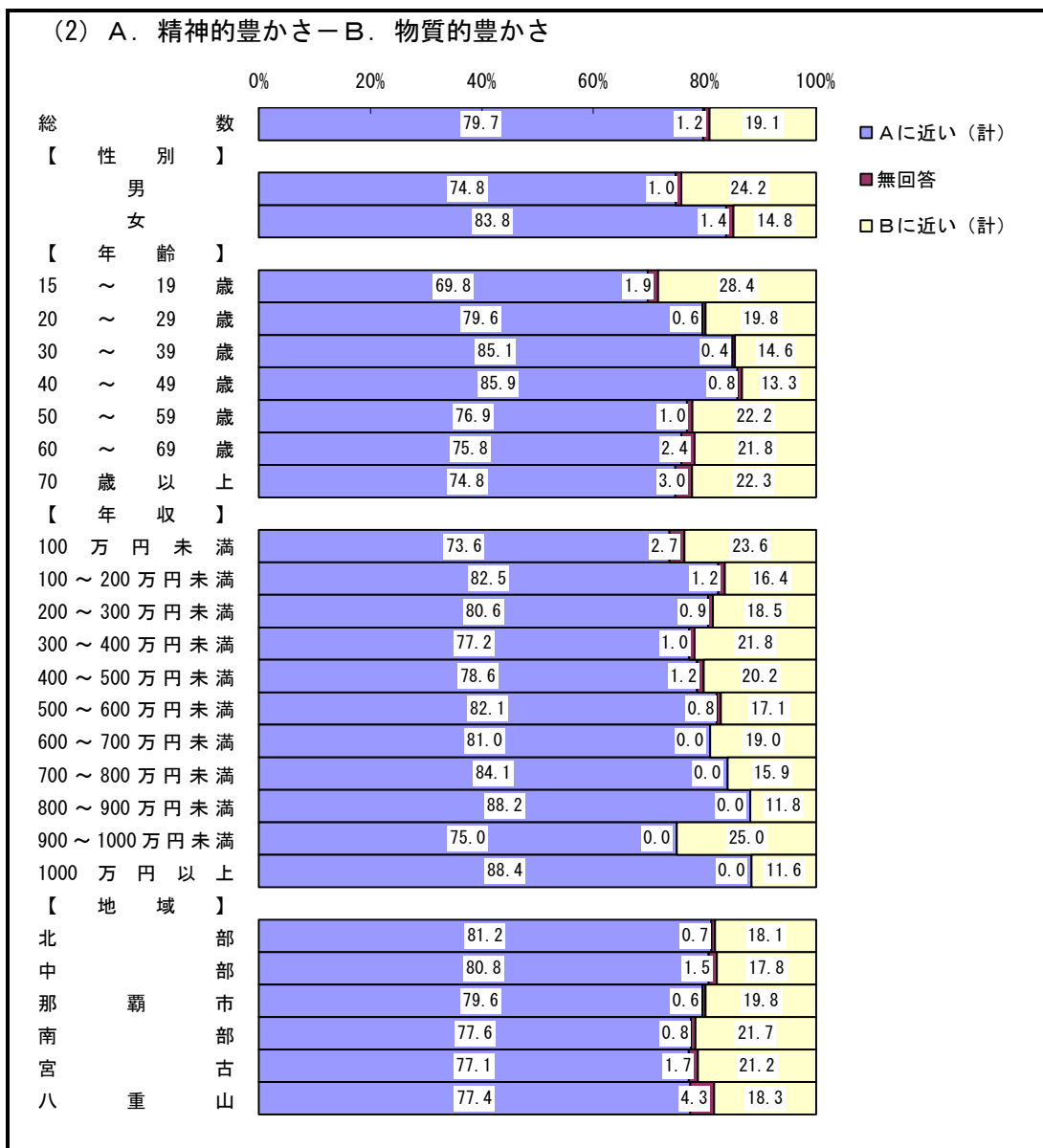
性別では、「精神的豊かさ重視派」は男性の74.8%に対し、女性で83.8%と、前回の調査同様に女性の方が重視する傾向にある。

年齢別では、「精神的豊かさ重視派」は15～19歳（69.8%）で低く、「物質的豊かさ重視派」が28.4%と、他の年齢層より高くなっている。

地域別では、「精神的豊かさ重視派」はいずれの地域も8割前後で、あまり差はない。

年収別では、「精神的豊かさ重視派」は800万円～900万円未満と1,000万円以上の層が9割近くに達している。

図4-1-3 『精神的豊かさと物質的豊かさ』に対する価値観



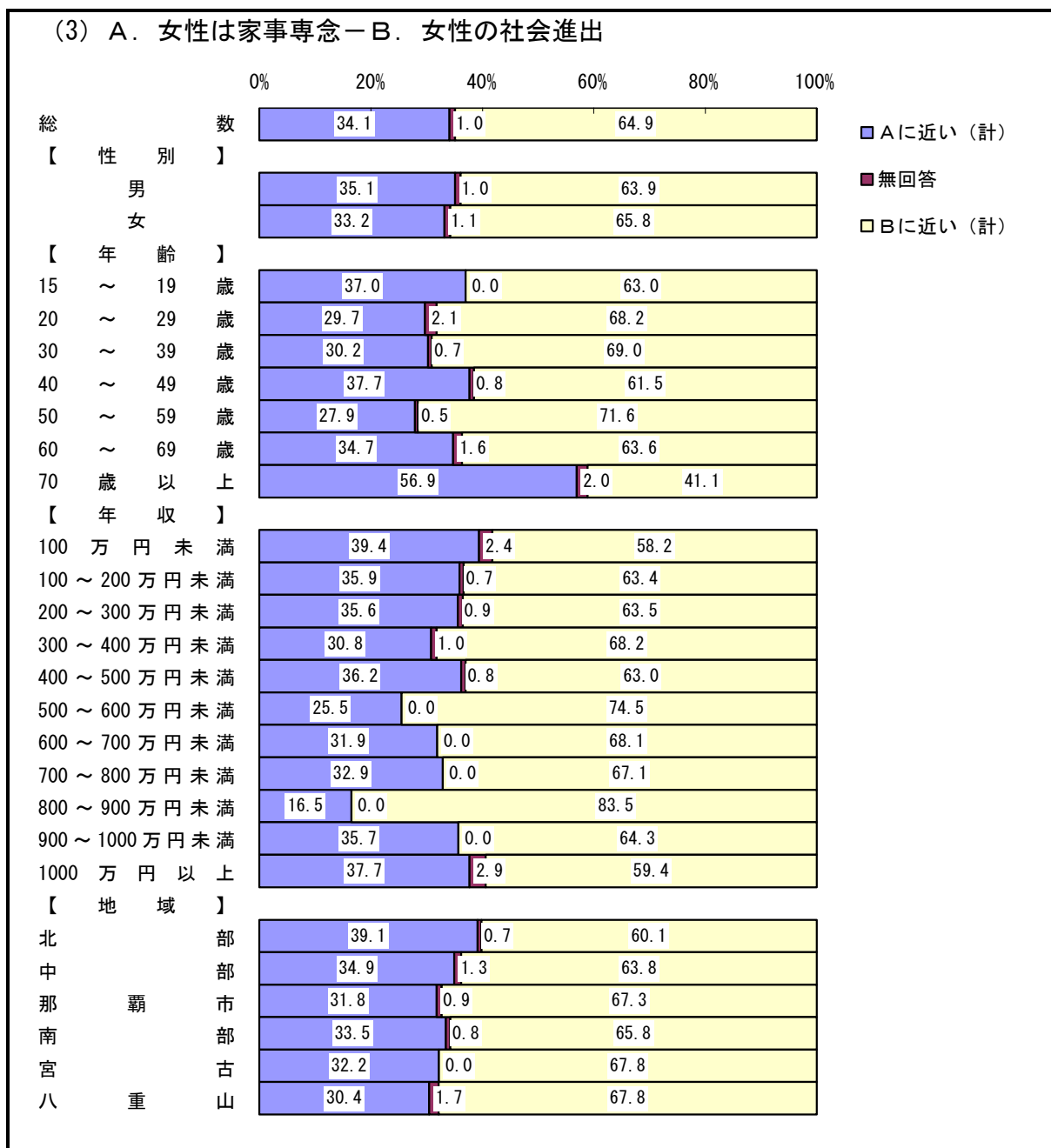
(3) 女性の社会進出と家事専念

『女性の社会進出と家事専念』に対する考え方について、属性別に表示したのが図4-1-4である。

性別では、「女性の社会進出派」は男性が63.9%、女性が65.8%と男女差はほとんどない。前回調査では男性の61.2%に対し、女性が68.1%と女性の支持が高かったが、今回調査では男性が2.7ポイント増、女性が2.3ポイント減となり、差が縮小した。

年齢別では、「女性の社会進出派」は50～59歳（71.6%）で7割を超え、次いで20～30歳代で7割近くと高い。一方、70歳以上では「女性の社会進出派」（41.1%）は半数に満たず、「家事専念派」（56.9%）が15.8ポイント上回っている。

図4-1-4 『女性の社会進出と家事専念』に対する価値観



(4) 能力・実績主義と年功・序列主義

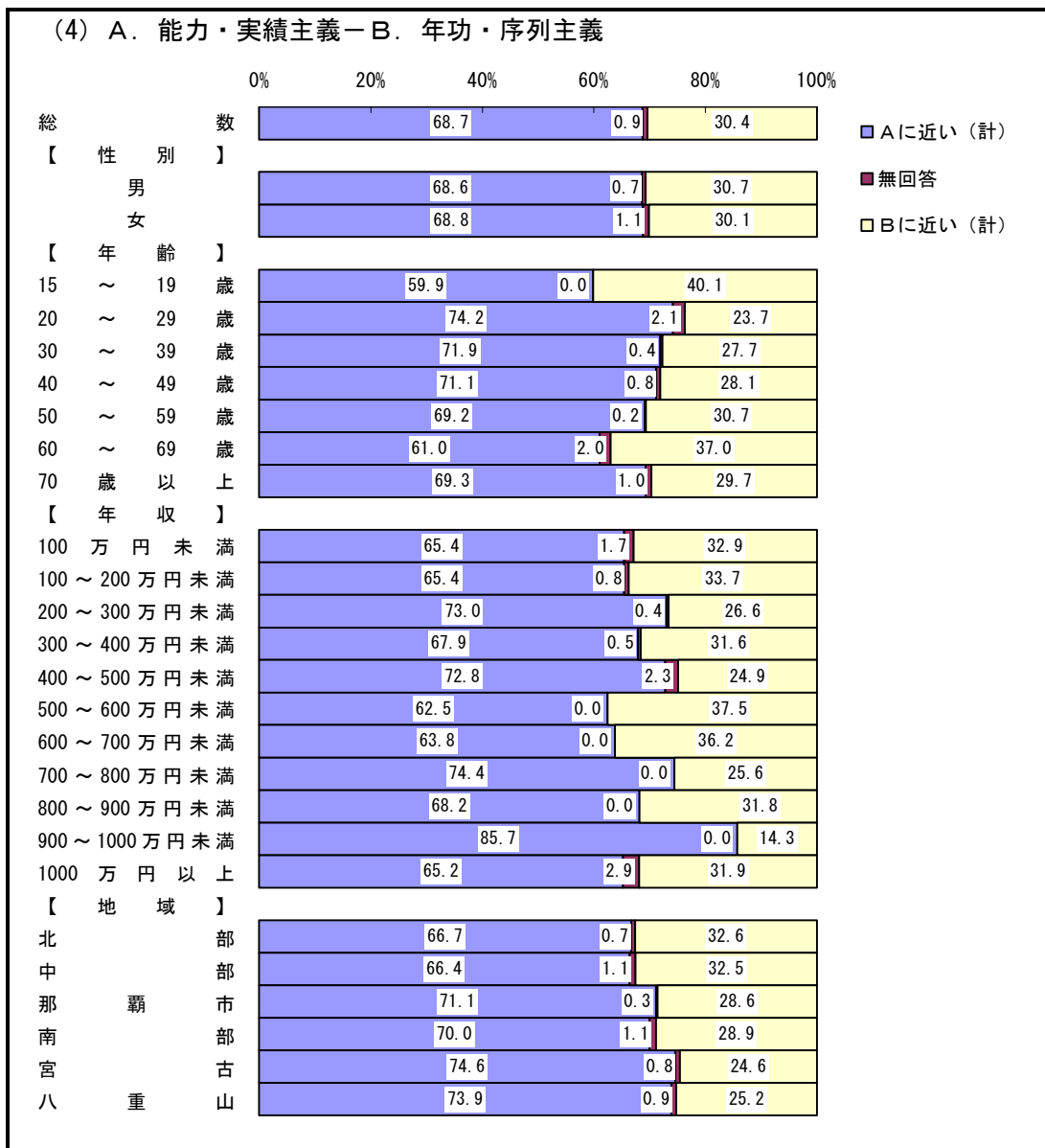
『能力・実績主義と年功・序列主義』に対する考え方について、属性別に表示したのが図4-1-5である。すべての属性において、「年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決められることが望ましい」とする「能力・実績主義」が多数意見となっている。

性別では、ほとんど差はみられない。

年齢別では、「能力・実績主義派」は20～29歳で74.2%と最も高く、15～19歳（59.9%）と60～69歳（61.0%）で低い。15～19歳と60～69歳では「年功・序列主義派」が4割前後と高くなっている。

年収別では、「能力・実績主義派」は500～700万円未満で低く、6割強にとどまっている。一方、900万円～1,000万円未満（85.7%）で高いが、その前後の800～900万円未満（68.2%）と1,000万円以上（65.2%）では低く、年収との相関は明らかでない。

図4-1-5 『能力・実績主義と年功・序列主義』に対する価値観



(5) 都心での生活と郊外での生活

『都心での生活と郊外での生活』に対する考え方について、属性別に表示したのが図4-1-6である。

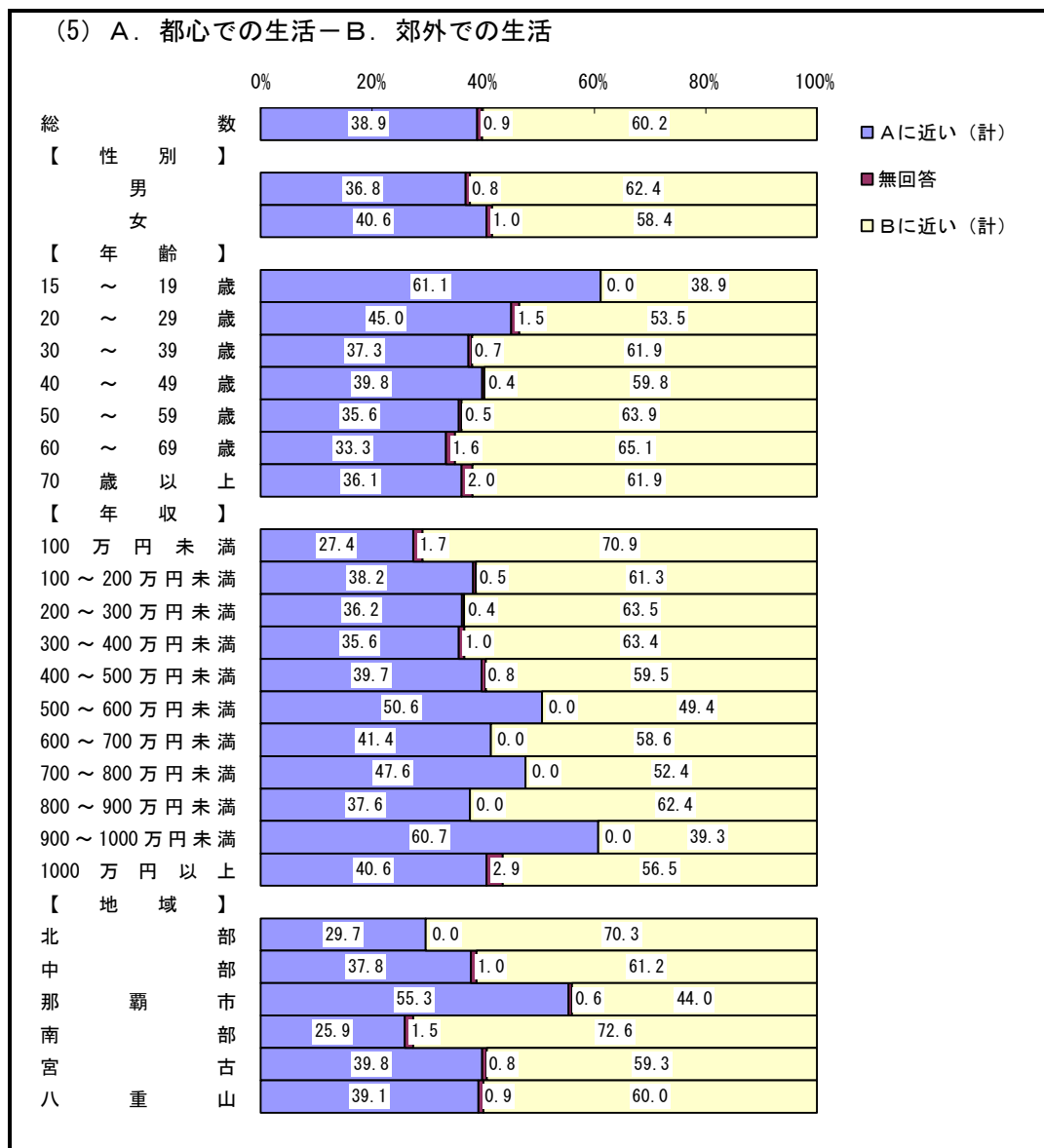
性別では、男女とも「多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい」とする「郊外生活重視派」が過半数を占めるが、女性（58.4%）よりも男性（62.4%）にやや多い。

年齢別では、「郊外生活重視派」は20歳代以上で過半数を占める。一方、15～19歳では「多少、土地が高価でも、利便性のよい都心（街の中）で暮らす方がいい」とする「都心生活重視派」が61.1%を占めている。

地域別では、那覇市で「都心生活重視派」が55.3%と、「郊外生活重視派」（44.0%）を上回っている。

年収別では、ほとんどの層で「郊外生活重視派」が多数を占めているが、900万円～1,000万円未満では「都心生活重視派」が6割を超え、「郊外生活重視派」を大きく上回っている。

図4-1-6 『都心での生活と郊外での生活』に対する価値観



(6) 改革と保守

『改革と保守』に対する考え方について、属性別に表示したのが図4-1-7である。

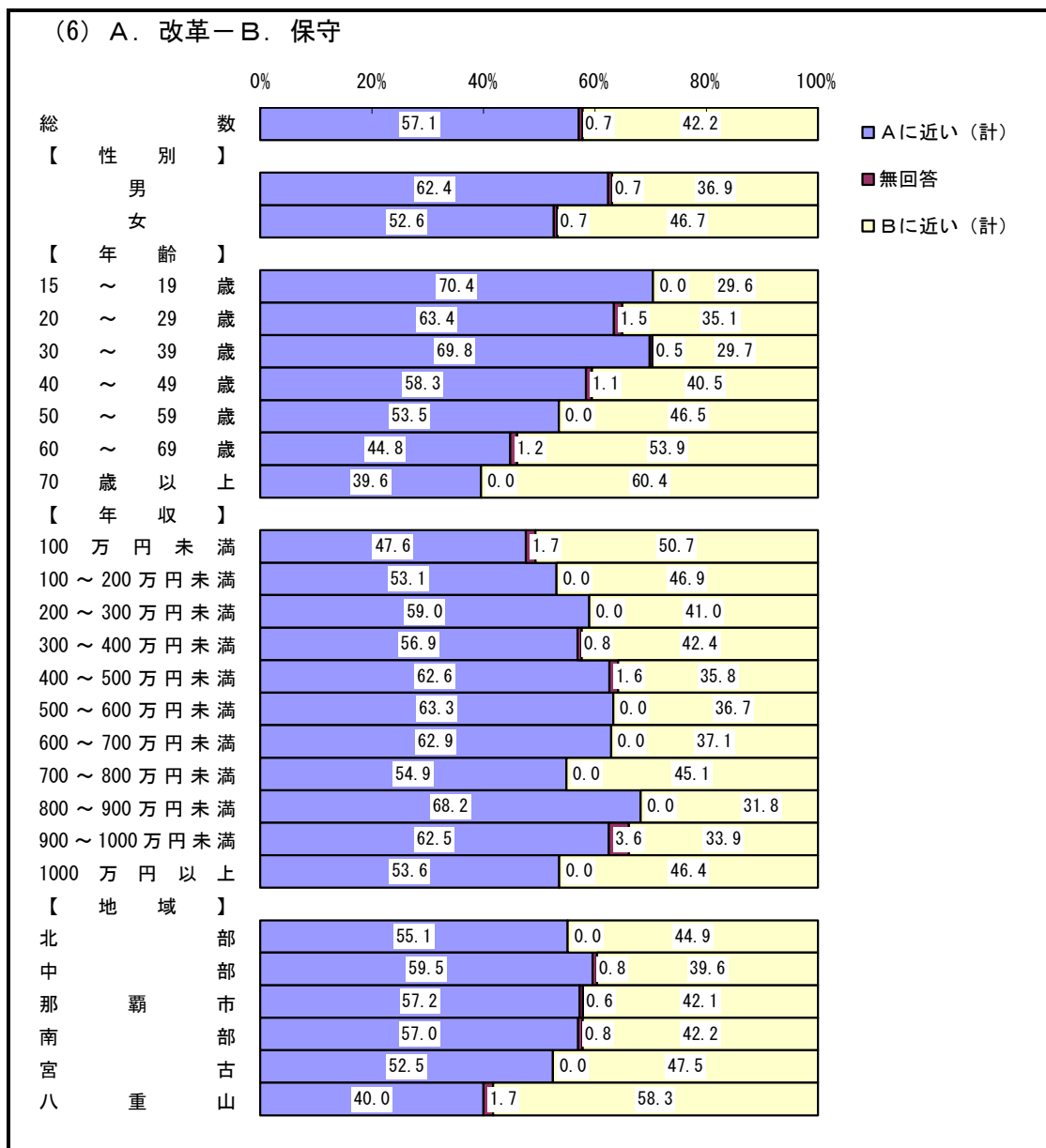
性別では、男女とも「新しいものは大いに取り入れて改革してほしい」とする「改革派」が5割を超え、多数を占めているが、その比率は男性が62.4%で、女性の52.6%を9.8ポイント上回っている。

年齢別では、「改革派」は15～19歳と30～39歳で7割前後と高い。30歳代以上では年齢が上がるにつれて低くなり、70歳以上では39.6%にとどまる。一方、「保守派」は30歳代以上では年齢が上がるにしたがって高くなり、60歳代以上では過半数を占める。

地域別では、「改革派」は八重山を除く地域では過半数を占める。八重山のみ「保守派」が58.3%と「改革派」の40.0%を上回る。

年収別では、「改革派」は800万円～900万円未満で7割近くと高く、100万円未満で半数を下回っている。

図4-1-7 『改革と保守』に対する価値観



(7) 地方分権と中央集権

『地方分権と中央集権』に対する考え方について、属性別に示したのが図4-1-8である。すべての属性において、「地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移したほうがいい」とする「地方分権派」が7割以上を占め、多数意見となっている。

性別では、際立った差はみられない。

年齢別では、「地方分権派」は20～50歳代で9割に達し、最も低い70歳以上でも84.7%と高い。

地域別では、「地方分権派」は宮古で79.7%と他の地域より低いが、宮古以外の地域では9割前後となっている。

図4-1-8 『地方分権と中央集権』に対する価値観

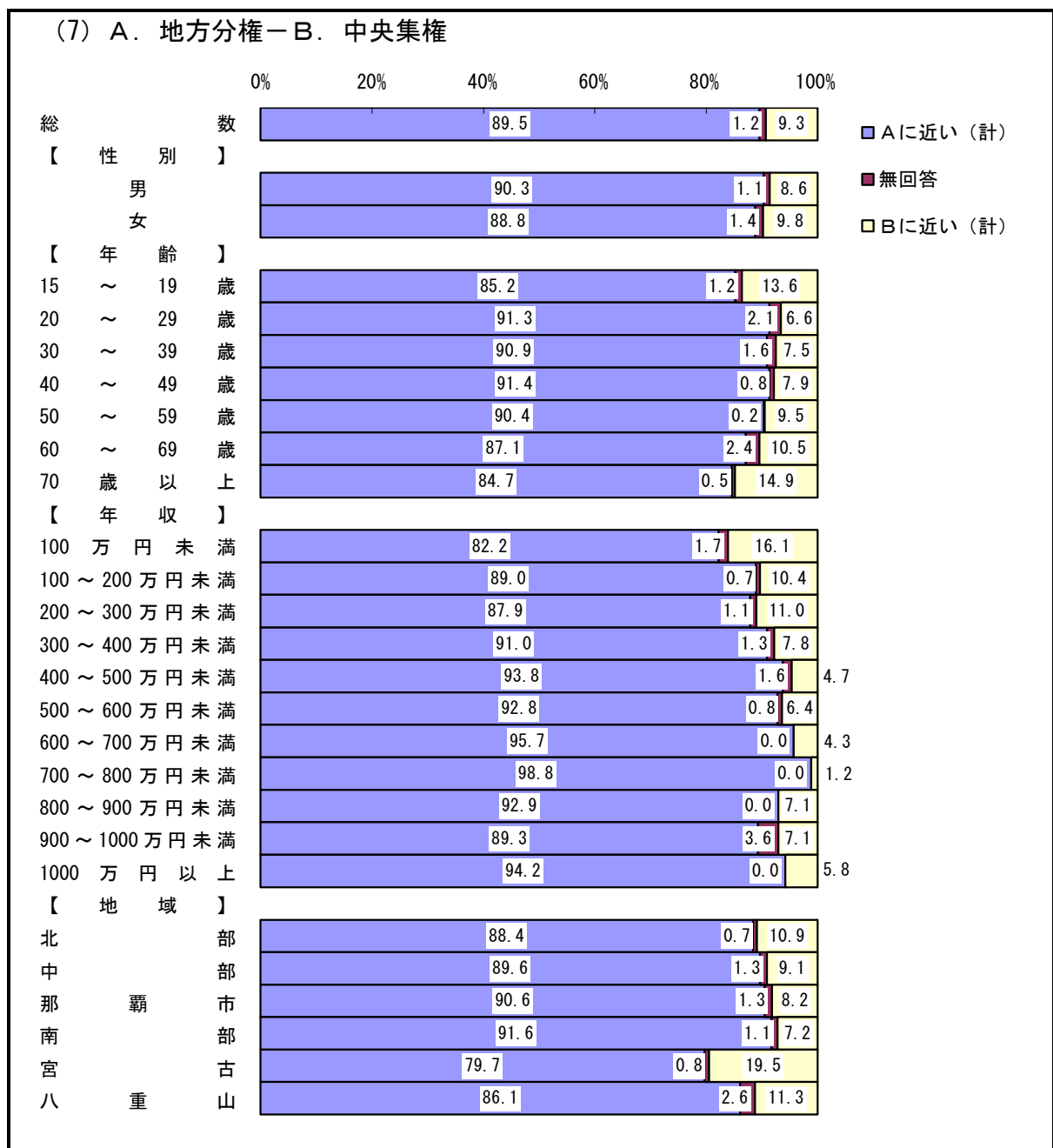


表 4 - 1 - 1 県民の価値観

(%)

		県計	【性別】		【年齢別】							
			男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
(1)	A. いつでも仕事を優先させる B. 休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない	Aに近い	17.8	22.1	14.2	6.8	8.4	13.8	17.4	23.0	26.3	17.8
		どちらかといえばAに近い	35.5	36.5	34.6	32.1	29.4	32.4	35.5	39.3	37.4	40.1
		どちらかといえばBに近い	29.5	26.4	32.3	39.5	37.5	34.6	28.5	26.3	22.4	24.8
		Bに近い	16.2	14.6	17.6	21.6	22.8	18.8	17.8	11.1	12.7	14.4
		無回答	0.9	0.5	1.3	0.0	1.8	0.4	0.8	0.3	1.2	3.0
		Aに近い(計)	53.3	58.6	48.8	38.9	37.8	46.3	52.9	62.3	63.6	57.9
		Bに近い(計)	45.8	40.9	49.9	61.1	60.4	53.4	46.3	37.4	35.2	39.1
(2)	A. 物質的豊かさより精神的豊かさがより大切である B. 精神的豊かさより物質的豊かさがより大切である	Aに近い	31.6	29.0	33.9	23.5	28.2	31.1	40.0	29.7	29.3	34.7
		どちらかといえばAに近い	48.0	45.8	50.0	46.3	51.4	53.9	46.0	47.2	46.5	40.1
		どちらかといえばBに近い	15.3	19.6	11.6	22.8	18.0	12.4	11.4	17.3	16.6	13.4
		Bに近い	3.8	4.7	3.1	5.6	1.8	2.2	1.9	4.8	5.3	8.9
		無回答	1.2	1.0	1.4	1.9	0.6	0.4	0.8	1.0	2.4	3.0
		Aに近い(計)	79.7	74.8	83.8	69.8	79.6	85.1	85.9	76.9	75.8	74.8
		Bに近い(計)	19.1	24.2	14.8	28.4	19.8	14.6	13.3	22.2	21.8	22.3
(3)	A. 女性は家において家事や育児に専念した方がいい B. 女性も外に出てどんどん働いた方がいい	Aに近い	9.2	9.8	8.7	12.3	6.3	7.8	8.4	7.1	9.1	23.8
		どちらかといえばAに近い	24.9	25.4	24.5	24.7	23.4	22.4	29.3	20.9	25.7	33.2
		どちらかといえばBに近い	40.2	43.0	37.9	46.9	45.9	43.0	42.2	40.9	33.3	27.7
		Bに近い	24.6	20.9	27.9	16.0	22.2	26.0	19.3	30.7	30.3	13.4
		無回答	1.0	1.0	1.1	0.0	2.1	0.7	0.8	0.5	1.6	2.0
		Aに近い(計)	34.1	35.1	33.2	37.0	29.7	30.2	37.7	27.9	34.7	56.9
		Bに近い(計)	64.9	63.9	65.8	63.0	68.2	69.0	61.5	71.6	63.6	41.1
(4)	A. 年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決められることが望ましい B. 年齢や勤務年数に応じて、賃金や地位を決める年功序列を大切にしたいほうがよい	Aに近い	27.0	25.9	27.9	22.2	30.0	32.4	26.8	24.9	22.6	28.7
		どちらかといえばAに近い	41.7	42.7	40.9	37.7	44.1	39.5	44.3	44.3	38.4	40.6
		どちらかといえばBに近い	23.1	22.9	23.3	31.5	18.6	23.7	22.0	23.9	23.6	21.3
		Bに近い	7.3	7.8	6.8	8.6	5.1	4.0	6.2	6.7	13.3	8.4
		無回答	0.9	0.7	1.1	0.0	2.1	0.4	0.8	0.2	2.0	1.0
		Aに近い(計)	68.7	68.6	68.8	59.9	74.2	71.9	71.1	69.2	61.0	69.3
		Bに近い(計)	30.4	30.7	30.1	40.1	23.7	27.7	28.1	30.7	37.0	29.7
(5)	A. 多少、土地が高価でも、利便性のよい都心(街の中)で暮らす方がいい B. 多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい	Aに近い	8.4	7.7	8.9	19.1	9.3	6.7	7.3	7.7	7.3	10.4
		どちらかといえばAに近い	30.5	29.1	31.7	42.0	35.7	30.6	32.5	27.9	26.1	25.7
		どちらかといえばBに近い	41.9	41.8	42.0	30.2	45.3	47.9	44.5	40.8	37.8	36.6
		Bに近い	18.3	20.6	16.4	8.6	8.1	14.0	15.4	23.1	27.3	25.2
		無回答	0.9	0.8	1.0	0.0	1.5	0.7	0.4	0.5	1.6	2.0
		Aに近い(計)	38.9	36.8	40.6	61.1	45.0	37.3	39.8	35.6	33.3	36.1
		Bに近い(計)	60.2	62.4	58.4	38.9	53.5	61.9	59.8	63.9	65.1	61.9
(6)	A. 新しいものは大いに取り入れて改革してほしい B. いたずらに改革するより古いものの価値を大切にするのがよい	Aに近い	15.4	17.9	13.4	24.7	17.4	18.6	13.3	13.3	13.9	11.9
		どちらかといえばAに近い	41.7	44.5	39.2	45.7	45.9	51.2	45.0	40.1	30.9	27.7
		どちらかといえばBに近い	32.2	27.9	35.8	24.7	27.6	25.3	30.4	37.9	36.4	41.1
		Bに近い	10.0	9.1	10.9	4.9	7.5	4.4	10.1	8.7	17.6	19.3
		無回答	0.7	0.7	0.7	0.0	1.5	0.5	1.1	0.0	1.2	0.0
		Aに近い(計)	57.1	62.4	52.6	70.4	63.4	69.8	58.3	53.5	44.8	39.6
		Bに近い(計)	42.2	36.9	46.7	29.6	35.1	29.7	40.5	46.5	53.9	60.4
(7)	A. 地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がいい B. 政府が権限の多くを管理している方がいい	Aに近い	32.7	35.9	30.0	22.8	32.7	32.4	31.3	34.0	36.4	32.2
		どちらかといえばAに近い	56.8	54.4	58.8	62.3	58.6	58.5	60.0	56.3	50.7	52.5
		どちらかといえばBに近い	7.7	6.8	8.4	9.9	6.0	6.6	6.4	8.7	7.7	11.9
		Bに近い	1.6	1.8	1.4	3.7	0.6	0.9	1.5	0.8	2.8	3.0
		無回答	1.2	1.1	1.4	1.2	2.1	1.6	0.8	0.2	2.4	0.5
		Aに近い(計)	89.5	90.3	88.8	85.2	91.3	90.9	91.4	90.4	87.1	84.7
		Bに近い(計)	9.3	8.6	9.8	13.6	6.6	7.5	7.9	9.5	10.5	14.9

表4-1-1 県民の価値観（続き）

		地域別						
		北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山	
(1)	A. いつでも仕事を優先させる B. 休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない	Aに近い	18.1	19.6	15.1	14.8	13.6	32.2
		どちらかといえばAに近い	42.8	33.1	36.2	34.6	41.5	37.4
		どちらかといえばBに近い	17.4	30.5	32.1	32.7	28.0	21.7
		Bに近い	21.7	15.5	16.0	16.7	16.9	8.7
		無回答	0.0	1.3	0.6	1.1	0.0	0.0
		Aに近い（計）	60.9	52.7	51.3	49.4	55.1	69.6
		Bに近い（計）	39.1	46.0	48.1	49.4	44.9	30.4
(2)	A. 物質的豊かさより精神的豊かさがより大切である B. 精神的豊かさより物質的豊かさがより大切である	Aに近い	37.7	31.8	30.8	28.9	34.7	28.7
		どちらかといえばAに近い	43.5	48.9	48.7	48.7	42.4	48.7
		どちらかといえばBに近い	13.0	14.4	15.7	16.7	20.3	16.5
		Bに近い	5.1	3.4	4.1	4.9	0.8	1.7
		無回答	0.7	1.5	0.6	0.8	1.7	4.3
		Aに近い（計）	81.2	80.8	79.6	77.6	77.1	77.4
		Bに近い（計）	18.1	17.8	19.8	21.7	21.2	18.3
(3)	A. 女性は家において家事や育児に専念した方がいい B. 女性も外に出てどんどん働いた方がいい	Aに近い	10.9	8.5	9.4	9.5	11.0	7.8
		どちらかといえばAに近い	28.3	26.4	22.3	24.0	21.2	22.6
		どちらかといえばBに近い	31.2	39.8	43.1	43.3	38.1	39.1
		Bに近い	29.0	24.0	24.2	22.4	29.7	28.7
		無回答	0.7	1.3	0.9	0.8	0.0	1.7
		Aに近い（計）	39.1	34.9	31.8	33.5	32.2	30.4
		Bに近い（計）	60.1	63.8	67.3	65.8	67.8	67.8
(4)	A. 年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決められることが望ましい B. 年齢や勤務年数に応じて、賃金や地位を決める年功序列を大切にしたいほうがよい	Aに近い	31.9	27.1	24.8	27.0	28.0	25.2
		どちらかといえばAに近い	34.8	39.3	46.2	43.0	46.6	48.7
		どちらかといえばBに近い	21.0	24.6	24.8	21.3	18.6	14.8
		Bに近い	11.6	7.8	3.8	7.6	5.9	10.4
		無回答	0.7	1.1	0.3	1.1	0.8	0.9
		Aに近い（計）	66.7	66.4	71.1	70.0	74.6	73.9
		Bに近い（計）	32.6	32.5	28.6	28.9	24.6	25.2
(5)	A. 多少、土地が高価でも、利便性のよい都心（街の中）で暮らす方がいい B. 多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい	Aに近い	11.6	7.5	11.3	4.9	11.9	6.1
		どちらかといえばAに近い	18.1	30.3	44.0	20.9	28.0	33.0
		どちらかといえばBに近い	39.1	45.0	34.3	49.8	30.5	33.9
		Bに近い	31.2	16.2	9.7	22.8	28.8	26.1
		無回答	0.0	1.0	0.6	1.5	0.8	0.9
		Aに近い（計）	29.7	37.8	55.3	25.9	39.8	39.1
		Bに近い（計）	70.3	61.2	44.0	72.6	59.3	60.0
(6)	A. 新しいものは大いに取り入れて改革してほしい B. いたずらに改革するより古いものの価値を大切にすることがよい	Aに近い	20.3	17.1	13.5	10.6	22.0	11.3
		どちらかといえばAに近い	34.8	42.4	43.7	46.4	30.5	28.7
		どちらかといえばBに近い	31.2	30.8	33.0	30.8	36.4	46.1
		Bに近い	13.8	8.8	9.1	11.4	11.0	12.2
		無回答	0.0	0.8	0.6	0.8	0.0	1.7
		Aに近い（計）	55.1	59.5	57.2	57.0	52.5	40.0
		Bに近い（計）	44.9	39.6	42.1	42.2	47.5	58.3
(7)	A. 地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移した方がいい B. 政府が権限の多くを管理している方がいい	Aに近い	45.7	33.0	28.9	30.4	33.9	29.6
		どちらかといえばAに近い	42.8	56.6	61.6	61.2	45.8	56.5
		どちらかといえばBに近い	9.4	7.2	7.5	5.3	16.1	11.3
		Bに近い	1.4	2.0	0.6	1.9	3.4	0.0
		無回答	0.7	1.3	1.3	1.1	0.8	2.6
		Aに近い（計）	88.4	89.6	90.6	91.6	79.7	86.1
		Bに近い（計）	10.9	9.1	8.2	7.2	19.5	11.3

表4-1-1 県民の価値観（続き）

		【年 収 別】											
		100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800～900万円未満	900～1,000万円未満	1,000万円以上	
(1)	A. いつでも仕事を優先させる	Aに近い	16.4	20.4	20.9	15.0	16.3	18.7	12.9	19.5	9.4	17.9	21.7
		どちらかといえばAに近い	41.8	34.1	27.5	34.1	42.0	40.2	47.4	34.1	43.5	39.3	26.1
	B. 休みをつぶしてまで仕事をしようとは思わない	どちらかといえばBに近い	22.9	29.4	32.4	33.6	27.6	28.3	21.6	32.9	28.2	28.6	34.8
		Bに近い	16.8	15.9	19.2	16.8	13.2	11.2	18.1	13.4	18.8	14.3	14.5
		無回答	2.1	0.3	0.0	0.5	0.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
		Aに近い（計）	58.2	54.4	48.4	49.1	58.4	59.0	60.3	53.7	52.9	57.1	47.8
Bに近い（計）	39.7	45.2	51.6	50.4	40.9	39.4	39.7	46.3	47.1	42.9	49.3		
(2)	A. 物質的豊かさより精神的豊かさがより大切である	Aに近い	31.8	35.2	31.7	25.6	35.8	38.2	21.6	25.6	30.6	19.6	33.3
		どちらかといえばAに近い	41.8	47.2	48.9	51.6	42.8	43.8	59.5	58.5	57.6	55.4	55.1
	B. 精神的豊かさより物質的豊かさがより大切である	どちらかといえばBに近い	16.8	13.0	14.6	17.8	17.1	14.7	15.5	15.9	11.8	17.9	5.8
		Bに近い	6.8	3.3	4.0	4.0	3.1	2.4	3.4	0.0	0.0	7.1	5.8
		無回答	2.7	1.2	0.9	1.0	1.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		Aに近い（計）	73.6	82.5	80.6	77.2	78.6	82.1	81.0	84.1	88.2	75.0	88.4
Bに近い（計）	23.6	16.4	18.5	21.8	20.2	17.1	19.0	15.9	11.8	25.0	11.6		
(3)	A. 女性は家において家事や育児に専念した方がいい	Aに近い	17.8	8.8	10.1	4.5	8.2	6.8	6.0	13.4	4.7	3.6	8.7
		どちらかといえばAに近い	21.6	27.0	25.5	26.3	28.0	18.7	25.9	19.5	11.8	32.1	29.0
	B. 女性も外に出てどんどん働いた方がいい	どちらかといえばBに近い	36.3	38.6	36.3	44.9	44.4	41.8	39.7	40.2	52.9	37.5	37.7
		Bに近い	21.9	24.9	27.2	23.3	18.7	32.7	28.4	26.8	30.6	26.8	21.7
		無回答	2.4	0.7	0.9	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
		Aに近い（計）	39.4	35.9	35.6	30.8	36.2	25.5	31.9	32.9	16.5	35.7	37.7
Bに近い（計）	58.2	63.4	63.5	68.2	63.0	74.5	68.1	67.1	83.5	64.3	59.4		
(4)	A. 年齢や勤務年数にかかわらず、能力と実績を重視して賃金と地位が決められることが望ましい	Aに近い	28.8	27.9	30.9	23.8	25.7	27.5	25.9	19.5	22.4	33.9	27.5
		どちらかといえばAに近い	36.6	37.6	42.1	44.1	47.1	35.1	37.9	54.9	45.9	51.8	37.7
	B. 年齢や勤務年数に応じて、賃金や地位を決める年功序列を大切にしたいほうがよい	どちらかといえばBに近い	24.3	21.0	20.7	23.8	19.8	29.9	34.5	23.2	27.1	14.3	29.0
		Bに近い	8.6	12.7	5.9	7.8	5.1	7.6	1.7	2.4	4.7	0.0	2.9
		無回答	1.7	0.8	0.4	0.5	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
		Aに近い（計）	65.4	65.4	73.0	67.9	72.8	62.5	63.8	74.4	68.2	85.7	65.2
Bに近い（計）	32.9	33.7	26.6	31.6	24.9	37.5	36.2	25.6	31.8	14.3	31.9		
(5)	A. 多少、土地が高価でも、利便性のよい都心（街の中）で暮らす方がいい	Aに近い	6.5	8.7	9.4	8.3	4.7	10.4	11.2	11.0	8.2	3.6	14.5
		どちらかといえばAに近い	20.9	29.5	26.8	27.3	35.0	40.2	30.2	36.6	29.4	57.1	26.1
	B. 多少不便でも、土地の安価な郊外で暮らす方がいい	どちらかといえばBに近い	41.8	39.6	43.9	47.6	47.9	31.9	37.9	43.9	47.1	39.3	39.1
		Bに近い	29.1	21.7	19.6	15.8	11.7	17.5	20.7	8.5	15.3	0.0	17.4
		無回答	1.7	0.5	0.4	1.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
		Aに近い（計）	27.4	38.2	36.2	35.6	39.7	50.6	41.4	47.6	37.6	60.7	40.6
Bに近い（計）	70.9	61.3	63.5	63.4	59.5	49.4	58.6	52.4	62.4	39.3	56.5		
(6)	A. 新しいものは大いに取り入れて改革してほしい	Aに近い	16.8	16.7	14.0	17.8	17.5	14.7	15.5	13.4	15.3	7.1	14.5
		どちらかといえばAに近い	30.8	36.4	45.0	39.1	45.1	48.6	47.4	41.5	52.9	55.4	39.1
	B. いたづらに改革するより古いものの価値を大切にすることがよい	どちらかといえばBに近い	37.0	34.2	29.7	33.8	32.3	25.9	25.0	37.8	27.1	26.8	40.6
		Bに近い	13.7	12.7	11.3	8.5	3.5	10.8	12.1	7.3	4.7	7.1	5.8
		無回答	1.7	0.0	0.0	0.8	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0
		Aに近い（計）	47.6	53.1	59.0	56.9	62.6	63.3	62.9	54.9	68.2	62.5	53.6
Bに近い（計）	50.7	46.9	41.0	42.4	35.8	36.7	37.1	45.1	31.8	33.9	46.4		
(7)	A. 地方分権を進め、県や市町村にもっと権限を移したほうがよい	Aに近い	36.3	32.4	32.2	33.1	31.1	32.3	44.0	34.1	32.9	25.0	31.9
		どちらかといえばAに近い	45.9	56.6	55.8	57.9	62.6	60.6	51.7	64.6	60.0	64.3	62.3
	B. 政府が権限の多くを管理しているほうがよい	どちらかといえばBに近い	12.7	8.2	9.7	5.8	3.1	5.6	4.3	1.2	4.7	7.1	5.8
		Bに近い	3.4	2.2	1.3	2.0	1.6	0.8	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
		無回答	1.7	0.7	1.1	1.3	1.6	0.8	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0
		Aに近い（計）	82.2	89.0	87.9	91.0	93.8	92.8	95.7	98.8	92.9	89.3	94.2
Bに近い（計）	16.1	10.4	11.0	7.8	4.7	6.4	4.3	1.2	7.1	7.1	5.8		

2 本県（民）の長所と短所（問6）

（1）本県（民）の長所

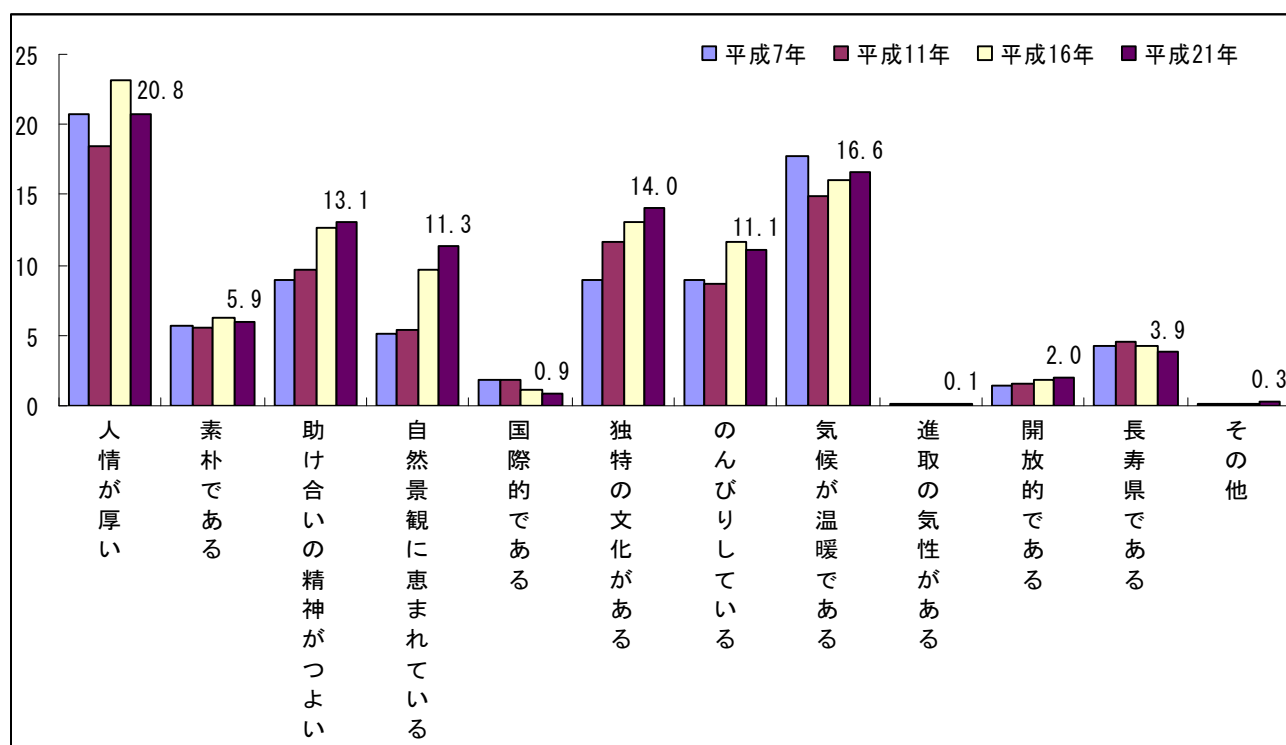
本県あるいは県民の「長所」について、一般的に本県の長所と言われている事柄 12 項目を選び、その中から順位をつけて3項目を選択してもらった。選択された3つの長所の1位、2位、3位それぞれの比率のほか、選択された長所を総合的に評価するため、1位に3点、2位に2点、3位に1点のウエイトづけをし、各長所の加重平均を求めた。以下、結果については加重平均でとらえている。

県全体の評価を示したのが図4-2-1である。時系列比較については、平成2年調査から「自然景観に恵まれている」、平成7年調査から「長寿県である」がそれぞれ追加され、また、前回調査で削除した項目もあるため、単純比較ができないことに注意する必要がある。

長所として最も高い値の項目は、前回調査同様に「人情が厚い」(20.8)であり、時系列でみると、前回4.5ポイント増加したが、今回2.4ポイント減少した。以下、「気候が温暖である」(16.6)、「独特の文化がある」(14.0)、「助け合いの精神がつよい」(13.1)、「自然景観に恵まれている」(11.3)、「のんびりしている」(11.1)が続いている。この5項目を前回調査と比べると、最も変化の大きい「自然景観に恵まれている」でも1.6ポイント増と、全体に変化はみられない。

一方、「進取の気性がある」(0.1)、「国際的である」(0.9)、「開放的である」(2.0)、「長寿県である」(3.9)、「素朴である」(5.9)は長所としては低い評価となっている。

図4-2-1 加重平均でみた県（民）の長所



(2) 属性別にみた本県（民）の長所

本県あるいは県民の「長所」について、属性別に加重平均で示したのが図4-2-2である。

県民の「長所」についてのとらえ方は、前回調査と同様、ほとんど男女差はみられない。

年齢別にみると、県平均で1位の「人情が厚い」はどの年齢層でも1位にあげられているが、若い年齢層よりも高い年齢層での評価が高い傾向にあり、特に70歳以上では27.2と高くなっている。さらに、「気候が温暖である」についても中高年齢層での評価が高いのに対し、若い年齢層では「自然景観に恵まれている」、「のんびりしている」に対する評価が高い傾向にある。また、「独特の文化がある」は20～29歳で最も高く、それ以降、年齢が上がるにつれて低くなっている。

地域別にみると、八重山では「気候が温暖である」が18.2と高く、他の地域では1位にあげられた「人情が厚い」の値を上回っている。八重山では「自然景観に恵まれている」

(15.3)も高い反面、「人情が厚い」や「助け合いの精神がつよい」の内面性の評価は低めになっている。このほか宮古では「助け合いの精神がつよい」や「のんびりしている」が他の地域に比べ高くなっている。

県外居住経験年数によっても長所の評価に差がみられ、県外居住経験のない人、あるいは県外居住年数の短い人ほど「人情が厚い」の評価が高い傾向にある。一方、県外居住年数の長い人ほど「気候が温暖である」の評価が高くなる傾向がみられる。



図4-2-2 属性別加重平均でみた県（民）の長所

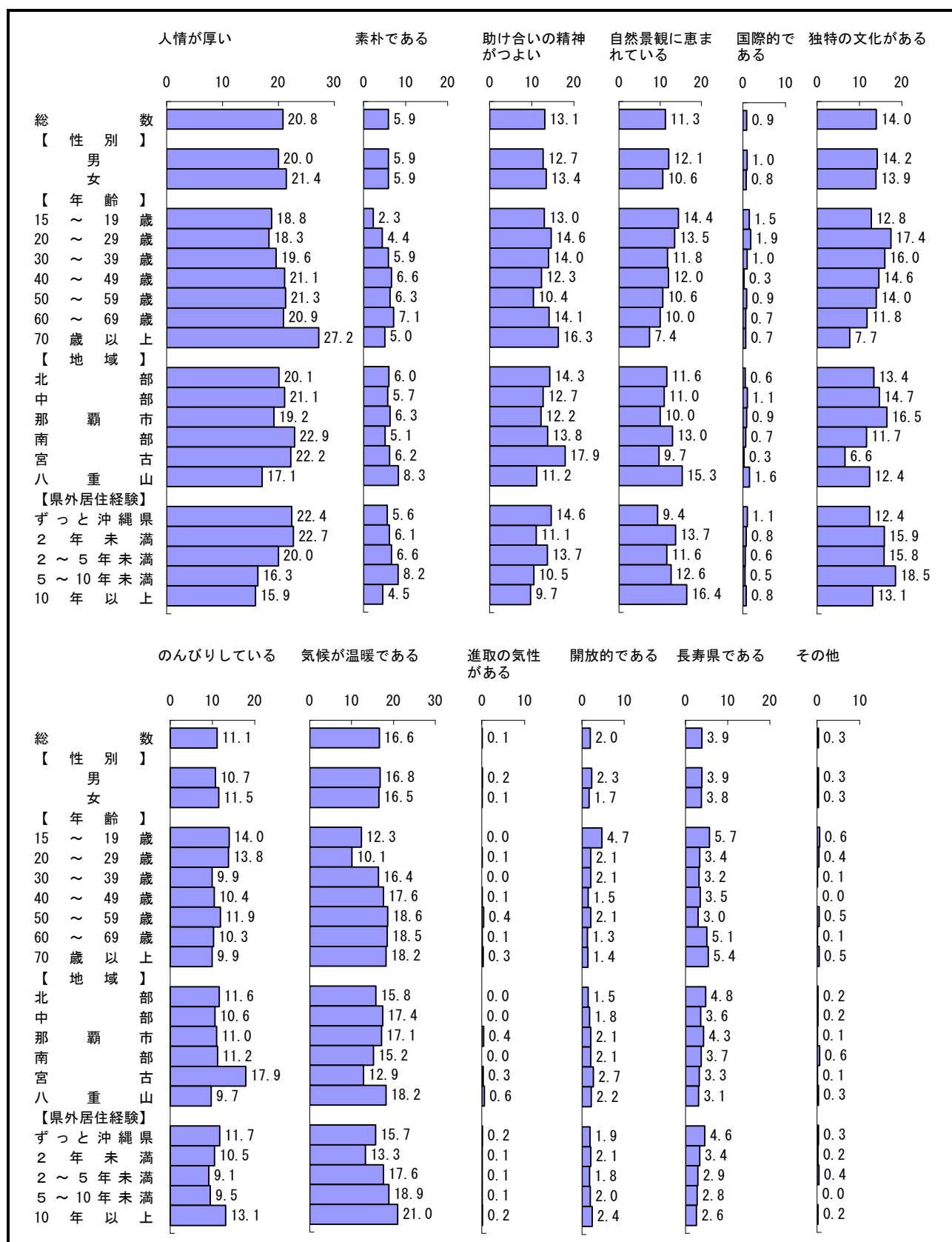


表4-2-1 属性別加重平均でみた県（民）の長所

①順位別比率（県計） (%)

	【今回】		
	1番目	2番目	3番目
人情が厚い	33.3	8.4	6.0
素朴である	6.2	5.8	4.3
助け合いの精神がつよい	11.9	17.6	6.2
自然景観に恵まれている	11.5	12.3	7.7
国際的である	0.4	1.4	1.2
独特の文化がある	10.7	18.7	13.3
のんびりしている	6.7	14.7	16.2
気候が温暖である	15.6	13.7	23.7
進取の気性がある	0.0	0.2	0.2
開放的である	0.6	2.0	5.8
長寿県である	2.0	4.0	8.6
その他	0.1	0.3	0.6

②県計、性別（加重平均）

	県計加重平均の推移					男			女		
	平2年	平7年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	27.3	20.8	18.5	23.2	20.8	18.0	22.7	20.0	18.9	23.7	21.4
素朴である	6.7	5.7	5.6	6.2	5.9	5.2	6.4	5.9	6.0	6.1	5.9
助け合いの精神がつよい	9.0	9.0	9.6	12.6	13.1	9.9	12.9	12.7	9.4	12.2	13.4
自然景観に恵まれている	3.2	5.1	5.4	9.7	11.3	5.8	9.2	12.1	5.0	10.2	10.6
国際的である	1.5	1.8	1.9	1.2	0.9	1.8	1.3	1.0	2.1	1.2	0.8
独特の文化がある	8.0	8.9	11.6	13.0	14.0	11.6	13.5	14.2	11.8	12.5	13.9
のんびりしている	9.3	8.9	8.7	11.6	11.1	8.6	10.7	10.7	8.6	12.6	11.5
気候が温暖である	15.9	17.7	14.9	16.1	16.6	15.3	16.6	16.8	14.7	15.6	16.5
進取の気性がある	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.4	0.2	0.3	0.1	0.1
開放的である	1.3	1.4	1.6	1.8	2.0	1.9	2.0	2.3	1.4	1.7	1.7
長寿県である	*	4.2	4.5	4.2	3.9	4.3	4.4	3.9	4.7	4.0	3.8
その他	0.2	0.2	0.2	0.1	0.3	0.1	0.1	0.3	0.3	0.1	0.3

③年齢別（加重平均）

	15～19歳			20～29歳			30～39歳			40～49歳		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	16.9	18.4	18.8	16.7	23.0	18.3	16.6	22.0	19.6	15.1	23.1	21.1
素朴である	3.8	3.0	2.3	5.3	4.8	4.4	6.3	7.0	5.9	7.5	7.3	6.6
助け合いの精神がつよい	7.1	14.4	13.0	7.9	10.3	14.6	7.2	14.1	14.0	9.6	12.1	12.3
自然景観に恵まれている	7.7	12.9	14.4	6.1	10.0	13.5	6.0	10.7	11.8	5.0	9.3	12.0
国際的である	5.4	0.8	1.5	2.0	2.2	1.9	1.9	1.4	1.0	2.6	0.7	0.3
独特の文化がある	13.4	12.8	12.8	12.3	17.4	17.4	15.5	13.3	16.0	11.3	14.1	14.6
のんびりしている	9.6	14.8	14.0	8.7	12.9	13.8	8.4	12.2	9.9	9.3	9.8	10.4
気候が温暖である	8.0	10.2	12.3	11.6	13.0	10.1	15.1	14.7	16.4	17.9	17.9	17.6
進取の気性がある	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.2	0.0	0.4	0.3	0.1
開放的である	3.1	2.9	4.7	2.8	1.7	2.1	1.4	1.4	2.1	1.1	2.2	1.5
長寿県である	6.1	9.1	5.7	3.2	4.4	3.4	4.1	2.6	3.2	3.9	3.2	3.5
その他	0.4	0.4	0.6	0.4	0.1	0.4	0.1	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0

	50～59歳			60～69歳			70歳以上		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	21.9	21.6	21.3	24.7	26.8	20.9	22.8	29.4	27.2
素朴である	4.4	7.5	6.3	4.9	5.9	7.1	2.8	6.1	5.0
助け合いの精神がつよい	10.8	11.1	10.4	13.5	13.3	14.1	13.3	14.8	16.3
自然景観に恵まれている	4.0	10.3	10.6	4.3	7.6	10.0	5.9	5.9	7.4
国際的である	1.0	1.5	0.9	0.9	0.8	0.7	0.4	0.9	0.7
独特の文化がある	10.7	11.9	14.0	7.1	10.0	11.8	6.5	8.6	7.7
のんびりしている	9.5	12.2	11.9	7.2	10.3	10.3	7.8	9.5	9.9
気候が温暖である	14.9	19.0	18.6	16.1	18.4	18.5	16.9	16.4	18.2
進取の気性がある	0.6	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1	0.6	0.0	0.3
開放的である	2.0	1.7	2.1	1.0	1.5	1.3	0.2	1.6	1.4
長寿県である	3.6	2.9	3.0	6.7	5.3	5.1	8.0	6.8	5.4
その他	0.1	0.0	0.5	0.4	0.1	0.1	0.0	0.0	0.5

表4-2-1 属性別加重平均でみた県（民）の長所（続き）

④地域別（加重平均）

	北部			中部			那覇市		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	21.3	25.7	20.1	19.3	23.0	21.1	17.7	23.1	19.2
素朴である	5.1	7.2	6.0	5.8	6.3	5.7	6.3	5.9	6.3
助け合いの精神がつよい	12.8	13.9	14.3	9.0	12.9	12.7	8.1	12.4	12.2
自然景観に恵まれている	7.1	13.9	11.6	4.0	9.1	11.0	5.1	7.5	10.0
国際的である	1.3	1.6	0.6	2.4	1.8	1.1	1.9	0.8	0.9
独特の文化がある	10.4	11.7	13.4	12.2	13.2	14.7	12.9	13.0	16.5
のんびりしている	7.3	9.9	11.6	8.3	11.6	10.6	7.8	12.9	11.0
気候が温暖である	12.5	10.5	15.8	14.5	15.8	17.4	16.7	17.4	17.1
進取の気性がある	0.8	0.1	0.0	0.1	0.2	0.0	0.4	0.4	0.4
開放的である	1.4	1.3	1.5	1.7	1.6	1.8	2.2	2.4	2.1
長寿県である	4.3	4.2	4.8	4.8	4.5	3.6	3.9	4.0	4.3
その他	0.2	0.0	0.2	0.1	0.1	0.2	0.5	0.2	0.1

	南部			宮古			八重山		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	17.5	24.7	22.9	16.3	20.4	22.2	14.6	14.5	17.1
素朴である	5.4	5.4	5.1	4.1	9.7	6.2	5.0	5.3	8.3
助け合いの精神がつよい	9.9	11.2	13.8	10.3	15.9	17.9	10.4	8.1	11.2
自然景観に恵まれている	4.7	9.1	13.0	6.6	11.4	9.7	10.8	20.8	15.3
国際的である	1.7	0.5	0.7	1.2	1.5	0.3	0.9	1.0	1.6
独特の文化がある	11.7	14.0	11.7	6.2	8.0	6.6	8.8	15.2	12.4
のんびりしている	8.4	10.8	11.2	17.9	13.0	17.9	10.6	10.9	9.7
気候が温暖である	16.6	17.6	15.2	12.3	14.1	12.9	14.4	20.0	18.2
進取の気性がある	0.2	0.4	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.2	0.6
開放的である	1.2	2.0	2.1	1.6	1.8	2.7	0.9	1.0	2.2
長寿県である	4.0	4.3	3.7	6.0	3.9	3.3	5.0	3.2	3.1
その他	0.1	0.1	0.6	0.4	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3

⑤県外居住経験年数別（加重平均）

	ずっと沖縄県に住んでいる			2年未満			2～5年未満		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	20.8	24.6	22.4	16.8	23.9	22.7	20.0	21.6	20.0
素朴である	5.5	6.3	5.6	5.7	7.2	6.1	4.7	6.0	6.6
助け合いの精神がつよい	11.4	13.1	14.6	7.6	11.7	11.1	9.6	11.5	13.7
自然景観に恵まれている	4.5	9.1	9.4	6.5	9.5	13.7	5.2	9.1	11.6
国際的である	1.9	1.2	1.1	2.8	0.5	0.8	1.5	1.7	0.6
独特の文化がある	10.9	11.8	12.4	12.5	15.1	15.9	14.4	15.6	15.8
のんびりしている	9.2	11.9	11.7	7.6	11.8	10.5	7.0	11.1	9.1
気候が温暖である	13.3	14.9	15.7	16.5	14.5	13.3	19.0	18.4	17.6
進取の気性がある	0.2	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1	0.0	0.2	0.1
開放的である	1.6	1.7	1.9	1.3	1.9	2.1	2.0	1.9	1.8
長寿県である	5.1	5.1	4.6	3.7	3.4	3.4	3.7	2.7	2.9
その他	0.2	0.1	0.3	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	0.4

	5～10年未満			10年以上		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
人情が厚い	15.9	21.5	16.3	12.5	17.0	15.9
素朴である	4.9	7.1	8.2	8.2	5.2	4.5
助け合いの精神がつよい	8.8	10.3	10.5	5.4	12.9	9.7
自然景観に恵まれている	5.8	10.1	12.6	7.7	13.5	16.4
国際的である	1.9	2.0	0.5	1.6	1.6	0.8
独特の文化がある	14.5	16.2	18.5	11.9	12.4	13.1
のんびりしている	10.4	10.2	9.5	8.8	11.0	13.1
気候が温暖である	14.1	17.1	18.9	18.5	21.0	21.0
進取の気性がある	0.6	0.5	0.1	0.7	0.6	0.2
開放的である	1.6	1.9	2.0	2.0	2.0	2.4
長寿県である	4.3	2.9	2.8	3.9	2.9	2.6
その他	0.1	0.0	0.0	0.5	0.0	0.2

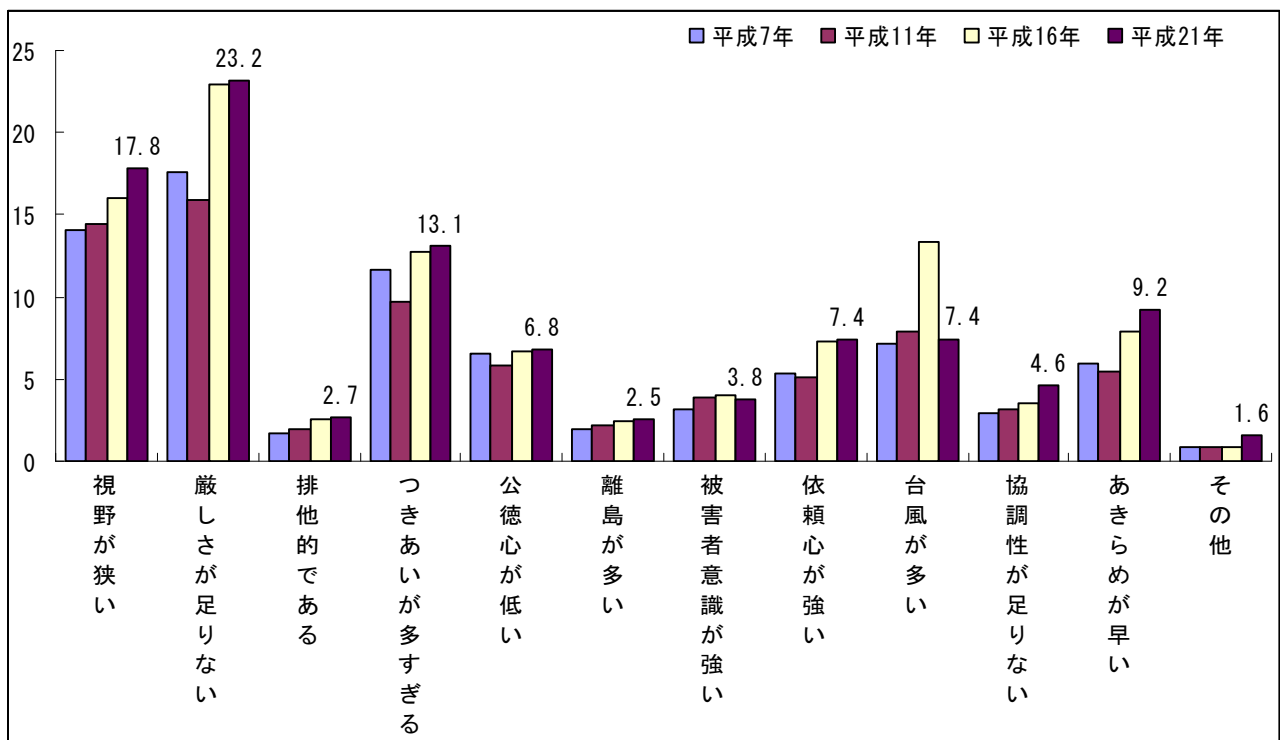
(3) 本県（民）の短所

同様に、本県あるいは県民の「短所」について、一般的に本県の短所と言われている事柄 12 項目を選び、その中から順位をつけて 3 項目を選択してもらった。選択された 3 つの短所の 1 位、2 位、3 位それぞれの比率のほか、選択された短所を総合的に評価するため、1 位に 3 点、2 位に 2 点、3 位に 1 点のウエイトづけをし、各短所の加重平均を求めた。以下、結果については加重平均でとらえている。

県全体の評価を示したのが図 4-2-3 である。時系列比較については、前回調査で削除した項目もあるため、単純比較ができないことに注意する必要がある。

短所として最も高い値の項目は、「厳しさが足りない」(23.2) であり、時系列でみると、前回 7.0 ポイントと大きく増加したが、今回は横ばいである。以下、「視野が狭い」(17.8)、「つきあいが多すぎる」(13.1)、「あきらめが早い」(9.2) が続いている。「台風が多い」(7.4) は前回調査と比べて 6.0 ポイント減少しているが、これは前回調査年次に台風襲来が過去最多となったことが影響し、高い数値になったが、今回は平成 7 年や 11 年の水準となった。

図 4-2-3 加重平均でみた県（民）の短所



(4) 属性別にみた本県（民）の短所

本県あるいは県民の「短所」について、属性別に加重平均で示したのが図4-2-4である。

性別にみると、男性より女性で、「つきあいが多すぎる」（男性 10.9、女性 15.0）が 4.1 ポイント、「視野が狭い」（男性 16.3、女性 19.1）が 2.8 ポイント高く、男性では「台風が多い」（男性 8.7、女性 6.3）が 2.4 ポイント高いが、全体に大きな差はみられない。

年齢別にみると、県平均で1位の「厳しさが足りない」は30歳代以上では1位となっているが、若年層で低い。一方、「視野が狭い」は30歳代以下の年齢層で高く、15～19歳、20～29歳では、1位の短所としてあげられている。「つきあいが多すぎる」は年齢が高い層で高くなる傾向がみられる。また、「あきらめが早い」は40～49歳で最も高く、年齢が両極に離れるほど低くなっている。

地域別にみると、「厳しさが足りない」は中部、那覇市、南部、八重山で20台半ばの値であるのに対し、北部で17.7、宮古で16.7と地域差が大きい。宮古では「つきあいが多すぎる」が他の地域に比べて高い値となっている。

県外居住経験年数による差は、長所の評価ほど顕著な相関はみられない。



図4-2-4 属性別加重平均でみた県（民）の短所

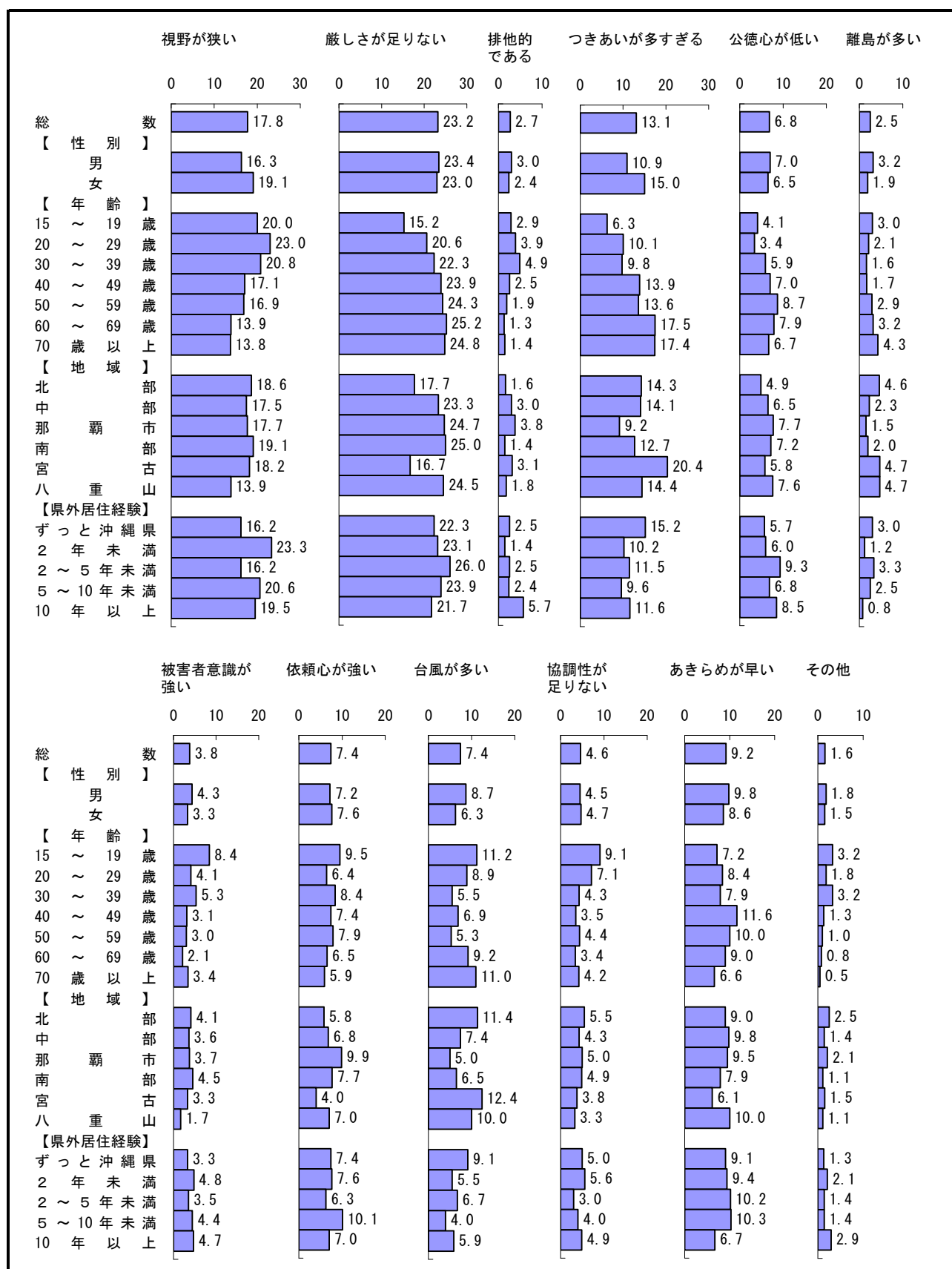


表4-2-2 属性別加重平均でみた県（民）の短所

①順位別比率（県計） (%)

	【今回】		
	1 番目	2 番目	3 番目
視野が狭い	23.8	10.5	6.9
厳しさが足りない	29.6	17.2	6.1
排他的である	2.3	2.8	2.6
つきあいが多すぎる	13.6	13.2	5.7
公德心が低い	5.1	8.1	6.3
離島が多い	1.4	3.8	2.1
被害者意識が強い	2.3	5.2	3.6
依頼心が強い	3.9	9.7	10.5
台風が多い	6.2	7.6	7.4
協調性が足りない	2.3	5.6	7.6
あきらめが早い	4.3	9.6	19.2
その他	1.5	1.4	1.7

②県計、性別（加重平均）

	県計加重平均の推移					男			女		
	平2年	平7年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	18.5	14.1	14.5	16.0	17.8	15.0	15.4	16.3	14.1	16.6	19.1
厳しさが足りない	24.4	17.6	15.9	22.9	23.2	16.7	22.6	23.4	15.4	23.1	23.0
排他的である	1.9	1.7	2.0	2.5	2.7	2.2	2.9	3.0	1.8	2.1	2.4
つきあいが多すぎる	13.2	11.6	9.7	12.7	13.1	7.3	11.3	10.9	11.7	14.1	15.0
公德心が低い	7.5	6.5	5.8	6.7	6.8	6.5	7.1	7.0	5.1	6.3	6.5
離島が多い	3.6	1.9	2.2	2.4	2.5	2.9	2.9	3.2	1.6	1.8	1.9
被害者意識が強い	3.9	3.2	3.9	4.0	3.8	4.5	4.3	4.3	3.4	3.6	3.3
依頼心が強い	4.7	5.3	5.1	7.3	7.4	5.4	8.0	7.2	4.8	6.7	7.6
台風が多い	6.0	7.2	7.9	13.4	7.4	8.2	12.8	8.7	7.7	14.0	6.3
協調性が足りない	2.8	2.9	3.1	3.5	4.6	3.3	3.6	4.5	3.1	3.3	4.7
あきらめが早い	*	6.0	5.5	7.9	9.2	5.2	8.4	9.8	5.8	7.4	8.6
その他	0.6	0.8	0.9	0.9	1.6	0.7	0.6	1.8	1.1	1.1	1.5

③年齢別（加重平均）

	15～19歳			20～29歳			30～39歳			40～49歳		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	19.5	19.6	20.0	19.9	21.4	23.0	13.9	16.4	20.8	13.4	16.9	17.1
厳しさが足りない	10.2	16.2	15.2	15.4	17.8	20.6	16.4	21.7	22.3	17.7	24.6	23.9
排他的である	2.5	2.2	2.9	4.0	4.0	3.9	2.3	3.8	4.9	1.2	1.6	2.5
つきあいが多すぎる	7.6	4.9	6.3	7.3	9.3	10.1	12.0	14.2	9.8	9.0	13.0	13.9
公德心が低い	1.1	2.3	4.1	4.1	5.7	3.4	5.8	6.3	5.9	6.4	7.4	7.0
離島が多い	2.1	4.3	3.0	1.2	1.7	2.1	1.3	1.7	1.6	2.1	2.0	1.7
被害者意識が強い	6.5	4.5	8.4	5.9	6.1	4.1	2.5	4.7	5.3	4.2	3.9	3.1
依頼心が強い	3.4	6.9	9.5	4.5	9.0	6.4	5.9	7.0	8.4	4.5	7.5	7.4
台風が多い	8.2	19.6	11.2	6.2	11.2	8.9	6.2	10.7	5.5	7.7	10.8	6.9
協調性が足りない	5.9	6.1	9.1	3.4	4.4	7.1	4.1	3.7	4.3	3.4	3.2	3.5
あきらめが早い	3.8	11.9	7.2	6.3	7.3	8.4	6.9	8.6	7.9	5.7	8.8	11.6
その他	2.8	1.5	3.2	1.7	2.0	1.8	0.8	1.3	3.2	0.6	0.4	1.3

	50～59歳			60～69歳			70歳以上		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	13.5	13.4	16.9	12.1	11.3	13.9	13.1	12.3	13.8
厳しさが足りない	15.9	26.6	24.3	16.2	26.0	25.2	1.5	23.5	24.8
排他的である	1.3	2.0	1.9	1.1	1.8	1.3	11.8	1.2	1.4
つきあいが多すぎる	8.1	13.4	13.6	11.6	15.5	17.5	3.9	17.0	17.4
公德心が低い	8.6	8.1	8.7	6.3	8.3	7.9	3.7	6.4	6.7
離島が多い	2.0	2.1	2.9	4.5	3.4	3.2	3.5	3.4	4.3
被害者意識が強い	2.7	3.0	3.0	3.7	2.6	2.1	3.5	2.3	3.4
依頼心が強い	7.4	7.8	7.9	4.1	6.4	6.5	15.7	5.4	5.9
台風が多い	7.3	13.7	5.3	10.5	15.1	9.2	0.7	21.8	11.0
協調性が足りない	1.7	2.5	4.4	2.1	3.0	3.4	4.6	1.5	4.2
あきらめが早い	4.9	7.3	10.0	3.2	6.3	9.0	14.0	4.5	6.6
その他	0.8	0.3	1.0	0.5	0.3	0.8	2.0	0.6	0.5

表4-2-2 属性別加重平均でみた県（民）の短所（続き）

④地域別（加重平均）

	北部			中部			那覇市		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	15.0	17.4	18.6	15.4	16.3	17.5	13.7	14.8	17.7
厳しさが足りない	14.7	17.6	17.7	15.6	22.5	23.3	19.3	28.1	24.7
排他的である	1.5	2.2	1.6	1.5	2.9	3.0	3.9	2.1	3.8
つきあいが多すぎる	13.0	13.3	14.3	9.3	13.3	14.1	6.5	9.6	9.2
公德心が低い	5.1	5.8	4.9	5.5	5.8	6.5	5.4	7.7	7.7
離島が多い	3.2	2.0	4.6	1.2	2.1	2.3	1.9	2.1	1.5
被害者意識が強い	3.2	5.7	4.1	4.5	4.4	3.6	3.7	3.1	3.7
依頼心が強い	3.7	5.7	5.8	5.9	6.6	6.8	4.7	8.9	9.9
台風が多い	10.6	16.8	11.4	6.8	13.7	7.4	7.4	10.7	5.0
協調性が足りない	2.5	4.4	5.5	3.1	3.5	4.3	3.8	3.5	5.0
あきらめが早い	4.5	8.2	9.0	5.6	7.7	9.8	5.0	8.9	9.5
その他	0.8	0.9	2.5	0.7	1.1	1.4	1.3	0.4	2.1

	南部			宮古			八重山		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	13.0	17.0	19.1	13.8	14.2	18.2	14.2	12.6	13.9
厳しさが足りない	14.7	21.0	25.0	15.2	18.2	16.7	12.0	21.7	24.5
排他的である	1.5	2.5	1.4	1.6	1.2	3.1	1.8	3.4	1.8
つきあいが多すぎる	9.3	13.0	12.7	21.4	18.9	20.4	7.8	14.1	14.4
公德心が低い	5.8	7.1	7.2	6.8	6.1	5.8	9.8	11.3	7.6
離島が多い	2.4	2.5	2.0	4.9	3.9	4.7	5.8	5.2	4.7
被害者意識が強い	3.5	4.0	4.5	2.5	2.1	3.3	3.3	2.0	1.7
依頼心が強い	4.5	8.3	7.7	4.7	5.8	4.0	4.9	6.9	7.0
台風が多い	8.4	13.0	6.5	10.3	20.6	12.4	10.0	11.9	10.0
協調性が足りない	3.1	3.0	4.9	2.9	2.1	3.8	2.7	4.1	3.3
あきらめが早い	6.8	7.7	7.9	4.1	6.9	6.1	5.3	5.1	10.0
その他	0.4	0.8	1.1	1.2	0.1	1.5	2.9	1.8	1.1

⑤県外居住経験年数別（加重平均）

	ずっと沖縄県に住んでいる			2年未満			2～5年未満		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	14.3	15.3	16.2	15.6	15.8	23.3	15.0	18.3	16.2
厳しさが足りない	14.5	22.6	22.3	16.8	21.7	23.1	20.6	22.4	26.0
排他的である	1.5	2.4	2.5	1.9	1.1	1.4	2.5	2.8	2.5
つきあいが多すぎる	10.6	12.9	15.2	7.9	15.0	10.2	8.8	12.1	11.5
公德心が低い	5.0	6.1	5.7	6.5	6.6	6.0	7.4	7.4	9.3
離島が多い	2.5	2.6	3.0	1.5	2.0	1.2	1.7	1.9	3.3
被害者意識が強い	3.8	4.1	3.3	3.9	2.6	4.8	3.1	3.6	3.5
依頼心が強い	4.6	7.0	7.4	5.6	6.8	7.6	5.9	9.0	6.3
台風が多い	8.7	15.0	9.1	7.9	13.1	5.5	7.0	9.1	6.7
協調性が足りない	3.3	3.8	5.0	3.2	3.2	5.6	3.3	3.3	3.0
あきらめが早い	5.5	7.7	9.1	7.1	10.2	9.4	4.9	8.7	10.2
その他	0.9	0.5	1.3	0.3	1.9	2.1	0.8	1.2	1.4

	5～10年未満			10年以上		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
視野が狭い	14.9	15.6	20.6	15.8	16.6	19.5
厳しさが足りない	17.8	24.6	23.9	17.5	24.7	21.7
排他的である	0.9	2.6	2.4	4.8	4.1	5.7
つきあいが多すぎる	10.9	13.2	9.6	8.8	9.9	11.6
公德心が低い	7.2	7.7	6.8	6.9	8.7	8.5
離島が多い	2.4	2.8	2.5	1.5	2.2	0.8
被害者意識が強い	3.7	3.4	4.4	6.0	5.7	4.7
依頼心が強い	5.5	7.4	10.1	5.7	7.7	7.0
台風が多い	5.3	13.3	4.0	6.8	10.0	5.9
協調性が足りない	3.7	1.0	4.0	2.1	3.5	4.9
あきらめが早い	7.5	7.8	10.3	4.2	5.7	6.7
その他	1.1	0.4	1.4	2.2	1.2	2.9

3 居住希望（問5）

（1）居住希望

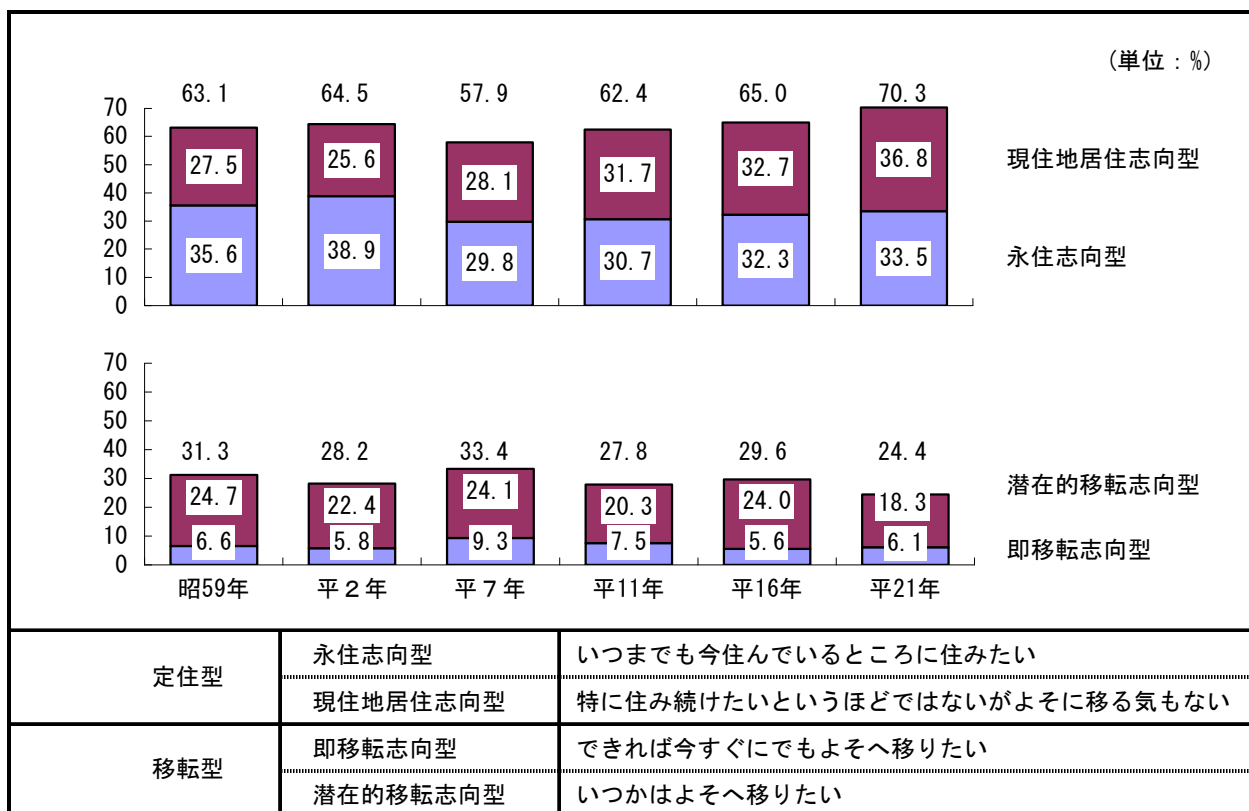
県民の定住及び移転の意向をみるため、その定住志向の強さを「いつまでも今住んでいるところに住みたい」という「永住志向型」、「特に住み続けたいというほどではないがよそに移る気もない」という「現住地居住志向型」、「いつかはよそへ移りたい」という「潜在的移転志向型」、「できれば今すぐにでもよそへ移りたい」という「即移転志向型」の4段階の選択肢から選んでもらい、次いで、その理由を尋ね、さらに、よそへ移りたいという意向を示した者については、その場所を5つの項目から選んでもらった。

これらの調査の県全体の結果を示したのが図4-3-1である。

比率の高いのは「現住地居住志向型」の36.8%と「永住志向型」の33.5%で、以下、「潜在的移転志向型」が18.3%、「即移転志向型」が6.1%となっている。また、「永住志向型」と「現住地居住志向型」を『定住型』、「潜在的移転志向型」と「即移転志向型」を『移転型』として比較すると、『定住型』が70.3%、『移転型』が24.4%となり、県全体としては、定住志向が強いことが示されている。

前回調査と比較すると、「永住志向型」が1.2ポイント増、「現住地居住志向型」が4.1ポイント増となり、合わせて『定住型』は5.3ポイントの増加となった。一方、「潜在的移転志向型」は5.7ポイント減少し、『移転型』全体では5.2ポイントの減少となっている。

図4-3-1 定住の意向



次に、『定住型』の回答者に対して、定住を志向する理由を3つ選択してもらった結果は、図4-3-2に示されるように、「自分の家がある」(61.2%)が最も高く、次いで、「今住んでいるところに愛着を感じている」(50.6%)、「生活するのに便利である」(50.4%)、「日当たり、静けさが十分など住環境が良好である」(33.9%)、「事件・事故が無く安全で安心して暮らせる」(21.2%)を理由とする人が多い。

一方、『移転型』の回答者に対しても、移転を志向する理由を3つ選択してもらった結果は、図4-3-3に示されるように、「自分の家を持ちたい」(49.8%)が突出して高く、次いで、「日当たりが悪く、騒音が多いなど住環境が悪い」(22.6%)、「今住んでいる地域は将来の見通しが暗い」と「生活するのに不便である」(各20.8%)、「今住んでいるところではやりたい仕事がない」(16.7%)を理由とする人が多い。

さらに、『移転型』の回答者に対して、希望する移転先を5項目の中から1カ所を選択してもらったところ、図4-3-4に示すように、「県内のよその市町村」(42.7%)が最も高く、「今住んでいる市町村内」(29.8%)がこれに次いでいる。以下、「他の都道府県」(12.3%)、「どこでもよい」(9.6%)、「外国」(1.8%)の順になっている。また、「県内のよその市町村」と「今住んでいる市町村内」を合わせた『県内移転』は72.5%と高くなっている。

前回調査と比べると、「今住んでいる市町村内」は5.3ポイント減、「他の都道府県」は3.4ポイント増となっている。

図4-3-2 定住希望理由

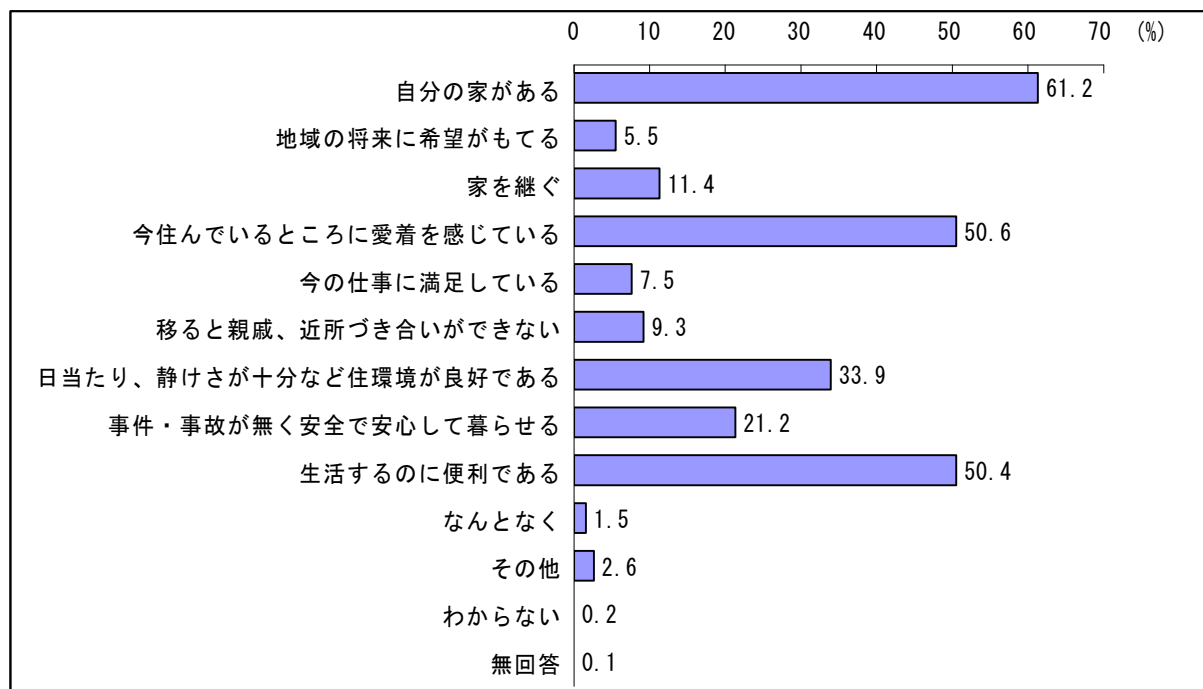


図 4-3-3 移転希望理由

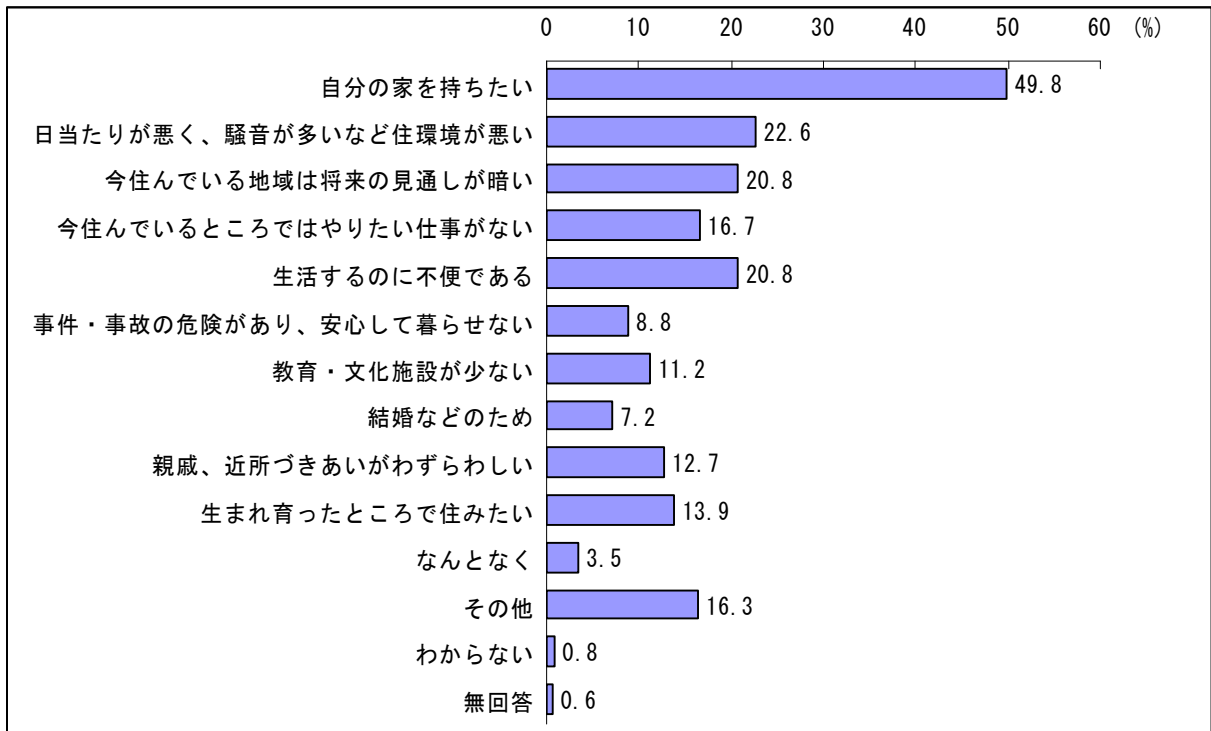
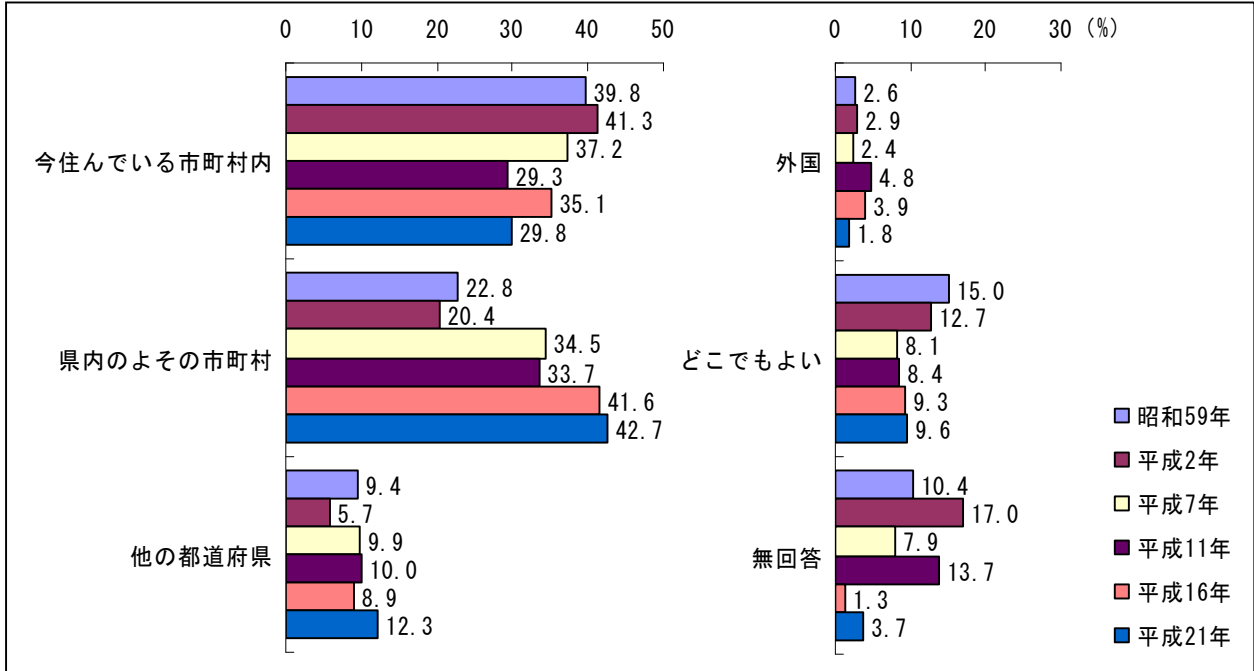


図 4-3-4 希望移転先



(2) 属性別にみた居住希望

定住及び移転の希望について、性別でみると、『定住型』で男性が女性を3.1ポイント上回る72.0%となっている。

年齢別にみると、20歳代以上のすべての年齢層で『定住型』が過半数を占め、定住志向が高い。15～19歳では『定住型』が44.4%にとどまり、『移転型』(42.0%)と拮抗している。『定住型』は年齢が高くなるにつれ増加し、60歳代以上では8割を超えている。また、『定住型』のうち、「特に住み続けたいというほどではないがよそに移る気もない」という「現住地居住志向型」は30～50歳代で高いが、「いつまでも今住んでいるところに住みたい」という「永住志向型」は年齢が高くなるにつれ増加している。

地域別では、どの地域でも『定住型』が『移転型』を上回っており、その比率は南部(75.7%)、宮古(77.1%)で7割半ばを超えているが、北部(67.4%)、中部(69.5%)、那覇市(67.3%)では6割台とやや低い。『定住型』の内訳をみると、那覇市では「永住志向型」が26.1%と最も低くなっている。

図4-3-5 属性別にみた定住の意向

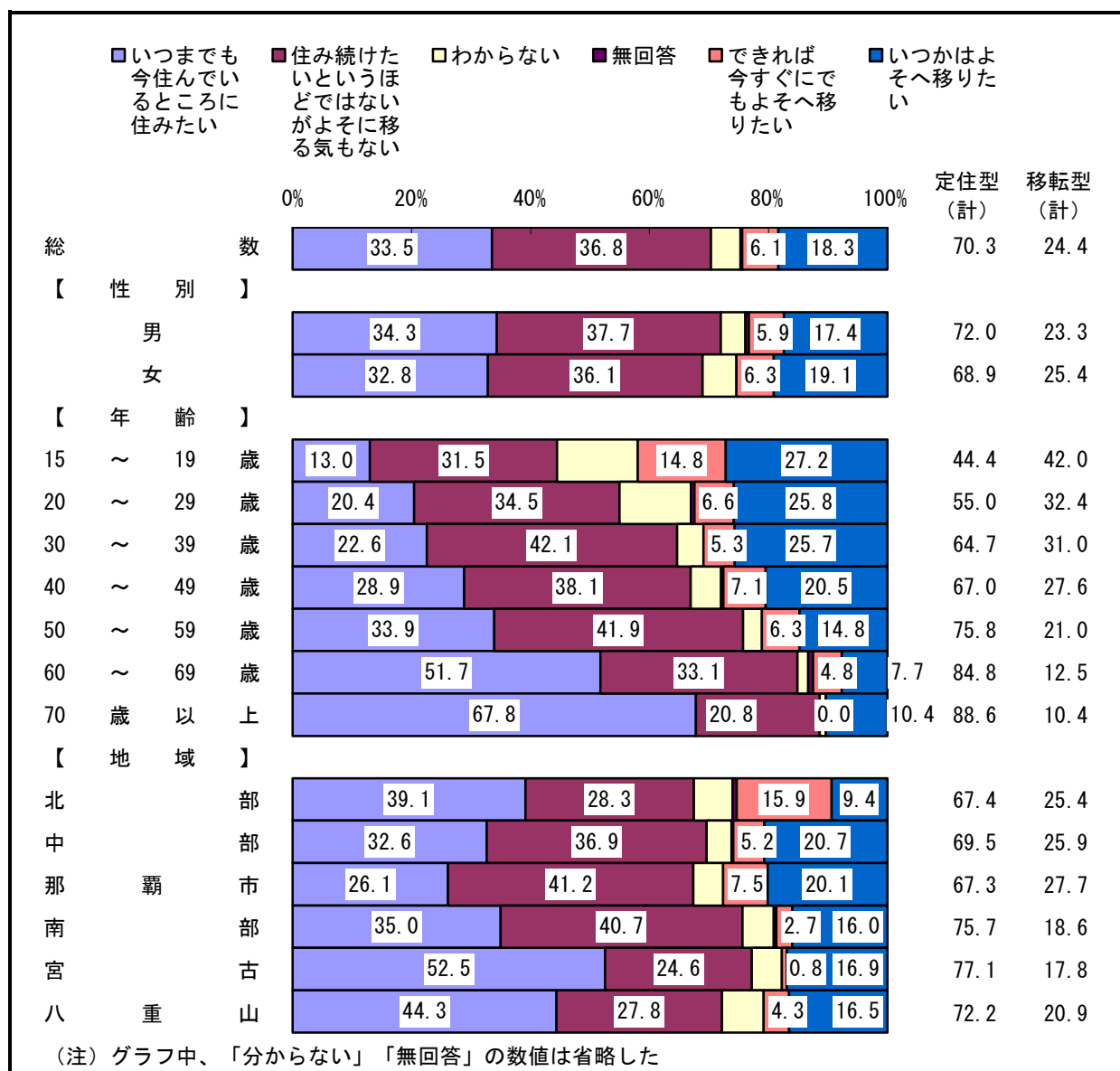


表4-3-1 定住の意向（県計、属性別）

①県計、性別

(%)

	県計の推移						男			女		
	昭59年	平2年	平7年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
永住	35.6	38.9	29.8	30.7	32.3	33.5	33.3	34.0	34.3	28.6	30.6	32.8
あえて移転する気なし	27.5	25.6	28.1	31.7	32.7	36.8	32.1	33.4	37.7	31.8	32.0	36.1
できれば即移転	6.6	5.8	9.3	7.5	5.6	6.1	6.4	3.7	5.9	8.3	7.6	6.3
いつかは移転	24.7	22.4	24.1	20.3	24.0	18.3	18.7	23.8	17.4	21.8	24.2	19.1
わからない	4.6	5.8	4.1	4.5	5.2	5.0	4.3	5.1	4.1	4.7	5.3	5.7
無回答	1.0	1.5	4.6	5.3	0.1	0.3	5.3	0.0	0.6	4.9	0.3	0.0
定住型（計）	63.1	64.5	57.9	62.4	65.0	70.3	65.4	67.4	72.0	60.3	62.6	68.9
移転型（計）	31.3	28.2	33.4	27.8	29.6	24.4	25.0	27.5	23.3	30.1	31.8	25.4

②年齢別

	15～19歳			20～29歳			30～39歳			40～49歳		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
永住	10.2	24.1	13.0	18.2	16.8	20.4	18.0	19.8	22.6	29.1	33.2	28.9
あえて移転する気なし	34.1	35.1	31.5	30.9	29.4	34.5	35.8	34.4	42.1	38.0	33.9	38.1
できれば即移転	11.4	2.4	14.8	11.3	10.6	6.6	8.2	7.0	5.3	7.3	8.1	7.1
いつかは移転	35.2	27.8	27.2	30.2	35.9	25.8	27.6	29.5	25.7	17.9	21.2	20.5
わからない	8.0	10.6	13.6	5.5	7.4	12.0	6.1	8.9	4.4	3.9	3.5	5.1
無回答	1.1	0.0	0.0	4.0	0.0	0.6	4.2	0.4	0.0	3.9	0.0	0.4
定住型（計）	44.3	59.2	44.4	49.1	46.2	55.0	53.8	54.3	64.7	67.0	67.1	67.0
移転型（計）	46.6	30.2	42.0	41.5	46.4	32.4	35.8	36.5	31.0	25.1	29.3	27.6

	50～59歳			60～69歳			70歳以上		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
永住	36.1	40.3	33.9	57.5	46.6	51.7	65.9	58.6	67.8
あえて移転する気なし	34.4	35.8	41.9	19.0	31.1	33.1	14.3	24.3	20.8
できれば即移転	6.1	1.8	6.3	4.1	2.4	4.8	2.2	4.4	0.0
いつかは移転	13.5	19.4	14.8	7.7	17.1	7.7	4.4	11.6	10.4
わからない	3.7	2.8	3.2	2.7	2.4	1.8	1.1	1.1	1.0
無回答	6.1	0.0	0.0	9.0	0.5	0.8	12.1	0.0	0.0
定住型（計）	70.5	76.0	75.8	76.5	77.7	84.8	80.2	82.9	88.6
移転型（計）	19.7	21.2	21.0	11.8	19.5	12.5	6.6	16.0	10.4

③地域別

	北部			中部			那覇市		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
永住	49.2	43.9	39.1	29.5	35.2	32.6	21.3	22.1	26.1
あえて移転する気なし	23.3	27.3	28.3	32.2	31.7	36.9	34.3	38.5	41.2
できれば即移転	3.2	6.8	15.9	6.8	5.1	5.2	11.4	7.5	7.5
いつかは移転	15.9	16.7	9.4	21.7	22.8	20.7	24.4	25.7	20.1
わからない	5.8	5.3	6.5	4.9	5.0	4.2	3.7	6.3	5.0
無回答	2.6	0.0	0.7	4.9	0.2	0.3	4.9	0.0	0.0
定住型（計）	72.5	71.2	67.4	61.7	66.9	69.5	55.6	60.6	67.3
移転型（計）	19.0	23.5	25.4	28.5	27.9	25.9	35.8	33.1	27.7

	南部			宮古			八重山		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
永住	31.1	31.8	35.0	38.3	36.7	52.5	25.7	32.1	44.3
あえて移転する気なし	35.5	28.3	40.7	28.4	37.5	24.6	25.7	37.7	27.8
できれば即移転	7.5	4.7	2.7	4.9	2.5	0.8	10.8	4.7	4.3
いつかは移転	15.4	31.0	16.0	22.2	15.0	16.9	17.6	20.8	16.5
わからない	3.4	3.9	5.3	3.7	8.3	5.1	6.8	4.7	7.0
無回答	7.2	0.4	0.4	2.5	0.0	0.0	13.5	0.0	0.0
定住型（計）	66.6	60.1	75.7	66.7	74.2	77.1	51.4	69.8	72.2
移転型（計）	22.9	35.7	18.6	27.2	17.5	17.8	28.4	25.5	20.9

(3) 属性別にみた定住希望理由

定住を希望する人の理由を性別で見ると、女性のほうが高いのは、「生活するのに便利である」(男性 47.1%、女性 53.3%) で 6.2 ポイント差、「今住んでいるところに愛着を感じている」(男性 48.2%、女性 52.7%) で 4.5 ポイント差となっている。一方、「家を継ぐ」は男性の 14.9% に対し、女性は 8.3% と男性が 6.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「自分の家がある」は 30～39 歳 (32.1%) で最も低く、年齢が上がるにしたがって高くなり、60 歳代以上では 8 割を超える。「生活するのに便利である」は 30～39 歳 (65.9%) で最も高く、年齢が離れるにしたがって低くなっている。このほか、「今住んでいるところに愛着を感じている」は 20～29 歳 (61.7%)、「日当たり、静けさが十分など住環境が良好である」は 60～69 歳 (40.2%)、「事件・事故が無く安全で安心して暮らせる」は 70 歳以上 (26.8%) で高くなっている。

地域別では、県平均で 1 位の理由の「自分の家がある」は、八重山 (83.1%) で高く、那覇市 (53.3%) で低い。「生活するのに便利である」は那覇市で 68.7% と最も高く、北部 (29.0%)、南部 (32.2%) との差が大きい。また、「日当たり、静けさが十分など住環境が良好である」は南部 (44.7%) で高く、「今の仕事に満足している」と「移ると親戚、近所づき合いができない」は宮古で他の地域より高くなっている。

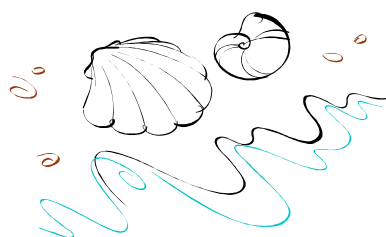


図4-3-6 定住希望理由（属性別）

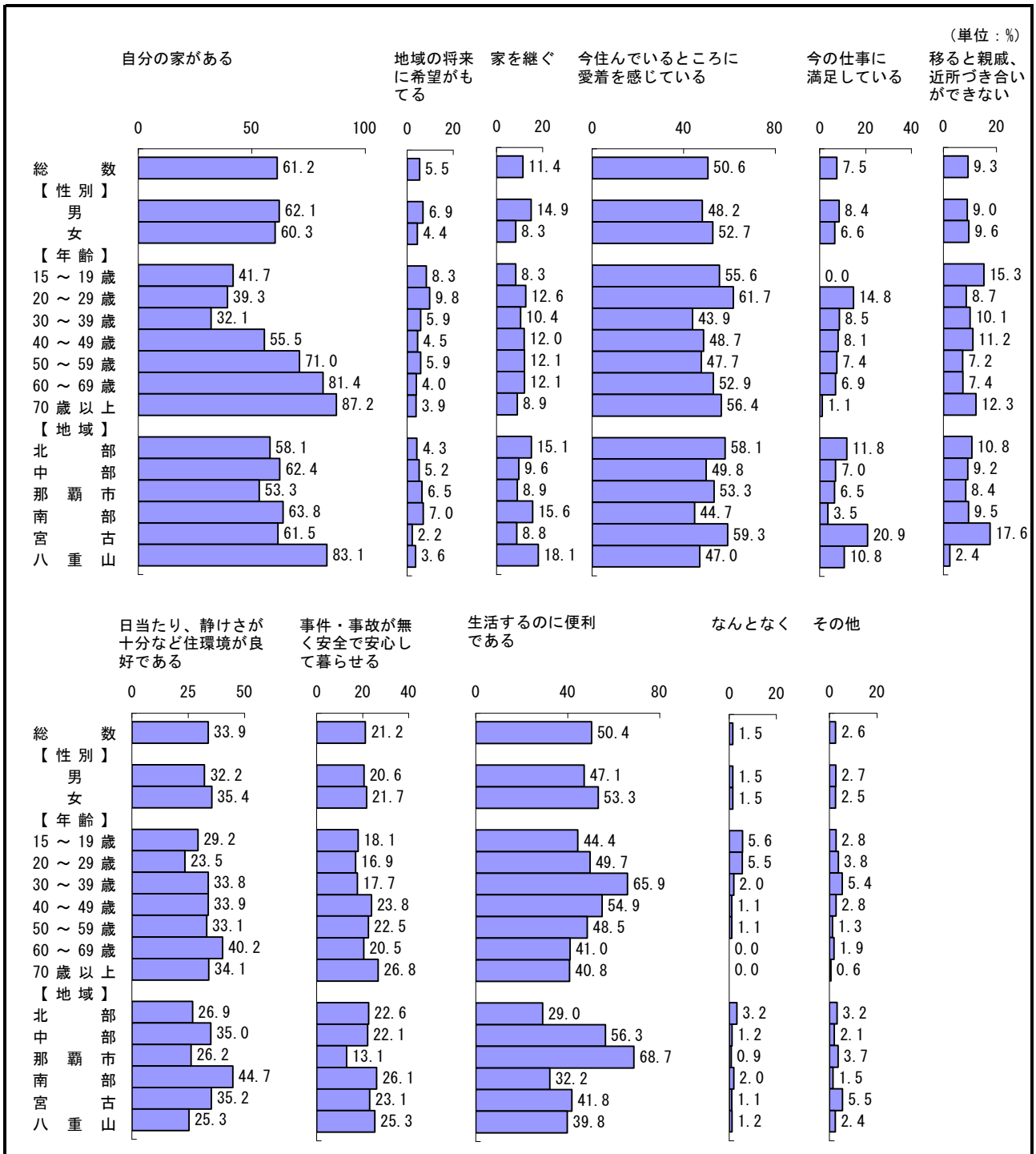
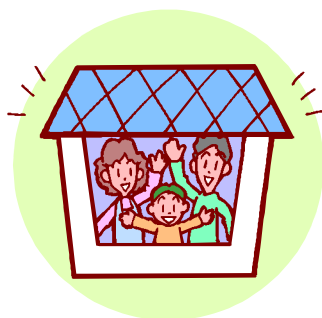


表 4 - 3 - 2 定住希望理由（県計、属性別）

(%)

	県計	【性別】		【年齢別】						
		男	女	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳
				歳	歳	歳	歳	歳	歳	以上
自分の家がある	61.2	62.1	60.3	41.7	39.3	32.1	55.5	71.0	81.4	87.2
地域の将来に希望がもてる	5.5	6.9	4.4	8.3	9.8	5.9	4.5	5.9	4.0	3.9
家を継ぐ	11.4	14.9	8.3	8.3	12.6	10.4	12.0	12.1	12.1	8.9
今住んでいるところに愛着を感じている	50.6	48.2	52.7	55.6	61.7	43.9	48.7	47.7	52.9	56.4
今の仕事に満足している	7.5	8.4	6.6	0.0	14.8	8.5	8.1	7.4	6.9	1.1
移ると親戚、近所づき合いができない	9.3	9.0	9.6	15.3	8.7	10.1	11.2	7.2	7.4	12.3
日当たり、静けさが十分など住環境が良好である	33.9	32.2	35.4	29.2	23.5	33.8	33.9	33.1	40.2	34.1
事件・事故が無く安全で安心して暮らせる	21.2	20.6	21.7	18.1	16.9	17.7	23.8	22.5	20.5	26.8
生活するのに便利である	50.4	47.1	53.3	44.4	49.7	65.9	54.9	48.5	41.0	40.8
なんとなく	1.5	1.5	1.5	5.6	5.5	2.0	1.1	1.1	0.0	0.0
その他	2.6	2.7	2.5	2.8	3.8	5.4	2.8	1.3	1.9	0.6
わからない	0.2	0.0	0.4	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.1
無回答	0.1	0.2	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	【地域別】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
自分の家がある	58.1	62.4	53.3	63.8	61.5	83.1
地域の将来に希望がもてる	4.3	5.2	6.5	7.0	2.2	3.6
家を継ぐ	15.1	9.6	8.9	15.6	8.8	18.1
今住んでいるところに愛着を感じている	58.1	49.8	53.3	44.7	59.3	47.0
今の仕事に満足している	11.8	7.0	6.5	3.5	20.9	10.8
移ると親戚、近所づき合いができない	10.8	9.2	8.4	9.5	17.6	2.4
日当たり、静けさが十分など住環境が良好である	26.9	35.0	26.2	44.7	35.2	25.3
事件・事故が無く安全で安心して暮らせる	22.6	22.1	13.1	26.1	23.1	25.3
生活するのに便利である	29.0	56.3	68.7	32.2	41.8	39.8
なんとなく	3.2	1.2	0.9	2.0	1.1	1.2
その他	3.2	2.1	3.7	1.5	5.5	2.4
わからない	0.0	0.2	0.5	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0



(4) 属性別にみた移転希望理由

移転を希望する人の理由を性別で見ると、女性より男性で上回っている理由は、「自分の家を持ちたい」で女性より 10.2 ポイント高くなっている。このほか、「事件・事故の危険があり、安心して暮らせない」と「生まれ育ったところで住みたい」も 3 ポイント前後男性のほうが高くなっている。逆に、男性より女性で上回っている理由は、「日当たりが悪く、騒音が多いなど住環境が悪い」、「教育・文化施設が少ない」など環境によるものが男性より 3～4 ポイント程度高くなっている。

年齢別にみると、県平均で 1 位の「自分の家を持ちたい」は 20～30 歳代で 6 割強と高い。「今住んでいる地域は将来の見通しが暗い」は 60 歳代以上の高年層で高いのに対し、「今住んでいるところではやりたい仕事がない」は 20 歳代以下の若年層で高い理由となっている。また、「親戚、近所づきあいがわずらわしい」は 60～69 歳で高くなっている。

地域別にみると、全体で 1 位の「自分の家を持ちたい」は、八重山を除く地域では 1 位の理由となっているが、八重山では低く、替わって「生活するのに不便である」が 1 位の理由となっている。この理由は宮古でも高い。このほか、「日当たりが悪く、騒音が多いなど住環境が悪い」は中部、「教育・文化施設が少ない」、「親戚、近所づきあいがわずらわしい」は北部で、それぞれ他の地域に比べて高くなっている。



図4-3-7 移転希望理由（属性別）

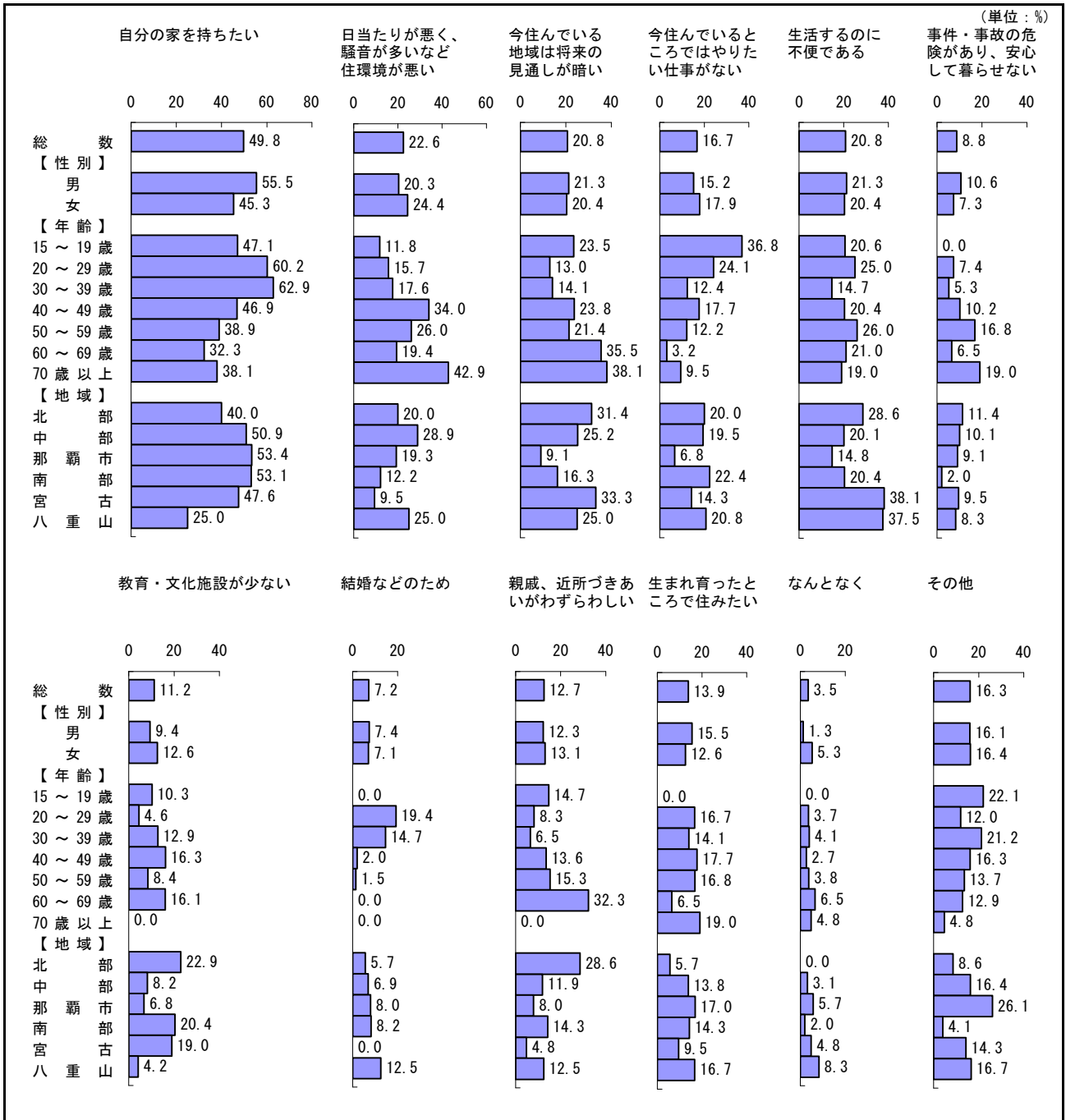
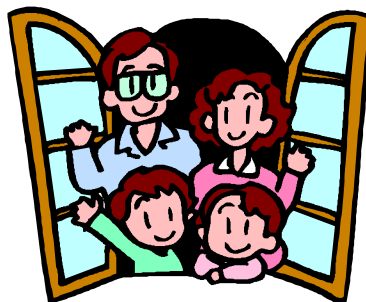


表4-3-3 移転希望理由（県計、属性別）

(%)

	県計	【性別】		【年齢別】						
		男	女	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
		自分の家を持ちたい	49.8	55.5	45.3	47.1	60.2	62.9	46.9	38.9
日当たりが悪く、騒音が多いなど住環境が悪い	22.6	20.3	24.4	11.8	15.7	17.6	34.0	26.0	19.4	42.9
今住んでいる地域は将来の見通しが暗い	20.8	21.3	20.4	23.5	13.0	14.1	23.8	21.4	35.5	38.1
今住んでいるところではやりたい仕事がない	16.7	15.2	17.9	36.8	24.1	12.4	17.7	12.2	3.2	9.5
生活するのに不便である	20.8	21.3	20.4	20.6	25.0	14.7	20.4	26.0	21.0	19.0
事件・事故の危険があり、安心して暮らせない	8.8	10.6	7.3	0.0	7.4	5.3	10.2	16.8	6.5	19.0
教育・文化施設が少ない	11.2	9.4	12.6	10.3	4.6	12.9	16.3	8.4	16.1	0.0
結婚などのため	7.2	7.4	7.1	0.0	19.4	14.7	2.0	1.5	0.0	0.0
親戚、近所づきあいがわずらわしい	12.7	12.3	13.1	14.7	8.3	6.5	13.6	15.3	32.3	0.0
生まれ育ったところで住みたい	13.9	15.5	12.6	0.0	16.7	14.1	17.7	16.8	6.5	19.0
なんとなく	3.5	1.3	5.3	0.0	3.7	4.1	2.7	3.8	6.5	4.8
その他	16.3	16.1	16.4	22.1	12.0	21.2	16.3	13.7	12.9	4.8
わからない	0.8	1.3	0.5	2.9	0.0	0.0	1.4	0.0	3.2	0.0
無回答	0.6	0.6	0.5	0.0	1.9	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0

	【地域別】					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
自分の家を持ちたい	40.0	50.9	53.4	53.1	47.6	25.0
日当たりが悪く、騒音が多いなど住環境が悪い	20.0	28.9	19.3	12.2	9.5	25.0
今住んでいる地域は将来の見通しが暗い	31.4	25.2	9.1	16.3	33.3	25.0
今住んでいるところではやりたい仕事がない	20.0	19.5	6.8	22.4	14.3	20.8
生活するのに不便である	28.6	20.1	14.8	20.4	38.1	37.5
事件・事故の危険があり、安心して暮らせない	11.4	10.1	9.1	2.0	9.5	8.3
教育・文化施設が少ない	22.9	8.2	6.8	20.4	19.0	4.2
結婚などのため	5.7	6.9	8.0	8.2	0.0	12.5
親戚、近所づきあいがわずらわしい	28.6	11.9	8.0	14.3	4.8	12.5
生まれ育ったところで住みたい	5.7	13.8	17.0	14.3	9.5	16.7
なんとなく	0.0	3.1	5.7	2.0	4.8	8.3
その他	8.6	16.4	26.1	4.1	14.3	16.7
わからない	0.0	0.6	1.1	2.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.6	1.1	0.0	0.0	0.0



(5) 属性別にみた移転希望先

移転を希望する人の移転希望先を性別で見ると、「今住んでいる市町村内」で男性が女性をわずかに2.0ポイント上回るが、大きな差はみられない。

年齢別にみると、「今住んでいる市町村内」は70歳以上が最も高く、次いで30～39歳でも4割近い。「県内のよその市町村」は20～29歳（51.9%）と70歳以上（57.1%）で過半数に及び、40～60歳代で4割台となり、これらの年齢層では「今住んでいる市町村内」を上回っている。一方、15～19歳では「他の都道府県」が44.1%と他の年齢層から突出し、「県内のよその市町村」の25.0%を大きく上回る。

地域別にみると、「今住んでいる市町村内」は那覇市、宮古、八重山で高く、「県内のよその市町村」は中部、南部で高くなっている。「他の都道府県」は宮古の比率が高くなっている。

図4-3-8 移転希望先（属性別）

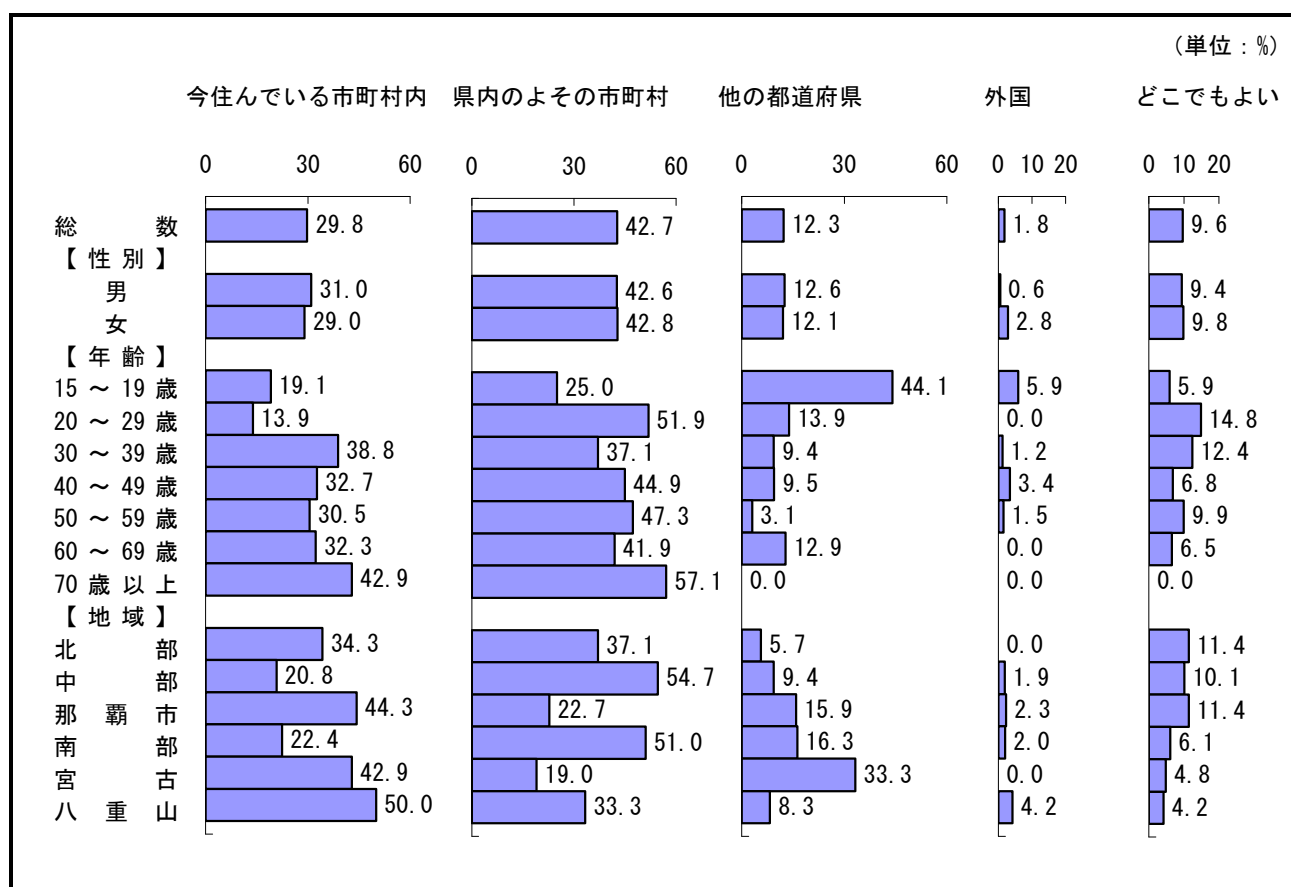


表4-3-4 移転希望先（県計、属性別）

①県計、性別

(%)

	県計の推移						男			女		
	昭59年	平2年	平7年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
今住んでいる市町村内	39.8	41.3	37.2	29.3	35.1	29.8	29.2	32.2	31.0	30.0	37.7	29.0
県内のよその市町村	22.8	20.4	34.5	33.7	41.6	42.7	32.7	44.9	42.6	34.8	38.6	42.8
他の都道府県	9.4	5.7	9.9	10.0	8.9	12.3	11.4	9.2	12.6	9.0	8.6	12.1
外国	2.6	2.9	2.4	4.8	3.9	1.8	5.9	2.2	0.6	4.1	5.3	2.8
どこでもよい	15.0	12.7	8.1	8.4	9.3	9.6	7.4	10.5	9.4	9.0	8.2	9.8
無回答	10.4	17.0	7.9	13.7	1.3	3.7	13.4	1.0	3.9	13.1	1.5	3.5

②年齢別

	15～19歳			20～29歳			30～39歳			40～49歳		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
今住んでいる市町村内	22.0	14.9	19.1	26.7	31.2	13.9	38.6	37.8	38.8	21.9	40.4	32.7
県内のよその市町村	26.8	33.8	25.0	35.8	42.1	51.9	35.0	47.2	37.1	37.5	44.0	44.9
他の都道府県	24.4	28.4	44.1	15.0	8.9	13.9	7.1	3.6	9.4	8.3	4.8	9.5
外国	4.9	8.1	5.9	5.8	5.0	0.0	1.4	3.6	1.2	10.4	3.6	3.4
どこでもよい	4.9	13.5	5.9	10.0	9.9	14.8	8.6	7.8	12.4	8.3	7.2	6.8
無回答	17.1	1.4	0.0	6.7	3.0	5.6	9.3	0.0	1.2	13.5	0.0	2.7

	50～59歳			60歳以上	60～69歳		70歳以上	
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平16年	平21年
今住んでいる市町村内	32.1	30.6	30.5	27.1	43.9	32.3	58.6	42.9
県内のよその市町村	34.0	44.4	47.3	22.9	30.5	41.9	27.6	57.1
他の都道府県	5.7	13.9	3.1	2.1	6.1	12.9	6.9	0.0
外国	5.7	1.9	1.5	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0
どこでもよい	5.7	7.4	9.9	10.4	14.6	6.5	6.9	0.0
無回答	17.0	1.9	7.6	37.5	2.4	6.5	0.0	0.0

③地域別

	北部			中部			那覇市		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
今住んでいる市町村内	37.8	25.8	34.3	25.8	32.5	20.8	37.6	50.5	44.3
県内のよその市町村	32.4	61.3	37.1	34.1	43.8	54.7	26.5	27.0	22.7
他の都道府県	10.8	3.2	5.7	6.9	8.9	9.4	12.0	6.3	15.9
外国	2.7	0.0	0.0	5.5	3.6	1.9	7.7	6.3	2.3
どこでもよい	5.4	6.5	11.4	10.1	10.7	10.1	10.3	8.1	11.4
無回答	10.8	3.2	11.4	17.5	0.6	3.1	6.0	1.8	3.4

	南部			宮古			八重山		
	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年	平11年	平16年	平21年
今住んでいる市町村内	18.2	21.7	22.4	58.3	57.1	42.9	15.4	37.0	50.0
県内のよその市町村	45.5	52.2	51.0	16.7	33.3	19.0	46.2	22.2	33.3
他の都道府県	14.3	12.0	16.3	8.3	4.8	33.3	15.4	25.9	8.3
外国	1.3	2.2	2.0	0.0	4.8	0.0	3.8	7.4	4.2
どこでもよい	5.2	10.9	6.1	8.3	0.0	4.8	0.0	3.7	4.2
無回答	15.6	1.1	2.0	8.3	0.0	0.0	19.2	3.7	0.0

